福岡県立大学中期計画に関わる
自己点検・評価報告書

平成28年 6月

公立大学法人福岡県立大学

法人の概要

1．基本的情報	
法人名	公立大学法人福岡県立大学
所在地	福岡県田川市大字伊田4395番地
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	8,530,220,100円（全額　福岡県出資）
沿　　革	昭和20年（1945）4月　福岡県立保健婦学校開設 昭和27年（1952）7月　福岡県立保育専門学院開設 昭和42年（1967）4月　福岡県社会保育短期大学（保育科、社会福祉科）開学 平成　4年（1992）4月　福岡県立大学（人間社会学部）開設 平成　9年（1997）4月　大学院人間社会学研究科（修士課程）開設 平成15年（2003）4月　看護学部開設 平成18年（2006）4月　公立大学法人福岡県立大学に移行 平成19年（2007）4月　大学院看護学研究科（修士課程）開設
法人の目標	公立大学法人福岡県立大学は、社会の要請に応え、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成することを使命とする。 特に次の取組については、中期目標期間6年間の重点事項とする。 ・人間社会学部と看護学部の連携により魅力ある福祉系総合大学の教育システムを構築する。 ・地域とアジアの保健・医療・福祉に貢献する研究や社会貢献活動を推進する。 ・専門性を備えた人材の確保・育成を図り、事務局機能を強化する。 ・地域に貢献する大学としての認知度を高める。 １　教　育：保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。 ・特色ある教育の展開 ・教員の教育能力の向上 ・意欲ある学生の確保 ・学生支援の充実 ２　研　究：大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。 ３　社会貢献：大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。 ４　業務運営：理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。 ５　財務：経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。 ６　評価及び情報公開 ：評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。 ・評価 ・情報公開
法人の業務	１　福岡県立大学を設置し、これを運営すること。 ２　学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 ３　法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 ４　公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 ５　教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 ６　前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

2. 組織・人員情報

(1)役員

役員の定数は、公立大学法人福岡県立大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また、役員の任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長（学長）	柴田　洋三郎	平成24年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和46年　3月　九州大学医学部卒業 昭和56年　7月　シカゴ大学客員准教授 昭和63年　9月　九州大学教授 平成　8年　9月　九州大学学生部長 平成　9年　4月　九州大学副学長（～平成14年3月） 平成15年10月　九州大学副学長 平成16年　4月　九州大学理事・副学長 平成22年　4月　独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括官 平成24年　4月　公立大学法人　福岡県立大学 理事長・学長
副理事長	松　本　次　好	平成27年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和53年　4月　文部省入省 平成18年　4月　九州大学総務部長 平成20年　4月　島根大学理事・副学長・事務局長 平成24年　2月　福岡教育大学理事・副学長 平成25年　2月　環太平洋大学事務局長 平成27年　4月　公立大学法人福岡県立大学　副理事長
常務理事（事務局長）	吉　村　静　男	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和53年　4月　福岡県採用 平成15年　4月　漁政課長 平成23年　4月　人事委員会次長 平成25年　4月　水資源対策長 平成27年　4月　公立大学法人福岡県立大学 常務理事（事務局長）
理事（学外）	麻　生　泰	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和54年12月　麻生セメント（株）取締役社長 昭和56年　4月　（社）経済団体連合会理事 昭和59年　4月　（社）セメント協会副会長 平成　2年　4月　（社）経済団体連合会評議員 平成　8年12月　飯塚商工会議所会頭 平成11年　1月　慶應義塾監事 平成13年　8月　新・麻生セメント（株）代表取締役社長 平成18年　4月　公立大学法人福岡県立大学理事 平成22年　6月　(株)麻生　代表取締役会長 平成25年　6月　(一社)九州経済連合会会長
理事（学外）	芳　賀　晟　壽	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和51年　1月　（社）北九州青年会議所理事長 昭和56年　8月　（株）芳賀代表取締役社長・会長 昭和56年12月　芳賀教育文化振興会理事長 昭和62年10月　福岡県教育委員会委員・委員長 平成　2年11月　社会福祉法人年長者の里理事長 平成　3年　7月　北九州商工会議所常議員 平成14年10月　（社）北九州高齢者福祉事業協会会長 平成18年　4月　公立大学法人福岡県立大学理事 平成20年　4月　北九州市社会福祉協議会会長

理事（学内）	石　崎　龍　二	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	平成　5年　3月　九州大学理学研究科博士後期課程修了 平成　6年　4月　福岡県立大学助手 平成12年　4月　福岡県立大学助教授 平成25年　4月　福岡県立大学人間社会学部教授 平成26年　4月　福岡県立大学教員兼務理事
理事（学内）	松　浦　賢　長	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	平成　2年　3月　東京大学医学系研究科博士課程修了 平成　3年　3月　カリフォルニア大学バークレー校研究助手 平成　5年　4月　京都教育大学教育学部助教授 平成　9年　3月　カリフォルニア大学バークレー校客員研究員 平成15年　4月　福岡県立大学看護学部教授 平成20年　4月　福岡県立大学看護学部教授 兼附属図書館長 平成22年　4月　福岡県立大学看護学部教授 兼附属研究所長 平成25年　4月　福岡県立大学教員兼務理事
監事	古　本　栄　一	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	平成　6年　4月　弁護士開業 平成21年　2月　古本法律事務所開設 平成24年　4月　公立大学法人福岡県立大学監事
監事	本　田　征　洋	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和44年　9月　昭和監査法人入所 昭和53年　7月　監査法人中央会計事務所入所 昭和54年　4月　公認会計士・税理士本田征洋事務所開業 平成18年　4月　公立大学法人福岡県立大学監事

(2)教員

			平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
教員数	常勤（正規）		109人	110人	110人	110人	102人	104人
	内訳	教授	30人	28人	26人	28人	23人	23人
		准教授	31人	28人	34人	32人	31人	32人
		講師	19人	25人	20人	20人	22人	23人
		助教	12人	15人	17人	19人	21人	21人
		助手	17人	14人	13人	11人	5人	5人
	非常勤講師		115人	109人	125人	134人	123人	165人
	合計		224人	219人	235人	244人	225人	269人

教員数増減の主な理由

非常勤講師数が増加しているのは、平成27年度から大学院看護学研究科に助産学コースを開講したこと等による。

(3)職員

			平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
職員数	事務局長		1人	1人	1人	1人	1人	1人
	正規職員	県派遣	20人	20人	18人	15人	13人	13人
		プロパー	0人	0人	2人	5人	7人	7人
		他団体派遣	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		計	20人	20人	20人	20人	20人	20人
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時		8人	8人	10人	11人	11人	13人
	合計		29人	29人	31人	32人	32人	34人

職員数増減の主な理由

(4)法人の組織構成

別紙のとおり

3. 学生に関する情報

関連する学部・大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定員充足率の推移 (%) 22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
人間社会学	計	630名	703名	112%	117	118	116	115	113	112
内訳	人間社会学部	600名	674名	112%	116	118	117	116	115	112
	公共社会学科	200名	225名	113%	116	118	118	119	116	113
	社会福祉学科	200名	225名	113%	116	116	117	116	118	113
	人間形成学科	200名	224名	112%	118	120	116	115	110	112
	大学院 人間社会学研究科	30名	29名	97%	130	120	90	90	90	97
看護学部	計	374名	378名	101%	102	99	100	102	100	101
内訳	看護学部	350名	354名	101%	104	101	99	102	101	101
	看護学科	350名	354名	101%	104	101	99	102	101	101
	大学院 看護学研究科	24名	24名	100%	83	79	108	104	92	100

収容定員と収容数に差がある場合の主な理由

4. 審議機関情報

(1)経営協議会

区分	氏　名	任　期	現　職
理事長	柴 田 洋 三 郎	平成24年4月1日～平成28年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長
副理事長	松 本 次 好	平成27年4月1日～平成28年3月31日	公立大学法人福岡県立大学副理事長
学外委員	秋 吉 一 明	平成26年4月1日～平成28年3月31日	福岡県立大学と共に歩む会　会長
	伊 藤 信 勝	平成26年4月1日～平成27年5月31日	田川市長
	二 場 公 人	平成27年6月1日～平成28年3月31日	田川市長
	川 上 鉄 夫	平成26年4月1日～平成28年3月31日	福岡県立大学同窓会　会長
	北 原 守	平成26年4月1日～平成28年3月31日	北九州市手をつなぐ育成会（親の会）会長
	清 澤 亨	平成26年4月1日～平成28年3月31日	福岡県立田川高等学校　校長
	齋 藤 明	平成26年4月1日～平成28年3月31日	独立行政法人大学入試センター　監事
	佐 渡 文 夫	平成26年4月1日～平成28年3月31日	田川商工会議所　会頭
	吉 村 恭 幸	平成26年4月1日～平成28年3月31日	(一財)福岡県社会保険医療協会　会長

(2)教育研究協議会

区分	氏　名	任　期	現　職
学長（理事長）	柴 田 洋 三 郎	平成24年4月1日～平成28年3月31日	理事長
学部長	田 中 哲 也	平成26年4月1日～平成28年3月31日	人間社会学部長兼人間社会学研究科長
	永 嶋 由 理 子	平成26年4月1日～平成28年3月31日	看護学部長兼看護学研究科長
学内組織の長	石 崎 龍 二	平成26年4月1日～平成28年3月31日	教員兼務理事
	吉 村 静 男	平成27年4月1日～平成28年3月31日	事務局長
	田 中 美 智 子	平成26年4月1日～平成28年3月31日	情報処理センター長
	福 田 恭 介	平成26年4月1日～平成28年3月31日	附属研究所長
	細 井 勇	平成26年4月1日～平成28年3月31日	附属図書館長
	松 浦 賢 長	平成26年4月1日～平成28年3月31日	教員兼務理事

公立大学法人福岡県立大学組織図

平成27年4月1日現在

:理事長指名の役職者

法人

監　事（2名）

理　事　長

理　事　会
- 理事長（兼学長）
- 副理事長
- 常務理事（兼事務局長）
- 教員兼務理事（2名）
- 理事（学外2名）

7名　（定例：年4回）

経営協議会（理事会の諮問機関）
- 理事長（兼学長）
- 副理事長
- 学外有識者（8名）

10名　（定例：年4回）

顧　問

副理事長（経営管理担当）

常務理事（兼事務局長）

教員兼務理事（教育担当）

教員兼務理事（研究・社会貢献担当）

四役会議
- 理事長
- 副理事長
- 常務理事（兼事務局長）
- 教員兼務理事（2名）

5名　（週：1回）

教育研究協議会（理事会の諮問機関）
- 理事長（兼学長）
- 教員兼務理事（教育担当）
- 教員兼務理事（研究・社会貢献担当）
- 事務局長
- 附属研究所長
- 人間社会学部長
- 看護学部長
- 附属図書館長
- 情報処理センター長

9名　（定例：年4回）

主要6委員会（※）
- 理事長（兼学長）
- 副理事長
- 常務理事（兼事務局長）
- 教員兼務理事（2名）
- 附属研究所長
- 人間社会学部長（兼人間社会学研究科長）
- 看護学部長（兼看護学研究科長）
- 附属図書館長
- 経営管理部長
- 学務部長

11名

（※）改革推進、総務人事、予算、教務入試、学生、地域連携

大学

学　長

部局長会議　構成は主要6委員会と同じ（月：2回）

事務局長

- 情報処理センター
- 基盤教育センター
- 看護実践教育センター
- 附属研究所
  - 社会貢献・ボランティア支援センター
  - 不登校・ひきこもりサポートセンター
  - ヘルスプロモーション実践研究センター
  - 生涯福祉研究センター
- 附属図書館
  - 本館・看護学部別館
- 大学院
  - 看護学研究科
    - 看護学専攻
  - 人間社会学研究科
    - 地域教育支援専攻
    - 心理臨床専攻
    - 社会福祉専攻
- 学部
  - 看護学部
    - 看護学科
  - 人間社会学部
    - 人間形成学科
    - 社会福祉学科
    - 公共社会学科
- 事務局
  - 学務部
    - 教務入試班
    - 学生支援班
  - 経営管理部
    - 経営企画班
    - 総務財務班

全体評価

中期目標項目	法人自己評価
Ⅰ.全体	【平成27年度】 学長のリーダーシップのもと、引き続き大学改革を推進しました。とくに学長主導のもと、これからの社会（少子高齢化社会、情報化社会、国際化社会、地域創生社会）を担う学生の汎用力を高めるための教育改革に取り組みました。平成27年度から「援助力養成プログラム」「国際交流プログラム」そして「キャリア形成支援プログラム」から構成される全学横断型教育プログラムを導入しました。本プログラムは、教員が学部学科コースの枠を越えてその教育にかかわることになりました。本プログラムは、本学の大きな特徴の一つとなりました。 入口管理は、質の高い学生確保のために、入試広報活動をスマートフォン対応をはじめとしたホームページ改革を中心に積極的に行いました。オープンキャンパス（2回）、入試説明会、高校訪問、高校教員情報交換会等を全学的に教職員協働で推進しました。新たに高校生を対象としたサマーセミナーを実施しました。その結果、オープンキャンパスの参加者は目標の約180%に達しました。入学者選抜試験における学部実質倍率は3.2倍となり、辞退率については21.5%という低率を達成しました。 出口管理は、学生委員会の下に位置づけられた進路・生活支援部会を中心に国家試験対策に取り組み、新卒者における看護師合格率は100%、保健師100%、社会福祉士73.1%、精神保健福祉士95.0%と高い合格率を達成することができました。就職対策は、学生支援班及びキャリアサポートセンターの積極的関与に加え、教員対象に早期からの就職状況開示を行うことにより課題意識の共有をはかり、その結果、就職率は98.6%と高い水準を達成しました。 教育は、教養教育、専門教育に加え、専門職連携入門を開講しました。また、e-ラーニングシステムの利用促進を図り、111コースを開設し、学生の利用率は87.0%となりました。新たに授業参観・公開授業を組み入れたFD活動を推進し、大学院FDの充実を図るとともに、学部では5回のFDセミナーを開催し、教育の質の向上に取り組みました。その結果、FD研修会等への教員参加率は85.2%となりました。学生の成績評価では引き続きシラバスの改善とGPA制度を実施し、GPA高得点の学生を卒業証書授与式で表彰し、一方、GPA低得点の学生全員を面接指導しました。 研究は、全学的に科研費申請支援のための説明会を行い、その上で申請に向け全教員に個別に働きかけるなど、科学研究費補助金の応募率・採択件数の向上を目指しました。その結果、獲得金額は49,104千円、平成28年度科学研究費応募率は94.3%となり、目標を上回る水準を維持しました。附属研究所4センターからなる調整部会の下に公開講座小部会を設け、学内の公開講座及び県立三大学共同の公開講座の企画運営にあたり、研究成果発表・還元等の地域貢献活性化を図りました。査読付き論文数は86件、招待講演等の学会発表数は9件となっています。 研究奨励交付金事業は、プロジェクト研究において地（知）の拠点作りを目指す大学としての取り組み（COC）と交流協定を締結している海外の5大学との共同研究を重点課題としました。また、科学研究費申請に向けた研究費補助制度を引き続き実施したことに加え、若手教員を対象にした研究奨励交付金制度を導入・開始し、さらに大学院生の研究助成及び学会発表支援についても開始するなど、研究を積極的に推進してきました。「教員免許状更新講習」は継続して実施しました。 公立大学法人である本学の役割は、福祉系総合大学として保健・医療・福祉の高度な専門的人材の養成とともに地域密着型活動でありますが、地域貢献における各種活動を附属研究所4センターを中心に活発に行うことができました。 国際交流は、南京（ナンキン）師範大学、大邱（テグ）韓医大学校、北京中医薬大学（中国）、三育大学校（韓国）、コンケン大学（タイ）に、新たな協定校である威徳（ウィドゥク）大学を加え、学生交流を中心に積極的に展開しました。受入留学生は25名となりました。また、短期研修制度（学生派遣）を威徳大学・大邱韓医大学校において実施しました。短期研修（大邱韓医大学校）の受入も初めて実施することができました。 総合的には、法人化中期計画第2期の4年目となり、第1期までの基盤整備の上に、継続した事業推進をするだけでなく、大学改革をガバナンス改革と教育・研究改革の両面にて推進し、本学の戦略的特徴を形作りつつ、強化すべき重点課題に取り組む体制を整備・運用できたと考えます。
	【中期目標期間（平成24～27年度）】 学長のリーダーシップのもと、大学改革を推進しました。平成25年度には大学のミッションを内外に打ち立てる大学憲章を制定しました。また同年には教員表彰制度を導入し、外部評価重視の姿勢を打ち出しました。平成26年度にはガバナンス改革として、全部会を主要5委員会の下に位置づけ、意志決定のプロセスを明確にし、委員会・部会を活性化しました。同年、教員個人業績評価における学長裁量枠を確保し、新たな評価方法によって個人業績評価を行いました。平成27年度には学長主導のもと、これからの社会（少子高齢化社会、情報化社会、国際化社会、地域創生社会）を担う学生の汎用力を高めるための教育改革に取り組みました。平成27年度から「援助力養成プログラム」「国際交流プログラム」そして「キャリア形成支援プログラム」から構成される全学横断型教育プログラムが導入されました。本プログラムは、教員が学部学科コースの枠を越えてその教育にかかわることになり、本学の大きな特徴の一つとなりました。 入口管理は、質の高い学生確保のために、スマートフォン対応をはじめとしたホームページ改革を中心に入試広報活動を積極的に行いました。オープンキャンパス、入試説明会、高校訪問等を全学的に教職員協働で推進しました。平成26年度からは高校教員との情報交換会を開催し、平成27年度からは高校生を対象としたサマーセミナーを新たに開始しました。その結果、オープンキャンパスの参加者は平成27年度には目標の約180%に達しました。入学者選抜試験における学部実質倍率は平成27年度に3.2倍となり、辞退率については21.5%という低率を達成しました。 出口管理は、学生委員会の下に位置づけられた進路・生活支援部会を中心に国家試験対策に取り組み、平成27年度には新卒者における看護師合格率は100%、保健師100%、社会福祉士73.1%、精神保健福祉士95.0%と高い合格率を達成することができました。就職対策は、学生支援班及びキャリアサポートセンターの積極的関与に加え、教員対象に早期からの就職状況開示を行うことにより課題意識の共有をはかり、その結果、平成27年度の就職率は98.6%と高い水準を達成しました。 教育は、教養教育、専門教育に加え、両学部の連携授業である「専門職連携入門」を開講しました。また、e-ラーニングシステムの利用促進を図り、100を超えるコースを毎年度開設し、学生の利用率は平成27年度には87.0%となりました。平成26年度からは新たに授業参観・公開授業を組み入れたFD活動を学内で推進し、5回の学部FDセミナーを開催しました。FD研修会等への教員参加率は平成27年度には85.2%となりました。学生の成績評価ではGPA制度を活用し、GPA高得点の学生を卒業証書授与式で表彰し、一方、GPA低得点の学生全員を面接指導しました。 研究は、全学的に科研費申請支援のための説明会を毎年度行い、その上で申請に向け全教員に個別に働きかけるなど、科学研究費補助金の応募率・採択件数の向上を目指しました。その結果、平成27年度の獲得金額は49,104千円、平成28年度科学研究費応募率は94.3%となり、目標を上回る水準を維持しました。附属研究所4センターからなる調整部会の下に公開講座小部会を設け、学内の公開講座及び県立三大学共同の公開講座の企画運営にあたり、研究成果発表・還元等の地域貢献活性化を図りました。平成27年度には査読付き論文数は86件、招待講演等の学会発表数は9件となっています。

	研究奨励交付金事業は、プロジェクト研究において地（知）の拠点作りを目指す大学としての取り組み（COC）と交流協定を締結している海外の5大学との共同研究を重点課題としました。また、科学研究費申請に向けた研究費補助制度を平成26年度から開始したことに加え、若手教員を対象にした研究奨励交付金制度を導入・開始し、さらに大学院生の研究助成及び学会発表支援についても開始するなど、研究を積極的に推進してきました。「教員免許状更新講習」は毎年実施しました。 公立大学法人である本学の役割は、福祉系総合大学として保健・医療・福祉の高度な専門的人材の養成とともに地域密着型活動でありますが、地域貢献における各種活動を附属研究所4センターを中心に活発に行うことができました。 国際交流は、南京（ナンキン）師範大学、大邱（テグ）韓医大学校、北京中医薬大学（中国）、三育大学校（韓国）、コンケン大学（タイ）に、平成27年度からの新たな協定校である威徳（ウィドゥク）大学を加え、学生交流を中心に積極的に展開しました。受入留学生は平成27年度には25名となりました。また、平成26年度から短期研修制度（学生派遣）を韓国の協定校の協力を得て実施しました。短期研修（大邱韓医大学校）の受入も平成27年度に初めて実施することができました。 総合的には、法人化中期計画第2期の1～4年目を終え、第1期までの基盤整備の上に、継続した事業推進をするだけでなく、大学改革をガバナンス改革と教育・研究改革の両面にて推進し、本学の特徴を戦略的に、積極的に形作りつつ、強化すべき重点課題に取り組む体制を整備・運用できたと考えます。
Ⅱ中期目標項目別 1.教育	【平成27年度】 1　教養教育の充実については、教養科目の新たなカテゴリーを決定し、平成29年度の実施を予定しています。教養演習に関しては、担当者向けのワークショップを行いました。また、教養演習テキストについては、大幅な改訂・出版の方針を決定しました。教養演習英語クラスを開講しました。語学教育充実の一環として「Advanced English Achievement」を平成28年度から新規開講することを決定しました。 2　両学部の専門教育の充実については、人間社会学部では、専門性を高めるため、学科制からコース制への移行にともない、各コースのカリキュラムの見直しを行い、実施しました。看護学部では、学生から新カリキュラムの前期・後期科目について調査を行い、28年度のシラバスに反映させました。東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラム「東洋看護学演習」については、国内の補完代替医療の専門家による前期授業に切り替えを行いました。実習教育の充実のため、人間社会学部では3学科がそれぞれの実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにするための話し合いの場を設定しました。看護学部では実習指導者連絡会議の内容を部会で検討し、「よりよい実習にするための大学と臨床との情報共有」というテーマで会議を開催しました。両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進として、「専門職連携入門」を単位化し、後期に開講しました。「社会貢献論」と「不登校・ひきこもり援助論」に関しては、外部講師と学内教員の担当の見直しを行い、内容の充実を図りました。両研究科の専門教育の充実については、人間社会学研究科では、地域教育支援専攻の学生募集を停止するとともに、地域のニーズに対応できる新たな専攻内容として「子ども教育専攻」案を作成し届出に必要な作業を完成させました。看護学研究科では専門看護師コースの充実の一環として、「老年看護コース」「助産学コース」を開講しました。他大学との連携による教育の充実を目指して、人間社会学部では高度なインターンシップ活動について、連携3大学を中心として新たなモデルプログラムの開発を行いました。看護学部では「ケアリングアイランド九州沖縄構想コンソーシアム」を基にした連携事業において、予定を早めて8大学の単位互換・相互受講の制度を運用しました。 3　学生による授業評価アンケートによる授業改善については、学部FD部会と教務部会による合同会議を開催し、授業評価アンケートの内容について見直しました。学生座談会を開催し、授業評価に対する学生のニーズ把握を行いました。平成28年度から改訂した授業評価アンケートを用いることとしました。 4　アウトカム評価システムについては、新たに両学部各学科のキャリア就職支援講座等の年間予定をまとめ、キャリア就職支援年間スケジュール（一覧表）を作成し、学生が参照できるよう電子掲示板にアップしました。また、学生支援班が卒業予定者の就職活動状況を集約し、支援が必要な学生に対し情報提供や個別指導を行いました。国家試験対策として、模擬試験、個別指導、学習会開催、学習環境整備等を実施しました。その結果、国家試験合格率はいずれも全国平均を上回りました。 5　教員の教育能力の向上については、両学部でFDセミナーを開催しました。本学の教育をより良くするためのワークショップを行いました。授業参観および公開授業を実施しました。両研究科ではFDセミナー実施、学外セミナーへの教員派遣とともに、大学院生にアンケートを実施し、大学院生によるFD会議を開催しました。他大学や実習先職員との合同研修による教師力向上戦略の実施として、人間社会学部では合同研修会を行い、九州ブロック研究大会の企画に携わりました。看護学部では臨床教授との合同講習会や、他大学との研修会を開催しました。 6　優秀な学生の確保については、入試形態などと入学後の成績や進路状況との関連について分析を行い、現行の入学者選抜方法における課題抽出を行いました。新たな高大連携事業の一つとして、高校生向けサマーセミナーを実施しました。また、高校教諭との情報交換会を実施しました。 人間社会学部改革に基づいた人間社会学部アドミッションポリシー（再訂版）の積極的PRに取り組みました。学部入試部会に入試制度改善小部会を設置し、高大接続改革へ向けた検討を開始しました。大学院入試部会では現状分析を行い、学部学生に対する説明会、オープンキャンパス時の説明会を開催しました。積極的な広報活動として、入試説明会や高校訪問の改善について検討しました。大学紹介パンフレットの内容を、全学横断型教育プログラムの内容を盛り込むなど魅力あるものに改善しました。 7　学生支援の充実については、プレ・インターンシップ、実践型インターンシップ、職業選択準備型インターンシップといった各インターンシップ・プログラムに関する段階的プログラムマップを整備しました。大学コンソーシアムを基盤とした学生コンソーシアムの取り組みを推進しました。大学院生への支援として、研究助成金制度と国内学会参加補助金制度を運用しました。 8　学習環境の充実としては、IT教育システムの充実を図り、eラーニングシステム研修会の開催、システムの改善、開設コースの増加促進に取り組みました。社会人が学びやすい学習環境の充実のため、（公財）九州経済調査協会が運営する「BIZCOLI」を利用しています。図書館看護学部分館に設置されたラーニングコモンズの利用状況を確認し、ニーズ調査を実施しました。また、機関リポジトリ運営指針を改定し、両学部の研究紀要等を登録対象に追加しました。 9　人間社会学部の改革としては、まずは教員組織において、学科制度を廃止し、全教員を「人間社会学系」所属としました。また、既存の履修コースを「地域社会」、「社会福祉」、「こども」、「心理」コースへ再編するとともに、全学横断型教育プログラムを通した新たな履修コースとして「総合人間社会」コースを開設しました。さらに平成28年度開設の新プログラムとして、保健福祉情報教育プログラムのカリキュラムを作成しました。 10　両学部連携の大学院博士課程の新設については、全学横断型教育プログラムの構築と修士課程の再編を踏まえた議論を改革推進会議でおこない、引き続き検討することになりました。 実施事項別評価は、Aは4項目、Bは20項目とします。

【中期目標期間（平成24～27年度）】

１　教養教育の充実については、毎年度、教養科目の見直しについて検討し、平成29年度から新設科目「社会人基礎力演習」の開講を決定しました。他大学からも好評を得ている本学作成の教養演習テキストについては、大幅な改訂・出版の方針を決定しました。教養演習に英語クラスを設置しました。語学教育については、平成25年度より外部テストを導入しました。平成26年度から英語クラスを能力別に編成しました。また、「Advanced English Achievement」を平成28年度から新規開講することを決定しました。

２　両学部の専門教育の充実については、人間社会学部では、専門性を高めるため、学科制からコース制への移行にともない、各コースのカリキュラムの見直しを行い、実施しました。看護学部では、学生から新カリキュラムの前期・後期科目について調査を行い、28年度のシラバスに反映させました。東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラム「東洋看護学演習」については、国内の補完代替医療の専門家による前期授業に切り替えを行いました。実習教育の充実のため、人間社会学部では3学科がそれぞれの実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにするための話し合いの場を設定しました。看護学部では実習指導者連絡会議の内容を部会で毎年度検討し、よりよい会合を目指しました。両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進として、「専門職連携入門」を単位化し、平成27年度に開講しました。「社会貢献論」と「不登校・ひきこもり援助論」に関しては、毎年度外部講師と学内教員の担当の見直しを行い、内容の充実を図りました。両研究科の専門教育の充実については、人間社会学研究科では、平成27年度、地域教育支援専攻の学生募集を停止するとともに、地域のニーズに対応できる新たな専攻内容として「子ども教育専攻」案を作成し届出に必要な作業を完成させました。看護学研究科では専門看護師コースの充実の一環として、平成27年度に「老年看護コース」「助産学コース」を開講しました。他大学との連携による教育の充実を目指して、人間社会学部では高度なインターンシップ活動について、連携3大学を中心として新たなモデルプログラムの開発を行いました。看護学部では「ケアリングアイランド九州沖縄構想コンソーシアム」を基にした連携事業において、予定を早めて平成26年度より8大学の単位互換・相互受講の制度を運用しました。

３　学生による授業評価アンケートによる授業改善については、学部FD部会と教務部会による合同会議を開催し、授業評価アンケートの内容について見直しました。学生座談会を開催し、授業評価に対する学生のニーズ把握を行いました。平成28年度から改訂した授業評価アンケートを用いることとしました。

４　アウトカム評価システムについては、平成27年度に新たに両学部各学科のキャリア就職支援講座等の年間予定をまとめ、キャリア就職支援年間スケジュール（一覧表）を作成し、学生が参照できるよう電子掲示板にアップしました。また、学生支援班が卒業予定者の就職活動状況を集約し、支援が必要な学生に対し情報提供や個別指導を行いました。国家試験対策として、模擬試験、個別指導、学習会開催、学習環境整備等を実施しました。その結果、平成27年度には国家試験合格率はいずれも全国平均を上回りました。

５　教員の教育能力の向上については、毎年、FDセミナーを複数回開催しました。平成27年度にはこれまでのまとめとして本学の教育をより良くするためのワークショップを行いました。平成26年度より、授業参観および公開授業の仕組みを整備しました。両研究科では毎年度、FDセミナー実施、学外セミナーへの教員派遣とともに、大学院生にアンケートを実施し、大学院生によるFD会議を開催しました。他大学や実習先職員との合同研修による教師力向上戦略の実施として、臨床教授との合同講習会や、他大学との研修会を開催しました。

６　優秀な学生の確保については、平成26年度から入試形態などと入学後の成績や進路状況との関連について分析を行い、現行の入学者選抜方法における課題抽出を行いました。新たな高大連携事業の一つとして、平成26年度から高校生向けサマーセミナーを実施しました。また平成26年度から、高校教諭との情報交換会を実施しました。平成27年度、学部入試部会に入試制度改善小部会を設置し、高大接続改革へ向けた検討を開始しました。平成26年度から大学院入試部会では現状分析を行い、学部学生に対する説明会、オープンキャンパス時の説明会を開催しました。積極的な広報活動として、入試説明会や高校訪問の改善について検討しました。大学紹介パンフレットの内容を、全学横断的プログラムの内容を盛り込むなど魅力あるものに改善し続けました。

７　学生支援の充実については、プレ・インターンシップ、実践型インターンシップ、職業選択準備型インターンシップといった各インターンシップ・プログラムに関する段階的プログラムマップを平成27年度に整備しました。大学コンソーシアムを基盤とした学生コンソーシアムの取り組みを推進しました。大学院生への支援として、平成26年度から研究助成金制度と国内学会参加補助金制度を運用しました。

８　学習環境の充実としては、IT教育システムの充実を図り、eラーニングシステム研修会の開催、システムの改善、開設コースの増加促進に取り組みました。平成26年度より、社会人が学びやすい学習環境の充実のため、（公財）九州経済調査協会が運営する「BIZCOLI」を利用しています。図書館看護学部分館に設置されたラーニングコモンズの利用状況を確認し、よりよい運用を検討しました。また、機関リポジトリ運営指針を改定し、平成27年度から両学部の研究紀要等を登録対象に追加しました。

９　人間社会学部の改革としては、まずは教員組織において、平成27年度から学科制度を廃止し、全教員を「人間社会学系」所属としました。また、既存の履修コースを「地域社会」、「社会福祉」、「こども」、「心理」コースへ再編するとともに、全学横断型教育プログラムを通した新たな履修コースとして「総合人間社会」コースを開設しました。さらに平成28年度開設の新プログラムとして、保健福祉情報教育プログラムのカリキュラムを作成しました。

１０　両学部連携の大学院博士課程の新設については、全学横断型教育プログラムの構築と修士課程の再編を踏まえた議論を改革推進会議でおこない、引き続き検討することになりました。

実施事項別評価は、Aは5項目、Bは19項目とします。

2. 研究	【平成27年度】 1　地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進については、以下の取組を行いました。 ① 附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進については、成果を学内外に発表する方法について検討し、都留文科大学、福岡女子大学、下関市立大学、北九州市立大学より資料を収集し、ヒアリング調査をしました。協定校（大邱韓医大学校（4名）、北京中医薬大学、三育大学校（2名）、南京師範大学（3名）、コンケン大学）及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生（中国2名）、院生（韓国1名）の交流を促進するための学内分担や戦略について国際交流推進部会で協議を重ねました。学際的研究プロジェクト数が6件、産学官連携契約件数が6件、提携協定校との共同研究数は3件となりました。 ② 外部研究資金獲得の推進については、科研費応募率向上のための研修会を開催し、さらに個別の申請支援を行うことにより、科研費応募率が94.3%、科研費獲得件数34件、金額が49,104千円となり、目標を上回りました。 ③ 研究倫理の徹底については、オンライン研究倫理教育を受講できる体制を全教員、全大学院生に向けて整備しました。また、研究倫理審査の申請者についてはオンライン研究倫理教育の受講を義務づけました。若手研究者を対象としたセミナーを開催しました。また動物実験に関する委員会では、公私立大学実験動物施設協議会に入会し、動物実験に関する最新の情報と対応を得る体制を整えました。 実施事項別評価は、Bを3項目とします。
	【中期目標期間（平成24～27年度）】 1　地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進については、以下の取組を行いました。 ① 附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進については、成果を学内外に発表する方法について検討し（平成27年度）、都留文科大学、福岡女子大学、下関市立大学、北九州市立大学より資料を収集し、ヒアリング調査をしました。協定校（大邱韓医大学校、北京中医薬大学、三育大学校、南京師範大学、コンケン大学及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関）との研究者や学生、院生の交流を促進するための学内分担や戦略について国際交流推進部会で協議を重ねました。平成27年度には、学際的研究プロジェクト数が6件、産学官連携契約件数が6件、提携協定校との共同研究数は3件となりました。 ② 外部研究資金獲得の推進については、科研費応募率向上のための研修会を開催し、さらに個別の申請支援を行うことにより、平成27年度には科研費応募率が94.3%、科研費獲得件数34件、金額が49,104千円となり、目標を上回りました。 ③ 研究倫理の徹底については、平成27年度にオンライン研究倫理教育を受講できる体制を全教員、全大学院生対象に整備しました。また、研究倫理審査の申請者についてはオンライン研究倫理教育の受講を平成27年度から義務づけました。若手研究者を対象としたセミナーを開催しました。また動物実験に関する委員会では、平成27年度に公私立大学実験動物施設協議会に入会し、動物実験に関する最新の情報と対応を得る体制を整えました。 実施事項別評価は、Aを1項目、Bを2項目とします。
3. 社会貢献	【平成27年度】 1　地域とアジアとともに発展する国際交流の推進については、以下の取組を行いました。 ① 国際交流センターを中心とした教育研究の国際化推進体制の検討については、まず韓国の威徳大学と交流協定を締結しました。南京師範大学との教員の文化・学術交流事業推進の課題検討・対策のための体制を作りました。吉林大学珠海学院との協定締結に向け、同校を訪問し、協議を行いました。後藤寺小学校の総合学習に留学生を派遣する文化交流プログラムを実施しました。協定締結校との文化・学術交流の実績としては、教員22名が交流し、文化交流プログラムを3回実施しました。 ② 留学生の支援体制の充実については、英国短期語学演習プログラムが福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」に採択されました。交流協定校への短期派遣プログラムを、威徳大学と大邱韓医大学にて実施しました（学生11名参加）。韓国の大邱韓医大学から短期研修プログラムを1か月間受け入れました（10名受入）。受入留学生数は25名でした。 ③ 産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進については、田川市と共同で山本作兵衛コレクション保存管理計画を日本語と英語で作成し、英語版をユネスコに提出しました。 2　県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進については、以下の取組を行いました。 ① 附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進については、田川市・福岡県立大学包括的連携協定に基づく連携事業（5件）が実施されました。県立三大学連携推進会議で協議し、各大学で実施予定の講演会、公開講座等の情報を共有しました。三大学連携公開講座の一環として、本学での公開講座に福岡女子大学から、福岡女子大学の公開講座に本学からそれぞれ教員が招聘されました。 ② 地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施については、生涯福祉研究センターを中心に、相談事業の実施・拡充と地域活動の強化に取り組みました。ヘルスプロモーション実践研究センターを中心に、健康教室と相談事業を行いました。健康教室は11件開催しました。不登校・ひきこもりサポートセンターを中心に、県大子どもサポーター派遣事業を行いました。延べ2,257人を派遣しました。キャンパススクール事業は延べ933人を対象としました。キャンパススクールの登校開始率は50%と比較的高い水準でした。社会貢献・ボランティア支援センターを中心に、外部団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、団体登録が163件、活動学生数が延べ509人となりました。 ③ 資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施については、生涯福祉研究センターとヘルスプロモーション実践研究センターの2センターを中心とした取組を行いました。生涯福祉研究センターでは、特別支援教育に関するスキルアップ講座や、足と靴の健康講座等を実施しました。直方市で行ったペアレントトレーニング・スキルアップ講座は、直方市との共催事業として実施しました。ヘルスプロモーション実践研究センターでは、看護師・助産師・保健師を対象としたリカレント教育を6事業行いました。リカレント教育については、両学部合わせて55人の卒業生が参加しました。 ④ 地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略については、公開講座を3コース、計9回実施し、実受講者数は84名でした。山本作兵衛コレクションについては、保存・管理及び公開のための目録を作成するために、絵画4点について英文による説明を作成しました。 ⑤ 看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実については、リクルートのためのリカレント研修会をはじめとして、リカレント教育を実施しました。地域住民・企業を対象に、糖尿病予防等に関する出前講義を行い、165人の参加を得ました。リカレント研修会の参加人数は352人、認定看護師コースの入学試験倍率は0.89倍、認定審査合格率は100%となりました。 実施事項別評価は、Aは3項目、Bは8項目とします。

	【中期目標期間（平成24～27年度）】 １　地域とアジアとともに発展する国際交流の推進については、以下の取組を行いました。 ① 国際交流センターを中心とした教育研究の国際化推進体制の検討については、平成27年度に韓国の威徳大学と交流協定を締結しました。南京師範大学との教員の文化・学術交流事業推進の課題検討・対策のための体制を平成27年度に作りました。吉林大学珠海学院との協定締結に向け、平成27年度に同校を訪問し、協議を行いました。平成26年度から後藤寺小学校の総合学習に留学生を派遣する文化交流プログラムを開始しました。平成27年度には、協定締結校との文化・学術交流の実績としては、教員交流が22名、文化交流プログラムが3回となりました。 ② 留学生の支援体制の充実については、英国短期語学演習プログラムが平成26年度、平成27年度と連続して福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」に採択されました。交流協定校への短期派遣プログラムを、平成26年度、平成27年度、威徳大学と大邱韓医大学にて実施しました。平成27年度には、韓国の大邱韓医大学から短期研修プログラムを1か月間受け入れました。平成27年度の受入留学生数は25名となりました。 ③ 産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進については、平成27年度、田川市と共同で山本作兵衛コレクション保存管理計画を日本語と英語で作成し、英語版をユネスコに提出しました。 ２　県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進については、以下の取組を行いました。 ① 附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進については、田川市・福岡県立大学包括的連携協定に基づく連携事業が実施され、平成27年度には5件の事業となりました。県立三大学連携推進会議で連携した社会貢献の在り方を協議し、各大学で実施予定の講演会、公開講座等の情報を共有しました。平成27年度には、三大学連携公開講座の一環として、本学での公開講座に福岡女子大学から、福岡女子大学の公開講座に本学からそれぞれ教員が招聘されました。 ② 地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施については、生涯福祉研究センターを中心に、相談事業の実施・拡充と地域活動の強化に取り組みました。ヘルスプロモーション実践研究センターを中心に、健康教室と相談事業を行いました。不登校・ひきこもりサポートセンターを中心に、県大子どもサポーター派遣事業を行いました。平成27年度には、延べ2,257人を派遣しました。また、キャンパススクール事業は延べ933人（平成27年度）を対象としました。キャンパススクールの登校開始率は平成27年度は50%と比較的高い水準でした。社会貢献・ボランティア支援センターを中心に、外部団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、平成27年度には団体登録が163件、活動学生数が延べ509人となりました。 ③ 資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施については、生涯福祉研究センターとヘルスプロモーション実践研究センターの2センターを中心とした取組を行いました。生涯福祉研究センターでは、特別支援教育に関するスキルアップ講座や、足と靴の健康講座等を実施しました。直方市で行っているペアレントトレーニング・スキルアップ講座は、平成26年度から直方市との共催事業として実施しました。ヘルスプロモーション実践研究センターでは、看護師・助産師・保健師を対象としたリカレント教育を行いました。リカレント教育については、両学部合わせ55人の卒業生（平成27年度）が参加しました。 ④ 地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略については、平成27年度に公開講座を3コース、計9回実施し、実受講者数は84名でした。山本作兵衛コレクションについては、保存・管理及び公開のための目録を作成するために、絵画4点について英文による説明を平成27年度に作成しました。 ⑤ 看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実については、リクルートのためのリカレント研修会をはじめとして、リカレント教育を実施しました。地域住民・企業を対象に、糖尿病予防等に関する出前講義を行いました。認定看護師コースの入学試験倍率は平成27年度には0.89倍、認定審査合格率は100%となりました。 実施事項別評価は、Aは2項目、Bは9目とします。
４．業務運営	【平成27年度】 １　運営体制の改善については、以下の取組みを行いました。 ① 事務局機能の強化については、プロパー職員1名を採用し、学生支援班に配置しました。公立大学協会主催の事務職員を対象とした研修に3名が参加しました。また、事務職員を対象としたSD研修を実施しました。データ交換等にファイル共有システムを積極的に活用しました。三大学経営管理部会議を開催しました。 ② 教員の士気を高める教育環境の整備については、教員表彰（ベストティーチャー）の公募を行い、1名を表彰対象としました。平成28年度新たに開設する大学院コースについて、教員の授業上限数改善を図りました。 ③ 教員の個人業績評価については、平成25年度に見直した教員個人業績評価基準に基づき、平成26年度分の個人業績評価を実施しました。 ④ リスクマネジメント体制の整備については、大学全体のマニュアルとなる「危機管理基本マニュアル」を2月に作成しました。 実施事項別評価は、Bを４項目とします。
	【中期目標期間（平成24～27年度）】 １　運営体制の改善については、以下の取組みを行いました。 ① 事務局機能の強化については、プロパー職員を計画どおり採用しました。事務局機能強化のため、平成25年度から総務、財務管理、教務企画の3班を経営企画、総務財務、教務入試の3班に再編しました。また、統一様式による業務マニュアルを作成し、共有ファイルシステムの運用を開始しました。 ② 教員の士気を高める教育環境の整備については、平成25年度より教員表彰（ベストティーチャー）の公募を行いました。教員の授業担当数調査をもとに平準化を進め、平成28年度新たに開設する大学院コースについて、教員の授業上限数改善を図りました。 ③ 教員の個人業績評価については、平成25年度に見直した教員個人業績評価基準に基づき、平成26年度分の個人業績評価を実施しました。 ④ 平成24年度に実施した他公立大学のリスクマネージメント体制の調査、潜在するリスクの洗い出し作業を基に、平成25年度に基本指針（案）、洗い出したリスク別の対応方法（案）を作成しました。平成26年度に基本指針及び危機管理規定を決定し、平成27年度に危機管理マニュアルを策定しました。 実施事項別評価は、Aを1項目、Bを3項目とします。

5. 財務	【平成27年度】 1　外部研究資金等の積極的確保については、自主財源基金スキームについて平成28年度実施に向けた検討を行いました。県大基金への寄付金等を増加させるための広報を「大学広報」に掲載しました。ホームページへの外部研究資金公募情報については、適宜掲載しました。科研費応募率向上のための研修会を開催し、高い応募率を得ました。 2　運営経費の削減・抑制については、以下の取組みを行いました。 ① 業務改善による経費の削減については、消耗品の集中発注システムを活用しました。空調管理の徹底、照明の間引き、昼休みの消灯、エレベーター稼働台数の削減等を実施しました。また、2度にわたり夏季の節電を呼びかけました。電力購入において入札を実施し、電気料金を約600万円削減できました。 ② 人件費の抑制については、退職教員の補充において、教育研究水準の維持・向上に配慮した教員採用を行いました（8名）。土日の時間外勤務について、週休日振替を徹底しました。その結果、時間外勤務時間数は、前年度比マイナスとなりました。 実施事項別評価は、Bを3項目とします。
	【中期目標期間（平成24～27年度）】 1　外部研究資金獲得の推進については、支援部門設立ではなく、申請繁忙期に事務局機能を強化・充実することとして実施しました。ホームページへの掲載による情報提供機能の充実、速報性を高めることに努めました。科研費応募者へのインセンティブ制度として、平成25年度から科研費補助制度を創設し、不採択となったがA評価だった申請者に対する助成を開始しました。科研費応募率向上のための研修会は毎年度開催しました。 2　業務改善については、物品発注方法の見直しとして、消耗品の集中発注システムを導入し活用しました。アウトソーシング可能な業務の検討を行い、平成25年度から国際交流関係業務についてアウトソーシングを実施しました。退職教員の補充において、教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、若手教員の採用に努めました。時間外勤務縮減の一環として、土日の時間外勤務における週休日振替の徹底を呼びかけ、効果を上げました。 実施事項別評価は、Aを1項目、Bを2項目とします。
6. 評価及び情報公開	【平成27年度】 1　自己評価の見直しについては、県評価委員会の評価結果について大学改革セミナーを開催し、全教職員に周知しました。教員の教育・研究・社会貢献の実績報告書を作成し、ホームページに掲載しました。大学評価・学位授与機構へ、平成28年度大学機関別認証評価に関わる自己点検評価書作成作業を進めました。 2　県大ブランド力の強化については、まずスマートフォンに対応したホームページを新規に作成し公開しました。ホームページの掲載情報更新チェックを3月に実施し、フラッシュについては年間3回更新しました。紙媒体の大学案内と大学広報を計3号発刊しました。出前講義は25回実施しました。メディアに取り上げられた回数は地方版が16件、海外紙が1件でした。中国大学生訪問団受入等について、記者資料提供を行いました。 実施事項別評価は、Bを2項目とします。
	【中期目標期間（平成24～27年度）】 1　県評価委員会からの評価結果については、部局長会議、改革推進委員会等で審議し、大学運営に反映させました。毎年度、各教員の教育・研究・社会貢献の実績を取りまとめ、大学ホームページに公表しました。平成25年度に「内部質保証システム」の体制構築に向けて改革推進委員会を設置しました。同年度からアニュアルレポートの作成を開始し、大学ホームページで公表を始めました。平成26年度に自己点検及び評価に加えてIRを推進する自己点検評価室を設置しました。平成27年度に認証評価ワーキンググループを設置し、平成28年度大学機関別認証評価の受審に向けて準備を進めました。 2　ホームページの充実については、掲載情報の更新チェック体制を整備するとともに、フラッシュの定期的な変更を実施しました。平成27年度にはスマートフォンに対応したホームページを新規に作成、公開しました。文科省採択事業や大学コンソーシアム、全学横断型教育プログラムのバナー掲載を行いました。大学が実施する講座・セミナー、卒論公開発表会等の記者資料提供を積極的に行いました。 実施事項別評価は、Bを2項目とします。
Ⅲ　中期目標に掲げている「重点事項」の取組状況について	【平成27年度】 ・人間社会学部と看護学部の連携による魅力ある教育システムの構築については、「専門職連携入門」を単位化し、開講しました。 ・地域とアジアの保健・医療・福祉に貢献する研究や社会貢献活動の推進については、健康教室や公開講座の取組を進め、不登校・ひきこもりサポートセンターの取組では、キャンパススクールにおいて高い登校開始率を達成しました。海外提携協定校を新たに1校加え、協定校との共同研究3件、教員交流数22名の成果を得ました。 ・専門性を備えた人材の確保・育成については、プロパー職員を1名採用し、学生支援班に配置しました。 ・地域に貢献する大学としての認知度向上については、不登校・ひきこもりサポートセンターが全国の団体からの視察を受けました。
	【中期目標期間（平成24～27年度）】 ・人間社会学部と看護学部の連携による魅力ある教育システムの構築については、平成27年度から「専門職連携入門」を単位化し、開講しました。 ・地域とアジアの保健・医療・福祉に貢献する研究や社会貢献活動の推進については、健康教室や公開講座の取組を進めました。不登校・ひきこもりサポートセンターの取組では、キャンパススクールにおいて高い登校開始率を達成しました。平成27年度には海外提携協定校を新たに1校加え、協定校との共同研究は平成27年度に3件、教員交流数22名（平成27年度）の成果を得ました。 ・専門性を備えた人材の確保・育成については、プロパー職員を計画に沿って採用し、平成27年度には採用者を学生支援班に配置しました。 ・地域に貢献する大学としての認知度向上については、不登校・ひきこもりサポートセンターが全国の団体（県議会文教委員会等）からの視察を受けました。

項目別の状況（年度計画項目・中期計画項目）

中期目標 1　教育	「保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。」 (1) 特色ある教育の展開 福岡県立大学は、保健・医療・福祉の専門職としての実践的能力を身に付けさせるとともに、人間社会学部と看護学部の連携のもとで、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、現場において他の専門職種と協働できる能力を育成する。 人間社会学部については、今後の社会的ニーズに的確に対応するため教育内容の改革に取り組む。 看護学部については、医療の高度化・ニーズの多様化に対応するため、学部及び大学院を通じた教育の充実を図る。 (2) 教員の教育能力の向上 教員の教育能力向上と教育活動の活性化を図るため、効果的なファカルティ・ディベロップメント（FD）等の組織的な取組を推進するとともに、授業評価システムを充実させ授業改善に活用する。 (3) 意欲ある学生の確保 明確な入学者受入れ方針のもと、志願者動向の分析等を踏まえた、より効果的・戦略的な広報活動を展開し大学の魅力を広く伝えるとともに、入試方法の継続的な点検・見直し、高大連携の推進などにより、大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を選抜する。 (4) 学生支援の充実 学生の自主的・多面的な学習の支援、健康で充実した学生生活を送るための支援、自立した社会人・職業人となるための支援など、学生ニーズや社会状況を踏まえた学生支援体制の整備・充実を図る。

中期計画			平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項				中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
1　教養教育の充実 公立大学法人福岡県立大学の教養教育は、豊かな感性、柔軟な思考力、緻密な論理構成力および自己表現能力の習得をめざす。	1	【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①専門科目の基礎と社会人・職業人として身につけるべき教養科目を中心に、カリキュラムや科目内容を検討・改編する。 ○達成目標 ・学生の成績 ：教養科目全てを対象として C以上80%	1-1	【平成27年度計画】 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○人間社会学部将来構想や看護学部学生のニーズ等をふまえ、強化すべき教養科目のカリキュラムや科目内容を継続して検討する。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新科目開設を検討する。 ○「スキルアップ・ゼミ」コースの改編・改善を実施する。 ○編成された全学横断型教育プログラムを試行し、拡充のための検討を行う。 ○達成目標 ・スキルアップゼミ4コースの開設 ・学生の成績 ：教養科目全てを対象として　C以上80%		1	【平成27年度の実施状況】 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○教養科目のカテゴリーを検討し、新たなカテゴリーが教務・共通教育部会に提案された。平成29年度以降の実施を目指し、学内で検討した。「グローバル社会論」においては積極的にオムニバス形式を取り入れた。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新設科目として平成28年度より「社会人基礎力演習」を開講することを決定した。 ○「スキルアップ・ゼミ」コースを4コース開設した（「Data analysis and discussion on social issues　(11月～12月、4回)」、「就活塾（11月～2月、3回）」、「初級日本語教授法入門（1月～2月）」、「情報スキル（2月、4回）」）。 ○全学横断型教育プログラムである保健福祉情報プログラムに必要な「数学概論」「情報処理応用演習」を平成28年度より新規開設することを決定した。 ○目標実績 ・スキルアップゼミ4コースの開設 ・学生の成績：　教養科目全てを対象として　C以上89.0%		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			1
					1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○人間社会学部将来構想や看護学部学生のニーズ等をふまえ、教養科目のカテゴリーの見直しを検討してきた。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新設科目として平成28年度より「社会人基礎力演習」を開講することを決定した。 ○「スキルアップ・ゼミ」コースの改編・改善をしながら実施した。 ○全学横断型教育プログラムである保健福祉情報教育プログラムに必要な「数学概論」「情報処理応用演習」を平成28年度より新規開設することを決定した。 ○目標実績 H24 / H25 / H26 / H27 / H28 / H29 学生の成績：教養科目全て C以上80%　89.4% / 88.2% / 93.4% / 89.0% / / 【平成28、29年度の実施予定】 ○新科目の設置に伴い、学生の教育効果に基づいて既存科目の見直しを行う。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新科目の準備及び実施を行う。 ○既スキルアップ・ゼミに関連した新設科目の開設に伴い、「スキルアップ・ゼミ」コースを精選し、全学横断型教育プログラムと連携しながら実施する。 ○全学横断型教育プログラム関連科目を実施する。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期1	

<table>
<tr><th colspan="2">中期計画</th><th colspan="2" rowspan="2">平成27年度計画</th><th colspan="2">ウェイト</th><th rowspan="2">計画の実施状況等</th><th colspan="3">自己評価</th><th rowspan="2">データ
番 号</th><th colspan="2">通し番号</th></tr>
<tr><th>項目</th><th>実施事項</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期目標期間評価理由
又は
年度評価理由</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期</th><th>年度</th></tr>
<tr><td rowspan="2">※1 教養教育の充実
の続き</td><td rowspan="2">2【教養演習・総合科目の改善】
＜両学部の教養演習、総合科目＞

①学生の課題発見・解決能力、論理的思考力及び自己表現能力を高めるために、教養演習等における授業内容と方法を継続的に改善していく。
・教養演習・総合科目の改善
②語学について、従来の語学教育を見直し、アジアとともに発展する国際交流を推進させるために、アジア諸国の異文化理解と共にコミュニケーション能力を高める。
・英語・中国語・コリア語教育の充実

○達成目標
・学生の成績
＜人間社会学部＞＜看護学部＞
：全学の教養演習及び総合科目において C以上 80%
・語学教育カリキュラムと科目内容の検討・改編
：2科目増設</td><td>2-1</td><td>【平成27年度計画】
【教養演習・総合科目の改善】

＜教養演習・総合科目の改善＞
○教養演習の授業内容・方法の充実を継続して行う。
○学生編集委員会を中心に、平成26年度教養テキストを改善し、改訂版を作成する。同時に、共通テキストの大幅な見直し案の作成を継続して行う。
○総合科目内において、グローバル化へ対応するための新科目案と既存科目教育内容の変更について継続して検討する。

＜語学教育の充実＞
○英語教育見直しのひとつとして平成25年度から導入した外部テストを、各学部・学科の一、二年生対象に一年生は年2回、二年生は年１回実施する。
○教養演習英語クラスを継続して開講する。
○平成24年度購入した、異文化理解のための韓国の伝統衣装や伝統工芸品等をコリア語教育に積極的に活用する。同様に、中国語クラスにおいても、平成26年度に購入した異文化理解のためのDVD等を中国語教育、異文化理解に積極的に活用する。
○語学教育カリキュラムの改編・増設に向けた検討・実施を継続して行う。

○達成目標
・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞
全学の教養演習及び総合科目において
C以上80%</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">1</td><td>【平成27年度の実施状況】
【教養演習・総合科目の改善】

＜教養演習・総合科目の改善＞
○教養演習については昨年度までの経験を踏まえ、本年度の担当者に向けて2件の事例報告を含むワークショップを行った。また初めて担当する教員に対しては個別な相談を受ける等の対応を行った。
○教養演習テキストについては学生編集委員会を中心に、来年度のテキストについて検討した。また基盤教育センターにおいてテキストの大幅な改訂の方針が決まり、目次構成を検討した。
○グローバル化に対応するために「グローバル社会論」を平成28年度に新規開講することを決定した。

＜語学教育の充実＞
○英語の外部テストを、一年生は2回（4月、1月）、二年生は1回（1回）実施した。
○教養演習英語クラスを開講した。
○異文化理解のための教材については、コリア語、中国語の各クラスにおいて活用した。
○語学教育カリキュラムに関して、「Advanced English Achievement」を平成28年度入学生から新規開講することを決定した。

○目標実績
・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞
全学の教養演習及び総合科目において C以上91.4%</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2"></td><td>【高く評価する点】

【実施（達成）できなかった点】</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">2</td></tr>
<tr><td></td><td>＜教養演習・総合科目の改善＞
○教養演習の授業内容・方法の充実に向けての全学「教養演習」担当者会議を継続して行い、指導方法等についての検討と知識やスキルの共有を行った。
○学生編集委員会を中心に、教養演習のテキストを改善し、改訂版を作成してきた。
○グローバル化へ対応するための新科目「グローバル社会論」を平成28年度に新規開講することを決定した。

＜語学教育の充実＞
○英語教育においては、平成25年度から外部テストを導入し、各学部・学科の1、2年生対象に1年生は年2回、2年生は年1回実施した。また、平成26年度から教養演習英語クラスを開講した。
○コリア語教育、中国語教育においては、異文化理解のために伝統衣装や伝統工芸品、DVD等を購入し、積極的に活用した。
○語学教育カリキュラムの改編・増設に向けた検討を行い、平成26年度後期から看護学部2年生の英語クラスを能力別編成に変更し、平成27年度から看護学部・オーラルコミュニケーションII（英語）を、これまでの2クラスから3クラスに再編成して実施した。また、「Advanced English Achievement 」を平成28年度から新規開講することを決定した。

○目標実績
<table><tr><th></th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th></tr><tr><td>学生の成績: 全学の教養演習及び総合科目 C以上80%</td><td>92.3%</td><td>94.5%</td><td>98.9%</td><td>91.4%</td><td></td><td></td></tr></table>
【平成28、29年度の実施予定】
＜教養演習・総合科目の改善＞
○教養演習の授業内容・方法の充実を継続して行う。
○学生編集委員会を中心に、教養テキストを改善し、改訂版を作成する。同時に、共通テキストの大幅な見直し案の作成を継続して行う。
○総合科目内において、グローバル化へ対応するための新科目の準備及び実施を行う。
＜語学教育の充実＞
○英語教育においては、外部テストを各学部・学科の1、2年生対象に継続して実施する。また、教養演習英語クラスを継続して開講する。
○異文化理解のために購入した伝統衣装や伝統工芸品、DVD等をコリア語教育、中国語教育に積極的に活用する。
○語学教育カリキュラムの改編・増設に向けた検討・実施を継続して行う。</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>【高く評価する点】

【実施（達成）できなかった点】</td><td></td><td>中期
2</td><td></td></tr>
</table>

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
2 専門教育の充実 専門教育は、本学の特色を活かし、専門分野だけでなく、相互に他の分野にも対処できる能力を育成する。 人間社会学部では、現行のカリキュラム体制の見直しと再編を図り、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する福祉専門職、心理専門職、地域マネジメントに関する職業人の育成を図っていく。 看護学部では、社会的に実践能力の高い看護職が求められており、「学部における看護実践能力を育成するカリキュラムの充実・強化」が必要である。健康問題に対して広い視野から柔軟に対応し、創造的な解決策を提案できる看護師・保健師・助産師・養護教諭の育成を目指す。なお、助産師養成は平成27年度から大学院修士課程に移行する。 また、専門職としての規範意識の向上と職業倫理の涵養を強化する。 さらに、高度な地域保健福祉の総合的な実践、保健福祉サービス供給のシステムの中枢を担うことのできる人材を育成する大学院教育の充実を図る。	1【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①専門教育充実の視点からカリキュラムと科目内容の検討を行う。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数 ：全専門科目 ・学生の成績 ：専門教育科目において C以上 80%	1-1	【平成27年度計画】 【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞ ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教学体制の検討 ＜公共社会学科＞ ・科目間の履修の順序や関係を学生に分かりやすく示し、地域社会分野と国際共生分野、それぞれの充実を図る。 ＜社会福祉学科＞ ・前年度に検討した「社会福祉士」「精神保健福祉士」「学校ソーシャルワーカー」等の専門科目の改善・充実に向けた取り組みを開始する。 ＜人間形成学科＞ ・各コースの専門科目を実施・検証し、新カリキュラムへの移行に伴う経過措置を検討する。 ＜看護学部＞ ○4年目に向けた新カリキュラムの科目を滞りなく実施する。 ・カリキュラム検証委員会及び教務部会で、4年目の新たな科目と変更科目について担当教員から学習内容・課題の聞き取りを実施する。 ・学生からの意見聴取（前期・後期各1回）を行い、その意見をカリキュラムの授業内容に反映させる。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション、実習前オリエンテーションで強化を図る。 ・倫理に関する講義を実施する。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数 ：全専門科目 ・学生の成績 専門教育科目において ：C以上 80%		1	【平成27年度の実施状況】 ＜人間社会学部＞ ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教学体制の検討 ＜公共社会学科＞ ・カリキュラムの改変と学年配当の見直しにより、学生に分かりやすく充実した履修モデルを作成した。 ＜社会福祉学科＞ ・「社会福祉士」「精神保健福祉士」「学校ソーシャルワーカー」等の専門科目の改善・充実のため、カリキュラムの改変に着手した。 ＜人間形成学科＞ ・新カリキュラムへの移行に必要な学則や履修規則の改正を行うとともに、移行措置と新任教員の赴任に伴う教育体制を作成した。 ＜看護学部＞ ○4年目に向けた新カリキュラムの科目を滞りなく実施する。 ・新カリキュラム4年目の前期・後期新科目と変更科目について、担当教員から聞き取りを行った。 ・学生から新カリキュラムの前期・後期科目について調査を行い、28年度のシラバスに反映させた。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション及び実習前オリエンテーションで1年生から4年生まで継続的に随時強化を図った。 ・1年生から4年生を対象として、前期に倫理教育を実施した。 ○目標実績 ・シラバスの改善科目数 ：全専門科目 ・学生の成績 専門教育科目において ：C以上 88.5%		A	【高く評価する点】 ＜人間社会学部＞ ・専門性を高めるため、学科制からコース制への移行にともない、各コースのカリキュラムの見直しを行い、実施した。 【実施（達成）できなかった点】			3
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜人間社会学部＞ ○平成25年度に作成した計画に基づき、学科制からコース制に移行する過程で、時代のニーズに合わせて履修コースの改廃と再構築を行い、専門性を高めるとともに資格科目を重視するためにカリキュラムの大幅な見直しを実施した。 ＜看護学部＞ ○平成24年度からの新カリキュラムの科目を滞りなく実施した。 ・新規科目及び変更科目（単位数の変更や科目名の変更など）について、4年間調査を継続的に行い、カリキュラムを滞りなく実施した。 ・学生からの聞き取り調査について、4年間実施したことで、授業内容の検討やシラバスへの反映に役立てた。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につけるために、1年生から4年生までを対象として、新入生オリエンテーションや実習前オリエンテーション時に倫理教育を継続的に行った。また、倫理に関する講義を継続的に実施した。 ○目標実績 [illegible] 【平成28、29年度の実施予定】 ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教学体制の検討 ・新カリキュラムを実施する中で、科目の新設・改廃等を行い、専門教育と資格関係科目の充実を行う。	A		【高く評価する点】 ＜人間社会学部＞ ・学科制からコース制への移行とカリキュラムの大幅な見直しを達成した。 【実施（達成）できなかった点】		中期 3	

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
シラバスの改善: 全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目		
学生の成績: 専門教育科目 C以上80%	89.4%	89.2%	88.4%	88.5%		

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
※2 専門教育の充実 の続き	2【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 ＜看護学部＞ ①東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムの検討・実施 ホリスティック人間論、東洋看護学演習等の教育プログラム内容の検討 ○達成目標 ・学生の成績 ：教育プログラム C以上80%	2-1	【平成27年度計画】 【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 ＜看護学部＞ ○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムを新たな体制のもとに実施する。 ○達成目標 ・学生の成績：教育プログラム C以上80%		1	【平成27年度の実施状況】 【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 ＜看護学部＞ ○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムを新たな体制のもとに実施する。 東洋看護学演習については、国内の補完代替医療の専門家による前期授業に切り替えを行った。 ○目標実績 ・学生の成績： 教育プログラム C以上90.9%		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			4
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○東洋看護学演習については、その内容を充実させるために、国内の補完代替医療の専門家による前期授業に切り替えを行った。 ○目標実績 H24 / H25 / H26 / H27 / H28 / H29 学生の成績：教育プログラム C以上80% / 100.0% / 98.2% / 98.9% / 90.9% / / 【平成28、29年度の実施予定】 ○東洋看護学演習については、引き続き教育内容を充実させる。	B		【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 4	

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
※2 専門教育の充実 の続き	3【実践力強化のための実習教育の充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①看護実践能力育成のための実習教育の充実 ②人間社会学部における実習教育の充実 ③実習前後における学習内容の充実 〇達成目標 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催　年1回以上 ・教育・保育・養護実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上　75% ・学生の成績 ：事前事後指導科目　C以上80%	3-1	【平成27年度計画】 【実践力強化のための実習教育の推進】 ＜看護学部＞ 〇実習指導者連絡会議の内容を検討し、年1回開催 〇実習指導体制の実施を継続、および見直しを行う ・実習打ち合わせの充実(臨床との共同会議開催) 〇新カリ学生に対する看護基本技術習得支援の実施と項目の検討 ＜人間社会学部＞ 〇3学科がそれぞれ実施している実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにしていく。 〇公共社会学科における実習指導の充実 ・コース制導入に伴う新カリキュラムにむけた社会調査実習の指導内容の検討。 〇社会福祉学科における実習指導の充実 ・新たな体制で実習指導を行い，その課題を把握する. 〇人間形成学科における実習指導の充実 ・実習指導体制と指導内容の見直しを行う. 〇達成目標 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催　年1回以上 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上　75% ・学生の成績 ：事前事後指導科目　C以上80%		1	【平成27年度の実施状況】 【実践力強化のための実習教育の推進】 ＜看護学部＞ 〇実習指導者連絡会議の内容を部会で検討し、「よりよい実習にするための大学と臨床との情報共有」というテーマで、9/17に開催した。参加者の満足度も85%以上と高かった。 〇実習指導体制の実施を継続、および見直しを行う ・実習打ち合わせを各領域で実施し、実習運営部会に報告して必要時に部会で検討した。（実習施設見直し、実習物品の充実等） 〇新カリ学生に対する看護基本技術習得支援の実施と項目の検討は、eラーニングを活用し項目を検討した。データを基に指導を強化する内容を洗い出した。 ＜人間社会学部＞ 〇3学科がそれぞれの実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにするための話し合いの場を設定した。 〇公共社会学科における実習指導の充実 ・社会調査関係科目について開講年次の検討を行い、全体として開講年次を早めた。 （例：社会調査実習　現行3年次開講→2年次開講に変更） 〇社会福祉学科における実習指導の充実 ・新たに担当教員を増やして体制強化を図った。一方、各実習間の指導内容を標準化していく必要性が今後の課題として確認された。 〇人間形成学科における実習指導の充実 ・新任の実習担当教員を迎えて各実習担当者間の連携を確認し、実習依頼状等の文面を変更して手続きを簡素化するとともに、実習先巡回訪問指導の原則を確認した。実習の種類（保育所・施設・幼稚園）ごとの理解を深めるために、卒業生を招いてこどもコース就職 懇話会・異学年交流会を実施した（12/9）。 〇目標実績 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備　：実習指導者連絡会議開催　1回 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前事後指導の充実　：事前事後指導科目4科目　100% ・学生の成績　：事前事後指導科目　C以上90.8%		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			5
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜看護学部＞ 〇臨地実習の体制に関しては、毎年実習先の確保が難しい状況ではあるが、実習指導者連絡会を開催することで、臨床とのつながりを強化できた。また、研修会が臨床教授の申請の要件ともなっているため、看護学にとって重要な実習学習の質の担保につながった。 ＜人間社会学部＞ 〇3学科がそれぞれの実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにするための話し合いの場を設定し、実習指導の充実を図ってきた。 ・公共社会学科においては、教育実習事前・事後指導を強化し、平成25年度に「教職課程履修ガイド」を作成した。 社会調査関係科目について開講年次の検討を行い、平成28年度から全体として開講年次を早めることとした。 ・社会福祉学科においては、教員を増やすなど実習指導体制の強化を行ってきた。平成26年度には、社会福祉士、精神保健福祉士、学校ソーシャルワークの各実習において、「実習の手引き」の改訂・作成、新たな実習先の開拓、実習教育プログラムの見直しなどを行った。 ・人間形成学科においては、実習の種類（保育所・施設・幼稚園）毎の実際の理解を深めるために、平成25年度に子どもコース学生交流会（実習報告・就職対策）、平成26年度に異学年合同授業、平成27年度に卒業生を招いてこどもコース就職懇話会・異学年交流会を企画・実施した。 〇目標実績 |	H24	H25	H26	H27	H28	H29
---	---	---	---	---	---	---
看護学部における臨地実習指導体制：連絡会議年1回以上	1回	1回	1回	1回		
実習における事前事後指導：事前事後指導科目３以上75%	80.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
学生の成績：事前事後指導科目C以上80%	95.4%	94.0%	94.4%	90.8%		| 【平成28、29年度の実施予定】 ＜人間社会学部＞ 〇3学科がそれぞれ実施している実習教育の指導内容や実施体制を検討し、実習指導の充実を図る。 ＜看護学部＞ 〇学生の対人スキル向上のために実習前のコーチング学習の導入を行う		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 5	

<table>
<tr><th colspan="2">中期計画</th><th colspan="2" rowspan="2">平成27年度計画</th><th colspan="2">ウェイト</th><th rowspan="2">計画の実施状況等</th><th colspan="3">自己評価</th><th rowspan="2">データ番号</th><th colspan="2">通し番号</th></tr>
<tr><th>項目</th><th>実施事項</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期目標期間評価理由
又は
年度評価理由</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期</th><th>年度</th></tr>
<tr><td rowspan="2">※2 専門教育の充実
の続き</td><td rowspan="2">4【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】

①保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘し「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の充実を図るとともに、選択科目としての単位化を検討する。
②「両学部で学ぶ専門的連携科目」（「社会貢献論」、「社会貢献論演習」、「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」）の充実を図る。
③両学部の学生が共に海外の保健・医療・福祉の現場を訪れ、語学を学びながら現場体験を行う「海外語学実習」の実習先の開拓を行うとともに、その事前準備のための「海外語学演習」の充実を図る。
④社会貢献フォーラムと公開卒論発表会の開催</td><td>4-1</td><td>【平成27年度計画】
【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】

○保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘して行う「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の単位化して実施
○「両学部で学ぶ専門的連携科目」（「社会貢献論」、「社会貢献論演習」、「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」）を充実を図りながら実施
○「海外語学演習」「海外語学実習」の実施
○社会貢献論演習における成果の社会貢献フォーラムにおける発表
○公開卒論発表会の実施

○達成目標
・学生の成績　:C以上80%</td><td></td><td>1</td><td>【平成27年度の実施状況】
【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】

○今年度から「専門職連携入門」を単位化し、後期に開講した（受講生45名）。
○社会貢献論は、外部講師の見直しを行い、学内教員の担当する内容との連動性をはかった（受講生109名）。社会貢献論演習は後期に開講した（受講生6名）。不登校・ひきこもり援助論に関しては、外部講師と学内教員の担当の見直しを行い、内容の充実を図った（受講生196名）。不登校・ひきこもり援助論応用演習は後期に開講した（受講生12名）。
○「海外語学実習事前指導」を実施した（受講生17名）。また「海外語学実習」は8/30～9/20に実施した（受講生17名）。
○社会貢献フォーラムを「社会貢献論演習」の最終週の授業で実施した（学生6名、教職員6名）。
○人間社会学部の卒業論文発表会（2/2 学外参加者：38名）及び看護学部の卒業研究発表会（2/22～3/8 学外参加者：15名）を行った。

○目標実績
・学生の成績：　C以上99.0%</td><td></td><td>B</td><td>【高く評価する点】

【実施（達成）できなかった点】</td><td></td><td></td><td>6</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>1</td><td>【平成24～27年度の実施状況概略】
○「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の充実を図るために、平成26年度まではオムニバス方式で両学部が計画した内容の講座を行い、平成27年度にはそれらをまとめ、「専門職連携入門」として単位化した。
○「両学部で学ぶ専門的連携科目」に関しては、名称を「全学横断型科目」に変更し、科目の見直し、整理統合、さらに新しい科目を加えた。
○「海外語学実習事前指導」および「海外語学実習」を毎年度実施した。
○社会貢献フォーラムを毎年度実施した。公開卒論発表会は、人間社会学部は平成24年度から、看護学部は平成27年度から実施した。

○目標実績
<table><tr><th></th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th></tr><tr><td>学生の成績：C以上80%</td><td>98.5%</td><td>97.9%</td><td>100.0%</td><td>99.0%</td><td></td><td></td></tr></table>
【平成28、29年度の実施予定】
○平成27年度から単位化した「専門職連携入門」を充実を図りながら実施する。
○全学横断型科目として、継続して行われている科目及び新設された科目の内容の充実を図りながら、魅力あるカリキュラムとして今後も検討を行う。
○「海外語学実習」を継続して実施する。
○社会貢献フォーラム、公開卒論発表会を継続して実施する。</td><td></td><td>B</td><td>【高く評価する点】

【実施（達成）できなかった点】</td><td></td><td>中期
6</td><td></td></tr>
</table>

中期計画 項目	中期計画 実施事項	平成27年度計画		ウェイト 中期	ウェイト 年度	計画の実施状況等	自己評価 中期	自己評価 年度	自己評価 中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ番号	通し番号 中期	通し番号 年度
※2 専門教育の充実 の続き	5【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ①高度専門職業人の育成を重視したカリキュラム体制にしていくため、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程の見直し検討を行う。 ○達成目標 ・充足率（入学者数）／（入学定員） :100%	5-1	【平成27年度計画】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程のカリキュラムの見直し検討 地域教育支援専攻 ・人間社会学部の改革方針を踏まえ、また、入学者確保の観点、履修者の意向などを踏まえ、中期的なカリキュラム充実案の検討を具体的にはじめる。 心理臨床専攻 ・日本臨床心理士資格認定協会による枠内で、および国家資格化の動向を踏まえながら、学生のニーズに合わせて、新設科目等を検討する。 社会福祉専攻 ・高度専門職業人の育成に向け、現在の開講科目及び未開講科目を改めて検討する。 ○達成目標 ・充足率　社会福祉専攻　:100% 心理臨床専攻　:100% 地域教育支援専攻　:100%		1	【平成27年度の実施状況】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程のカリキュラムの見直し検討 地域教育支援専攻 ・検討の結果、同専攻の学生募集を停止するとともに、地域のニーズに対応できる新たな専攻内容として「子ども教育専攻」案を作成し届出に必要な作業を完成させた。 心理臨床専攻 ・学生のニーズに合わせて新設科目等を検討した。今後、国家資格カリキュラムの動向を収集し、併せて検討していくことを決定した。 社会福祉専攻 ・働きながら学ぶことができるよう、1年次からの土日開講を可能とし、新たに必須科目、「社会福祉研究法」を開設するなど、カリキュラムを見直した。 ○目標実績 ・充足率 社会福祉専攻　:66.7% 心理臨床専攻　:133.3% 地域教育支援専攻　:募集停止		B	【高く評価する点】 ・時代のニーズに合わせて地域教育支援専攻を廃止し、新たな専攻として「子ども教育専攻」を開設する準備を行った。 【実施（達成）できなかった点】 ・充足率 社会福祉専攻の土日開講について、卒業生を含めた施設従事者等への周知に努める。			7
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○学部の改革に対応し、かつ時代のニーズに対応するために、地域教育支援専攻を廃止し、新たな専攻として「子ども教育専攻」を開設する準備を行うとともに、社会人学生のニーズに合わせ土日開講を導入する等の目標である充足率を達成できる体制を構築した。 ○目標実績 （下表） 【平成28、29年度の実施予定】 ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程のカリキュラムの見直し検討 ・心理臨床、社会福祉専攻においては継続して学生のニーズや新カリキュラムに対応した改革を進めるとともに、子ども教育専攻については平成29年度開設に向け、必要な手続き等を行う。		B	【高く評価する点】 ・時代のニーズに対応するため、各専攻においてカリキュラムの見直し、土日開講の導入、新専攻の開設準備等を行った。 【実施（達成）できなかった点】 ・充足率 社会福祉専攻では土日開講の導入、地域支援専攻では募集停止及び新たな専攻の開設準備を行っている。		中期 7	

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
充足率：社会福祉専攻　100%	33.3%	33.3%	66.7%	66.7%		
充足率：心理臨床専攻　100%	150.0%	166.7%	133.3%	133.3%		
充足率：地域教育支援専攻　100%	100.0%	0.0%	0.0%	募集停止		

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由又は年度評価理由		中期	年度
※2 専門教育の充実 の続き	6【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞ ①高度な看護専門職教育の充実 ②現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成 ③大学間のがんプロフェッショナル連携の構築 ○達成目標 ・充足率（入学者数）／（入学定員） :100%	6-1	【平成27年度計画】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞ ○高度な看護専門職教育の充実・見直し検討 ・各専門看護師コースについては、その見直しのために情報収集を行い、高度な看護専門職教育の充実に向けた整備を行う。 ・老年看護専門看護師コースを開講する。 ・助産学コースを開講する。 ○現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成（継続） ○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築(継続） ・eラーニングクラウド開講科目受講 （1科目以上／学生1人） ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン会議参加 ・平成29年度以降のがんプロ参加に関する検討 ○修士修了生の支援 ・研究科コースの修了者の支援について検討する ・CNSコース3コースの修了後の専門看護師資格習得までの支援体制を整備する ○達成目標 ・専門看護師教育課程増設準備ワーキンググループ会議の開催 ((5回/年以上） ・充足率（入学者数）/（入学定員） :100%		1	【平成27年度の実施状況】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞ ○高度な看護専門職教育の充実・見直し検討 ・各専門看護師コースの見直しのために情報を収集、がん看護専門看護師コース継続に関して学系調整会議に諮り審議した。また、精神看護専門看護師38単位コースを申請した。それに伴い、がん看護専門看護師26単位コースの科目内容を1科目変更し、申請した。 ・老年看護専門看護師38単位コースを開講した。 ・助産学コースを開講した。 ○現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成（継続）研究支援他6件実施。 ○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築(継続） ・eラーニングクラウド開講科目受講（1科目以上／学生1人）1科目受講 ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン会議参加 6/25、8/25(2回)。また全体研修会へ参加（1回)した。 ・平成29年度以降のがんプロ参加に関しては、次年度への継続審議となった。 ○修士修了生の支援 ・研究科コースの修了者には、研究支援を行った（がん看護CNS2件)。 ・CNSコース修了後の支援として申請書の指導（がんCNS1件、精神CNS2件)、現場とのネットワーク形成のためのセミナーを実施した（がん、精神、老年各CNSコース)。がんCNSコースはキャンサーナーシングカフェを開催し修了生の業績実績としてもカウントした。 ○目標実績 ・専門看護師教育課程増設準備ワーキンググループ会議の開催 5回（学務部会と同時開催含む） ・充足率（入学者数）/（入学定員）:75%（9/12）		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.1 「②入学者選抜試験（大学院）」		8
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○高度な看護専門職教育としては、研究科コースのみならず3つのCNSコースを開設しそれぞれ専門看護師を輩出して地域の看護力向上に貢献した。 ○特にCNSコースではCNSの再申請の要件ともなるため、修了後の継続的な研究支援などを実施した。 ○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築では全体研修会などをとおして連携が深まった。 ○目標実績 H24 H25 H26 H27 H28 H29 充足率: 100% 33.3% 50.0% 83.3% 75.0% 【平成28、29年度の実施予定】 ○CNSコースに関しては38単位コース移行に伴って継続した情報収集と教育の充実に向けた整備を行う。 ○研究科コース修了者の研究支援を行う。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 8	

<table>
<tr><th colspan="2">中期計画</th><th colspan="2" rowspan="2">平成27年度計画</th><th colspan="2">ウェイト</th><th rowspan="2">計画の実施状況等</th><th colspan="3">自己評価</th><th rowspan="2">データ番号</th><th colspan="2">通し番号</th></tr>
<tr><th>項目</th><th>実施事項</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期目標期間評価理由
又は
年度評価理由</th><th>中期</th><th>年度</th></tr>
<tr><td>※2 専門教育の充実
の続き</td><td>7【他大学との連携による教育の充実】

・専門領域に応じた他大学との連携による教育の充実＜人間社会学部＞
・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムの構築＜看護学部＞

①両学部において、専門領域に応じた他大学との連携プログラムを検証し、実施する。
②看護学部においては、ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムを構築し、講義の相互受講システム、大学連携による授業科目の提供など、教育の充実を図る。

○達成目標
・他大学との連携プログラムの件数
：1件以上／年
＜人間社会学部＞
・大学間連携による開講科目数
：1科目以上
＜看護学部＞
・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアム会議
：対面会議　1回／年
：テレビ会議　2回以上／年</td><td>7-1</td><td>【平成27年度計画】
【他大学との連携による教育の充実】
＜人間社会学部＞
公共社会学科、社会福祉学科、人間形成学科の専門領域に対応した高度なインターンシップ活動について九州・沖縄・山口地域の大学との連携の方向性を検討し、教育の充実に向けた連携プログラムを検討する。

＜看護学部＞
○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実
・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議を開催する。
○連携8大学及びステークホルダーの代表からなる共同教育連携運営協議会の開催
・ホームページを更新し、ニューズレターを発行する。
・外部評価委員会による事業評価を実施する。
○使命感育成を担当するキャリア像確立部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。
・キャリア像確立講義のオンデマンド配信を実施する。
・ナーシングキャリアカフェを開催する。
・連携大学の卒業生に対する離職率調査・就職先調査を実施する。
○単位互換を担当する単位互換・相互受講部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。
・連携大学での講義の単位互換または相互受講を実施する。
・特徴科目における授業の一部をオンデマンド配信できるよう収録、コンテンツ化する。
○合同短期研修を担当する研修調整部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。
・国際協力看護領域及び災害看護領域における合同短期研修を実施する。
・新規付加価値コースにおける合同短期研修を実施する。

○達成目標
・大学間連携による開講科目数　：1科目
・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議　：対面会議　2回／年
：テレビ会議　2回 以上／年</td><td></td><td>1</td><td>【平成27年度の実施状況】
【他大学との連携による教育の充実】
＜人間社会学部＞
平成27年度文部科学省「大学教育再生加速プログラム（インターンシップ等を通じた教育強化）」事業の取組において、連携3大学で中長期・実践型インターンシッププログラムの開発に取り組み、8月から9月にかけて4週間の中長期・実践型インターンシップを実施し、成果報告会を開催した（10/10）。

＜看護学部＞
○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実
・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議を3回開催した（5/23、9/18、1/22）。
・加盟大学学長懇談会を開催した（12/4）。

○連携８大学及びステークホルダーの代表からなる共同教育連携運営協議会の開催
共同教育連携運営協議会を4回開催した（5/22、9/11、12/11、3/11）。
・ホームページは随時更新し、ニューズレターは9月に6号、3月に7号を発行した。
・外部評価委員会による事業評価を実施した(3/28)。

○使命感育成を担当するキャリア像確立部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。
・キャリア像確立講義ⅠおよびⅡのコンテンツ（各8回ずつ）を配信した。
・ナーシングキャリアカフェを福岡と沖縄で合わせて21回開催した。
・連携大学の卒業生に対する離職率調査・就職先調査を2月に実施した。

○単位互換を担当する単位互換・相互受講部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。
・連携大学での単位互換・相互受講の実施について、前期は連携校の学生延べ12名が参加し、後期は2名が参加した。
・次年度単位互換・相互受講開講科目としてキャリア像確立講義Ⅰ、キャリア像確立講義Ⅱ（いずれも福岡県立大学）の整備が完了した。
・特徴科目における授業の一部のオンデマンド配信に関しては、国際看護論（聖マリア学院大学）、性教育学（福岡県立大学）、不登校・ひきこもり援助論（福岡県立大学）の3科目をコンテンツ化した。
・単位互換制度に関する学生フォーラムを連携大学をテレビ会議で結び2/23に実施した。学生5名が参加した。

○合同短期研修を担当する研修調整部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。
・災害看護領域における合同短期研修を1回実施した（9/10）。
・国際協力看護領域における合同短期研修を1回実施した（3/14）。
・新規付加価値コースとして、島嶼看護領域における合同短期研修を1回実施した（9/8～9/9）。

○目標実績
・大学間連携による開講科目数　：3科目
・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議　：対面会議　3回</td><td></td><td>A</td><td>【高く評価する点】
・本学が幹事校を務める大学教育再生加速プログラムが、文部科学省のヒアリングにおいて、高く評価された。
・本学が代表校を務める大学間連携共同教育連携事業が、文部科学省の中間評価においてS評価を受けた。

【実施（達成）できなかった点】</td><td></td><td></td><td>9</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td></td><td>【平成24～27年度の実施状況概略】
＜人間社会学部＞
○平成24年度から「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」を通じて、連携9大学で「効果的かつ持続可能なインターンシップモデルプログラム」を開発し、平成25年度から1・2年次生を対象として「プレ・インターンシップ」を単位化した。平成26年度から「大学教育再生加速プログラム（インターンシップ等を通じた教育強化）」を通じて連携3大学で中長期・実践型インターンシップ・プログラムの開発に取り組み、中長期・実践型インターンシップを実施した。
＜看護学部＞
○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実を図るために、学長会議を毎年開催した。
○連携8大学において、平成26年度から講義の単位互換・相互受講を開始実施した。
○連携8大学共同で、キャリア像確立講義のオンデマンド配信を実施した。
○国際協力看護領域及び災害看護領域における合同短期研修を実施した。

○目標実績
<table><tr><th></th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th></tr><tr><td>大学間連携による開講科目数：1科目以上</td><td>1科目</td><td>2科目</td><td>3科目</td><td>3科目</td><td></td><td></td></tr><tr><td>ケアリングアイランドコンソーシアム会議：対面会議　1回</td><td>3回</td><td>3回</td><td>6回</td><td>3回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>ケアリングアイランドコンソーシアム会議：テレビ会議　2回以上</td><td>2回</td><td>2回</td><td>2回</td><td>0回</td><td></td><td></td></tr></table>
【平成28、29年度の実施予定】
＜人間社会学部＞
○公共社会学科、社会福祉学科、人間形成学科の専門領域に対応した高度なインターンシップ活動について九州・沖縄・山口地域の大学との連携の方向性を検討し、教育の充実に向けた連携プログラムを検討していく。
＜看護学部＞
○連携8大学における単位互換・相互受講を推進し、同時にオンデマンドコンテンツ制作・配信をすすめていく。
○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実をはかる。</td><td></td><td>A</td><td>【高く評価する点】
・学習意欲喚起型の「プレ・インターンシップ」を単位化した。
・中長期・実践型インターンシップを実施することができた。
・共同教育8大学連携において、単位互換・相互受講を開始した。

【実施（達成）できなかった点】</td><td></td><td>中期
9</td><td></td></tr>
</table>

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
3 教育効果を検証するシステムの構築 十分な教育と厳格な成績評価を行い、確実な知識と技術を身につけた専門職業人を育成する。その教育効果を検証するための評価システムを構築する	1【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①学生による授業評価の継続的実施（前期、後期）とその結果に基づくFDセミナーの開催などを通じて教育内容の改善を図る。 また学生との座談会等を実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催 ：年1回以上 ・学生による授業評価の回収率 ：各授業科目の回収率70%以上	1-1	【平成27年度計画】 【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生による授業評価の実施（前期、後期） ○授業評価による授業改善目標の設定について教務部会と連携して実施する。 ○授業評価に関するFDセミナーを開催 ○学生による授業評価を聴取するため学生座談会等を実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催　：年1回以上 ・学生による授業評価の回収率 ：各授業科目の回収率70%以上		1	【平成27年度の実施状況】 【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生による授業評価を前期・後期に実施した。 ○授業評価による授業改善目標の設定について，教務部会と連携して開催した（3/17）。また、授業評価アンケートの内容を見直した。 ○授業評価に関するFDセミナーを開催した（3/2）。 ○学生による授業評価を聴取するため，学生座談会等を各学部で実施した。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催：　1回 ・学生による授業評価の回収率：　81.6%		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			10
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○学生による授業評価を実施した。 ○学生による授業評価を徴収するため、学生座談会を実施した。 ○授業評価アンケートの内容を見直した。 ○目標実績 （下表） 【平成28、29年度の実施予定】 ○見直しをした授業評価アンケートを実施する。 ○新しい授業評価アンケートを基にした授業改善評価方策を実施する。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 10	

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
授業評価結果を反映したFDセミナー開催：年1回以上	1回	2回	1回	1回		
授業評価の回収率：各授業科目の回収率70%以上	82.4%	84.9%	86.1%	81.6%		

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
※3　教育効果を検証するシステムの構築 の続き	2【アウトカム評価システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①就職先へのアンケートを実施する。 ②卒業生の実態を把握するアンケートを実施する。 ③就職先の評価、卒業生の実態、就職先等を総合的に評価し、対応を考えるシステムを作る。 〇数値目標 ・アンケート内容の見直し 　:年1回以上 ・就職率（就職者数／就職希望者数） 　:95%以上 ・国家試験合格率 　看護師　:98%以上 　保健師　:90%以上 　助産師　:90%以上 　社会福祉士:70%以上 　精神保健福祉士:70%以上	2-1	【平成27年度計画】 【アウトカム評価システムの充実】 〇アウトカム評価システムの改善策を検討する。 ＜人間社会学部＞ 〇就職先アンケート内容の検討を行い、アンケートを実施する。 ・就職先アンケートを継続的に実施する。 ・就職先アンケートの結果を分析し、来年度の実施に向けて結果を反映させる（アンケート項目の修正や拡充）。 ・各学科及びキャリアサポートセンター間でキャリア支援に関する情報を共有するとともに、効率的な役割分担を進める。 ・卒業予定者の就職活動状況を把握するアンケートを早期に実施する。 　その結果に基づきキャリアサポートセンター等と連携して学生への情報提供や個別指導を行う。 ・卒業生アンケートの実施・修正を行う。 ＜看護学部＞ 〇就職先アンケートの内容を見直し、調査する。 〇卒業生アンケートの内容を見直し、調査する。 〇アウトカム評価システムに従って、アンケート内容を分析し、対応を検討する。 ・就職・進学に関する情報提供を行い、面接および指導を行う。 ・国家試験対策として、模試の実施・補講・個別指導を実施する。 〇達成目標 ・アンケート内容の見直し　:年1回以上 ・就職率（就職者数／就職希望者数）　:95%以上 ・国家試験合格率　看護師　:98%以上 　保健師　:90%以上 　助産師　:90%以上 　社会福祉士:70%以上 　精神保健福祉士:70%以上		1	【平成27年度の実施状況】 〇アウトカム評価システムの改善策を検討する。 　昨年度実施したアウトカム評価システム案の改善策を進路・生活支援部会で検討し、今年度から看護学部の就職先アンケートの送付先を病院就職説明会参加病院以外に拡大した。 ＜人間社会学部＞ 〇就職先アンケート内容の検討を行い、アンケートを実施する。 ・就職先アンケートを実施した（42社回答/102社中）。 ・就職先アンケートの結果を分析し、来年度実施に向けてアンケート項目を検討し、経年変化をみるためにアンケート項目の修正は行わないこととした。 ・新たに両学部各学科のキャリア就職支援講座等の年間予定をまとめ、キャリア就職支援年間スケジュール（一覧表）を作成し、学生支援班、キャリアサポートセンター間でも情報共有し、また学生が参照できるよう電子掲示板にアップした。 ・学生支援班がキャリアサポートセンターと連携し、各学科教員の協力も得て、卒業予定者の就職活動状況を集約した。その結果をふまえ、支援が必要な学生に対し学生支援班担当者がキャリアサポートセンターと連携しつつ、情報提供や個別指導を行った。 ・進路・生活支援部会で過去に実施した卒業生アンケートの見直しを行い、平成26年度の卒業生に対し、アンケートを送付した。人間社会学部卒業生に対しては7月末から8月上旬にかけて送付、看護学部卒業生に対しては11月に送付し、1月に両者を統合した集計を行った。 ＜看護学部＞ 〇就職先アンケートの内容を見直し、調査する。 ・病院就職説明会（4/22）参加病院（71社回答/87社中）及び就職先（15社回答/53社中）に対しアンケート調査を実施し、教育ニーズを把握した。 〇卒業生アンケートの内容を見直し、調査する。 ・11月末を回答期限に、卒業生に対してアンケートを実施した。 〇アウトカム評価システムに従って、アンケート内容を分析し、対応を検討する。 ・病院・施設の情報をメール・展示で提供し、就職相談を随時実施した。 　キャリアサポートセンターの活用法について検討した。 ・国家試験模擬試験を看護師6回、保健師5回実施した。 ・個別指導、学習会の開催、学習環境の整備等の学習支援を実施した。 ・後援会予算にて購入した看護師国家試験対策書籍を各領域に配布し、担当ゼミ学生への国家試験対策支援に活用した。 〇目標実績 ・アンケート内容の見直し　:1回 ・就職率（就職者数／就職希望者数）　:98.6%　（人間社会97.9%、看護100.0%） ・国家試験合格率 看護師　:100.0% 　保健師　:100.0% 　社会福祉士:73.1% 　精神保健福祉士:95.0% 　（助産師については、課程の大学院移行のため27年度受験者なし）		A	【高く評価する点】 ・就職率、国家試験合格率がいずれも達成目標を大きく上回った。中でも社会福祉士の合格率（新卒者）73.1%は、新卒受験者50人以上の福祉系大学の中で全国第5位であった。 【実施（達成）できなかった点】	No.8 「資格試験合格率、免許の取得」 No.18 「就職状況」		11
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 〇就職先アンケートを実施してきた（両学部）。 〇卒業生アンケートを平成26年度から実施してきた（両学部）。 〇アウトカム評価システムを構築し、評価の実施と改善を行ってきた。 〇目標実績 【平成28、29年度の実施予定】 〇就職先アンケートの実施（両学部） 〇卒業生アンケートの実施（両学部） 〇アウトカム評価を実施し、その結果を分析し、対応を検討する。		A	【高く評価する点】 ・平成26年度から就職先アンケート等の実施・集約・分析を行うアウトカム評価を実施してきた。 ・就職率、国家試験合格率（看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士）が達成目標を常に上回った。 【実施（達成）できなかった点】		中期 11	

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
アンケート内容の見直し:年1回以上	1回	1回	1回	1回		
就職率: 95%以上	97.3%	98.0%	97.8%	98.6%		
国家試験合格率: 看護師　98%以上	98.6%	97.6%	98.7%	100.0%		
国家試験合格率: 保健師　90%以上	96.3%	93.9%	100.0%	100.0%		
国家試験合格率: 助産師　90%以上	100.0%	100.0%	100.0%			
国家試験合格率: 社会福祉士　70%以上	70.4%	70.6%	78.9%	73.1%		
国家試験合格率: 精神保健福祉士　70%以上	88.0%	100.0%	88.5%	95.0%		

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由又は年度評価理由		中期	年度
4 教員の教育能力の向上 学生にわかりやすい授業を提供するために教員の教育力の向上を図る	1【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①ワークショップや研修会などを企画し、実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ②教員間の授業参観システムの構築 ③Best Teacherによる公開授業の実施 ○達成目標 ・FD活動等への教員参加率 ：100% ・学生の成績 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ：両学部の常勤教員の全教科において C以上80% ・教員間の授業参観システムの構	1-1	【平成27年度計画】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○FDセミナー（ワークショップや研修会など）を企画・実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ○教員間の授業参観の実施および課題の抽出 ○公開授業の実施および課題の抽出 ○教員の授業自己評価の実施・修正 ○達成目標 ・FDゼミナー等教員参加率 ：95% ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ：両学部の常勤教員の全教科において C以上80% ・教員間の授業参観 ：年1回以上		1	【平成27年度の実施状況】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○授業改善に活かす内容のFDセミナーを計5回開催した。 ○教員間の授業参観を実施し，FDセミナーにて課題を抽出した。 ○公開授業を実施した。 ○教員の授業自己評価を実施した。 ○達成目標 ・FDゼミナー等教員参加率 ：85.2% ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ：両学部の常勤教員の全教科においてC以上89.5% ・教員間の授業参観 ：5回実施		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.10 「FD」		12
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○教員間の授業参観の仕組みを整え、授業参観を実施した。 ○公開授業を実施し、地域の学校教員等からの参加を得た。 ○目標実績 【平成28、29年度の実施予定】 ○学内でFDワークショップを開催する。 ○教員間の授業参観を推進する。ベストティーチャー等による公開授業を実施する。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 12	

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
FD活動等への教員参加率：100%	84.4%	95.1%	94.9%	85.2%		
学生の成績：両学部の常勤教員の全科目 C以上80%	90.0%	91.2%	90.8%	89.5%		
教員間の授業参観システム実施：年1回以上	0回	1回	延べ16回	5回		

中期計画			平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項				中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
※4 教員の教育能力の向上 の続き	1 ※【教員のFD活動の推進】 の続き	1-2	【平成27年度計画】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○大学院FD活動の推進 ・各専攻によるFD研修会議の開催 （各専攻1回以上） ・学外の講師によるFDセミナーの開催（1回） ・学外で開催されるFDセミナーへの参加 （1回以上） ・大学院生へのアンケート実施（1回） カリキュラム、授業、実習、修士論文作成等の観点及び総合評価について満足度を問う ・アンケート結果をもとにした大学院生参画による FD会議の開催（1回） ○達成目標 大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員 :95% 大学院生の満足度 :「中」以上 :75%			1	【平成27年度の実施状況】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○大学院FD活動の推進 ・各専攻によるFD研修会議の開催：院生参画FD会議（10月）やアンケート（12月配布）の結果をもとに、各専攻で実施した。 ・学外の講師によるFDセミナー：3/11に開催した（参加者39名）。 テーマ：「学ぶ力の潜在性を引き出す実践学としての学習科学」 ・学外で開催されるFDセミナーへの参加：第31回日本教育工学会（9月開催）へ1名参加した。 ・大学院生へのアンケート実施：12月中に配布、1月上旬に回収。1月の部会でアンケート結果が報告された。 ・アンケート結果をもとにした大学院生参画によるFD会議：10/7に開催した（参加者：院生13名、部会員5名）。 ○達成目標 大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員：98.2% 大学院生の満足度 :「中」以上：100%		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			13
					1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○大学院FD活動の推進として、毎年度各専攻によるFD研修会議、学外講師によるFDセミナーを開催した。また、学外で開催されるFDセミナーへ参加した。大学院教員の大学院FD研修会への参加（1回以上）は95%以上を達成した。 ○大学院生へのアンケートを実施し、カリキュラム、授業、実習、修士論文作成等の観点及び総合評価について満足度を尋ねた結果、満足度「中」以上は75%以上を達成した。また、アンケート結果をもとに大学院生参画によるFD会議を開催した。 ○目標実績 【平成28、29年度の実施予定】 ○大学院生へのアンケート、大学院生参画によるFD会議、各専攻によるFD研修会議を連動させながら、院生教育の充実を図る。 ○学外講師によるFDセミナーの開催、学外で開催されるFDセミナーへの参加を通して、教員の教育能力の向上を図る。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 13	

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
大学院教員のFD研修会参加：1回以上の教員：95%	94.5%	100.0%	100.0%	98.2%		
大学院生の満足度：「中」以上 75%	97.1%	96.6%	96.2%	100.0%		

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
※4 教員の教育能力の向上 の続き	2【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①看護学部と臨床との看護ユニフィケーションを構築し、教員の臨床での継続教育への参画を企画、実践していく。 ②大学と臨床現場との看護実践・教育・研究が有機的に連携するために、臨床教授等と協働したワークショップや講習会などを企画し、実習指導力を向上させる。 ③両学部と他大学との情報共有しながら、教育能力向上のための合同研修会などについて、検討及び実施する。 ○達成目標 ・臨床との共同研究数 ：年に1件以上 ・教員・指導者講習会実施数 ：年に1回以上 ・教員の臨床継続教育者数 ：年に1人以上 ・他大学との合同FD開催数 ：年に1回以上	2-1	【平成27年度計画】 【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞ ○他大学との合同研修会などの検討 ・社会福祉士養成校協会九州ブロックの加盟校として、研究大会及び合同研修会等を継続実施する。 ○ブラッシュアップのためのセミナーを開講する。 ＜看護学部＞ ○臨床と教育研究との連携を図り、以下の取組を行う。 ・臨床との共同研究を実施 （継続） ・教員と臨床教授等の合同講習会実施 年1回以上（継続） ・ブラッシュアップのためのセミナー開催 ・実習に関する他大学との合同研修会、FD等を実施する。 ○達成目標 ＜看護学部＞ ・臨床との共同研究を実施 （1件以上／年）（継続） ・他大学との合同研修会、FD等を実施 （1回以上／年）		1	【平成27年度の実施状況】 【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞ ○他大学との合同研修会などの検討 ・社会福祉士養成校協会九州ブロックの加盟校として、12/13の九州ブロック研究会に参加した。 また、2/18, 19日に開催された社会福祉士養成校協会九州ブロック研究大会の企画に携わり、シンポジストなどとして社会福祉コース教員が参加した。 ○ブラッシュアップのためのセミナーについては12/16に実施し、社会福祉コース教員全員が参加した。 テーマ：「親の離婚後の子供の面会交流を支える」「福岡県立大学社会福祉学科に期待すること」 ＜看護学部＞ ○臨床と教育研究との連携を図り、以下の取組を行う。 ・臨床との共同研究を実施 （継続中）6件 ・教員と臨床教授等の合同講習会を9/17に実施。 ・ブラッシュアップのためのセミナーを9/17に開催。 ・実習に関する他大学との合同研修会、FD等を実施（8月）した。 ○目標達成 ・臨床との共同研究：（継続）6件 ・他大学との合同研修会、FD等を実施： 1回		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			14
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○看護学部と臨床との看護ユニフィケーション構築に関しては実習調整会議や研究会などを通して実施した。 ○大学と臨床現場との看護実践・教育・研究の有機的に連携に関しても、研修会や研究指導などを実施して指導者の教育指導力向上に寄与した。 ○目標実績 【平成28、29年度の実施予定】 ○これまでの取り組みの継続と内容の見直しを行う。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 14	

達成目標数値	H24	H25	H26	H27	H28	H29
臨床との共同研究：年1件以上	5件	6件	16件	6件		
他大学との合同研修会、FD等：年1回以上				1回		

中期計画 項目	中期計画 実施事項	平成27年度計画		ウェイト 中期	ウェイト 年度	計画の実施状況等	自己評価 中期	自己評価 年度	自己評価 中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ番号	通し番号 中期	通し番号 年度
5 優秀な学生の確保 本学の教育目標にかなった、健やかで心豊かな福祉社会の創造に夢と意欲をもつ学生を質・量ともに確保する。	1【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 ①学部・大学院で育成すべき学生像に沿って定めた学生・院生の受け入れ方針をもとに行っている選抜方法が効果的な方法であるかを検討する。 ②入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との分析を行い、選抜方法などの見直しを行う。 ③高校や高校生との連携を深めるための高大連携事業について検討・実施する。 ④大学院の入試説明会を見直しながら実施する。 ○達成目標 ・志願倍率＜各学科の志願倍率（一般入試）＞ （志願者数／募集人員） ：公共社会学科　6.5倍以上 社会福祉学科　6.0倍以上 人間形成学科　7.5倍以上 看護学科　5.5倍以上 ・辞退率＜各学科＞ （辞退者数／合格者数(追加除く)） ：両学部における辞退率　25%以下 ・充足率＜大学院＞ （入学者数／入学定員） ：大学院における充足率　100% ・出前講義数及びアンケート ：出前講義（体験学習含む）　20回以上、　良好評価75%以上	1-1	【平成27年度計画】 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 ＜学部＞ ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するために、以下の取組を行う。 ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について分析し、現行の入学者選抜方法における課題を抽出する。 ・新たな高大連携事業として、「高校生向けサマーセミナー」を実施する。 ・人間社会学部改革に伴い、人間社会学部の新たなアドミッションポリシーを幅広くPRする。 ＜大学院＞ ○大学院入試部会を複数回開催し、現状分析を行い、アドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保について検討する。 ○大学院入試説明会を継続して実施する ・看護学研究科にH27年度から開講した助産学コース、老年看護CNSコースの入試説明会を学内外で実施する。 ○達成目標 ・一般入試の志願倍率（志願者数／募集人員） 公共（6.5倍）、社福（6.0倍）、形成（7.5倍）、看護（5.5倍） ・両学部における辞退率 （辞退者数/合格者数(追加除く)）　：25%以下 ・充足率＜大学院＞　（入学者数／入学定員） ：大学院における充足率　100% ・出前講義数及びアンケート ：20回以上、良好評価75%以上		1	【平成27年度の実施状況】 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 ＜学部＞ ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するために、以下の取組を行った。 ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について分析し、現行の入学者選抜方法における課題抽出を行った。 ・新たな高大連携事業として、「高校生向けサマーセミナー」を実施した。 夏のオープンキャンパスと同時開催（8/8） 看護学部講座「妊娠・出産を考える」参加者57名 人間社会学部講座「社会福祉について考える-虐待の現状と課題-」参加者16名 「高校生向けサマーセミナー」の実施報告を含む、高校教員との「高大連携に関する情報交換会」を開催（11/7、参加者5校5名） ・人間社会学部改革に伴い、人間社会学部の新たなアドミッションポリシーを以下の方法でPRした。 ホームページ、入試要項、夏のオープンキャンパス、秋のオープンキャンパス、高校訪問等 ＜大学院＞ ○大学院入試部会を2回開催し、現状分析等を行った。 ○大学院入試説明会を継続して実施する ・看護学研究科にH27年度から開講した助産学コース、老年看護CNSコースの入試説明会を 以下のとおり実施した。 助産：学内（3回実施、22名参加）、学外（チラシを学会等で配布） 老年：学内（2回実施、2名参加）、学外（7回実施、7名参加） 〔新たな取組〕 ・学部入試部会に入試制度改善小部会を常設の組織として設置し、高大接続改革へ向けた検討を開始した。 ○目標実績 ・一般入試の志願倍率（志願者数／募集人員） 公共（7.4倍）、社福（6.6倍）、形成（9.3倍）、看護（5.9倍） ・両学部における辞退率（辞退者数/合格者数(追加除く)）：　21.5% ・大学院における充足率：　87.5% ・出前講義数及びアンケート：　25回開催、良好評価97.9%		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】 ・大学院における充足率 看護学研究科における助産学コース、老年看護CNSコースの開設、人間社会学研究科における社会福祉専攻の平成28年度からの土日開講等により、前年度からは上昇した。	No.1 「入学者選抜試験」 No.5 「出前講義」		15
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜学部＞ ○高大接続改革へ向けて、学部入試全般の見直しを開始した。 ○入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について毎年分析する仕組みを構築した。 ○新たな高大連携事業として、「高大連携に関する情報交換会」でのニーズ把握を踏まえて、「高校生向けサマーセミナー」を開始した。 ＜大学院＞ ○大学院入試部会にて定員充足に関する課題を分析し、アドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保に取り組んだ。 ○大学院入試説明会を学内及び学外にて継続して実施した。 ○目標実績 【平成28、29年度の実施予定】 ＜学部＞ ○高大接続改革へ向けて、学部入試全般の見直しを行い、優先順位の高い改革項目について実施スケジュールを公表する。 ○入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について分析する。 ○「高大連携に関する情報交換会」でのニーズ把握を踏まえて、「高校生向けサマーセミナー」を行う。 ＜大学院＞ ○アドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保に取り組む。 ○大学院入試説明会を見直しながら実施する。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】 ・大学院における充足率 定員充足に関する課題分析、専攻の見直しや新コース設置、継続的な入試説明会実施に取り組み、充足率は上昇している。		中期 15	

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
一般入試の志願倍率：公共社会 6.5倍以上	11.1倍	4.0倍	8.6倍	7.4倍		
〃　：社会福祉 6.0倍以上	6.3倍	4.8倍	7.2倍	6.6倍		
〃　：人間形成 7.5倍以上	9.0倍	9.6倍	8.1倍	9.3倍		
〃　：看護学科 5.5倍以上	6.0倍	5.1倍	5.7倍	5.9倍		
両学部における辞退率：25%以下	24.5%	24.8%	20.9%	21.5%		
大学院における充足率：100%	66.7%	66.7%	81.5%	87.5%		
出前講義：20回以上	30回	26回	31回	25回		
同　アンケート：良好評価75%以上	90.5%	98.9%	94.5%	97.9%		

中期計画 項目	中期計画 実施事項	平成27年度計画		ウェイト 中期	ウェイト 年度	計画の実施状況等	自己評価 中期	自己評価 年度	自己評価 中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ番号	通し番号 中期	通し番号 年度
※5 優秀な学生の確保の続き	2【積極的な広報活動】 ①大学紹介のパンフレットの内容を改善する。 ②入試説明会の依頼には積極的に応じて大学をPRする。 ③オープンキャンパスは毎年アンケートをとり、実施内容を評価しながら改善に取り組む。 ④ホームページの入試ページの更新、内容の工夫をする。 ⑤大学祭など大学に外来者が来訪する機会を捕らえて、パンフレット配布等のPRを行う。 〇達成目標 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1000名以上、良好評価 75%以上 ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上	2-1	【平成27年度計画】 【積極的な広報活動】 〇 広報活動等の改善の検討 ・受験生等が求める入試説明会について、実施方法の再検討を継続して行う。 ・受験生等の知りたい入試情報を提供するとの視点に立ち、高校訪問の実施方法の再検討を継続する。 〇広報活動等の実施・修正 ・大学紹介パンフレットの作成・改善 ・メール配信について具体策を検討する。 ・ホームページの入試ページの内容を工夫し、情報アップロードの時期等を継続して改善する 〇達成目標 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1000名以上、良好評価 75%以上 ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上		1	【平成27年度の実施状況】 【積極的な広報活動】 〇 広報活動等の改善の検討 ・受験生等が求める入試説明会について、実施方法を再検討し、高1、高2生向けを拡充することを決定した。 高1、高2生をターゲットにした大規模イベント「夢ナビライブ2015」に新たに参加（10/17） ・受験生等の知りたい入試情報を提供するとの視点に立ち、高校訪問の実施方法を再検討し、高校訪問での説明内容標準化のためのスライド作成を決定した。 〇広報活動等の実施・修正 ・大学紹介パンフレットを人間社会学部分を大幅に改訂して発行した。 ・受験生向けメール配信に替えて、SNSによる情報発信を行うことを決定した。 ・ホームページの入試ページの内容と情報アップロードの時期を改善し、スマートフォン用ホームページ（入試情報）の運用を開始した。 〇目標実績 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1,792名、良好評価 93.5% ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価100% ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価96.7% 〔新たな取組〕 ・広報活動の新しい取組として、大学入試資料請求サイトにバナー広告を掲載した。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.3 「高校訪問」 No.4 「入試説明会」 No.5 「出前講義」 No.6 「オープンキャンパス」		16
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 〇従来からの手法による広報活動を継続的に改善しながら実施した。 〇スマートフォン用ホームページ（入試情報）の運用を開始した。 〇広報活動の新しい取組として、大学入試資料請求サイトにバナー広告の掲載を開始した。 〇目標実績 【平成28、29年度の実施予定】 〇従来からの手法による広報活動を継続的に改善しながら実施する。 〇スマートフォン用ホームページ（入試情報）を充実させる。 〇SNSによる広報活動を開始する。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 16	

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
オープンキャンパス参加者数: 1000名以上	1,195	1,702	1,402	1,792		
同 アンケート: 良好評価75%以上	95.9%	96.3%	95.5%	93.5%		
入試説明会: 10会場	15会場	11会場	11会場	10会場		
同 アンケート: 良好評価75%以上	100.0%	98.7%	98.7%	100.0%		
訪問高校数: 30校	27校	37校	32校	30校		
同 アンケート: 良好評価75%以上	91.4%	96.6%	97.8%	96.7%		

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
6 学生支援の充実 学生の学習意欲を高める仕組みづくりを行うとともに、入学から卒業後までのキャリア形成支援体制を充実させ、学習・就職活動を支援する。	1【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するとともに、センターと各学部・学科との連携を深め、学生一人ひとりに対応したキャリア形成支援を行う。 ②1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座の仕組みづくりを行い、実施する。また、キャリアサポートセンターの個別支援と連動させ、個々の学生の必要に応じた受講を促す。 ③1～2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげる。 ④マイキャリポケット（社会貢献活動記録帳）を活用した社会貢献活動やインターンシップ等の単位認定の仕組みを導入し、社会貢献・ボランティア支援センターと連携しながら実施する。 ⑤未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行う。 ⑥優秀学生の表彰制度の構築やドロップアウト予防の学習支援体制の構築等、GPA制度の有効活用について検討・実施する。 ○達成目標 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート ：良好評価　75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価　75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施 ：表彰の実施（年1回）	1-1	【平成27年度計画】 【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生のキャリア形成支援 ・キャリアサポートセンターの個別相談機能の強化として、4人のカウンセラーと学生支援班で事例検討を実施する。 ・キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めるため、教員とセンターの情報の共有化を図り、学生一人ひとりに対応したきめ細かなキャリア形成支援を行う。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座を実施する。 ○1年次から2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなぐ。 ○マイキャリポケット（社会貢献活動記録帳）を活用したインターンシップの単位認定を、正規の授業として実施する。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間の経過についてキャリア形成支援を実施する。 ○優秀学生の表彰制度を実施し、GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援を実施する。 ○全学横断型教育プログラム「キャリア形成支援プログラム」を試行し、課題を検討する。 ○達成目標 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート　：良好評価　75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価　75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施　：表彰の実施（年1回） ・キャリアサポートセンター利用数 ：利用者実数：250人以上、延べ1100件以上		2	【平成27年度の実施状況】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生のキャリア形成支援 ・キャリアサポートセンターの個別相談機能の強化として、4人のカウンセラーと個別に2回情報交換を実施した。 ・キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めるため、進路・生活支援部会を通じて情報の共有化を図り、学生のキャリア形成支援について協議した。また、キャリアサポートセンターや各学科で実施しているキャリア形成支援イベントを取りまとめ、電子掲示板を通じて学生に周知した（部会：8回実施）。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座については、以下のとおり実施した。 1年次生：キャリア形成支援講座Ⅰ・Ⅱ(4月開催、136名受講) 2年次生：キャリア形成支援講座Ⅲ(4月開催、121名受講) 3年次生：就職ガイダンス（10月から全12回実施） 4年次生：ライフデザインセミナー（4年生を含む全学生対象。12月に2回実施） ○平成26年度プレ・インターンシップの受講者（33名）のうち4名が夏季インターンシップで活動した。また、今年度は夏季インターンシップに22名、春季インターンシップに10名、実践型インターンシップに8名（夏季4名、学期中4名）が参加した。 ○マイキャリポケット（社会貢献活動記録帳）を活用したインターンシップの単位認定に関し、マイキャリポケットを全学年の771名に配布した。平成27年度プレ・インターンシップの履修学生は30名である。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対するサービスとして、学生支援班から既卒者向けの求人情報等の案内などを郵送・メール等で情報提供した。また、キャリアサポートセンターで既卒者向けの求人ファイルを設置し、既卒者支援の充実を図った。 ○優秀学生8名の表彰を年度末に行った。GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援を実施した。 ○全学横断型教育プログラム「キャリア形成支援プログラム」の取組として、1・2年次生「プレ・インターンシップ」単位取得者を「実践型インターンシップ」の対象者とする初年次からの段階的なインターンシップ・プログラムマップを整備し、「プレ・インターンシップ」単位取得者を対象に中長期・実践型インターンシップを試行的に実施した（2名）。 ○目標実績 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート：　良好評価　100% ・キャリア形成支援講座参加者アンケート：　良好評価　81.7% ・GPA制度の活用状況調査：　GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施　1回 ・キャリアサポートセンター利用数：　利用者実数：201名、延べ878件		B	【高く評価する点】 ・初年次からプレ・インターンシップ（仕事理解型）、実践型インターンシップ（課題協働型・事業参画型）、インターンシップ（職業選択準備型）への段階的インターンシップ・プログラムマップを整備 した。 【実施（達成）できなかった点】 ・キャリアサポートセンター利用数 開室日数が前年度より減少（26年度：219日→27年度：205日）したが、利用率は前年度と同等以上を維持した。	No35 「キャリアサポートセンター利用状況」		17
				2		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するため、カウンセラーと学生支援班とで検討会を実施してきた。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座として、1年次生対象のキャリア形成支援講座Ⅰ・Ⅱ、2年次生対象のキャリア形成支援講座Ⅲ、3年次生対象の就職ガイダンス等を実施してきた。 ○1・2年次生対象の「プレ・インターンシップ」を充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげてきた。 ○マイキャリポケット（社会貢献活動記録帳）を活用した「プレ・インターンシップ」（正課科目）を実施してきた。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行ってきた。 ○優秀学生の表彰の実施、GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援を実施してきた。 ○平成27年度に全学横断型教育プログラム「キャリア形成支援プログラム」を試行し、課題を検討した。 ○目標実績 |	H24	H25	H26	H27	H28	H29
---	---	---	---	---	---	---
プレインターシップ・インターンシップ学生アンケート：良好評価75%以上	83.9%	100.0%	100.0%	100.0%		
キャリア形成支援講座参加者アンケート：良好評価75%以上	99.4%	98.7%	80.7%	81.7%		
GPA2.0未満の学生面接率：100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
学生表彰の実施：年1回	1回	1回	1回	1回		
キャリアサポートセンター利用者数：実数250人以上	228	261	203	201		
同　：延べ1,100件以上	1,093	1,102	889	878		| 【平成28、29年度の実施予定】 ○キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するため、カウンセラーと学生支援班とで検討会を実施する。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座を実施する。 ○1・2年次生対象の「プレ・インターンシップ」を充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげる。 ○マイキャリポケット（社会貢献活動記録帳）を活用した「プレ・インターンシップ」（正課科目）を実施する。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行う。 ○優秀学生の表彰の実施、GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援を実施する。 ○全学横断型教育プログラム「キャリア形成支援プログラム」を実施し、課題を検討する。		B	【高く評価する点】 ・平成27年度に全学横断型教育プログラムの1つとして「キャリア形成支援プログラム」を試行し、初年次からの段階的インターンシップ・プログラムマップを整備した。 【実施（達成）できなかった点】 ・キャリアサポートセンター利用数 開室日数の減少や就職活動スケジュールの後ろ倒しの影響等により、平成26年度において利用者数が減少したが。平成27年度は利用率を同等以上に維持した。		中期 17	

<table>
<tr><th colspan="2">中期計画</th><th colspan="2" rowspan="2">平成27年度計画</th><th colspan="2">ウェイト</th><th rowspan="2">計画の実施状況等</th><th colspan="3">自己評価</th><th rowspan="2">データ番号</th><th colspan="2">通し番号</th></tr>
<tr><th>項目</th><th>実施事項</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期目標期間評価理由
又は
年度評価理由</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期</th><th>年度</th></tr>
<tr><td rowspan="2">※6 学生支援の充実
の続き</td><td rowspan="2">2【大学間の学生コンソーシアムの構築】
＜人間社会学部＞＜看護学部＞

①九州沖縄の大学間の学生コンソーシアムを構築し、学生間の交流を促進し、学生が主体的に学生コミュニティを作り、大学生としての「学びの文化」の創造を目指す。

○達成目標
・学生フェスティバルの開催
：1回／年
学生参加数　県立大学から20名以上
・学生コンソーシアム会議の開催
：対面会議　2回以上／年</td><td>2-1</td><td>【平成27年度計画】
【大学間の学生コンソーシアムの構築】
＜人間社会学部＞＜看護学部＞

○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の実施
・学生コンソーシアムを支援する教員の体制づくり
○学生コンソーシアム会議の開催
○学生フェスティバルの開催

○達成目標
・学生フェスティバルの開催
：1回／年、学生参加数　県立大学から20名以上
・学生コンソーシアム会議の開催
：対面会議年2回</td><td></td><td>1</td><td>【平成27年度の実施状況】
【大学間の学生コンソーシアムの構築】
＜人間社会学部＞＜看護学部＞

○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の実施
・学生コンソーシアムを支援する教員の体制づくりとして、11大学から15人の教職員が学生コンソーシアム担当者として支援を行っている。本学からは6名の教員が大学コンソーシアムに関わり、うち1名を学生コンソーシアム担当者とした。

○学生コンソーシアム会議の開催について、本年度は8回実施（5/30、6/13、8/12、9/20、10/18、10/31、12/19、3/21）した。

○学生フェスティバルの開催
・11/1に産業医科大学にて「医生祭」と共催にて実施した。参加者総数161名。沖縄3大学からは計6名が参加した。
・学生委員交流会を8/12、3/21に開催、それぞれ18名、8名が参加した。

○目標実績
・学生フェスティバルの開催：　1回/年、学生交流会2回/年、県大からは左記に延べ23名が参加。
・学生コンソーシアム会議：　対面会議8回</td><td></td><td>B</td><td>【高く評価する点】

【実施（達成）できなかった点】</td><td></td><td></td><td>18</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>1</td><td>【平成24～27年度の実施状況概略】
○本学が代表となり、12大学連携のもとケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアムを構築した。
○学生コンソーシアムを構築し、活発な学生間交流をおこなうことができた。
○学生フェスティバルを毎年開催した。

○目標実績
<table><tr><th></th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th></tr><tr><td>学生フェスティバルの開催：年1回</td><td>2回</td><td>1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>同　　県立大学からの参加：20名以上</td><td>15人</td><td>5人</td><td>延べ24名</td><td>延べ23名</td><td></td><td></td></tr><tr><td>学生コンソーシアム会議の開催：対面会議年2回以上</td><td>9回</td><td>13回</td><td>12回</td><td>8回</td><td></td><td></td></tr></table>
【平成28、29年度の実施予定】
○大学間連携共同教育事業を大学コンソーシアム事業のひとつとして引き継いでいく。
○学生コンソーシアムによる取り組みを推進し、学生フェスティバルを開催する。</td><td>A</td><td></td><td>【高く評価する点】
・本学が代表となり、12大学連携のもとケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアムを構築した。
・本学が中心となり、大学間学生コンソーシアムを構築し、活発な学生間交流をおこなうことができた。

【実施（達成）できなかった点】</td><td></td><td>中期
18</td><td></td></tr>
</table>

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由又は年度評価理由		中期	年度
※6 学生支援の充実 の続き	3【大学院生支援の充実】 ①大学院生の入学から修了までの学生生活支援、教育研究活動支援を行う。 具体的には、学習及び研究環境に対する相談体制を整えるとともに、大学院生研究助成制度の新設、本学卒業生の大学院入学金減免措置について大学独自の奨学金の創設・活用の検討・実施、大学院生の国内学会参加費補助制度の構築などを行う。 ○達成目標 ・助成金の実施状況 :3件以上／年 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 :4件以上／年	3-1	【平成27年度計画】 【大学院生支援の充実】 ○大学院生への相談体制の具体策の検討 ＜地域教育支援専攻＞ ・相談体制を改善するために、長期履修生を含めた大学院生の要望を聴取するための方法を具体的に検討する。 ＜心理臨床専攻＞ ・H26年度実施したアンケートの結果を踏まえ改善点を検討する。 ＜社会福祉専攻＞ ・現在、各担当教員は学生のニーズや希望する開講・相談時間について合わせられるように調整している。今後も継続して取り組んでいく。 ＜看護学研究科＞ ・大学院生からの要望（学習環境・連絡体制・個別問題等）について、学務部会やFD部会と連携し、体制を整える。 ○卒業生の大学院入学金減免措置の実施に向けた検討 ・代替策の実現可能性も含め、一部実施に向けた検討を行う。 ○達成目標 ・助成金の実施状況 :1件以上 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 :1件以上		1	【平成27年度の実施状況】 ○大学院生への相談体制の具体策の検討 ＜地域教育支援専攻＞ ・相談体制の改善のために、当該大学院生からの意見を集約した。 ＜心理臨床専攻＞ ・相談体制につき、前年度実のアンケートに加え、本年度は学生からの面接による意見聴取を行い、結果として高い評価を受けていることが確認された。 ＜社会福祉専攻＞ ・学生からの要望に対応し、来年度からの土日祝日開講導入などにより、可能な限り学生のニーズや希望を反映した開講・相談体制の構築に取り組んだ。 ＜看護学研究科＞ ・学習環境・連絡体制・個別問題等、昨年度整えた体制についての課題や改善点を学務部会で情報収集した結果、院生からの要望が多かったパソコンの整備を行い、学習環境の改善を図った。 ○卒業生の大学院入学金減免措置の実施に向けた検討に関しては、改革推進会議で議論した。 ○達成目標 ・助成金の実施状況： 3件 ・国内学会参加費補助制度の活用件数： 3件		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			19
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜人間社会学研究科＞ ○継続的な学生からの面接やアンケートにより学習や研究環境への要望を聞き取る相談体制を構築するとともに、土日祝日開講導入などにより聞き取った学生のニーズに対応する具体的な対応策を講じた。 ＜看護学研究科＞ ○連絡体制の整備（休講や災害時・緊急時の連絡方法など）を図るとともに、学習環境の整備として、院生講義室と研究室の整備（机、椅子、ロッカーの補充）、視聴覚教材の整備、パソコン機器の再整備等、学生の要望を取り入れた整備を実施した。 【平成28、29年度の実施予定】 ○大学院生への相談体制の具体策の検討 ・引き続きアンケートや面接を通して学生のニーズを掌握し、学生相談体制の充実に向けた取組みを行う。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 19	

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
7 学習環境の充実 学部生及び大学院生がインターネット社会に対応した学習環境の中で、学習できる環境を整備する。また社会人学生が学習しやすい体制を整備することで、大学院志願者の増加をめざす。	1【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ 学生の自主的学習を促すために、授業時間外の学習を支援するeラーニングシステムの活用を推進する。 ①eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討する。 ②eラーニングシステムを改善する。 ③一定のコース開設数を維持する。 ④一定の学生の利用率を維持する。 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数 ：100以上（平成26年度以降） ・学生の利用率 ：70%以上（平成26年度以降）	1-1	【平成27年度計画】 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○eラーニングシステムの教育効果を上げるための活用方法を検討 ・教員向け講習会の実施 ○eラーニングシステムの改善の検討 ○コース開設数調査の実施 数値目標　100コース開設 ○学生の利用率調査の実施 ・学生利用率の達成目標　70%以上 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数　：100コース ・学生の利用率　：70%以上		1	【平成27年度の実施状況】 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○eラーニングシステムの教育効果を上げるための活用方法を検討 ・教員向け講習会を6/3（参加者35名、部会員含む）と9/15（参加者12名、部会員含む）に実施 ○eラーニングシステムの改善の検討 eラーニング及びICT環境に関しての学生ニーズ調査をeラーニングにて実施した ○コース開設数調査の実施 年間開設数　全体111コース（人間社会学部42コース、看護学部69コース）、学外3コース ○学生の利用率調査の実施 ・学生利用率　年間　全体87%（人間社会学部81%、看護学部99%） ○目標実績 ・eラーニングコース開設数：111コース（他に学外3コース） ・学生の利用率：87.0%		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			20
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討し、教員に対して講習会を開催した。 ○学生に対してアンケート調査を行い、より活用しやすいシステムにするために、改変などの検討及び実施を行った。IT教育システムの充実を図るために、平成27年度には情報処理教室の機材の入れ替えを行い、新しいシステムで学習できる環境を提供した。また、少人数でも学習できる教室を情報処理教室3として整えた。 ○教員が開設するコース数は各年度で目標を達成した。 ○学生の利用率は各年度で目標を達成した。 ○目標実績 [illegible] 【平成28、29年度の実施予定】 ○eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討し、教員に対して講習会を開催する。 ○動画やアンケート集計結果などが不自由なく閲覧できる状況へシステムを改変することを検討する。学内LANの更新時期にあたるため、よりIT教育システムが利用しやすい環境となるように無線LANのアクセスポイントについても検討していく予定である。 ○一定のコース開設数を維持する。 ○一定の学生の利用率を維持する。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 20	

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
e-ラーニングコース開設数：100以上（H26年度以降）	87	92	119	111		
学生の利用率：70%以上（H26年度以降）	74.3%	82.3%	88.0%	87.0%		

<table>
<tr><th colspan="2">中期計画</th><th colspan="2" rowspan="2">平成27年度計画</th><th colspan="2">ウェイト</th><th rowspan="2">計画の実施状況等</th><th colspan="3">自己評価</th><th rowspan="2">データ番号</th><th colspan="2">通し番号</th></tr>
<tr><th>項目</th><th>実施事項</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期目標期間評価理由
又は
年度評価理由</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期</th><th>年度</th></tr>
<tr><td rowspan="2">※7 学習環境の充実
の続き</td><td rowspan="2">2【社会人が学びやすい学習環境の充実】
＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞

①社会人が学びやすい学習環境の充実（サテライト教室の整備充実）
②既修得単位認定システムの整備（システムの明文化とHPでのインフォメーション）
③指導システムの充実
④研究生制度の積極的活用

○達成目標
・アンケートによる満足度
：参加した社会人のアンケート調査における良好評価 70%以上</td><td>2-1</td><td>【平成27年度計画】
【社会人が学びやすい学習環境の充実】
＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞
○e-ラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック充実
・レポートのWEB提出、コメントなどIT環境の整備
・eラーニングをより良く活用するための検討
○両研究科の新入生及び在学生のオリエンテーションで博多サテライト(ビズコリ)教室利用マニュアルを周知、及び利用に関するアンケートの実施
○県下の医療機関に、ホームページの大学院のトップページに掲載している「社会人が学びやすい学習環境の整備」の内容のインフォメーションを実施
○研究生制度の積極的活用

○達成目標
・e-ラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックの件数、2件以上
・ビズコリでの授業参加者の全体満足度
：普通以上70%</td><td></td><td>1</td><td>【平成27年度の実施状況】
＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞
○eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック充実
・人間社会学研究科では1科目でeラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックを行った。
看護学研究科では4科目でレポートのWEB提出を実施、コメントなどのフィードバックを行った。
・看護学研究科ではeラーニングをより良く活用するための検討として1科目で講義アンケートを実施した。
○新入生及び在学生のオリエンテーションで博多サテライト(ビズコリ)教室利用マニュアルを周知した。利用に関するアンケートに関しては3月に実施し、おおむね良好であった。
○県下の医療機関に、ホームページの大学院のトップページに掲載している「社会人が学びやすい学習環境の整備」の内容のインフォメーションについて実施した。
○研究生制度の積極的活用に関して、条件を検討し、今後の検討課題とした。

○目標実績
・eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックの件数： 5件
・ビズコリでの授業参加者の全体満足度： 普通以上80%</td><td></td><td>B</td><td>【高く評価する点】

【実施（達成）できなかった点】</td><td></td><td></td><td>21</td></tr>
<tr><td></td><td>1</td><td>【平成24～27年度の実施状況概略】
○社会人が学びやすい学習環境としてサテライト教室の整備充実をおこなった。
○既修得単位認定システムの整備をおこなった。
○指導システムとしてeラーニングの活用や主にCNSコースの修了後の研究指導を行った。
○研究生制度の積極的活用に関しては見直しをおこなった。

○目標実績
<table><tr><th></th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th></tr><tr><td>e-ラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック：2件以上</td><td></td><td></td><td>4件</td><td>5件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>博多ｻﾃﾗｲﾄ（ビズコリ）授業参加者の全体満足度：普通以上70%</td><td></td><td>75.0%</td><td></td><td>80.0%</td><td></td><td></td></tr></table>
【平成28、29年度の実施予定】
○IT環境の整備</td><td></td><td>B</td><td>【高く評価する点】

【実施（達成）できなかった点】</td><td></td><td>中期
21</td><td></td></tr>
</table>

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
※7 学習環境の充実 の続き	3【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ①教育・研究活動支援の充実と研究情報公開の視点から機関リポジトリの導入 ②ラーニングコモンズの設置 ③平日の開館時間延長・土日開館の実施 ○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数 ：新規登録数年30件以上 ・ラーニングコモンズ利用者数 ：月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数 ：月200名以上	3-1	【平成27年度計画】 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ○機関リポジトリの拡充 ○ラーニングコモンズの利用とその促進 ○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜祝日開館の実施 ○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数 ：新規登録数年15件以上 ・ラーニングコモンズ利用者数　：月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数　：月200名以上		1	【平成27年度の実施状況】 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ○機関リポジトリ運営指針を改訂し、両学部の研究紀要の他、「心理臨床研究」を登録対象に追加した。 また、個人申請についての検討を開始した。 ○ラーニングコモンズの利用状況を確認、また、ニーズ調査を実施した。 ○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜祝日開館については予定通り実施した。 ○目標実績 ・機関リポジトリ登録件数　：新規登録16件 ・ラーニングコモンズ利用者数　：月209人（平均） ・開館延長時間内の利用者数　：月124人（平均）		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】 ・ラーニングコモンズ利用者数 ・開館延長時間内の利用者数 図書館システム更新に伴い、約1カ月開館日数が減少したこと、1～2月の厳冬期の平均室温が低かったこと等により、利用者数が伸びなかった。	No.11 「図書館」		22
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○機関リポジトリーについては、計画どおり平成26年度から導入した。 ○ラーニングコモンズについては、計画より1年早い平成26年度に、看護学部分館に開設した。 ○平日の開館時間延長・日曜祝日開館は、看護学部分館において計画どおり実施した。 ○目標実績 （下表） 【平成28、29年度の実施予定】 ○機関リポジトリーの一層の拡充を図る。 ○本館へのラーニングコモンズの設置について検討する。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 22	

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
機関リポジトリ登録件数：新規登録数 年30件以上			21件	16件		
ラーニングコモンズ利用者数：月300名以上			259	209		
開館延長時間内の利用者数：月200名以上		205	202	124		

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
8 人間社会学部の改革 人間社会学部は平成4年の設置時に10年間を目途に大幅改組の予定であった。しかし、その間、改組はされておらず、あわせて受験数が減少していく動向にある。そのため、学生	1【改革案の検討・作成】 ①将来構想を基に、具体的な検討のための組織を立ち上げる。 ②労働市場や学生のニーズ等を調査する。 ③平成25年度までに改革案を検討・作成し中期計画の変更を行う。 〇達成目標 ・改革案の作成　：平成25年度までに作成	1-1	【平成27年度計画】 【改革案の検討・作成】 〇改革案を実行に移す。 ・教員組織において、学科制度を廃止し全教員を「人間社会学系」所属とする。 ・平成28年より開設する履修5コースに沿った教員配置を行い、カリキュラムを決定する。 ・3全学横断型教育プログラムを開設し、平成28年度開設1プログラムのカリキュラムを完成させる。 ・上記改革にともない必要な申請を文科省に対して行う。		2	【平成27年度の実施状況】 〇改革案を実行に移す。 ・教員組織において、学科制度を廃止し全教員を「人間社会学系」所属とした。 ・平成28年より開設する履修5コースのカリキュラムを決定し、それに沿った教員配置と採用人事を行った。 ・3つの全学横断型教育プログラムを開設した。また、平成28年度開設の新プログラムとして保健福祉情報教育プログラムのカリキュラムを作成した。 ・上記改革にともない必要な届出を文科省に対して行った。		A	【高く評価する点】 ・学科制からコース制への移行と新プログラムの導入とカリキュラムの大幅な見直しを実行した。 【実施（達成）できなかった点】			23
				2		【平成24～27年度の実施状況概略】 〇平成25年度に作成した学科制からコース制への改変と全学横断型教育プログラム開設に基づく改革案を、平成26、27年度に実施し、計画通りの体制を構築し、この改革に対応した人事採用やカリキュラム改変等を実行した。 【平成28、29年度の実施予定】 〇改革を進める。 ・卒論にいたるカリキュラムとして保健福祉情報教育プログラムを開設する。また、他の3全学横断型教育プログラム（援助力養成、国際交流、キャリア形成支援）の充実を図る。	A		【高く評価する点】 ＜人間社会学部＞ ・学科制からコース制への移行と新プログラムの導入とカリキュラムの大幅な見直しを実行した。 【実施（達成）できなかった点】		中期 23	

中期計画 項目	中期計画 実施事項	平成27年度計画	ウェイト 中期	ウェイト 年度	計画の実施状況等	自己評価 中期	自己評価 年度	自己評価 中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ番号	通し番号 中期	通し番号 年度
9 両学部連携の大学院博士課程の新設 保健・医療・福祉分野で、国内のみならずアジアを中核に国際的	1【大学院博士課程の新設検討】 ①人間社会学部の改革検討と併せ、具体的な検討を行う。 ②平成25年度までに改革案を検討・作成し、中期計画の変更を行う。	1-1 【平成27年度計画】 【大学院博士課程の新設検討】 ・学部改革及び大学院修士課程の現状を協議し、博士課程構築の方向性を検討する。		1	【平成27年度の実施状況】 【大学院博士課程の新設検討】 ・学部改革及び大学院修士課程の現状を協議し、博士課程構築の方向性を検討する。 全学横断型教育プログラムの構築と修士課程の再編を踏まえた議論を改革推進会議でおこない、引き続き検討を続けることとなった。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			24
			1		【平成24～27年度の実施状況概略】 〇人間社会学部改革及び大学院修士課程再編を踏まえ、博士課程の新設について方向性を検討してきた。 【平成28、29年度の実施予定】 〇博士課程の新設については、平成29年度内に結論を見出すこととする。	B		【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 24	
		ウェイト総計	中期 26	27年度 26		項目数計				中期 24	27年度 24

【ウェイト付けの理由】（年度計画）

・6-1-1　在学生のキャリア形成支援とともに卒業後までのキャリア形成支援体制を強化し、キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めていく。
・8-1-1　今後の社会的ニーズに的確に対応するため、人間社会学部の改革は喫緊の課題であり、重点的に取り組む。

【ウェイト付けの理由】（中期計画）

・6-1-1　在学生のキャリア形成支援とともに卒業後までのキャリア形成支援体制を強化し、キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めていく。
・8-1-1　今後の社会的ニーズに的確に対応するため、人間社会学部の改革は喫緊の課題であり、重点的に取り組む。

教育に関する特記事項（平成27年度）

①文部科学省大学間連携共同教育推進事業の中間評価において、本学を代表校とする取組（8大学連携）が最高ランクのS評価を受けた。47件の取組の中でS評価は7件であり、公立大学が代表校となる取組は全国で唯一のものであった。

②文部科学省大学教育再生加速プログラム（インターンシップ等を通じた教育強化）の中間評価において、本学を代表とする取組（3大学連携）が高く評価され、全国のモデルとなるよう今後の展開に期待しているとのコメントを得た。

教育に関する特記事項（平成24年度～平成27年度）

（平成24年度）
③文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」において、本学を代表校とする九州・沖縄8大学の取組「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築」が選定された。

④文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」において、本学を含む24大学・短大の取組「地域力を生む自立的職業人育成プロジェクト」が選定された。

⑤放送大学との連携協定を締結した。

⑥ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアムの福岡県メンバー8校と福岡県警察本部及び関係警察署との間で、「キャンパス・セイフティ・ネットワーク（通称：CSN）」を構築し、展開するための協定を締結した。

（平成26年度）
⑦両学部で学ぶ専門科目に加え、専門的職業人に求められる能力を養成する教育プログラムである「全学横断型教育プログラム」を編成し、大学案内にも7頁にわたり記載して、学内外に広く周知した。
全学横断型教育プログラムとして、今年度は「援助力養成プログラム」、「国際交流プログラム」、「キャリア形成支援プログラム」の3プログラムを編成し、今後更に拡充を図ることとしている。

⑧情報処理教室1及び2の機器更新に伴い、コンピュータを配置した演習室を整備し、学生が自己学習でき、大学院やゼミなど少人数でコンピュータを使用しながら講義ができる環境を整備した（3208演習室）。

項目別の状況（年度計画項目・中期計画項目）

中期目標	
2　研究	「大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。」 国内外の大学や試験研究機関との共同研究、企業、行政機関等との連携を通じ、大学の特色ある教育や地域の保健・医療・福祉の発展に有用な研究を重点的に推進する。 研究成果については、積極的に公表し、社会に還元する。

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
1　地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進 特色ある研究を推進し、特に地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究を推進する。 学術交流大学等との保健・福祉分野における学際的共同研究を実施し、研究成果を国内及びアジア諸国に広く公表していくことで、地域とアジアの保健・医療・福祉の推進に寄与していく。 また、外部研究資金を獲得し、研究を活発にする。	1【附属研究所を中心とした学際的研究プロ ジェクトの推進】 ４センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ①地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。 ②学際的研究プロジェクトの成果を学内外に公表する。 ③附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進する。 ④協定校及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進する。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数　:3件以上／年 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会　:隔年1回開催 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊　:隔年1回発刊 ・日中韓等における保健・医療・福祉分野における学術的共同研究の活性化　:シンポジウムの開催　隔年1回 ・産学連携契約件数　:年間2件（継続を含む） ・知的財産セミナーの開催　:年1回 ・メールマガジン（イベント、セミナー、公募事業の紹介）の発行　:年12回以上 ・研究シーズ発表会への参加　:3名以上（口頭発表、ポスターセッション等） ・論文数（査読付き、学術掲載文） :人間社会学部年間　40件以上 看護学部年間　40件以上 ・学会発表数（招待講演、シンポジスト招聘分） :人間社会学部年間　10件以上 看護学部年間　10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 :共同研究数　2件以上／年 招聘件数　2件以上／年 ・提携協定校との共同研究の応募状況 :共同研究応募件数　3件以上／年	1-1	【平成27年度計画】 【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 ４センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを学内外で把握し、内容を調査・検討する。 ○学際的研究プロジェクトの成果を学内外に発表する方法について検討し、他大学の資料を収集ヒアリング調査する。 ○附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進するための学内広報に努め、田川地域包括連携協定のもと協働事業を検討する。 ○協定校（大邱韓医大学校、北京中医薬大学、三育大学校、南京師範大学、コンケン大学）及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進するための学内分担や戦略について国際学術交流部会と協議し、検討する。 ○日中韓等における保健・医療・福祉分野の学術的共同研究活性化のため、シンポジウムを開催し、関係機関を視察する。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数　:3件以上／年 ・産学官連携契約件数　2件（継続含む） ・知的財産セミナーの開催　1回 ・メールマガジンの発行　12回以上 ・研究シーズ発表会への参加　3名以上 ・論文数（査読付き、学術掲載文） :人間社会学部年間　40件以上 看護学部年間　40件以上 ・学会発表数（招待講演、シンポジスト招聘分） :人間社会学部年間　10件以上 看護学部年間　10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 :共同研究数　2件以上 招聘件数　2件以上 ・提携協定校との共同研究応募件数　3件以上 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊　:1回		2	【平成27年度の実施状況】 【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 ４センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進した。 ○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを学内外で把握し、内容を調査・検討した。4件の応募があった。（北京中医薬大学、大邱韓医大学校、威徳大学、南京師範大学） ○学際的研究プロジェクトの成果を学内外に発表する方法について検討し、他大学の資料を都留文科大学、福岡女子大学、下関市立大学、北九州市立大学より収集、ヒアリング調査した。。 ○附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進するための学内広報に努め、田川地域包括連携協定のもと協働事業を検討した。 ○協定校（大邱韓医大学校（4名）、北京中医薬大学、三育大学校（2名）、南京師範大学（3名）、コンケン大学）及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生（中国2名）、院生（韓国1名）の交流を促進するための学内分担や戦略について国際交流推進部会と協議した。 ○熊本大学、近畿大学、M&A食品技術研究所と本学で国際会議（地域振興学会J.I.S.R.I.）を10/1に開催した。 （参加者480名、発表数71、本学からの発表6、受賞発表28件中2） ○目標実績 ・学際的研究プロジェクト数　:6件／年 ・産学官連携契約件数　6件（継続含む） ・知的財産セミナーの開催　1 回 ・メールマガジンの発行　18 回 ・研究シーズ発表会への参加　4名 ・論文数（査読付き、学術掲載文） :人間社会学部年間　36件 看護学部年間　50件 ・学会発表数（招待講演、シンポジスト招聘分） :人間社会学部年間　6件 看護学部年間　3件 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数　共同研究数　3件 招聘件数　0件 ・提携協定校との共同研究応募件数　4件 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊　:　5回	B		【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.20 「論文等の実績」 No.21 「産学官連携」		25
				2		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○4センターが独自の研究を推進できるよう調整を行ってきた。また，27年度においては国際会議を2大学および地域の研究所と共同開催することで研究の推進を図った。 ○目標実績	B		【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期	

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
学術的研究プロジェクト数：年3件以上	4件	4件	5件	6件		
同　成果発表会：隔年1回	3回	2回	1回			
同　報告書発刊：隔年1回				5回		
学術的共同研究シンポジウム開催：隔年1回		1回				
産学官連携契約件数：2件	7件	2件	2件	6件		
知的財産セミナーの開催：1回	1回	1回	1回	1回		
メールマガジンの発行：年12回以上	15回	17回	15回	18回		
研究シーズ発表会への参加：3名以上	2名	15名	4名	4名		
論文数：人間社会学部　年間40件以上	21件	34件	14件	36件		
同　：看護学部　年間40件以上	71件	40件	35件	50件		
学会発表：人間社会学部　年間10件以上	8件	7件	5件	6件		
同　：看護学部　年間10件以上	9件	6件	1件	3件		
提携協定校との共同研究数：年2件以上	5件	2件	2件	3件		
同　招聘件数：年2件以上	3件	5件	1件	0件		
同　共同研究応募件数：年3件以上	3件	2件	3件	4件		

中期計画 項目	中期計画 実施事項	平成27年度計画	ウェイト 中期	ウェイト 年度	計画の実施状況等	自己評価 中期	自己評価 年度	自己評価 中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ番号	通し番号 中期	通し番号 年度
					【平成28、29年度の実施予定】 ○4センターの特色を生かし，さらに附属研究所としての研究体制の強化を図っていく。					25	
※1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進 の続き	2【外部研究資金の獲得の推進】 ①外部研究資金獲得を支援するための組織を学内に設立する。 ②科研費の応募率を上げるとともに科研費応募／獲得による教員評価システムの検討と実施 ○達成目標 ・外部研究資金獲得件数、金額 ：年間30件以上、年間4,000万円以上 ・科学研究費応募率 ：80%以上 （現在科研費による研究課題を持っている教員は除く）	2-1 【平成27年度計画】 【外部研究資金の獲得の推進】 ○科研費申請繁忙期に適宜事務局機能を強化・充実する。また、ホームページの内容を充実していく。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度の実施 ・不採択となったがA評価だった教員に対するフォロー策の実施等 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○達成目標 ・外部研究資金（科研費）獲得件数、金額 ：年間30件、年間4,000万円以上 ・科学研究費応募率 ：80%以上（現在科研費による研究課題をもっている教員は除く）		1	【平成27年度の実施状況】 【外部研究資金の獲得の推進】 ○科研費申請繁忙期において事務局機能を強化した。ホームページの内容の充実に関しては、情報掲載等の速報性を高めた。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度の実施 ・不採択となったがA評価だった教員に対するフォロー策については実施した。 ○科研費応募率向上のための研修会については、9/30に開催した。 ○目標実績 ・外部研究資金（科研費）獲得件数、金額： 34件、49,104千円 ・科研費応募率： 94.3%		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.19 「研究」		26
			1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○外部研究資金獲得の推進については、支援部門設立ではなく、申請繁忙期に事務局機能を強化・充実することとして実施した。ホームページへの掲載による情報提供機能の充実、速報性を高めることに努めた。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度として、平成25年度から科研費補助制度を創設し、不採択となったがA評価だった申請者に対する助成を行った。 ○科研費応募率向上のための研修会は毎年度開催した。 ○目標実績 H24 / H25 / H26 / H27 / H28 / H29 外部資金（科研費）獲得件数： 年間30件以上 / 32件 / 30件 / 38件 / 34件 / / 同　獲得金額： 年間4,000万円以上（単位：千円） / 61,768 / 57,589 / 64,732 / 49,104 / / 科学研究費応募率： 80%以上 / 70.1% / 94.3% / 92.1% / 94.3% / / 【平成28、29年度の実施予定】 ○科研費申請繁忙期における事務局機能の強化を継続する。 ○科研費応募者へのインセンティブ（助成）制度及び研修会の実施を継続し、科研費応募率の維持向上を図る。	A		【高く評価する点】 ・外部研究資金（科研費）について、獲得件数、金額とも目標を上回ることができた。また、応募率についても、平成25年度から目標を上回ることができた。 【実施（達成）できなかった点】		中期 26	

中期計画 項目	中期計画 実施事項	平成27年度計画	ウェイト 中期	ウェイト 年度	計画の実施状況等	自己評価 中期	自己評価 年度	自己評価 中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ番号	通し番号 中期	通し番号 年度
※1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進の続き	3【研究倫理の徹底】 ①研究倫理審査体制の整備のために研究倫理委員会委員の研修参加を推進 ②学外者を含めた審査体制の検討 ③動物実験に関する委員会の開催及び動物実験実施ガイドラインの徹底 ④若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。 ○達成目標 ・学外での研修参加 ：年1人以上（研究倫理委員会委員） ・セミナー開催 ：年1回（平成25年度以降） ・動物実験に関する委員会（倫理審査を含む） ：年2回以上	3-1 【平成27年度計画】 【研究倫理の徹底】 ○研究倫理審査体制の整備 ・研究倫理委員会メンバーに対する研修会参加の推進 ・学外者を含めた審査体制を検討する。 ○動物実験に関する委員会開催及び実施ガイドラインを徹底するための取組を引き続き検討 ○若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。 ○達成目標 ・学外での研修参加 ：年1人以上（研究倫理委員会委員） ・セミナー開催 ：年1回 ・動物実験に関する委員会（倫理審査含む） ：年2回以上		1	【平成27年度の実施状況】 【研究倫理の徹底】 ○研究倫理審査体制の整備 ・研究倫理委員会メンバー1名が研修会に参加した。 ・学外者を含めた審査体制の検討については、研究倫理委員会にて議論した。 ○動物実験に関する委員会を3回開催した（6/25, 11/4, 3/10）。 また、実施ガイドラインを徹底するための取組の一環として、公私立大学実験動物施設協議会に入会した。 ○若手研究者に対するセミナーについては、研究倫理教育を題材として、3/28に開催した。 ○目標実績 ・学外での研修参加： 1名 ・セミナー開催： 年1回 ・動物実験に関する委員会（倫理審査含む）： 年3回開催		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			27
			1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○オンライン研究倫理教育を導入した。 ○動物実験に関するガイドラインを策定し、実施した。 ○目標実績 【平成28、29年度の実施予定】 ○オンライン研究倫理教育の受講を徹底する。 ○動物実験委員会を開催し、ガイドラインを徹底する。	B		【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期27	
		ウェイト総計	中期 4	27年度 4		項目数計				中期 3	27年度 3

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
学外での研修参加： 年1人以上	1人	1人	1人	1人		
セミナー開催： 年1回		1回	1回	1回		
動物実験に関する委員会： 年2回以上	2回	2回	3回	3回		

【ウェイト付けの理由】（年度計画）
・1-1-1 超高齢時代を迎え、「健やかで心豊かな福祉社会づくり」に寄与するプロジェクト研究が重要となっている。本学の特色として附属研究所の共同プロジェクトを重点化する必要がある。

【ウェイト付けの理由】（中期計画）
・1-1-1 超高齢時代を迎え、「健やかで心豊かな福祉社会づくり」に寄与するプロジェクト研究が重要となっている。本学の特色として附属研究所の共同プロジェクトを重点化する必要がある。

研究に関する特記事項（平成27年度）
なし

研究に関する特記事項（平成24年度～平成27年度）
なし

項目別の状況（年度計画項目・中期計画項目）

中期目標 3 社会貢献	「大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。」 大学の特色を活かして、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士等のキャリアアップに資する教育プログラム等の実施や、地域住民の健康と福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 また、国際化を推進するための体制を強化し、アジアをはじめとする海外の大学等との交流を充実させる。

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進 保健・福祉に関わる人材育成のために、アジアの大学等と相互の教育・研究を促進する。	1【国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】 ①福祉系総合大学として、中国・韓国等の大学と保健福祉の実情について情報交換及び発信を行う。 ②地域住民との連携事業による地域の国際化を視野に入れた文化交流プログラムの共同開発を行うとともに、教育研究の国際化推進体制を検討する。 ③ゲストハウスなどの受け入れ体制整備の検討を行う。こうした事業を推進するために国際交流センター(仮称)を開設する。 ○達成目標 ・教員交流数 ：延べ20名以上／年 ・文化交流プログラムの実施 ：1回以上／年	1-1	【平成27年度計画】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際推進体制の検討】 ○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 ・大邱韓医大学校、三育大学校、北京中医薬大学、南京師範大学、コンケン大学との教員交流の推進 ○地域住民との連携事業としての文化交流プログラムの共同開発実施 ・地域の学校に留学生を派遣する文化交流プログラムを実施する。 ○国際交流センターの事業推進及び体制整備 ○達成目標 ・教員交流数　：延べ20名以上／年 ・文化交流プログラムの実施　：1回以上／年		1	【平成27年度の実施状況】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際推進体制の検討】 ○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 ・大邱韓医大学校との教職員交流を7月に予定していたが相手方都合により中止した。 威徳大学(韓国)との覚書(MOU)を11月に締結した。 南京師範大学との教員の文化・学術交流事業推進の課題検討・対策のための体制を作った。 吉林大学珠海学院との協定締結に向け、同校を訪問し協議を行った(11月)。 ○地域住民との連携事業としての文化交流プログラムの共同開発実施 ・後藤寺小学校に留学生を派遣する文化交流プログラムを11月及び2月に実施した(11/11,18, 2/2)。 ○国際交流センターの事業推進及び体制整備 田川市と共催で「韓国料理と留学体験談」を7月に実施。市民24名参加 日中友好会館訪問団(中国人大学生100名)を受け入れ、大学案内・授業参観・交流会などを行った(11/30)。 威徳大学社会福祉学科の訪問(教員2名・学生10名)を受け入れ、大学案内・社会福祉学科説明・交流会などを行った(12/18)。 威徳大学(ヒューマンサービス学部・教員7名・学生10名)を受け入れ、大学案内・学科説明を行った(2/18)。 ○目標実績 ・教員交流数　：22名 ・文化交流プログラムの実施　：3回		A	【高く評価する点】 ・新たに威徳大学(韓国)との交流協定を締結した。 ・外務省プログラム JENESYS2.0：日中友好会館からの訪問団を受け入れた。 ・威徳大学からの訪問団を2回受け入れた。 ・教員交流数が目標を上回った。 【実施(達成)できなかった点】			28
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○協定締結校との文化・学術交流事業を推進した。 ○威徳大学(韓国)と新たに協定を締結した。 ○国際交流センターを開設した。 ○中国、韓国からの視察団・学生訪問団を受け入れた。 ○目標実績 [H24 / H25 / H26 / H27 / H28 / H29] 教員交流数：年間延べ20名以上　16名 / 11名 / 15名 / 22名 / / 文化交流プログラム実施：年1回以上　1回 / 1回 / 3回 / 3回 / / 【平成28、29年度の実施予定】 ○協定締結校との文化学術交流を推進する。 ○地域住民との国際交流事業を行う。 ○新たな協定を締結する。		A	【高く評価する点】 ・新たに威徳大学(韓国)との交流協定を締結した。 ・外務省プログラム JENESYS2.0：日中友好会館からの訪問団を受け入れた。 ・教員交流数が増加し、目標を上回った。 【実施(達成)できなかった点】		中期 28	

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
※1　地域とアジアとともに発展する国際交流の推進 の続き	2【留学生への支援体制の充実】 ①短期研修制度の充実：短期研修制度の拡充により、派遣留学先の情報・魅力を学生に十分に提供し、支援する。 ②派遣中の学生への支援：派遣期間中の留学生の修学・生活上の問題点等を、留学に関するアンケート等により把握し、支援する体制を作る。 ③受入留学生の新たな支援について検討・実施する。 ④短期派遣留学生の奨学金・交換留学協定締結について検討・実施する。 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会 ：年1回以上 ・受入留学生数 ：30人以上（私費留学生を含む）／年	2-1	【平成27年度計画】 【留学生への支援体制の充実】 ○学生の海外短期語学研修機会の提供 ・ハワイ大学語学研修の実施 ・英国（オックスフォード市等）短期語学演習（単位認定）の実施 期間：3週間のコースを設定 ○派遣留学生（交流協定校への1年間派遣留学）への支援策の実施 ・本学学生の留学希望者が増えるよう、双方向型事前授業を組み合わせた短期海外研修（ショートビジット）を実施する。 ○受入留学生の増加対策の実施 ・大邱韓医大学を対象とした短期留学（受入）プログラムの実施 ・受入留学生に対し、国際交流センターを活用して地域住民との交流の機会を提供する。 ○交流協定校への短期研修プログラム（派遣）の実施 ・プログラム内容の充実及び継続的実施に向けた調整を行う。 ○全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を試行し、課題を検討する。 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会：年1回以上 ・受入留学生数　：15名以上（私費留学生含む）		1	【平成27年度の実施状況】 【留学生への支援体制の充実】 ○学生の海外短期語学研修機会の提供 ・ハワイ大学語学研修の実施については、希望者が催行人数に満たないため中止。 ・英国（オックスフォード市等）短期語学演習（単位認定）を8/30～9/20に実施し、17名が参加した。 本プログラムは、福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」に採択され、県主催の「ふくおか若者魁大会」で報告を行った。 ○派遣留学生（交流協定校への1年間派遣留学）への支援策の実施 ・昨年に引き続き、双方向型事前授業を組み合わせた短期海外研修（ショートビジット）を3/22～26に実施し、大学から学生1名につき2万円の補助を行った。 ○受入留学生の増加対策の実施 ・大邱韓医大学を対象とした短期留学（受入）プログラムを実施した（1/10～2/6、参加者10名）。 新規で威徳大学を対象としたショートビジット（受入）プログラムを1月に実施した。 ・ショートビジットプログラム中に、小学校訪問交流、地域住民との交流会を企画した。 ○交流協定校への短期研修プログラム（派遣）の実施 ・昨年に引き続き、第2回短期海外研修を実施した（3/22～26）。本年度は大邱韓医大学と新たに協定を結んだ威徳大学で研修を行った（学生11名、教員4名）。 ○全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」の課題を検討するための体制を作った。 ○目標実績 ・留学を経験した学生の報告会：　年4回 ・受入留学生数　：25名（私費留学生含む）		A	【高く評価する点】 ・受入留学生数が目標を大幅に上回った。 ・全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を整備し、長期留学を含めた4年次卒業可能なルートを構築した。 【実施（達成）できなかった点】			29
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○海外短期語学研修をイギリスにて実施した。 ○短期海外研修を開始した。 ○短期の留学受入を開始した。 ○目標実績 【平成28、29年度の実施予定】 ○海外短期語学研修を実施する。 ○短期海外研修を実施する一方で、短期留学を受け入れる。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 29	

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
留学を経験した学生の報告会：年1回以上	1回	2回	3回	4回		
受入留学生数：30名以上（私費留学生含む）	11名	15名	16名	25名		

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
※1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進 の続き	3【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ①世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の日記・絵画の一部を県立大学で所管していることから、産炭地の歴史や記録資料(日記や絵画を含む)を英文に翻訳し、それをインターネット等を通じて世界に発信すると同時に、世界各国の産炭地に所在する大学との学術交流をおこなう。 ○達成目標 ・英文アーカイブ化の基礎となる日本語資料の翻訳 ：平成27年度までに作成	3-1	【平成27年度計画】 【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ○県立大学が所蔵する山本作兵衛コレクションの保存・活用の検討に当たっての所有権者との協議 ・県立大学が所蔵する山本作兵衛コレクションの保存・活用について、翻訳資料の公開方法も含め、所有権者を交えて資料公開の検討を行う。また、産炭地にある大学との学術交流のための準備作業を行う。 ○英文翻訳作業の検討・実施 ・これまで出版された研究報告叢書のタイトルについて英文翻訳を行う。 ○達成目標 ・県立大学に保管された山本作兵衛関連遺品タイトルの翻訳 ・地域の方々との日記現代語訳作業部会の開催		1	【平成27年度の実施状況】 【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ○県立大学が所蔵する山本作兵衛コレクションの保存・活用の検討に当たっての所有権者との協議 ・田川市と共同で山本作兵衛コレクション保存管理計画を日本語版（11ページ）と英語版（11ページ）で作成し、英語版をユネスコに提出した。 ○英文翻訳作業の検討・実施 ・これまで出版された研究報告叢書のタイトルについて、英文翻訳を行った。 ○目標実績 ・県立大学に保管された山本作兵衛関連遺品タイトルの翻訳： 実施 ・地域の方々との日記現代語訳作業部会の開催： 42日/年　延546人参加		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			30
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○県立大学が所蔵する山本作兵衛コレクション絵画4点に記された日本語説明文について英文翻訳を行い、翻訳物については、山本作兵衛コレクション保存管理計画（日本語版・英語版）に盛り込み、英語版をユネスコに提出した。 ○地域の方々との日記現代語訳作業部会は、継続的に開催した。 【平成28、29年度の実施予定】 ○今後も，山本作兵衛コレクションをユネスコ基準に従って保存管理していく予定である。	B		【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 30	

<table>
<tr><th colspan="2">中期計画</th><th colspan="2" rowspan="2">平成27年度計画</th><th colspan="2">ウェイト</th><th rowspan="2">計画の実施状況等</th><th colspan="3">自己評価</th><th rowspan="2">データ番号</th><th colspan="2">通し番号</th></tr>
<tr><th>項目</th><th>実施事項</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期目標期間評価理由又は年度評価理由</th><th colspan="2">通し番号</th></tr>
<tr><td rowspan="2">2 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進
地域の抱える課題を解決していくために、附属研究所が核となって県立三大学、福岡県、田川市郡との連携を深めた取組を展開していく。</td><td rowspan="2">1【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】

①福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進
②田川市郡との包括連携事業の推進
③県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施

○達成目標
・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施　:1件以上／年
・田川市郡との包括連携事業の実施　:5件以上／年
・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施　:1企画以上／年</td><td>1-1</td><td>【平成27年度計画】
【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】

○福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進
・田川市郡包括連携協定に基づき、連携事業を実施し、点検する。
○田川市郡との包括連携事業の推進
・田川市郡1市6町1村と福岡県立大学との包括連携協定のもと事業実施に向け協議し、締結した内容を点検する。
○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの検討
・県立三大学連携推進会議で協議し、三大学連携県民公開講座を実施する。

○達成目標
・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施
:1件以上／年
・田川市郡との包括連携事業の実施
:5件以上／年（継続含む）
・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施　:1企画以上／年</td><td></td><td>1</td><td>【平成27年度の実施状況】
【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】

○福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進
・田川市郡包括連携協定に基づき、連携事業を実施し、点検するため田川市と協議を重ね、他の市町村に呼びかける準備をしている。
○田川市郡との包括連携事業の推進
・福岡県立大学・田川地域連携推進協議会を開催し、議題の整理を行った（10/16）。
福岡県立大学・田川地域包括連携協議会を開催した（10/26）。
○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの検討
・県立三大学連携推進会議で協議し、各大学で実施予定の講演会、公開講座等の情報を共有した。三大学連携としての公開講座の一環として、本学での公開講座に福岡女子大学から、福岡女子大学の公開講座に本学からそれぞれ教員が招聘された。

○目標実績
・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施　:1件
・田川市郡との包括連携事業の実施　:5件
・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施　:2企画</td><td></td><td>B</td><td>【高く評価する点】

【実施（達成）できなかった点】</td><td>No.21
「産学官連携」</td><td></td><td>31</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>1</td><td>【平成24～27年度の実施状況概略】
○福岡県立大学と田川市および田川郡町村との包括連携協定を締結し，連携事業の内容について協議を行った。
○県立三大学で連携し，公開講座を実施した。他大学に教員の派遣を行った。

○目標実績
<table><tr><th></th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th></tr><tr><td>福岡県・田川市郡との産学官連携事業：年1件以上</td><td>1件</td><td>4件</td><td>4件</td><td>1件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>田川市郡との包括連携事業：年2件以上</td><td>4件</td><td>3件</td><td>3件</td><td>5件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>県立三大学連携による社会貢献共同プログラム：年1企画以上</td><td>1企画</td><td>1企画</td><td>1企画</td><td>2企画</td><td></td><td></td></tr></table>【平成28、29年度の実施予定】
○田川市郡の包括連携協定を維持し，連携事業をさらに推進していく予定である。</td><td></td><td>B</td><td>【高く評価する点】

【実施（達成）できなかった点】</td><td></td><td>中期
31</td><td></td></tr>
</table>

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進 附属研究所（生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンター、社会貢献・ボランティア支援センター）を核に、健やかで心豊かな福祉社会の実現に貢献する。また、大学の社会貢献活動に関する情報を積極的に発信し、地域に貢献する大学としての認知度の向上を図る。	1【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ①生涯福祉研究センターの事業推進 ②ヘルスプロモーション実践研究センターの事業推進 ③不登校・ひきこもりサポートセンターの事業推進 ④社会貢献・ボランティア支援センターの事業推進 ○達成目標 ・参加者・相談者アンケート ：良好評価75%以上	1-1 【平成27年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・拡充 ・「お父さんお母さんの学習室」の運営 ・「足と靴の相談室」の運営など2件の実施 ○地域活動の強化 ・福祉の実践に関するセミナーなど3件の実施 福祉用具研究会、アンビシャス親子広場など ・ボランティア養成ワークショップの内容検討 ○達成目標 ・福祉用具研究会の開催（年間6回以上） ・参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上		1	【平成27年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○福祉・教育・健康の相談事業を実施した。 ・「お父さんお母さんの学習室」の運営 春季クラス、6ヶ月フォロー：11回、参加者のべ33名 秋季クラス、3ヶ月フォロー：11回、参加者のべ33名 ・「足と靴の相談室」の運営など2件の実施 ①「足と靴の相談室」 来談者のべ38名 ②「おもちゃとしょかん・たがわ」：年間31回開館、来館者のべ269名 ○地域活動を強化した。 ・福祉の実践に関するセミナーなど3件の実施 ①福祉用具研究会：年間9回、参加者のべ172名 ②アンビシャス親子広場：年間33回開催、参加者のべ89組211名 ③「筑豊市民大学」への支援：講師選定、プログラム作成協力 ・ボランティア養成ワークショップの内容検討 「子どもの声を聞くことのできる市民ボランティア（アドボケイト）」養成に決定 ○目標実績 ・福祉用具研究会の開催：年間9回 ・参加者・相談者アンケート：「お父さんお母さんの学習室」参加者良好評価100%		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.36 「生涯福祉研究センター活動実績」		32
			1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○福祉・教育・健康に関わる相談事業を拡充しながら実施した。 ○福祉用具研究会の開催など福祉分野を中心に地域貢献事業を推進した。 ○目標実績 【平成28、29年度の実施予定】 ○福祉・教育・健康に関わる相談事業を、質の向上に重点をおいて改善しながら実施する。 ○福祉用具研究会の開催など福祉分野を中心に、ニーズの変化に対応しつつ地域貢献事業を推進する。 ○「子どもの声を聞くことのできる市民ボランティア（アドボケイト）」養成事業を開始する。	B		【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 32	

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
福祉用具研究会の開催： 年6回以上	7回	8回	8回	9回		
参加者・相談者アンケート： 良好評価 75%以上	80.0%	90.0%	100.0%	100.0%		

中期計画			平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項				中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進 の続き	1	※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 の続き	1-2	【平成27年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ①健康教室の実施・修正 ○地域活動の強化 ・世にも珍しいマザークラスinたがわ 年間 6回 ○支援的環境づくり ・地域住民と共に創造する筑豊の健康長寿文化 ：高齢者宅訪問：年間 10件 ○個人技術 ・パパママは名医だぞ 年間 3回 ・保育看護学習会(保育士対象) 年間 6回 ・世にも珍しいマザークラスinふくおか 年間 6回 ○健康大使制度の運用 継続実施 ②福祉・教育・健康の相談事業の検討 ○県立大学女性と子どものためのスペース「ら・どんな・まんま」 年間 4日 ○性の健康に関する事業（布ナプキン作成、マンスリービクス、月経何でも相談、性教育） ○多職種協働がんセミナー 2ヶ所 ○達成目標 ・健康教室等：20件 ・参加者数：延べ 800名 ・参加者アンケート：良好評価 75%以上		1	【平成27年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ①健康教室の実施・修正 ○地域活動の強化 ・世にも珍しいマザークラスinたがわ 6回実施、57名参加 ○支援的環境づくり ・地域住民と共に創造する筑豊の健康長寿文化 ：高齢者宅訪問：年間11件（44名参加） ○個人技術 ・パパママは名医だぞ 2回実施（75名）（教員病休のため2月実施予定分を中止） ・保育看護学習会(保育士対象) 6回実施、292名参加 ・世にも珍しいマザークラスinふくおか 6回実施、94名参加 ○健康大使制度の運用 継続実施 （パスポート・任命証書の作成、配布） ②福祉・教育・健康の相談事業の検討 ○県立大学女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」 6日実施、23名参加 ○性の健康に関する事業（布ナプキン作成、マンスリービクス、月経何でも相談、性教育） 16回実施、280名参加 ○多職種協働がんセミナー 4ヶ所、500名参加 ○目標実績 ・健康教室等：11件 ・参加者数：延べ 2,402名 ・参加者アンケート：良好評価 98.0%		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	N0.39 「ヘルスプロモーション実践研究センター」		33
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○健康教室の実施・修正 ・平成24年度から、新たに地域住民を対象とした高齢者宅訪問を開始し、健康長寿文化を育むための取り組みを継続している。 ・平成25年度から、新たに性教育出前講座を開始し、性の健康に関する事業拡大を図った。 ・平成26年度においては、保育士を対象とした保育看護学習会の開催規模（回数）を拡大し、子どもの病気の手当等について保育士の健康支援に関する能力向上を図った。 ・平成27年度においては、多職種がんセミナーの実施回数をこれまでの2倍（4回実施）とすることで、地域住民に対し、終末期における在宅医療について意識向上を図った。 ○目標実績 ［H24 / H25 / H26 / H27 / H28 / H29］ 健康教室等： 20件 ： 26件 / 20件 / 11件 / 11件 / / 参加者数： 延べ800名 ： 3,782 / 3,225 / 1,933 / 2,402 / / 参加者アンケート： 良好評価 75%以上 ： 98.6% / 98.6% / 99.0% / 98.0% / / 【平成28、29年度の実施予定】 ○スクラップアンドビルドを基本とし、地域貢献事業を見直した上で推進していく予定である。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 33	

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進 の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 の続き	1-3	【平成27年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞ ○県大子どもサポーター派遣事業の実施 ○教員対象研修事業の実施 ○キャンパス・スクール事業の実施 ○全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を試行し、課題を検討する。 ○達成目標 ・サポーター派遣人数：140名以上 ・教員対象研修回数　：10回以上 ・キャンパス・スクール受入れ児童数：20名以上 ・登校開始率：37% ※　登校開始率とは、・・・キャンパス・スクールから在籍校に定期的・非定期的に通学を開始した児童・生徒の率(1年間)。		1	【平成27年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞ ○県大子どもサポーター派遣事業は、実人数231名、延べ2,257名が活動した。 ○教員対象研修事業は、65回の研修を5,333名に実施した。 ○キャンパス・スクール事業は、実人数20名、延べ933名が通級した。 「キャンパス・スクール・夏」では、実人数5名、延べ59名が通級した。 ○全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を試行し、学生によりわかりやすい形で内容を提示することとした。 ○目標実績 ・サポーター派遣人数：231名 ・教員対象研修回数　：65回 ・キャンパス・スクール受入れ児童数：20名(キャンパス・スクール・夏は5名) ・登校開始率：50.0% ※　登校開始率とは、・・・キャンパス・スクールから在籍校に定期的・非定期的に通学を開始した児童・生徒の率(1年間)。		A	【高く評価する点】 ・年度計画目標を大幅に上回って実施した。 【実施（達成）できなかった点】	No.38 「不登校・ひきこもりサポートセンター」		34
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○中期計画に基づいて、各年度とも年度計画を上回って実施した。平成25年度より、「キャンパス・スクール・夏」を開始し、キャンパススクール事業を拡大した。 ○目標実績 【平成28、29年度の実施予定】 ○関係機関との連動を行い、不登校・ひきこもりの背景に対する支援を行っていく。 ○全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を推進する。 ○「土曜の風」事業を推進する。		A	【高く評価する点】 ・計画を上回る利用実績・活動実績を上げた。 ・他県の議会文教委員会等の視察を受け入れた。 【実施（達成）できなかった点】		中期 34	

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
サポーター派遣人数：140名以上	213名	199名	217名	231名		
教員対象研修回数：10回以上	68回	68回	72回	65回		
キャンパスクール受入児童数：20人以上	29人	32人	24人	20名		
登校開始率：37%	41.4%	56.0%	66.7%	50.0%		

中期計画			平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項				中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進 の続き	1	※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 の続き	1-4	【平成27年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞ ○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施 ・学生の社会貢献・ボランティア活動を求める外部団体の情報を学生に提供する。 ・社会貢献・ボランティア活動を希望する学生の相談に応じ、学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートを行う。 ○社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援 ・学生グループの活動の場（研修、会議、作業等）を提供する。 ・学生サークルの課題を把握し、自らが解決できるように支援する。 ○地域と連携した学生活動の支援 ・地元商店街や地域の活性化、小・中学校の学習支援、防災等の課題に地域と連携して取り組む学生活動に対して地域の関係団体 との連絡調整、相談対応、アドバイス等の支援を行う。 ○学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上 ・社会貢献・ボランティア活動に関する研修会や報告会等を企画・実施する(年2回以上)。 ○達成目標 ・外部団体・機関登録数　90件以上 ・センターのコーディネートにより活動を行った学生数　300人（延） ・社会貢献・ボランティア活動に関する研修会や報告会等の開催　年2回		1	【平成27年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞ ○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施 ・外部団体の登録件数は163件となり、67件のボランティア依頼情報を学生に提供した。 ・延51人の学生の相談に応じ、コーディネートにより延 509人の学生が活動を行った。 ○社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援 ・延725人の学生が「学生活動ルーム」を利用した。 ・学内のボランティアサークルとの懇談会を3回実施したほか、14グループに対して、相談対応やアドバイス等の支援を行った。 ○地域と連携した学生活動の支援 ・5件の活動に対して、地域の関係団体との連絡調整、相談対応、アドバイス等の支援を行った。 ○学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上 ・社会貢献・ボランティア活動に関する学習会や研修会を4回実施した。 ○目標実績 ・外部団体・機関登録件数　163件 ・センターのコーディネートにより活動を行った学生数　509人（延） ・社会貢献・ボランティア活動に関する学習会や研修会の企画・実施　4回		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.16 「学生サークル」		35
					1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施について、毎年度、目標値を超える実績を上げたほか、行政等の関係機関と連携し、ひとり親家庭の学習支援や東北被災地支援など社会的に特に貢献が求められる活動分野の開拓を行った。 ○毎年度、社会貢献・ボランティア活動に関する学習会や研修会を目標値を上回る回数で開催するとともに、学生ボランティアサークル等の支援を積極的に行った結果、センターが学生の活動の拠点として認知され、活用されるようになった。 ○目標実績 【平成28、29年度の実施予定】 ○「土曜の風」事業を推進する。 ○災害関連のボランティア活動を推進する。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 35	

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
外部団体・機関登録数：90件以上	118件	131件	148件	163件		
コーディネートにより活動を行った学生数：延べ300人	304人	447人	414人	509人		
社会貢献フォーラム開催：1回	1回	1回	1回			
社会貢献・ボランティア活動に関する研修会等：2回				4回		

<table>
<tr><th colspan="2">中期計画</th><th colspan="2" rowspan="2">平成27年度計画</th><th colspan="2">ウェイト</th><th rowspan="2">計画の実施状況等</th><th colspan="3">自己評価</th><th rowspan="2">データ番号</th><th colspan="2">通し番号</th></tr>
<tr><th>項目</th><th>実施事項</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期目標期間評価理由
又は
年度評価理由</th><th></th><th></th></tr>
<tr><td rowspan="2">※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進
の続き</td><td rowspan="2">2【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】

①資格・免許保持者等への力量形成にむけた教育と卒業生へのキャリアサポートの実施

○達成目標
・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数
：各ライセンス向けのリカレント実施数　年間1回以上
・看護技術追跡調査実施状況　：年間1回（平成25年度から）
・卒業生参加数　：各学部卒業生参加数　：年間10名</td><td>2-1</td><td>【平成27年度計画】
【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】

＜生涯福祉研究センター＞
○地域支援の充実
・「特別支援教育・スキルアッププログラム」の実施
・保育士・教師のための「ペアレントトレーニングスキルアップ講座」の実施（直方市と共催）など2件の実施
○教育研修活動の実施
・「山本作兵衛さんを＜読む＞会」の実施・運営
・「筑豊英語教員フォーラム」の実施・運営など7件の実施
・教職員・社会人学生向けリカレントセミナーの開催
○社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育の実施

＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞
○リカレント教育
・身体感覚活性化＜世にも珍しい＞マザークラス医療者向けセミナーの開催　他4教育を実施
・看護技術の追跡調査の検討と実施
・追跡調査結果のリカレント教育への反映

○達成目標
・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数
：各ライセンス向けのリカレント実施数　年間1回以上
・看護師対象のリカレント教育　1事業/年以上
・助産師対象のリカレント教育　1事業/年以上
・保健師対象のリカレント教育　1事業/年以上
・卒業生参加数　：各学部卒業生参加数
：年間10名</td><td></td><td>1</td><td>【平成27年度の実施状況】
【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】

＜生涯福祉研究センター＞
○ペアレントトレーニングを活用して、地域支援事業を行った。
・「特別支援教育・スキルアッププログラム」の実施：5回、参加者のべ73名
・保育士・教師のための「ペアレントトレーニングスキルアップ講座」の実施（直方市と共催）：5回、参加者のべ157名
・田川市主任児童委員研修会、直方市植木保育所などで研修会実施：8回
○教育研修活動を実施した。
・「山本作兵衛さんを＜読む＞会」：48回、参加者数のべ816名
・「筑豊英語教員フォーラム」の実施・運営など7件の実施
①「筑豊英語教員フォーラム」：22回、参加者のべ330名
②「地域に住む外国人のための日本語教室」：月2回実施、継続参加者6名
③「さわやかな自己表現塾」：2回、参加者のべ18名（うち、高校教員3名）
④「PCスキル養成講座」：参加者7名
⑤「福祉用具体験講習2015」：参加者14名
⑥「足の健康講座」：参加者12名
⑦「生命保険実学講座」：参加者（学生）16名
・教職員・社会人学生向けリカレントセミナーの開催
「生命保険実学講座」：参加者（教職員）1名
○社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのリカレントセミナーを実施した。
「社会福祉事業のあり方を再考する－社会福祉法の改正を見据えて－」参加者119 名（うち、卒業生44名）

＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞
○リカレント教育
・身体感覚活性化＜世にも珍しい＞マザークラス医療者向けセミナーの開催　他4教育を実施
（一般6名、助産師58名、うち卒業生3名）
・看護技術の追跡調査の検討と実施
福岡ヘルシー・エイジング研究会　8回実施（一般77名、看護師66名、保健師1名）
・追跡調査結果のリカレント教育への反映
外来看護師さんの井戸端会議（看護師5名、うち卒業生1名）
健康支援教室（ユニフィケーション・システムによるヘルスプロモーション推進事業）　4回実施（一般640名）
保健師リカレント教育　2回実施（一般44名、保健師18名）
NCPR（新生児蘇生法）アップデート講習会（助産師24名、うち卒業生7名）

○目標実績
・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数
：各ライセンス向けのリカレント実施数
・看護師対象のリカレント教育　2事業実施
・助産師対象のリカレント教育　2事業実施
・保健師対象のリカレント教育　2事業実施
・卒業生参加数：　人間社会学部　年間44名、看護学部　年間11名</td><td>B</td><td>【高く評価する点】

【実施（達成）できなかった点】</td><td>N0.39
「ヘルスプロモーション実践研究センター」</td><td></td><td>36</td></tr>
<tr><td></td><td>1</td><td>【平成24～27年度の実施状況概略】
＜生涯福祉研究センター＞
○生涯福祉研究センターの資源を生かして、地域の資格・免許保持者等及び卒業生へのリカレント教育や研修を実施した。
＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞
○各種リカレント教育を実施した。

○目標実績
<table><tr><th></th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th></tr><tr><td>看護師対象のリカレント教育：1事業以上</td><td>4事業</td><td>3事業</td><td>4事業</td><td>2事業</td><td></td><td></td></tr><tr><td>助産師対象のリカレント教育：1事業以上</td><td>2事業</td><td>2事業</td><td>2事業</td><td>2事業</td><td></td><td></td></tr><tr><td>保健師対象のリカレント教育：1事業以上</td><td>4事業</td><td>1事業</td><td>3事業</td><td>2事業</td><td></td><td></td></tr><tr><td>卒業生参加数（人間社会学部）：10名</td><td>51名</td><td>57名</td><td>48名</td><td>44名</td><td></td><td></td></tr><tr><td>卒業生参加数（看護学部）：10名</td><td>10名</td><td>10名</td><td>12名</td><td>11名</td><td></td><td></td></tr></table>
【平成28、29年度の実施予定】
○ニーズの変化に対応しながら、生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センターの資源を生かして、地域の資格・免許保持者等及び卒業生へのリカレント教育や研修を継続して実施する。</td><td>B</td><td>【高く評価する点】

【実施（達成）できなかった点】</td><td></td><td>中期
36</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">中期計画</th><th colspan="2" rowspan="2">平成27年度計画</th><th colspan="2">ウェイト</th><th rowspan="2">計画の実施状況等</th><th colspan="3">自己評価</th><th rowspan="2">データ番号</th><th colspan="2">通し番号</th></tr>
<tr><th>項目</th><th>実施事項</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期目標期間評価理由
又は
年度評価理由</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期</th><th>年度</th></tr>
<tr><td rowspan="2">※3　地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進
の続き</td><td rowspan="2">3【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】

①附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開
②公開講座の実施
③世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保管・管理及び公開
④附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の創設

○達成目標
・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数
：年5回以上
・公開講座の実施回数　：年3回以上開催</td><td>3-1</td><td>【平成27年度計画】
【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】

○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開
・全国モデルとしての展開を各センター、調整部会で検討し、発信する。
○公開講座の実施
・公開講座を学内外に発信し、3講座を実施する。
○世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保存・管理及び公開
・保存・管理及び公開のための目録を作成する。
○附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の検討
・関連研究分野の全国ネットワーク組織を検討・実施する。

○達成目標
・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数　：年5回以上
・公開講座の実施回数　：年3回以上開催</td><td></td><td>1</td><td>【平成27年度の実施状況】
【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】

○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開
・不登校・ひきこもりセンターは、全国の団体からの視察を受けた。
○公開講座の実施
・以下の3講座の実施を決定し、チラシ、ポスターを作成、実施した。
公開講座Ⅰ　「現代を生きる子どもたち」(全3回、10/16、10/23、10/27)　19名参加
公開講座Ⅱ　「少子高齢社会における暮らしの安心と安全を守るには」
(全3回、10/30、11/6、11/13)　19名参加
公開講座Ⅲ　「地域と医療と教育をつなぐ～不登校・ひきこもり支援の共通言語を考える～」
(全3回、11/10、11/25、12/1)　46名参加
(公開講座Ⅰについては、福岡女子大と共催)
○世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保存・管理及び公開
第1回展示「炭坑内の労働」(5/16～17)　来場者数151名　良好評価95.0%
第2回展示「炭坑内の労働」(8/8)　来場者数252名　良好評価86%
第3回展示「炭坑内の労働」(11/7～8)　来場者数342名　良好評価85%
・保存・管理及び公開のための目録を作成するために、絵画4点については英文による説明を作成し、日記については66点であることを確認し、ユネスコに報告した。
○附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の検討
・関連研究分野の全国ネットワーク組織について検討した。

○目標実績
・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数　：年14回
・公開講座の実施回数　：年3回開催</td><td></td><td>B</td><td>【高く評価する点】

【実施(達成)できなかった点】</td><td></td><td></td><td>37</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>1</td><td>【平成24～27年度の実施状況概略】
○公開講座については、本学で実施するだけでなく県立三大学で連携して行った。
○不登校・ひきこもりサポートセンターの活動状況について、毎年、全国の県議会、団体等の視察を受け入れた。

○目標実績
<table><tr><th></th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th></tr><tr><td>附属研究所活動紹介の回数：年5回以上</td><td>7回</td><td>7回</td><td>12回</td><td>14回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>公開講座の実施：年3回以上</td><td>4回</td><td>4回</td><td>4回</td><td>3回</td><td></td><td></td></tr></table>
【平成28、29年度の実施予定】
○研究所の機構改革を行い，さらに認知度アップを図っていく。</td><td></td><td>B</td><td>【高く評価する点】

【実施(達成)できなかった点】</td><td></td><td>中期
37</td><td></td></tr>
</table>

中期計画 項目	中期計画 実施事項		平成27年度計画	ウェイト 中期	ウェイト 年度	計画の実施状況等	自己評価 中期	自己評価 年度	自己評価 中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ番号	通し番号 中期	通し番号 年度
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進 の続き	4【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ①糖尿病看護認定看護師教育課程を運営し、地域に貢献する糖尿病看護師を養成する。 ②志願倍率を保ち、より水準の高い人材を確保するためのリクルート活動を行う。 ③同窓生によるネットワークを構築し、よりよい糖尿病看護のあり方について学ぶ場を持ち、研鑽しあう。 ④地域貢献の一環として田川市郡を中心に生活習慣病に関連した健康教育を積極的に実施する。 〇達成目標 ・志願倍率：（志願者数／募集人員）：1.5倍以上 ・認定合格率　：90% ・福岡県糖尿病看護研究会の定期開催　：年4回以上 　同窓生によるフォローアップ研修会　：年1回以上 ・リクルートのためのリカレント研修会の開催　：年1回以上 　参加者アンケート　：良好評価75%以上 ・健康教室　：年3回以上開催 　参加者アンケート　：良好評価75%以上	4-1	【平成27年度計画】 【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 〇リカレント教育等の実施（看護実践教育センター） ・福岡糖尿病患者教育研究会の定期開催 　：　年4回以上 ・同窓生によるフォローアップ研修会 　：　年1回以上 ・受験者リクルートのためのリカレントセミナーの開催　：　年1回以上 〇糖尿病健康教育活動の実施 ・地域住民・企業等を対象に、糖尿病予防・療養等に関する出前講義　：　年3回以上 ・医療・福祉・保健分野で働く人々からの糖尿病に関する相談対応 〇積極的広報活動 ・ホームページの充実 ・健康教育活動の告知・募集の実施 ・本センター修了生への試験関連情報提供(ポスター送付) 〇達成目標 ・入学試験志願倍率（志願者数/募集人数）　1.5倍 ・認定審査合格率　　90% ・患者教育研究会延べ参加者数　　20名以上 ・セミナー参加者数　　50名以上、 　参加者アンケート　良好評価75%以上 ・糖尿病予防教育（出前講義）　開催回数3回以上、 　参加者アンケート　良好評価75%以上		1	【平成27年度の実施状況】 【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 〇リカレント教育等の実施（看護実践教育センター） ・福岡糖尿病患者教育研究会の定期開催　：　9回実施（参加者合計：78名） ・看護実践教育センター修了生を対象としたフォローアップ研修会を8/1に実施（参加者数：26名） ・受験者リクルートも目的とした 第2回糖尿病看護実践力開発セミナーを7/5に実施（参加者数：248名） 〇糖尿病健康教育活動の実施 ・地域住民対象の糖尿病予防教育・健康相談　：　3回実施（参加者合計：165名） ・医療・福祉・保健分野で働く人々からの糖尿病に関する相談対応　：　相談者合計17名 〇積極的広報活動 ・ホームページの充実 　入学式・次年度入試情報について、随時ホームページを更新した。 ・健康教育活動の告知・募集の実施 　セミナー募集等についてホームページ上にて告知を実施した。 ・本センター修了生への試験関連情報提供(ポスター送付) 　本センター修了生、医療機関への入試案内ポスター送付を実施した。 　九州糖尿病看護認定看護師会会員への試験情報広報および入試案内ポスター送付を実施した。 　北九州・筑後・佐賀地域の各糖尿病療養指導士会HPへの試験情報掲載を依頼した。 　日本糖尿病教育・看護学会主催のセミナーにおけるポスター配布を依頼した。 【新たな取組】 ・オープンキャンパスにて受験希望者向けの個別相談・説明会を実施した。（相談者合計：3名） 〇目標実績 ・入学試験志願倍率（志願者数/募集人数）　0.89倍 ・認定審査合格率　　100% ・患者教育研究会延べ参加者数　　71名 ・セミナー参加者数　　248名、参加者アンケート　良好評価97% ・糖尿病予防教育活動　　3回実施、参加者アンケート　良好評価100%		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】 ・入学試験志願倍率 　二次募集に向けた新たな取組として、受験希望者向け個別相談・説明会を実施した。その結果もあり、入学試験志願倍率（志願者数/募集人数）は平成26年度：0.78倍→平成27年度：0.89倍へと上昇した。			38
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 〇認定看護師教育においては、平成24～27年度は4年連続で認定審査合格率100%を達成した。（全国の糖尿病看護分野教育機関で唯一） この点は、平成27年度の教育機関更新認定審査においても日本看護協会より高い評価を得た。平成28年5月現在、累計103名の糖尿病看護認定看護師を輩出している。 〇教育機関数の増加、認定看護分野の増加・特定行為に係る看護師等の他の専門資格の増加の影響により、入学試験志願倍率が平成24年度から平成26年度において減少していたが、広報活動の強化及び受験希望者への相談会等を実施したことにより、平成27年度は0.89倍へと若干の増加に転じた。 〇リカレント教育、糖尿病健康教育活動については、毎年度計画どおり実施した。特に、リカレント教育では目標を大きく上回る参加者数であり、参加者アンケートでも常に90%以上の高評価を得た。 〇目標実績 [illegible] 【平成28、29年度の実施予定】 〇認定看護師教育については、正課時間外も含めたきめ細かい学習・生活に関する相談対応や専門的学習の支援を継続し、認定審査合格率100%の維持を目指す。 〇受験希望者に向けた説明・相談会を強化し、より具体的な情報提供を行うとともに、個別の疑問点等に対応することで受験者数の増加につなげる。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 38	
			ウェイト総計	中期 11	27年度 11		項目数計				中期 11	27年度 11

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
入学試験志願倍率：1.5倍	1.5倍	1.06倍	0.78倍	0.89倍		
認定審査合格率：90%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
患者教育研究会延べ参加者数：20名以上	58名	40名	73名	71名		
研修会・セミナー参加者数：50名以上	159名	317名	400名	248名		
同　　アンケート：良好評価75%以上	94.3%	95.3%	97.5%	97.0%		
糖尿病予防教育：年3回以上	3回	4回	3回	3回		
同　　アンケート：良好評価75%以上	89.7%	90.0%	100.0%	100.0%		

【ウェイト付けの理由】（年度計画）

【ウェイト付けの理由】（中期計画）

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由又は年度評価理由		中期	年度

社会貢献に関する特記事項（平成27年度）

①韓国の威徳大学との交流協定を締結した。
②外務省JENESYS2.0プログラムである日中友好会館中国大学生招聘事業の訪問先（社会福祉・ボランティア活動）として全国の大学で唯一本学が選定され、100名の中国大学生の訪問を受け入れた。
③4年次卒業を可能とする全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を整備した。
④不登校・ひきこもりサポートセンターをモデルとする部門開設を目的とする視察団（長崎国際大学・佐世保市）を受け入れた。

社会貢献に関する特記事項（平成24年度～平成27年度）

（平成26年度）
⑤11月1日～3日まで福岡県にて開催された「スペシャルオリンピックス2014」において、選手村の一つ（福岡県立社会教育総合センター）を本学学生が主となって運営した。参加学生は36名であり、不登校・ひきこもりサポートセンターの専門研究員が副村長としてコーディネートした。
500名を超えるアスリートの選手村生活に際し、臨機応変に対応を行い、大学としては唯一、スペシャルオリンピックス2014実行委員会から表彰を受けた。

項目別の状況（年度計画項目・中期計画項目）

中期目標 4　業務運営	「理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。」 大学は、理事長のリーダーシップのもと、自律性を確保しつつ、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備し、大学運営の改善を推進する。 多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた人材の確保・育成を図る。

中期計画			平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項				中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
1　運営体制の改善 理事長のリーダーシップのもと、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備するとともに、多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた職員の人材確保・育成など、大学運営の基盤強化を図る。	1	【事務局機能の強化】 ①大学に特有な業務の機能を強化するため、段階的にプロパー職員の採用を進める。 ②徹底的な事務処理の見直し、業務マニュアルの作成、情報の共有化により、事務作業の簡略化を検討する。 ③事務職員の資質の向上と教育現場に関わる者として意識の向上を図るため、SDのシステム化を推進する。 ④研究や活動内容等をデータベース化し、蓄積した情報を有効活用する。 ⑤防災・防犯対策や学生の事故防止のため安全管理体制の充実を図る。 ⑥より機能的な事務体制の実現に向けて、県立三大学の事務処理の共通化を検討・実施する。	1-1	【平成27年度計画】 【事務局機能の強化】 ○事務機能強化に向けた専門性を要する部署へのプロパー職員の登用 ○公立大学協会主催の事務職員を対象とした研修及び学内SD研修の実施 ○事務局データベースとしてのファイル共有システムの活用 ○ヒヤリハット報告に基づく事故再発防止の事例検討 ○防犯講習会の開催（年2回） ○より一層の安全管理体制の充実を図るため、防災訓練の実施・充実 ○県立三大学の事務処理共通化について、三大学経営管理部会議を開催して引き続き検討する ○達成目標 ・防災訓練の実施　:1回/年		1	【平成27年度の実施状況】 【事務局機能の強化】 ○プロパー職員1名（経験者枠）を採用し、学生支援センターに配置した。 ○公立大学協会主催の事務職員を対象とした研修に3名が参加した。 　また、事務職員を対象としたSD研修を4月に実施した。 ○データ交換等にファイル共有システムを積極的に活用した。 ○ヒヤリハット報告に基づく事故再発防止事例等を収集した。 ○防犯講習会については4月に2回開催した。 ○寮の防災訓練を実施するとともに、全学の防火訓練を11月に実施した。 ○三大学経営管理部会議を9月に開催した。 ○目標実績 ・防災訓練の実施:　2回		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			39
					1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○プロパー職員の採用については、計画どおりに進めた。 ○事務局機能強化のため、平成25年度から総務、財務管理、教務企画の3班を経営企画、総務財務、教務入試の3班に再編した。また、統一様式による業務マニュアルを作成し、共有ファイルシステムの運用を開始した。 ○新規採用プロパー職員を中心に、公立大学協会主催の事務職員対象研修に参加させた。また、事務職員を対象としたSD研修を実施した。 ○安全管理体制の充実に関しては、防犯講習会の開催、防火訓練の実施を行った。 ○県立三大学の事務担当者会議、経営管理部会議を開催し、事務処理の共通化等について検討した。 ○目標実績 H24 / H25 / H26 / H27 / H28 / H29 プロパー職員の採用:　8名以上（H27年度までに）　2名 / 3名 / 2名 / 1名 / / 【平成28、29年度の実施予定】 ○公立大学協会主催の事務職員対象研修への参加及び学内研修の実施を継続する。 ○防犯講習会の開催、防災訓練の実施を継続する。 ○県立三大学における事務処理の共通化についての検討を継続する。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 39	

<table>
<tr><th colspan="2">中期計画</th><th colspan="2" rowspan="2">平成27年度計画</th><th colspan="2">ウェイト</th><th rowspan="2">計画の実施状況等</th><th colspan="3">自己評価</th><th rowspan="2">データ番号</th><th colspan="2">通し番号</th></tr>
<tr><th>項目</th><th>実施事項</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期</th><th>年度</th><th>中期目標期間評価理由
又は
年度評価理由</th><th>中期</th><th>年度</th></tr>
<tr><td rowspan="2">※1　運営体制の改善
の続き</td><td rowspan="2">2【教員の志気を高める教育環境の整備】

①教員表彰制度（Best Teacher's Award・研究費優遇・学内外公表等）の創設
②研究経費の全学的視点からの戦略的配分を推進するため、理事長裁量経費としての研究奨励交付金制度の充実
③担当科目数の平準化

○達成目標
・教員表彰の実施（Best Teacher's Awardを含む）：毎年度の表彰
・研究費に占める研究奨励金の割合　:30%</td><td>2-1</td><td>【平成27年度計画】
【教員の志気を高める教育環境の整備】

○教員表彰を実施する。

○研究奨励交付金制度の実施
・学長留保分を5%枠確保する。

○担当科目上限数の申し合わせに基づき、平準化のための改革方策を検討する。

○達成目標
・教員表彰の実施（Best Teacher's Awardを含む）
・研究費に占める研究奨励交付金の割合　:30%</td><td></td><td>1</td><td>【平成27年度の実施状況】
【教員の志気を高める教育環境の整備】

○教員表彰を実施する。
ベストティーチャーの公募を行い、ベストティーチャーを選定した。

○研究奨励交付金制度の実施
・学長留保分5%枠については、確保した。

○翌年度新たに開設する大学院コースについて、教員の授業上限数改善を図った。

○目標実績
・教員表彰の実施（Best Teacher's Awardを含む）　:1名
・研究費に占める研究奨励交付金の割合　:30%</td><td></td><td>B</td><td>【高く評価する点】

【実施（達成）できなかった点】</td><td></td><td></td><td>40</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td>1</td><td>【平成24～27年度の実施状況概略】
○ベストティーチャーの公募を行い、ベストティーチャーを選定した。
○研究奨励交付金における学長留保分5%枠を確保した。
○新たに開設する大学院コースについて、教員の授業上限数改善を図った。

○目標実績
<table><tr><th></th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th></tr><tr><td>教員表彰の実施</td><td>未実施</td><td>2名</td><td>該当者なし</td><td>1名</td><td></td><td></td></tr><tr><td>研究費に占める研究奨励金の割合：30%</td><td>30.0%</td><td>30.0%</td><td>30.0%</td><td>30.0%</td><td></td><td></td></tr></table>
【平成28、29年度の実施予定】
○教員表彰制度を運用する。
○理事長・学長裁量経費を確保する。
○コース等を新設する際に教員の担当授業科目数の上限数改善を図る。</td><td>B</td><td></td><td>【高く評価する点】

【実施（達成）できなかった点】</td><td></td><td>中期
40</td><td></td></tr>
</table>

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由又は年度評価理由		中期	年度
※1　運営体制の改善 の続き	3【教員の個人業績評価システムの改善】 ①教員の個人業績評価システムを改善し、効率化を図るとともに、より妥当な評価基準を作成する。 ②個人業績評価基準見直し検討委員会を設置し、先行している国立大学や公立大学の実態を調査、教員に対するヒアリングの実施、第一期における個人業績評価結果の分析を行い、改善案を策定する。	3-1	【平成27年度計画】 【教員の個人業績評価システムの改善】 ○平成25年度に見直した教員個人業績評価基準の周知を図る。		1	【平成27年度の実施状況】 【教員の個人業績評価システムの改善】 ○平成25年度に見直した教員個人業績評価基準に基づき、平成26年度分の個人業績評価を実施した。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			41
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成24年度から教員個人業績評価基準の見直しに関する検討を行い、平成25年度に見直し方針・見直し案を策定した。見直した教員個人業績評価基準に基づく教員個人業績評価は、平成27年度（平成26年度分）から実施した。 【平成28、29年度の実施予定】 ○見直した教員個人業績評価基準に基づく教員個人業績評価を実施する。	A		【高く評価する点】 ・教員個人業績評価を大幅に見直し、学長評価を20%分導入した。 【実施（達成）できなかった点】		中期 41	

中期計画			平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項				中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由又は年度評価理由		中期	年度
※1 運営体制の改善 の続き	4	【リスクマネジメント体制の整備】 ①他大学の体制調査・リスクの洗い出し作業等を実施する。 ②リスクに対応したマニュアルを作成してリスクマネジメント体制を整備する。	4-1	【平成27年度計画】 【リスクマネジメント体制の整備】 ○危機管理マニュアルの策定		1	【平成27年度の実施状況】 【リスクマネジメント体制の整備】 ○大学全体のマニュアルとなる「危機管理基本マニュアル」を2月に作成した。		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			42
					1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成24年度に実施した他公立大学のリスクマネージメント体制の調査、潜在するリスクの洗い出し作業を基に、平成25年度に基本指針（案）、洗い出したリスク別の対応方法（案）を作成した。 平成26年度に基本指針及び危機管理規定を決定し、平成27年度に危機管理マニュアルを策定した。 【平成28、29年度の実施予定】 ○必要に応じ、各個別マニュアルの修正を図る。	B		【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 42	
			ウェイト総計		中期 4	27年度 4		項目数計				中期 4	27年度 4

【ウェイト付けの理由】（年度計画）

【ウェイト付けの理由】（中期計画）

業務運営に関する特記事項（平成27年度）
なし

業務運営に関する特記事項（平成24年度～平成27年度）
（平成25年度） ①福岡県立大学憲章を制定した。 ②学内委員会・部会の抜本的見直しをおこなった。教員の負担等に配慮し、再編統合により委員会・部会数を減じた。また、理事長のもと、全学的課題の改革推進を担当する改革推進委員会を学内協議機関として新たに設置した。 （平成26年度） ③組織規則を改正し、理事長のもとに新たに5つの委員会（総務人事委、予算委、教務入試委、学生委、地域連携委）を学内協議機関として設置した。この主要5委員会のもとに全ての部会を位置づけ階層性を持たせた。理事長・学長のリーダーシップに基づく意志決定の流れを明確化し、部会の活性化をはかった。

項目別の状況（年度計画項目・中期計画項目）

中期目標 5 財務	「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」 大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。 収入については、教育研究活動等の活性化のため外部資金の獲得に積極的に取り組むなど、自己収入の増加に努める。 経費については、適正執行に努めるとともに、業務の効率化や人員配置の見直しを推進する。

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
1 自己収入の積極的確保 外部研究資金等の確保に対する取組を強化することにより自己収入の積極的確保を図る。	1【外部研究資金等の積極的確保】 ①受託研究、受託事業などの外部研究資金等の積極的獲得に全学的に取り組む。外部研究資金等獲得に向けた支援体制を整備する。 ②民間企業や同窓会組織に対して、寄附金等を増加させるための広報活動を戦略的に実施し、自主財源基金化スキームの実現に向けて検討する。 ○達成目標 ・外部研究資金等獲得額 ：年間5,000万円以上	1-1	【平成27年度計画】 【外部研究資金等の積極的確保】 ○ホームページへの外部研究資金公募情報掲載の充実 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○県大基金への寄附金等を増加させるための広報の実施 ○自主財源基金スキームの平成27年度実施に向けた検討 ○達成目標 ・外部研究資金等獲得金額　：年間5,000万円以上		2	【平成27年度の実施状況】 【外部研究資金等の積極的確保】 ○ホームページへの外部研究資金公募情報については、適宜掲載した。 ○科研費応募率向上のための研修会を9/30に開催した。 ○県大基金への寄付金等を増加させるための広報を「大学広報」に掲載した。 ○自主財源基金スキームについては28年度実施に向けた検討を行った。 ○目標実績 ・外部研究資金等獲得金額：　83,308千円		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.19 「研究」		43
				2		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○外部研究資金獲得の推進については、支援部門設立ではなく、申請繁忙期に事務局機能を強化・充実することとして実施した。ホームページへの掲載による情報提供機能の充実、速報性を高めることに努めた。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度として、平成25年度から科研費補助制度を創設し、不採択となったがA評価だった申請者に対する助成を行った。科研費応募率向上のための研修会は毎年度開催した。 ○県大基金への寄附金等を増加させるための広報活動として、「大学広報」、大学HPへの掲載を行った。また、自主財源基金化スキームの実現に向けた検討を行った。 ○目標実績 H24 / H25 / H26 / H27 / H28 / H29 外部研究資金等獲得金額：年間5,000万円以上（単位：千円）：111,003 / 100,551 / 111,682 / 83,308 / / 【平成28、29年度の実施予定】 ○科研費申請繁忙期における事務局機能の強化を継続する。 ○科研費応募者へのインセンティブ（助成）制度及び研修会の実施を継続し、科研費応募率の維持向上を図る。 ○自主財源基金スキームを実現し、広報紙及びHPを通じて基金広報に努める。		A	【高く評価する点】 ・外部研究資金等獲得額について、目標を大きく上回ることができた。 【実施（達成）できなかった点】		中期 43	

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由又は年度評価理由		中期	年度
2 運営経費の削減・抑制 業務改善による経費の削減と人件費の抑制に取り組む。	1【業務改善による経費の削減】 ①事務処理方法の見直しや外部委託などの業務改善を実施し経費の削減を図る。 ②エコ・省エネ型キャンパスの実現を図る。 ○達成目標 ・年度計画で設定	1-1	【平成27年度計画】 【業務改善による経費の削減】 ○消耗品の集中発注システムの活用 ○アウトソーシング可能な業務の検討 ○省エネ対策（節電対策）の推進 ○達成目標 ・業務改善件数　1件以上／年		1	【平成27年度の実施状況】 【業務改善による経費の削減】 ○消耗品の集中発注システムを活用した。 ○アウトソーシング可能な業務について検討を行った。 ○空調管理の徹底、照明の間引き、昼休みの消灯、エレベーター稼働台数の削減等を実施した。また、2度にわたり夏季の節電を呼びかけた。 ○電力購入において入札を実施し、電気料金を約600万円削減した。 ○目標実績 ・業務改善件数　1件（電力購入において入札を実施）		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			44
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○業務改善については、物品発注方法の見直しとして、消耗品の集中発注システムを導入し活用した。 アウトソーシング可能な業務の検討を行い、平成25年度から国際交流関係業務についてアウトソーシングを実施した。 また、授業評価アンケート等大量の集計作業のアウトソーシングについて検討した。 ○省エネ対策（節電対策）については、空調管理の徹底、照明の間引き、昼休みの消灯、エレベーター稼働台数の削減等を実施し、夏期の節電を呼びかけた。 ○目標実績 （H24～H29） 業務改善件数：年1件以上　3件　1件　2件　1件 【平成28、29年度の実施予定】 ○消耗品集中発注システムの活用やアウトソーシングの検討を継続する。 ○省エネ対策（節電対策）の推進を継続する。	B		【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期44	

中期計画 項目	中期計画 実施事項	平成27年度計画	ウェイト 中期	ウェイト 年度	計画の実施状況等	自己評価 中期	自己評価 年度	自己評価 中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ番号	通し番号 中期	通し番号 年度
※2 運営経費の削減・抑制の続き	2【人件費の抑制】 ①教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、人件費の抑制を図る。 ○達成目標 年度計画で設定	2-1 【平成27年度計画】 【人件費の抑制】 ○教育研究水準の維持・向上に配慮した退職教員の補充における若手教員の採用 ○時間外勤務縮減施策の検討 ○達成目標 ・平成27年度時間外勤務時間数が前年度を下回ること（H27年度新規事業分を除く）		1	【平成27年度の実施状況】 【人件費の抑制】 ○退職教員の補充において、教育研究水準の維持・向上に配慮した教員採用を行った（8名）。 ○土日の時間外勤務について、週休日振替を徹底した。 ○目標実績 ・平成27年度時間外勤務時間数： 前年度比 ▲22.5% （26年度 13,904H → 27年度 10,774H）		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.31 「経費削減」		45
			1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○退職教員の補充において、教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、若手教員の採用に努めた。 ○時間外勤務縮減の一環として、土日の時間外勤務における週休日振替の徹底を呼びかけた。 ○目標実績 【平成28、29年度の実施予定】 ○退職教員の補充においては、教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、若手教員を採用する。 ○時間外勤務の縮減を引き続き徹底する。	B		【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 45	
		ウェイト総計	中期 4	27年度 4		項目数計				中期 3	27年度 3

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
時間外勤務時間数：前年度を下回ること	508	▲ 318	512	▲ 3,130		

【ウェイト付けの理由】（年度計画）

・1-1-1 法人の収入増を図るためには様々な取組が必要である。産学官連携等による外部研究資金の確保に取り組んでいるが、中でも科研費等の外部資金の獲得がより重要である。更には広報活動の強化や同窓会組織等への働きかけなど戦略的取組を行っていく。

【ウェイト付けの理由】（中期計画）

・1-1-1 法人の収入増を図るためには様々な取組が必要である。産学官連携等による外部研究資金の確保に取り組んでいるが、中でも科研費等の外部資金の獲得がより重要である。更には広報活動の強化や同窓会組織等への働きかけなど戦略的取組を行っていく。

財務に関する特記事項（平成27年度）
なし

財務に関する特記事項（平成24年度～平成27年度）
なし

項目別の状況（年度計画項目・中期計画項目）

中期目標 6 評価及び情報公開	「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。」 (1) 評価 教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。 (2) 情報公開 学生や保護者等に対し適切かつ迅速に情報を提供するとともに、社会のニーズに適応した大学情報を積極的に公開し大学の存在感を高める。

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項			中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
1 自己点検・評価の効率的な実施 自己点検・評価及び各種評価結果を大学運営に反映し、改善を図る。	1【自己点検・評価の見直しと実施】 ①中期目標の実現を目指して、計画的に年度計画を立て、実施し、自己評価する。県評価委員会の評価結果を大学運営に反映させる。 ②各教員の教育・研究・社会貢献の実績調査を実施し、教育・研究・社会貢献一覧を作成し、HPに掲載する。 ③次期認証評価に向けて，必要なデータを蓄積する仕組みを検討し、認証評価の準備を行う。	1-1	【平成27年度計画】 【自己点検・評価の見直しと実施】 ○県評価委員会の評価結果を大学運営に反映させる。 ○教員の教育・研究・社会貢献報告書を作成し、HPに掲載する。 ○平成28年度の認証評価の申請を行い、認証評価W.G.で具体的な作業を進める。		1	【平成27年度の実施状況】 ○県評価委員会の評価結果については、大学改革セミナーを開催し、全教職員に周知した（12/2）。 部局長会議、改革推進委員会等で審議し、大学運営に反映させた。 ○平成27年度の教員の教育・研究・社会貢献の実績については、平成28年3月に作成しHPに掲載した。 ○大学評価・学位授与機構へ、平成28年度大学機関別認証評価の申請手続を行った（9月）。 認証評価W.G.を中心にして、大学機関別認証評価に関わる自己点検評価書作成作業を進めた。（平成28年6月末提出予定）		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】			46
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○県評価委員会からの評価結果については、部局長会議、改革推進委員会等で審議し、大学運営に反映させた。 ○毎年度、各教員の教育・研究・社会貢献の実績を取りまとめ、大学HPに公表した。 ○平成25年度に「内部質保証システム」の体制構築に向けて改革推進委員会を設置した。同年度からアニュアルレポートの作成を開始し、大学HPで公表した。平成26年度に自己点検及び評価に加えてIRを推進する自己点検評価室を設置した。平成27年度に認証評価W.G.を設置し、平成28年度大学機関別認証評価の受審に向けて準備を進めた。 【平成28、29年度の実施予定】 ○県評価委員会からの評価結果について、部局長会議、改革推進委員会等で審議し、大学運営に反映させる。 ○各教員の教育・研究・社会貢献の実績を取りまとめ、大学HPに公表する。 ○平成28年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施する大学機関別認証評価に関わる自己点検評価書を作成し、提出する。大学機関別認証評価の受審結果に対する課題を整理する。	B		【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 46	

中期計画 項目	中期計画 実施事項	平成27年度計画		ウェイト 中期	ウェイト 年度	計画の実施状況等	自己評価 中期	自己評価 年度	自己評価 中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ番号	通し番号 中期	通し番号 年度
2 広報活動の充実・強化 本学の教育理念、教育・研究内容、社会貢献活動等について積極的に情報公開し、県大ブランド力を高める。	1【県大ブランド力の強化】 効果的な広報活動による社会的プレゼンスの向上・メディアとの包括連携の推進を図る ①魅力あるHPの充実 ②県大ブランドとなる教育プログラム等の積極的広報 ③多様な媒体（出版物、マスメディア、車内広告、駅広告などの活用）や出前講義等を通した広報活動の充実 ④情報発信体制の整備 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回／年 発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義（体験学習含む）20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上／年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上／年 全国版1件以上／年	1-1	【平成27年度計画】 【県大ブランド力の強化】 ○HPの更新を定期的にチェックするとともに、トップページのフラッシュを適宜変えていく ○教育プログラムにおける特色ある取組について、HPの教育情報の中の任意情報の充実 ○多様な媒体を通した積極的な広報活動の充実 ・「大学案内」及び「大学広報」などの広報パンフレットの刊行 ・高校への出前講義によるPR活動 ・福岡県広報の積極的活用 ○情報発信体制の整備 ・大学発のフォーラム・シンポジウムの積極的な記者資料提供 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回／年 発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義（体験学習含む）20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上／年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上／年 全国版1件以上／年		1	【平成27年度の実施状況】 【県大ブランド力の強化】 ○HPの掲載情報更新チェックを3月に実施し、フラッシュについては年間3回更新した。 また、スマートフォンに対応したHPを新規に作成した。 ○教育プログラムにおける特色ある取組について、一部を更新した。 ○多様な媒体を通じた積極的な広報活動の充実 ・「大学案内」を7月に作成、「大学広報」を9月と3月に刊行した。 ・高校への出前講義は25回実施した。 ○情報発信体制の整備 ・11月の中国大学生訪問団受入等について、記者資料提供を行った。 ○目標実績 ・大学案内パンフレットの作成: 2種類 ・広報誌の作成: 2回/年 ・出前講義数及びアンケート: 出前講義25回、良好評価97.9% ・教育プログラムの紹介: 3件 ・メディアに取り上げられた件数: 地方版16件、海外1件（朝鮮日報）、TV2件		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】	No.5 「出前講義」		47
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○HPの充実については、掲載情報の更新チェック体制を整備するとともに、フラッシュの定期的な変更を実施した。 平成27年度にはスマートフォンに対応したHPを新規に作成した。 ○教育プログラム等の広報については、HPで公表している教育情報の更新・充実を図った。文科省採択事業や「プレ・インターンシップ」をはじめとする特色ある教育プログラム等の掲載や、「全学横断型教育プログラム」のバナー掲載を行った。 ○広報活動においては、「大学案内」、「大学広報」の刊行、高校への出前講義によるPR活動を実施した。 また、大学が実施する講座・セミナー、卒論公開発表会等の記者資料提供を積極的に行った。 ○目標実績 【平成28、29年度の実施予定】 ○定期的なHPの更新状況チェックを行う。 ○多様な媒体を通じた積極的な広報活動を充実させる。 ○情報発信体制の整備を行う		B	【高く評価する点】 【実施（達成）できなかった点】		中期 47	
		ウェイト総計		中期 2	27年度 2		項目数計				中期 2	27年度 2

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
大学案内パンフレット作成: 2種類	1種類	2種類	2種類	2種類		
広報誌の作成: 年2回発行	2回	2回	2回	2回		
出前講義: 20回以上	30回	26回	31回	25回		
同 アンケート: 良好評価75%以上	90.5%	98.9%	94.5%	97.9%		
教育プログラム紹介の広報活動実績: 年3件以上	1件	7件	3件	3件		
メディアに取り上げられた件数: 地方版 5件以上	18件	18件	22件	16件		
同 : 全国版 1件以上	2件	2件	2件	(1件)		

【ウェイト付けの理由】（年度計画）

【ウェイト付けの理由】（中期計画）

評価及び情報公開に関する特記事項（平成27年度）
なし

評価及び情報公開に関する特記事項（平成24年度～平成27年度）
なし

特記事項

中期計画に記載している実施内容以外で、特筆すべき事項があれば、簡潔に記載してください。
※「教育」、「研究」、「社会貢献」、「業務運営」、「財務」、「評価及び情報公開」の枠組みにとらわれなくとも構いませんが、関連する通し番号がある場合は必ず記載してください。
なお、記載にあたっては、取組内容だけでなく、取組みの成果や効果等があれば、併せて記載してください。

特　記　事　項（平成27年度）	関連する通し番号
①文部科学省大学間連携共同教育推進事業の中間評価において、本学を代表校とする取組（8大学連携）が最高ランクのS評価を受けた。 47件の取組の中でS評価は7件であり、公立大学が代表校となる取組は全国で唯一のものであった。	9
②文部科学省大学教育再生加速プログラム（インターンシップ等を通じた教育強化）の中間評価において、本学を代表とする取組（3大学連携）が高く評価され、全国のモデルとなるよう今後の展開に期待しているとのコメントを得た。	9
③韓国の威徳大学との交流協定を締結した。	28
④外務省JENESYS2.0プログラムである日中友好会館中国大学生招聘事業の訪問先（社会福祉・ボランティア活動）として全国の大学で唯一本学が選定され、100名の中国大学生の訪問を受け入れた。	28
⑤4年次卒業を可能とする全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を整備した。	29
⑥不登校・ひきこもりサポートセンターをモデルとする部門開設を目的とする視察団（長崎国際大学・佐世保市）を受け入れた。	34

特記事項

中期計画に記載している実施内容以外で、特筆すべき事項があれば、簡潔に記載してください。
※「教育」、「研究」、「社会貢献」、「業務運営」、「財務」、「評価及び情報公開」の枠組みにとらわれなくとも構いませんが、関連する通し番号がある場合は必ず記載してください。
なお、記載にあたっては、取組内容だけでなく、取組みの成果や効果等があれば、併せて記載してください。

特　記　事　項（平成24年度～平成27年度）	関連する通し番号
（平成24年度） ①文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」において、本学を代表校とする九州・沖縄8大学の取組「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築」が選定された。 ②文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」において、本学を含む24大学・短大の取組「地域力を生む自立的職業人育成プロジェクト」が選定された。 ③放送大学との連携協定を締結した。 ④ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアムの福岡県メンバー8校と福岡県警察本部及び関係警察署との間で、「キャンパス・セイフティ・ネットワーク（通称：CSN）」を構築し、展開するための協定を締結した。 （平成25年度） ⑤福岡県立大学憲章を制定した。 ⑥改革推進委員会の設置、学内委員会・部会の抜本的再編を行った。 （平成26年度） ⑦両学部で学ぶ専門科目に加え、専門的職業人に求められる能力を養成する教育プログラムである「全学横断型教育プログラム」を編成し、大学案内にも7頁にわたり記載して、学内外に広く周知した。全学横断型教育プログラムとして、今年度は「援助力養成プログラム」、「国際交流プログラム」、「キャリア形成支援プログラム」の3プログラムを編成し、今後更に拡充を図ることとしている。 ⑧11月1日～3日まで福岡県にて開催された「スペシャルオリンピックス2014」において、選手村の一つ（福岡県立社会教育総合センター）を本学学生が主となって運営した。参加学生は36名であり、不登校・ひきこもりサポートセンターの専門研究員が副村長としてコーディネートした。500名を超えるアスリートの選手村生活に際し、臨機応変に対応を行い、大学としては唯一、スペシャルオリンピックス2014実行委員会から表彰を受けた。 ⑨情報処理教室1及び2の機器更新に伴い、コンピュータを配置した演習室を整備し、学生が自己学習でき、大学院やゼミなど少人数でコンピュータを使用しながら講義ができる環境を整備した（3208演習室）。 ⑩ガバナンス改革の一環として、学内委員会・部会を抜本的に再編し、全部会を主要5委員会の下に位置付けた。これにより、意思決定の枠組みが明確となり、委員会・部会の活性化が図られた。 ⑪西鉄バス筑豊㈱との協議により、平成27年3月21日から「筑豊特急」線（福岡～田川伊田）が本学構内への乗り入れ（始発・終着）を開始し、本学学生・教職員のみならず、地域住民の利便性向上が図られた。	

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画		自己評価
		計画	実績	
Ⅰ　収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算			—

（百万円）

区分	予算額(a)	決算額(b)	差額　(b)－(a)
費用の部	1,862	1,795	▲ 67
経常費用	1,862	1,794	▲ 68
業務費	1,652	1,606	▲ 46
教育研究経費	313	316	3
受託研究費等	30	0	▲ 30
人件費	1,308	1,289	▲ 19
一般管理経費	209	185	▲ 24
（減価償却費　再掲）	(77)	(91)	▲ 14
財務費用	－	1	1
臨時損失	－	0	0
収益の部	1,862	1,875	13
経常収益	1,862	1,874	12
運営費交付金収益	1,018	1,036	18
授業料収益	569	548	▲ 21
入学金収益	116	120	4
検定料収益	25	26	1
その他業務収益	－	0	0
受託研究等収益	－	0	2
受託事業等収益	－	－	－
補助金等収益	31	37	6
寄付金収益	2	2	0
資産見返物品受贈額戻入	42	44	2
資産見返運営費交付金等戻入	4	3	▲ 1
資産見返寄附金戻入	2	1	▲ 1
資産見返補助金戻入	11	12	1
資産見返補償金戻入	0	0	0
財務収益	0	0	0
雑益	35	38	3
臨時利益	－	0	0
純利益	－	80	80
前中期目標期間繰越積立金取崩額	－	－	0
目的積立金取崩額	－	－	0
総利益	－	80	80

2. 資金計画予算

区分	予算額(a)	決算額(b)	差額　(b)－(a)
資金支出	1,922	1,949	27
業務活動による支出	1,776	1,677	▲ 99
投資活動による支出	11	34	23
財務活動による支出	13	21	8
翌年度への繰越金	121	216	95
資金収入	1,922	1,949	27
業務活動による収入	1,800	1,827	27
運営費交付金による収入	1,018	1,053	35
授業料等による収入	711	694	▲ 17
受託研究等による収入	－	0	
補助金等による収入	31	37	6
寄附金等による収入	2	2	0
その他収入	35	39	4
投資活動による収入	－	0	0
財務活動による収入	0	0	0
前中期目標期間繰越積立金取崩額	－	－	－
前年度からの繰越金	121	121	0

Ⅱ　短期借入金の限度額	1　短期借入金の限度額 　3億円 2　想定される理由 　運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。	該当なし	－
Ⅲ　重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし	該当なし	－
Ⅳ　剰余金の使途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び組織運営の改善に充てる。	該当なし	－
Ⅴ　その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	該当なし	該当なし	－

2015（平成 27）年度

福岡県立大学

教育・研究・社会貢献活動一覧

福岡県立大学

凡　例

(1) この「教育・研究・社会貢献活動一覧」は、2015（平成27）年度、福岡県立大学に専任教員として在籍した者を対象とし、2016（平成28）年3月の時点で、１人あたり２頁を目安に報告をまとめている。

(2) 「主な研究分野」は、専門研究者向けではなく、一般の方向けの自己 PR として記載している。

(3) 「研究業績」は、過去３年間分を記載している＜2013（平成25）年度～2015（平成27）年度＞。業績数が多い教員については、一部省略している場合がある。

(4) 「外部研究資金」は、2015（平成27）年度に資金を得ているものを記載している。

(5) 「受賞」は、2015（平成27）年度の実績を記載している。

(6) 「所属学会」は、2015（平成27）年度の所属状況を記載している。

(7) 「担当授業科目」は、原則として2015（平成27）年度の担当授業を記載している。
なお、助手については、補助業務を担当している授業科目を記載している。

(8) 「社会貢献活動」は、2015（平成27）年度の状況を記載している。

(9) 「学外講義・講演」は、2015（平成27）年度の実績を記載している。学会での講演は、「研究業績」欄に記載し、ここにはそれ以外のものを記載している。また、会場は学内であっても、学外者向けのものはここに含まれている。なお、大学等での非常勤講師は含まれていない。

(10) 「附属研究所の活動等」は、2015（平成27）年度の状況を記載している。

(11) 記載事項は、以上の９項目であるが、該当なしの場合は、項目そのものを記載していない。

＜目　　次＞

凡　例

【掲載順】
人間社会学部については、職名順とし、同一職名内は姓の５０音順である。看護学部については、学系ごとに職名順とし、同一職名内は姓の５０音順である。

人間社会学部

- 教授　池田　孝博　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
- 教授　石崎　龍二　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
- 教授　上野　行良　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
- 教授　神谷　英二　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
- 教授　小嶋　秀幹　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
- 教授　住友　雄資　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
- 教授　田代　英美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
- 教授　郝　暁卿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
- 教授　福田　恭介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
- 教授　細井　勇　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
- 教授　本郷　秀和　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
- 准教授　岩橋　宗哉　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
- 准教授　岡本　雅享　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
- 准教授　奥村　賢一　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
- 准教授　櫻井　国芳　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
- 准教授　佐野　麻由子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７
- 准教授　Ian Stuart Gale　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０
- 准教授　堤　圭史郎　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４
- 准教授　中村　晋介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４７
- 准教授　平部　康子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０
- 准教授　藤澤　健一　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５２
- 准教授　許　棟翰　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５４
- 准教授　麦島　剛　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５７
- 准教授　村山　浩一郎　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６０
- 准教授　水野　邦太郎　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６２
- 准教授　森脇　敦史　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６５
- 准教授　吉岡　和子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６７
- 講師　池　志保　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６９
- 講師　伊勢　慎　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７１
- 講師　河野　高志　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７３
- 講師　金　恩愛　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７５
- 講師　小山　憲一郎　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７７

- 講師　柴田　雅博　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７９
- 講師　寺島　正博　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８２
- 講師　平林　恵美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８５
- 講師　松岡　佐智　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８７
- 講師　鷲野　彰子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８９
- 助教　畑　香理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９２
- 助教　二見　妙子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９４
- 助手　佐藤　繁美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９６
- 助手　中藤　広美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９８

看護学部

➢ 基盤看護学系

- 教授　田中　美智子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０１
- 教授　永嶋　由理子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０３
- 准教授　石田　智恵美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０６
- 准教授　芋川　浩　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０８
- 准教授　江上　千代美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１０
- 准教授　四戸　智昭　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１２
- 准教授　杉野　浩幸　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１５
- 講師　加藤　法子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１７
- 講師　小出　昭太郎　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１９
- 講師　渕野　由夏　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２０
- 講師　増滿　誠　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２２
- 助教　於久　比呂美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２６
- 助教　近藤　美幸　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２７
- 助教　藤野　靖博　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２８

➢ 臨床看護学系

- 教授　赤司　千波　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３０
- 教授　佐藤　香代　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３２
- 教授　村田　節子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４１
- 准教授　櫟　直美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４４
- 准教授　鳥越　郁代　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４７
- 准教授　古田　祐子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５１
- 准教授　松枝　美智子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５４
- 准教授　宮園　真美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５７
- 准教授　渡邉　智子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６２
- 講師　石村　美由紀　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６５
- 講師　大島　操　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６８

- 講師　田中　美樹　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６９
- 講師　中井　裕子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７２
- 助教　青野　広子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７４
- 助教　江上　史子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７６
- 助教　小林　絵里子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７８
- 助教　佐藤　繭子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８１
- 助教　廣瀬　理絵　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８４
- 助教　政時　和美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８６
- 助教　宮﨑　初　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８８
- 助教　吉川　未桜　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９０
- 助教　吉田　静　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９２
- 助手　柴北　早苗　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９５
- 助手　松井　聡子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９６

➢ ヘルスプロモーション看護学系

- 教授　尾形　由起子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９８
- 教授　松浦　賢長　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０２
- 准教授　山下　清香　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０４
- 講師　原田　直樹　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０６
- 講師　吉田　恭子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０８
- 助教　梶原　由紀子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１０
- 助教　手島　聖子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１２
- 助教　楢橋　明子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１４
- 助教　吉村　美奈子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１６
- 助手　杉本　みぎわ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１７

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	教授	氏名	池田　孝博

１．教員紹介・主な研究分野

1992.3　筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
1992.4-1997.3　慶應義塾中等部
1997.4-2009.3　佐賀短期大学（現；西九州大学短期大学部）
2009.3　福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科博士課程後期修了
2009.4-　本学着任
博士（スポーツ健康科学）

人間の運動パフォーマンスや健康行動・健康意識の測定評価を研究分野としている．
①幼児の体力･運動能力の発育発達およびそれらに影響を及ぼす諸要因に関する研究
②日本と韓国の小学生の運動・身体活動に対する意識に関する研究
③体育授業のカリキュラム・学習評価に関する研究

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜論文＞

・Ikeda, To., Ikeda Ta & Aoyagi, O., The relationship among stress response, weight management, and physical exercise in Japanese university students. Journal of Sports Science (ISSN2332-7839), 2016.（印刷中）
・池田孝博・青柳領，幼児期における運動能力の偏りと生活環境要因の関連．福岡県立大学人間社会学部紀要，24(2)，2015（印刷中）．
・池田孝博・中藤広美・青柳領，幼児期における「はだし保育」と体力の関連．福岡県立大学人間社会学部紀要，24(1): 73-83. 2015.
・Ikeda, T. & Aoyagi, O., The reliability and validity of toe grip strength as an index of physical development in 4- to 5-year-old children. Journal of Sports Science (ISSN2332-7839), 3(1): 22-28, 2015. DOI:10.17265/2332-7839/2015.01.003
・池田孝博・青柳領，幼児の運動パフォーマンスの二極化傾向と性，年齢，体力，運動スキルおよび発現契機との関連．福岡県立大学人間社会学部紀要, 22(2): 21-34. 2014.

②その他最近の業績

＜学会発表＞

・池田孝博・青柳領・Choi, T.H.（ポスター発表）児童期後期における身体活動動機づけに関する因子構造の日韓比較．九州体育・スポーツ学会第 64 回大会（西九州大学），2015.
・池田孝博・高橋健太郎・武藤健一郎・青柳領（口頭発表）少年剣道実践者による剣道用試作マットの主観的評価．日本武道学会第 48 回大会（日本体育大学），2015.
・池田孝博・青柳領・Choi, T.H.（口頭発表）身体活動に関する動機づけと運動技能、学習動機および活動状況の構造的関連―日本と韓国の小学生を対象として―．日本体育学会第 66 回大会（国士舘大学），2015.
・Ikeda, To., Ikeda, Ta., Yaita, A., Sakaguchi, H., Itoh, H., Annoura, T., Aoyagi, O., Han, N.I., Choi, T.H., Nam, Y.S. & Koo, K.S. (Poster Session) A Comparison of Body Type and Ideals between Korean and Japanese Female University Students. The 20th Annual Conference of the East Asian Sport and Exercise Science Society (EASESS), (Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan), 2015
・Ikeda, T. , Aoyagi, O., Han, N.I. & Choi, T.H. (Poster Session) Relationship between Lifestyle and Motivation for Physical Activity among Korean and Japanese Elementary School-Aged Children. The 20th Annual Conference of the East Asian Sport and Exercise Science Society (EASESS), (Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan), 2015
・Ikeda, To. & Ikeda, Ta. (E-poster) The relationship between stress response and weight management among university students. 20th annual congress of the Europian College of sport

science (ECSS) (Malmö, Sweden), 2015.

・Ikeda, T. , Aoyagi, O., Han, N.I. & Choi, T.H. (Mini oral Session) The relationship between motivation for physical activity and lifestyle in 10- to 12-year-old children in South Korea and Japan. 20th annual congress of the Europian College of sport science (ECSS) (Malmö, Sweden), 2015.

・池田孝博・青柳領（口頭発表）はだし保育は子どもの体力を向上させるか？．日本発育発達学会第 13 回大会（日本大学），2015.

・池田孝博・青柳領（口頭発表）児童期後期における身体活動および学習動機づけの構造的関連．日本体育学会第 65 回大会（岩手大学），2014.

・Ikeda, T. , Aoyagi, O., Han, N.I. & Choi, T.H. (Poster Session) Motivationfor physical activity and learning in late childhood: comparison of factors between Korean and Japanese children. The 19th Annual Conference of the East Asian Sport and Exercise Science Society (EASESS), (Busan University, Korea), 2014

・Ikeda, T. & Aoyagi, O. (Mini oral Session) Item analysis of toe grip on preschool-aged children. 19th annual congress of the Europian College of sport science (ECSS) (Amsterdam, the Netherland), 2014.

・Ikeda, T. & Aoyagi, O. (Poster Session) The validity and reliability of a three-axis pedometer for measuring preschool children's physical activity. Asia-Pacific Conference on Exercise and Sports Science (APCESS) 6th (Chinese culutur University, Taiwan), 2013.

・池田孝博 ・本多壮太郎・岩切公治・神崎浩・前阪茂樹・武藤健一郎・鍋山隆弘・太田順康・高橋健太郎・八木沢誠・吉田泰将・青柳領（口頭発表）無塗装の剣道場の床面に対する感覚的評価および物理的条件とスポーツ障害との関連. 日本武道学会第 46 回大会（筑波大学），2013.

・池田孝博 ・青柳領（口頭発表）幼児の運動能力の分布パターンの類型化とその性差．日本体育学会第 64 回大会（立命館大学 BK），2013.（優秀発表賞　受賞）

・Ikeda, T. & Aoyagi, O. (Mini oral Session) Effects of motor play intervention on physical activity in Japanese preschool-aged children and the relationship between the effect and motor ability. 18th annual congress of the Europian College of sport science (ECSS) (The National Institute of Physical Education of Catalonia (INEFC), Spain) , 2013.

③過去の主要業績

・池田孝博・本多壮太郎・岩切公治・太田順康・大坪壽・前阪茂樹・鍋山隆弘・八木沢誠・瀧田伸吾・青柳領，剣道場の床面塗装とスポーツ傷害・障害および床面の機能性に関する主観的評価の関連．武道学研究, 45(1): 23-34. 2012.（学会優秀論文賞　受賞）

・Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between gender difference in motor performance and age, movement skills and physical fitness among 3- to 6-years old Japanese children based on effect size calculated by meta-analysis. School Health 5: 9-23. 2009.

・Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between test characteristics and movement patterns, physical fitness, and measurement characteristics: suggestions for developing new test items for 2- to 6-year-old children. Human Performance Measurement5: 9-22, 2008. （学会賞　受賞）

３．外部研究資金

該当なし

４．受賞

該当なし

５．所属学会

日本体育学会，日本発育発達学会，日本測定評価学会，日本体育科教育学会，日本学校保健学会，日本健康心理学会，日本武道学会，日本武道学会剣道分科会，九州体育・スポーツ学会，The Europian College of sport science (ECSS：ヨーロッパスポーツ科学会)

６．担当授業科目

＜学　部＞

「健康科学実習Ⅰ」: 1単位, 1年前期　「健康科学実習Ⅱ」: 1単位, 1年後期　「体育Ⅰ」: 2単位, 2年通年　「体育Ⅱ」: 2単位, 3年通年　「演習」: 2単位, 3年後期~4年前期　「卒業論文」: 6単位, 4年

所属	人間社会学部	職名	教授	氏名	石崎　龍二

１．教員紹介・主な研究分野

自然や社会の種々の現象に関する数理モデルのコンピュータ・シミュレーションやデータの統計解析を行っている。特に非平衡系にあらわれるカオスや散逸構造の統計的性質を、理論的および数値的な面から研究している。

①非定常時系列に対するパターン・エントロピー時系列による解析と応用、②散逸のあるクーロン多体系の数理モデルの構築と数値解析、③ 異常拡散現象の機構の解明と新しい統計の探求等を主な研究テーマとしている。

物理現象、生命現象、経済現象などに見られる多くの要素間の非線形な相互作用によって生じる複雑な運動形態を研究する非線形科学が発展してきている。非線形科学では、カオス、フラクタル、自己組織化臨界現象、カオスの縁、コンプレックス・カオスなど数多くの新しい概念が見出され、複雑な現象が数学的に表現され力学的な理解ができるようになってきている。コンピュータによる解析を取り入れた新しい統計的な手法を開発し、その成果を社会科学へ応用したい。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜論文＞

- Ryuji Ishizaki and Masayoshi Inoue, “Time-series analysis of foreign exchange rates using time-dependent pattern entropy”, Physica A, Vol.392, pp. 3344-3350, 2013.
- 石崎龍二「福岡県立大学人間社会学部における コンピュータリテラシー教育の効果（2012 年）」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 22 巻第 1 号, pp.69-94, 福岡県立大学, 2013 年 7 月.

②その他最近の業績

＜調査研究報告書＞

- 石崎龍二「外国為替レートのパターン・エントロピーと相関」統計数理研究所共同研究リポート「経済物理とその周辺」, 2016 年 3 月掲載予定.
- 石崎龍二, 佐藤 繁美「福岡県立大学人間社会学部における統計処理演習の教育効果(2015 年)」福岡県立大学人間社会学部紀要第 24 巻第 2 号, pp.105-118, 福岡県立大学, 2016 年 2 月.
- 石崎龍二, 増本賢治「福岡県立大学人間社会学部における コンピュータリテラシー教育の効果（2014 年）」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 24 巻第 1 号, pp.103-125, 福岡県立大学, 2015 年 9 月.
- 石崎龍二, 井上政義「外国為替レートの複数時系列のパターン・エントロピーと相関」統計数理研究所共同研究リポート「経済物理とその周辺(11)」, 第 332 巻, pp.74-79, 2015 年 3 月.
- 石崎龍二, 佐藤 繁美「福岡県立大学人間社会学部における統計処理演習の教育効果(2014 年)」福岡県立大学人間社会学部紀要第 23 巻第 2 号, pp.57-72, 福岡県立大学, 2015 年 3 月.
- 石崎龍二, 増本賢治「福岡県立大学人間社会学部における コンピュータリテラシー教育の効果（2013 年）」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 23 巻第 1 号, pp.31-57, 福岡県立大学, 2014 年 7 月.
- 石崎龍二「外国為替レートの変動におけるパターン・エントロピーのパラメータ依存性」統計数理研究所共同研究リポート「経済物理とその周辺(10)」, 第 311 巻, pp.73-81, 2014 年 3 月.
- 石崎龍二「福岡県立大学人間社会学部における統計処理演習の教育効果(2013 年)」福岡県立大学人間社会学部紀要 第 22 巻第 2 号, pp.117-132, 福岡県立大学, 2014 年 1

月.

＜学会報告＞

- 石崎龍二，井上政義「外国為替レート間の相関とエントロピー」，日本物理学会　第71回年次大会（東北学院大学），2016年3月（予定）.
- 石崎龍二「外国為替レート間の相関とエントロピー」，統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H27度第2回研究会（統計数理研究所），2016年1月.
- 石崎龍二，秦浩起，庄司多津男「AC トラップ中の少数帯電微粒子群の平衡配置と不安定性」，第121回日本物理学会九州支部例会（九州工業大学），2015年12月.
- 石崎龍二，井上政義「外国為替レートにおける複数時系列とエントロピー」，統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H26度第2回研究会（統計数理研究所），2015年3月.
- 石崎龍二，秦浩起，庄司多津男，濱岡翔太「AC トラップ中の少数帯電微粒子群の平衡配置とゆらぎ」，第120回日本物理学会九州支部例会（崇城大学），2014年12月.
- 石崎龍二，秦浩起，庄司多津男，濱岡翔太「AC トラップ中の少数帯電微粒子群の平衡配置とゆらぎの統計的性質」，第78回形の科学シンポジウム「こころのかたち・こころのゆらぎ」（佐賀大学），2014年11月.
- 石崎龍二，井上政義「外国為替レートの変動間の相関とエントロピー」，統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H26度第1回研究会（キヤノングローバル戦略研究所），2014年9月.
- 石崎龍二，秦浩起，庄司多津男，濱岡翔太「 AC トラップ中の少数帯電微粒子群の間欠的運動の統計的性質」，日本物理学会　2014年秋季大会（中部大学），2014年9月.
- 石崎龍二，井上政義「外国為替レート変動間の相関とエントロピー」，日本物理学会第69回年次大会（東海大学），2014年3月.
- 石崎龍二「外国為替レートの変動間の相関とエントロピー」，統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H25度第2回研究会（統計数理研究所），2014年3月.
- 石崎龍二，秦浩起，庄司多津男「AC トラップ中の少数帯電微粒子群の配置構造の安定性」，第119回日本物理学会九州支部例会（久留米工業大学），2013年11月.
- 石崎龍二，井上政義「為替レート変動の不安定性とパターン・エントロピー」，日本物理学会　2013年秋季大会（徳島大学），2013年9月.
- 石崎龍二，秦浩起，庄司多津男「AC トラップ中の少数帯電微粒子群の秩序構造と安定性」，日本物理学会　2013年秋季大会（徳島大学），2013年9月.
- 石崎龍二「外国為替レート時系列の変動の不安定性とパターン・エントロピー」，統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H25年度第1回研究会（キヤノングローバル戦略研究所），2013年9月.

③過去の主要業績

- Ryuji Ishizaki, Toshikazu Shinba, Go Mugishima, Hikaru Haraguchi and Masayoshi Inoue, “Time-series analysis of sleep-wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy”, Physica A, Vol.387 No.13, pp.3145-3154, 2008.
- 駒澤勉・橋口捷久・石崎龍二『新版 パソコン数量化分析』，朝倉書店，1998年.
- Ryuji Ishizaki, Takehiko Horita, Tatsuharu Kobayashi and Hazime Mori, “Anomalous Diffusion Due to Accelerator Modes in the Standard Map”, Progress of Theoretical Physics, Vol.85 No.5, pp.1013-1022, 1991.

３．外部研究資金

- 文部科学省 平成27年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）「大学教育再生加速プログラム（インターンシップ等を通じた教育強化）」取組名称「中長期・実践型インターンシップ推進と教育的な指導体制の構築」（幹事校）、交付金額6,919千円（本学）、事業推進責任者.

４．受賞

５．所属学会

日本物理学会、アメリカ物理学会(APS)、日本心理学会

６．担当授業科目

＜学部＞

プレ・インターンシップ・2 単位・１・2 年・通年、社会貢献論・2 単位・1 年・前期、情報科学・2 単位・1 年・後期、専門職連携入門・1 単位・1 年・後期、情報数学・2 単位・2 年・前期、プログラミング概論・2 単位・2 年・後期、データ処理とデータ解析 I・1 単位・3 年・前期、データ処理とデータ解析 II・1 単位・3 年・後期、卒業論文・6 単位・4 年・通年

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

所属	人間社会学部	職名	教授	氏名	上野　行良

１．教員紹介・主な研究分野

人間関係に関する心理学を研究しています。

個人が生きやすくなるために必要な人間関係や心のあり方、そして個人を不幸にする社会の問題や個人の思考・行動・感情の分析をしたいと考えています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

上野行良（2015）「わかりやすく伝えようープレゼンテーション」（「レポートの書き方入門’15」福岡県立大学）

②その他の業績

〈雑誌〉

上野行良（2013）「人はまだ臨床心理学を知らない」福岡県立大学心理臨床研究, 4.

③過去の主要業績

上野行良（2006）「感情心理学」（山岡重行編著『サイコナビ　心理学案内』ブレーン出版）

上野行良・中村晋介・麦島剛・本多潤子(2006)「非行の抑制要因と促進要因−福岡県の青少年非行に関する調査」福岡県立大学奨励研究報告書Ⅴ.25.

上野行良（2003）「ユーモアの心理学―人間関係とパーソナリティ」サイエンス社

３．所属学会

日本心理学会、日本社会心理学会

４．担当授業科目

〈学部〉

コミュニケーション論・2 単位・1 年・前期、教養演習・1 単位・1 年・前期、心理学・2 単位・1 年・後期、心の科学の現在・2 単位・1 年・後期、社会心理学・2 単位・1 年・後期、人間関係の科学・2 単位・3 年・前期、演習（人間形成学科）・2 単位・3〜4 年・通年、卒業論文・6 単位・4 年・後期

〈大学院〉

社会心理学特論・2 単位・修士 1 年・前期、人間関係特論・2 単位・修士 1 年・後期、特別研究・4 単位・修士 1〜2 年・通年

５．学外講義・講演

・教育関連（大分県教育委員会、上横山保育会など）
・行政機関（佐賀県、大分県、直方市、宇佐市、田川市、水巻町など）
・医療福祉関連（大分県市町村保健活動研究協議会、佐賀県看護協会、久留米医師会、国立病院機構九州ブロックなど）
・その他（大分県警察署など）

所属	人間社会学部総合人間社会コース	職名	教授	氏名	神谷　英二

１．教員紹介・主な研究分野

私は、現象学を中心とする現代哲学と生命倫理を中心とする応用倫理学を主な専門分野としています。現在取り組んでいる研究テーマは、以下のとおりです。

a. 現象学的他者論および相互主観性論研究
b. 集合的記憶を媒介とした世代間コミュニケーションに関する現象学的研究
c. 「まちの物語論」構築のための記憶・忘却・喪失・再生に関する現象学的解釈学的研究
d. 大学・教養・記憶を巡る思想史的研究
e. インフォームド・コンセントに関する哲学的・倫理学的基礎研究とそれに基づく医療職に対する生命倫理教育プログラムの開発と実践
f. ロジカルシンキング、ロジカルライティング、文書添削及びコーチングを中心とする地方自治体における人材育成プログラムの開発と実践

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜学術論文＞

（単著）「固有名と記憶(2)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 22 巻第 2 号、福岡県立大学人間社会学部、2014 年、63-76

（単著）「瓦礫の記憶論のために」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 24 巻第 2 号、福岡県立大学人間社会学部、2016 年、77-90

②その他最近の業績

＜学会発表＞

（共同）新木真理子・東玲子・神谷英二「要介護高齢女性の祖父母的ジェネラティヴィティの語り―介護施設入所者の『世話する・世話される』世界―」日本老年看護学会第18回学術集会、2013年6月5日、大阪国際会議場

（共同）新木真理子・東玲子・神谷英二「関節リウマチ高齢女性の祖父母的ジェネラティヴィティの様相」日本老年行動科学会第16回大会、2013年9月1日、愛媛大学

（共同）新木真理子・神谷英二・東玲子・吉原悦子・丸山泰子「要介護高齢者の『気遣い』に着目した介入研究の可能性を探る―ハイデガーの解釈学的現象学を基盤として」日本看護科学学会第34回学術集会・交流集会、2014年11月30日、名古屋国際会議場

＜教科書＞

（共著）田中哲也編『旅する大学生のガイドブック―レポートの書き方―2014年版』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2014年（担当箇所「第2章　レポートとは？」、21-37）

（共著）田中哲也編『旅する大学生のガイドブック―レポートの書き方―2014年版』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2015年（担当箇所「第2章　レポートとは？」、21-37）

③過去の主要業績

＜著書＞

（共著）千田義光・久保陽一・高山守編『講座 近・現代ドイツ哲学Ⅱ―ヘーゲル以後フッサールまで―』理想社、2006 年.（担当箇所「第 9 章 他者経験の起源―発生的現象学におけるヒュレー・キネステーゼ・他者―」、255-277）

＜学術論文＞

（単著）「規範の生成―世代発生的現象学に基づく倫理学の可能性―」、『西日本哲学会年報』第 9 号、西日本哲学会、2001 年、107-120

（共著）神谷英二・橋口捷久「医学生における生命倫理―患者の権利とインフォームド・コンセント―」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 13 巻第 2 号、福岡県立大学人間社会学部、2005 年、75-94

（単著）「遊歩者・記憶・集団の夢―ベンヤミン『パサージュ論』による記憶論構築のた

めに―」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 17 巻第 2 号、福岡県立大学人間社会学部、2009 年、67-79

＜翻訳＞

（単著）A. J. スタインボック「限界現象と経験の限界性」、『思想』2000年第10号、No.916、岩波書店、2000年、218-243

＜書評＞

（単著）「武内大著『現象学と形而上学―フッサール・フィンク・ハイデガー』の書評」、実存思想協会編『思想としての仏教』実存思想論集26、理想社、2011年、179-182

３．外部研究資金

日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）、研究課題名：「まちの物語論」構築のための記憶・忘却・喪失・再生に関する現象学的解釈学的研究（研究代表者：神谷英二、課題番号：25370024）、2015(平成27)年度分直接経費700,000円、間接経費210,000円、研究期間：2013(平成25)～2016(平成28)年度

５．所属学会

日本哲学会、日本倫理学会、日本現象学会、日本生命倫理学会、哲学会、科学基礎論学会、実存思想協会、日本現象学・社会科学会、日本ミシェル・アンリ哲学会、中部哲学会、西日本哲学会、九州大学哲学会、日本老年看護学会、各会員

６．担当授業科目

哲学Ⅰ・2 単位・1 年・前期、教養演習・1 単位・1 年・前期、生命倫理・2 単位・1 年・前期、哲学Ⅱ・2 単位・1 年・後期、論理学・2 単位・2 年・前期、倫理学・2 単位・2-3 年・前期、哲学要論・2 単位・3 年・後期、看護倫理・1 単位・看護実践教育センター糖尿病看護認定看護師教育課程、スタートダッシュのための就活塾・単位外・3 年・後期

７．社会貢献活動

＜福岡県田川市＞経営評価改革推進委員会委員長、新中学校のあり方に関する審議会会長、地方創生・人口減少対策有識者会議委員長

＜福岡県直方市＞行政改革推進委員会会長、消防本部職員採用試験員

＜福岡県田川郡香春町＞情報公開審査会会長、個人情報保護審査会会長、政治倫理審査会会長、行政改革推進委員会会長、総合計画審議会委員

＜株式会社麻生・飯塚病院＞倫理委員会委員、臨床研究管理委員会委員

８．学外講義・講演

＜公務員研修＞福岡県市町村職員研修所「ディベート研修」（2015 年 9 月 3 日～4 日）、「文書添削力向上研修」（2015 年 10 月 5 日～2016 年 2 月 8 日）、「先進地視察研究＜四王寺塾＞」（2015 年 6 月 29 日～12 月 17 日）

福岡県直方市職員政策研修、福岡県田川市職員研修「スキルアップ神谷塾」、福岡県京都郡みやこ町職員人材育成研修、福岡県田川郡香春町職員政策形成実践研修など地方自治体職員研修多数

＜医療職向け講演＞第 57 回飯塚緩和医療勉強会「緩和ケアをめぐる倫理的諸問題～告知、説明と同意、治療の差し控え等～」（2015 年 12 月 1 日）

＜市民向け講演＞筑豊市民大学創立 15 周年記念講演「『筑豊の希望』として、未来を拓くために」（2015 年 9 月 26 日）、筑豊市民大学講演「偶然性と運命」（2016 年 1 月 23 日）

９．附属研究所の活動等

附属研究所生涯福祉研究センター長

生涯福祉研究センター地域支援員（筑豊市民大学アドバイザー・講座部担当）

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	教授	氏名	小嶋　秀幹

１．主な研究分野

社会精神医学、精神保健学を主な研究分野としている。特に、地域住民に対する精神障害の啓発教育（心理教育の方法）、自殺予防対策に取り組んでいる。近年の主な取り組みには、福岡県内を中心とした自殺予防ゲートキーパー研修会講師がある。様々な精神障害をいかにわかりやすく伝えるか、その研修方法に興味を持っている。その他、勤労者の精神保健、筑豊・田川地域におけるアルコール問題、思春期の精神保健（自傷行為やひきこもりの問題）、司法精神医学（精神鑑定）、高齢者の精神的健康のあり方などにも興味を持って研究・実務をしている。これまで心理臨床専攻大学院生は、アルコール依存症・境界性パーソナリティ障害・発達障害・自傷行為等についてのイメージと心理教育の効果、ストレスマネージメント教育の方法等をテーマとして研究調査を実施している。研究の手法として最近は、質的研究法にも興味を持って取り組み始めた。

２．研究業績

①著書・論文

・田中玲衣，小嶋秀幹：若手のスクールカウンセラーがその職務体験から得た意識についての質的調査．福岡県立大学心理臨床研究 8；11‐24，2016.

・権　静香，小嶋秀幹：在日コリアン青年の名のり行動形成に伴う心理的プロセス．福岡県立大学心理臨床研究 7；31‐42，2015.

・小嶋秀幹：民生委員からみた自殺対策の現状と課題―自由記述内容の質的分析から―．自殺予防と危機介入 34（1）；41-47，2014.

・塚本紀子，小嶋秀幹：公的扶助ケースワーカーのストレスと職務適応プロセス．福岡県立大学心理臨床研究 6；85-91，2014.

・小嶋秀幹：民生委員が関わった自殺事例のプロセス―インタビュー内容の質的分析―．日本社会精神医学会雑誌 22（2）；92‐105，2013.

・大庭理英，小嶋秀幹：福祉系学部大学生に対する発達障害児への対応についての教育効果―イメージと行動療法的対応の認知的変化―．福岡県立大学心理臨床研究 5；29-36，2013.

②その他の業績

＜学会報告＞

・小嶋秀幹：教育機関での取り組み～アルコール問題の啓発劇～．第28回九州アルコール関連問題学会，2016年

・小嶋秀幹、中島貴子：自傷行為をする親友と関わる際の心理についての調査．第 39 回日本自殺予防学会，2015 年

・小嶋秀幹：保健福祉課職員のストレスと職務適応の心理的プロセス．第 21 回日本産業精神保健学会，2014 年

・小嶋秀幹：戦略研究 NOCOMIT-J で学んだこと．第 38 回日本自殺予防学会，2014 年

・小嶋秀幹：まずはこころの健康を身近に感じることから―福岡県中間市における寸劇の取り組み―．第 38 回日本自殺予防学会，2014 年

＜その他＞

・小嶋秀幹：福祉事務所における新人ケースワーカーの職務ストレスとその対処プロセス．日本社会精神医学会雑誌 22（3）；395‐396，2013.

３．外部研究資金　　なし

４．受賞　　なし

５．所属学会
・九州精神神経学会評議員・編集委員
・日本精神神経学会精神科専門医
・日本精神神経学会、日本臨床心理士会、九州精神神経学会、日本社会精神医学会、日本自殺予防学会、日本病院地域精神医学会、日本司法精神医学会、日本産業衛生学会、日本依存神経精神科学会、日本臨床精神薬理学会、日本老年精神医学会、日本心理臨床学会、日本産業精神保健学会、日本保健福祉学会、福岡県臨床心理士会　各会員

６．担当授業科目
精神保健学･２単位・１年・前期、精神保健学Ⅰ・２単位・２年・前期、精神医学Ⅰ・２単位・３年･前期、老年期医学・２単位・３年･前期、精神保健学Ⅱ･２単位・２年･後期、精神医学Ⅱ・２単位・３年・後期、演習・２単位・３～４年・通年、卒業論文･６単位・４年・後期、特別研究・４単位・大学院１年・通年、臨床心理実習（学内）・１単位・大学院２年・通年、臨床心理査定演習･４単位･大学院１年・前期、臨床心理面接特論･４単位･大学院１年・後期、臨床心理基礎実習･２単位・大学院１年・通年、臨床心理実習（施設）・１単位・大学院２年・前期

７．社会貢献活動
北九州いのちの電話評議員、北九州市役所嘱託産業医、田川市役所嘱託産業医、ホームレス自立支援センター北九州嘱託医、産業医科大学医学部非常勤講師、田川児童相談所虐待カウンセリング医、福岡県自殺対策協議会委員、福岡県ひきこもり連絡協議会委員、福岡市自殺対策協議会委員、田川市青少年問題協議会委員、香春町いじめ防止等対策委員会委員、心神喪失等医療観察法判定医

８．学外講義・講演
・北九州市衛生管理者研修会、北九州市役所、5 月
・職場の自殺予防と対応の基本、九州相談員会研修会、5 月
・職場のメンタルヘルス、うきは市職員組合研修会、5 月
・精神疾患の理解を深める①・②、北九州いのちの電話全体研修会、5 月・7 月
・自殺未遂者への関わり方、福岡市民生委員ゲートキーパー研修、6 月
・自傷行為をする青少年の心理と関わり方、教員免許更新研修、8 月
・自殺予防の基礎知識と相談対応の基本、筑紫保健所職員研修、9 月
・自殺予防の基礎知識と関わり方、福岡市東区ゲートキーパー研修、9 月
・自殺予防の基礎知識と相談対応の基本、生活保護課ゲートキーパー研修、9 月
・ストレスとこころの病気について知ろう、京都高校出前講義、9 月
・自殺予防の基礎知識と相談対応、粕屋町民生委員研修、10 月
・自殺予防の基礎知識と相談対応、粕屋町職員研修、10 月・12 月
・自傷行為をする青少年の心理と関わり方（講義と啓発劇）、福岡教育大学学生研修、11 月
・精神医学の基礎知識①・②、いのちの電話相談員養成研修、11 月・12 月
・自殺予防の基礎知識と相談対応、上毛町民生委員研修、2 月
・若者のひきこもり～話を聴かせて～（啓発劇）、中間市こころの健康づくり講演会、2 月
・自傷行為をする生徒への関わり方、田川市郡養護教諭研修、2 月
・パーソナリティ障害の方への関わり方、精神障害者社会復帰促進事業研修、2 月
・若者のひきこもり～話を聴かせて～（啓発劇）、豊前看護学校研修会、3 月
・大切な命を守る～相談対応のコツ～、久留米市保健所ゲートキーパー研修、3 月

９．附属研究所の活動等
・福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンター長

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	教 授	氏名	住 友 雄 資

１．教員紹介・主な研究分野

厚生労働省の発表によると，わが国には300万人を超える精神障害者がいます．精神科病院に入院している精神障害者は約35万人ですので，大多数は地域で生活しています．しかし，差別・偏見を受けやすい精神障害者や家族は，地域で生活しづらい状況が続いています．そこで，ソーシャルワークの視点から，精神障害者が地域で生活しやすい援助・支援法の開発とそれを下支えする社会環境を構築する方法を研究しています．そのためにはケアマネジメントという技術とケアマネジメントが有効に機能するシステムが不可欠で，両者を統合した地域サポートシステムを構築する研究をおこなっています．

またケアマネジメントを担う福祉専門職が必要になりますので，その観点から精神保健福祉士等をどのように養成するかということも研究しています．

２．研究業績

①最近の著書・論文

林志帆・住友雄資（2016）「精神障害者のきょうだいへの支援―精神保健福祉士による支援内容から―」『福岡県立大学人間社会学部紀要』24（2），21-36.

②その他最近の業績

畑香理・住友雄資・平林恵美・奥村賢一・梶原浩介（2015）「2014年度教育実践報告：旧カリ『精神保健福祉援助実習』・新カリ『精神保健福祉援助実習指導』」『福岡県立大学人間社会学部紀要』23(1)，127-135.

住友雄資（2015）「書評　赤畑淳『聴覚障害と精神障害をあわせもつ人の支援とコミュニケーション』ミネルヴァ書房」『福岡県立大学人間社会学部紀要』23(2)，87-90.

住友雄資・畑香理・平林恵美・奥村賢一（2014）「2013年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』」『福岡県立大学人間社会学部紀要』23(1)，59-71.

住友雄資・大谷京子・大塚淳子・木下了丞・鈴木孝典・田崎琢二・竹中秀彦・肥田裕久・松本すみ子・宮本めぐみ（2013）「精神科医療機関における精神保健福祉士の業務実態に関する研究」『精神保健福祉士の活動評価及び介入方法の開発と普及に関する研究』平成24年度厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業（精神障害分野）報告書，5-31.

住友雄資（2013）「書評　青木聖久『精神障害者の生活支援　障害年金に着眼した協働的支援』法律文化社」『社会福祉学』54（3），210－212.

住友雄資（2013）「時代を読む　障害者基本法の成立（1993年）」『ノーマライゼーション』33（9），日本障害者リハビリテーション協会，5.

③過去の主要業績

住友雄資（2007）『精神保健福祉士のための地域生活支援活動モデル』金剛出版.（単著）

杉本敏夫・住友雄資編（2006）『改訂　新しいソーシャルワーク』中央法規出版.（共編著）

住友雄資（2001）『精神科ソーシャルワーク』中央法規出版.（単著）

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

一般社団法人日本社会福祉学会　代議員・査読委員
日本精神障害者リハビリテーション学会　査読委員
日本ソーシャルワーク学会　査読委員
日本職業リハビリテーション学会
日本地域福祉学会
一般社団法人日本精神保健福祉学会

６．担当授業科目

（学部）
精神科リハビリテーション学Ⅰ・２単位・３年・前期
精神科リハビリテーション学Ⅱ・２単位・３年・後期
精神保健福祉論Ⅲ・２単位・３年・後期
精神保健福祉演習・２単位・３年・後期
精神保健福祉援助演習・２単位・４年・通年
精神保健福祉援助実習指導・３単位・３～４年・通年
精神保健福祉援助実習・５単位・４年・通年

（大学院）
ソーシャルワーク研究・２単位・前期
ソーシャルワーク演習・２単位・後期

７．社会貢献活動
精神保健福祉士試験委員会　副委員長
直方市障害者施策推進協議会　会長
田川市障害者総合自立支援協議会　会長

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	教授	氏名	田代　英美

１．教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院文学研究科修士課程（社会学専攻）修了。1992年より本学に勤務。

研究分野は都市社会学、生活構造論、公共社会学。

さまざまに異なる生活条件を持つ人々が集住する地域社会、ここでの協同性や合意形成のあり方は地域社会学の中心的なテーマである。グローバル化とローカル化が同時に進行する現在、私たちの生活の拠点としての地域社会、ともに生きていく拠り所となる協同性や公共性が改めて問われている。少子高齢・人口減少社会において個人の移動と生活の質を確保し、活気ある地域社会を維持するための課題を明らかにしたい。具体的な研究テーマとして、地域における公共交通や河川整備を取り上げて調査研究を行っている。また、分権化政策と市町村合併によって地域社会の枠組みと運営の仕方、合意形成過程がどのように変化したのかについても実証的な研究を継続していく予定である。

理論的な側面では、都市社会における生活問題分析の枠組みを再検討している。最近注目を集めているワーキングプアやワーク・ライフ・バランスは、実は生活構造論の中で常に議論されてきた問題である。これまでの研究に学ぶとともに、新たな状況下での生活問題の性質と課題を分析する際の枠組みを考えたい。

２．研究業績

①最近の著書・論文

田代英美「遠方避難における生活再建と地域社会の課題」、『社会分析』43 号（印刷中。2016 年 3 月発行予定）。

田代英美・佐藤繁美『公共社会学入門「公共性研究Ａ（公共性の社会学）テキスト』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科、2015年4月。

田代英美「遠方個別避難における『被災』、『避難』、『生活再建』の構造」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号、45-56、2015年2月。

②その他最近の業績

＜学会発表＞

後藤範章・田代英美・浅川達人・小山雄一郎・松林秀樹・松橋達矢「新線開業の社会学的効果に関する実証的研究（1）――埼京線・埼玉高速鉄道・TX と北陸新幹線・九州新幹線を事例とする第一次報告」日本都市学会第 62 回大会（上越市）、2015 年 10 月 31 日。「プログラムと報告要旨」12-13。

田代英美・伊東啓太郎・田中優太・山下絢子・揚野慎一郎・伊藤拓「“かわまちづくり”への参加に関わる住民の行動・意識要因――福岡県田川市における調査から 」日本景観生態学会第25回全国大会（九州工業大学）、2015年6月6日。「講演要旨集」77。

田代英美「分権化政策のもとでのコミュニティの機能変化と自治体政策の位置」、日本都市社会学会第31回大会（熊本大学）、2013年9月15日。

＜学会テーマ部会＞

田代英美「テーマ部会　東日本大震災と都市社会学」討論者、日本都市社会学会第32回大会（専修大学）、2014年9月11日。

＜調査研究報告書＞

田代英美・石出千里・江川美紗・上種あゆみ・工藤夏美・杉元綾・中村汐里・早川怜香・松尾綾華・山内一成「彦山川調査第１次報告」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号、73-86、2015年2月。

田代英美「原発避難・移住者への新たな支援活動の可能性」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第1号、13-21、2014年9月。

＜教育実践報告＞

田代英美・佐野麻由子「人間社会学部におけるアクティブ・ラーニングの実践」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第2号、119-131、2016年2月。
＜書評＞
田代英美「書評　山下祐介・市村高志・佐藤彰彦『人間なき復興　原発避難と国民の「不理解」をめぐって』(2013、明石書店、336 頁。)」、『社会分析』42 号、222-224、2015 年 3 月。

③過去の主要業績
田代英美「東日本大震災による遠方への避難の諸要因と生活再建期における課題」、『西日本社会学会年報』第11号、63-75、2013年3月。
田代英美「地方公共交通の再編とコミュニティの情報提供機能」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第21巻第2号、65-77、2013年1月。
田代英美・佐藤繁美編『公共社会学科開設記念シンポジウム報告書「公共社会学の構想」』、福岡県立大学人間社会学部公共社会学科、総ページ数77、2011年3月。
田代英美「市町村合併政策に伴う行政組織の変動と『協働』」、『西日本社会学会年報』第8号、51-70、2010年3月。
田代英美・植田美佐恵・佐藤繁美「生活研究生成期における生活構造の概念と変容過程」平成14～16年度科学研究費補助金（基盤研究(B)（2））研究成果報告書、2005年6月。

３．外部研究資金
科学研究費基盤研究（B）「交通インパクトの社会学的効果に関する研究――量と質とビジュアルの混合研究法――」平成26年度～平成29年度、研究分担者。

４．受賞

５．所属学会
日本社会分析学会、西日本社会学会、日本都市社会学会、日本社会学会、環境社会学会、日本都市学会、日本景観生態学会　　各会員

６．担当授業科目
＜学部＞
公共性研究Ａ（公共性の社会学）・２単位・１年・前期、社会学概論・２単位・２年・前期、地域社会研究Ⅰ・１単位・２年、地域社会研究Ⅱ・１単位・２年、社会調査実習・２単位・３年・通年、地域社会分析法Ａ（地域と生活）・２単位・３年・前期、地域社会学特講・２単位・３年、環境社会学・２単位・３年・後期、公共社会学研究Ⅰ・１単位・３年・前期、公共社会学研究Ⅱ・１単位・３年、卒業論文・６単位・４年・通年

７．社会貢献活動
直方市都市計画審議会委員、川崎町地域公共交通会議委員、田川市地域公共交通会議委員田川市経営評価改革推進委員会委員、添田「英峰塾」（添田町の中学生対象の学習支援事業）顧問

８．学外講義・講演
＜出前講義＞
・佐賀県立佐賀西高等学校「『公共』とはなにか」2015年8月4日
・福岡県立鞍手高等学校「筑豊地域の人口――特徴を理解し、まちづくりの課題を考える――」2015 年 10 月 6 日

９．附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・一般教育等	職名	教授	氏名	郝　暁　卿

１．教員紹介・主な研究分野

グローバル時代における中国の国内政治を基点として、中国の現代史と国際環境との関係などを主な研究分野としている。その内容として、１、現在の中国の内政と外交に多大な影響を与えた文化大革命の国際的な背景の検討と、２、高度成長を伴う深刻な環境問題に対する中国政府の対策への調査、検討等である。具体的には、１の場合、文化大革命の発生から終息までの原因の一つとして、当時の国際環境に照準を定め、問題の解明を行ってきたが、現在はアメリカの要素を中心に、50～70年代における米国の対中政策を中国の国内情勢にいかなる影響を及ぼしたかを明らかにしようとしている。２については、世界、とくにアジアに深刻な影響を与えた中国の環境問題を注目し、現地調査で入手した資料などを参考にしながら、中国の環境問題などを制度的に検討するとともに、国際協力で、世界からいかなる越境支援を受け、また、何の問題があるのかを研究しようとしている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

論文

・「文化大革命と国際環境」(5)、単著、2011年7月、『福岡県立大学紀要』、第20巻第1号
・「文化大革命と国際環境」(6)、単著、2013年1月、『福岡県立大学紀要』、第21巻第2号
・「『黄帝内経』の叡智」、単著、2014 年 1 月、『福岡県立大学紀要』、第 22 巻第 2 号

②その他最近の業績

・平成２７年度研究奨励交付金（南京師範大学との教育研究交流を推進するプロジェクト研究）

③過去の主要業績

著書

・『転換期の東アジア』、共著、ナカニシヤ出版、佐々木武夫　豊田謙二編、1998年5月、第4章「過渡期における中国の労働問題」担当
・『社会主義の世紀』、共著、法律文化社、熊野直樹　星乃治彦編、2004年11月、第8章「ユートピアと現実との間」担当

論文

・「中国の環境問題と国際協力」、単著、2006年11月、『福岡県立大学紀要』、第15巻第1号
・「文化大革命と国際環境」（4）、単著、2007年11月、『福岡県立大学紀要』、第16巻第1号
・「中国文化における中医学」、単著、2009年7月、『福岡県立大学紀要』、第18巻第1号

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本国際政治学会

６．担当授業科目

・中国語Ⅰ－（1）・中国語Ⅰ－（2）・2単位・通年・1年、中国語Ⅱ－（1）・中国語Ⅱ

－（2）・2単位・通年・2年、中国語Ⅲ－（1）・中国語Ⅲ－（2）・2単位・通年・3年、国際関係論・1単位・前期・1年、中国の社会と文化・1単位・前期・2年、教養演習・1単位・前期・1年

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

・福岡県立大学公開講座「導引養生法入門」、2014年11月

９．附属研究所の活動等

所属	人間社会学部/心理コース	職名	教授	氏名	福田　恭介

１．教員紹介・主な研究分野

現在，2つの研究に従事している。

１つは，目は口ほどにものを言うのかについて研究している。これまで，まばたきが目の保護･防衛のため反射的に生じているだけでなく，ヒトの情報処理過程と関連して生じ，瞳孔もまばたきと相互作用しながら動いていることを示してきた。また，視線が固定された瞬間にまばたきが生じやすく眼球運動とまばたきの関係も示してきた。最近では，発達のしくみと目の動きの関連，あるいは興味・関心と目の動きの関連についても検討している。

もう１つは，ペアレントトレーニングによる手法が親の子育て支援に役立つかを実践によって検討している。子どもの行動や親（保護者）の行動を記録することにより，親（保護者）の子どもを見る目が変わることで親の行動が変わり，さらに子どもの行動が変わることで親（保護者）としての自信を回復している。最近では，このような取り組みを保育現場や教育現場の担当者に対しても啓発活動を行っている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

著書

1. 福田恭介「情動の認知」『新・知性と感性の心理－認知心理学最前線－』行場次朗・箱田裕司（編著）第9章，152-166.　福村出版（2014）

論文

1. 金城志麻・森陽二郎・福田恭介・高山恵子・金城正典・針塚進・田中哲　(2013)「発達障がい児・者とその保護者への支援」　教育心理学年報 52, 215-217. 査読なし
2. 福田恭介（2013）「ペアレントトレーニングについて」　福岡県立大学心理臨床研究 5, 77-88.
3. 中村惠美子・福田恭介 (2013)「ペアレントトレーニングを保育･教育現場へ応用するためのボトムアップによる個別型・チーム型支援プログラム」　福岡県立大学人間社会学部紀要　22 (1), 41-53.
4. Fukuda, K. (2014). An investigation into the relationship between spontaneous eye blinks and cognitive processing. *International Journal of Psychophysiology*, 94 (2), 162-163. 査読あり
5. 森久美子・福田恭介・松尾太加志・志堂寺和則・早見武人 (2015)「感情語提示時における大学生の瞳孔反応と抑うつ・不安との関連」　福岡県立大学人間社会学部紀要, 23(2), 33-44. 査読あり
6. Nomiyama, H., Fukuda, K., Matsuo, T., Shidoji, K., & Hayami, T. (2015). The difference of detection performance between intermittent and continuous presentation of facial expression change. *Joint international Symposium on "Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution" and "e-Asia Functional Materials and Biomass Utilization"* p-29, 1-4. 査読あり
7. Korenaga, Y., Yoshioka, K., Nakafuji, H., Nakamura, E., Sakai, S., Shinaya, K., & Fukuda, K., (2015). Improvement of Teachers' Skill for Children's Behavioral Problem in Schools through a Cognitive-Behavioral Approach by Parent Training. *Joint international Symposium on "Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution" and "e-Asia Functional Materials and Biomass Utilization"* p-30, 1-3. 査読あり

②その他最近の業績

学会発表

1. 福田恭介・森久美子・志堂寺和則・松尾太加志・早見武人「感情語による瞳孔反応と抑うつとの関連」第31回日本生理心理学会大会（福井大学）2013.05.18
2. 福田恭介・鶴田咲季・志堂寺和則・松尾太加志・早見武人「まばたきの数と速度が印象形成に及ぼす効果」第74回九州心理学会（琉球大学）2013.11.17
3. 寧宇宇・志堂寺和則・福田恭介・松尾太加志・早見武人「ビデオ視聴における興味・

面白味による瞬目抑制」第22回まばたき研究会2014.03.29（大宮ソニックシティ）

4. K. Fukuda, The relationship between spontaneous eye blinks & cognitive processing. Symposium “Recent Research Topics on Eye Blink Behavior” at the *17th World Congress of Psychophysiology*. (Hiroshima, Japan) 2014.09.26
5. 是永陽子・吉岡和子・中藤広美・福田恭介「ペアレントトレーニングが保育士・教師の特別支援教育スキルアップに及ぼす効果」九州心理学会第75回大会2014.11.15（宮崎県　宮崎公立大学）
6. 福田恭介 ・松尾太加志・志堂寺和則・早見武人「瞬目時間分布に及ぼす刺激呈示確率の影響」第 23 回まばたき研究会 2015.3.29 （静岡県　三保園ホテル）
7. 福田恭介・上江洲成美・松尾太加志・志堂寺和則・早見武人「表情画像の呈示時間が瞬目発生に及ぼす効果」第33回日本生理心理学会大会　2015.5.23（グランフロント大阪）

シンポジウム

1. 第77回日本心理学会公募シンポジウム「こころの健康・臨床、健康支援、発達障がい者支援に役立つまばたき研究」（2013）　9 月20日（札幌コンベンションセンター）指定討論
2. 第78回日本心理学会シンポジウム「瞬目研究の新展開−画像処理によるデータ分析とドーパミンとの関連−」(2014)　9 月12日（同志社大学）指定討論

コラム

福田恭介「みいつけた！コラム1回目」福岡県保育協会通信（2013）第10号 p.10
福田恭介「みいつけた！コラム2回目」福岡県保育協会通信（2013）第11号 p.6
福田恭介「みいつけた！コラム3回目」福岡県保育協会通信（2013）第12号 p.7

③過去の主要業績

1. 田多英興・山田冨美雄・福田恭介：「まばたきの心理学ー瞬目行動の研究を総括する」289頁(1991)　北大路書房（京都）
2. K. Fukuda: Eye blinks: New indices of detection of deception. *International Journal of Psychophysiology*.　(2001)　40, 239-245.
3. K. Fukuda, John A. Stern, Timothy B. Brown, & Michael B. Russo　Cognition, Blinks, Eye-Movements, and Pupillary Movements During Performance of a Running Memory Task. *Aviation, Space, and Environmental Medicine* 76 (7), Section 2, C75-C85.　(2005).
4. 福田恭介「ペアレントトレーニング実践ガイドブックーきっとうまくいく。子どもの発達支援」258頁（2011）あいり出版（京都）

３．外部研究資金

日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究C「眼球運動・瞬目反応を用いた発達障害児の心理過程アセスメント」研究代表者（課題番号26380893）¥1,100,000　2014～2016年度

４．受賞

なし

５．所属学会

日本生理心理学会（評議員），九州心理学会（理事），日本心理学会，Society of Psychophysiological Research（SPR），日本行動療法学会，日本心理臨床学会，日本教育心理学会，International Organization of Psychophysiology (IOP)

６．担当授業科目

＜学部＞

実験測定法Ⅰ・２単位・　２年・前期，実験測定法Ⅱ・２単位・２年・後期，幼児教育心理学・２単位・２年・前期，教育心理学概論・２単位・２年・後期，知覚心理学・２単位・３年・前期，認知心理学・２単位・３年・後期，演習・２単位・３年後期･４年前期，卒業論文・６単位・４年・後期

＜大学院＞
臨床心理基礎実習・２単位・修士１年・通年，心理学研究法特論・２単位・修士１年・前期，認知心理学特論・２単位・修士１年・後期，臨床心理実習（学内）・１単位・修士２年・通年，臨床心理実習（施設）・１単位・修士２年・前期，特別研究・４単位・修士１・２年通年

７．社会貢献活動

・ 田川市教育支援委員会委員長
・ 九州心理学会理事
・ 日本生理心理学会評議員
・ 九州心理学会優秀発表賞選考委員
・ 福岡県立大学心理臨床研究査読委員

８．学外講義・講演

1. 特別支援教育スキルアッププログラム　5月29日～7月24日　5回　附属研究所
2. 中間高等学校学外授業「心理学入門」6月10日
3. 日本自動車研究所研究協力「無操作（自動）運転時のドライバー状態の変化と事故未然防止に関する研究」7月15日
4. 自由ヶ丘高等学校学外授業「心理学入門」7月23日
5. 教員免許状更新講習「ペアレントトレーニングの教育現場への応用」8月28日
6. 子ども発達療育相談PASTEL1周年記念講演「ペアレントトレーニングによる気になる子どもたちへの対応」筑紫野市生涯学習センター　9月6日
7. 第4回豊前市早期支援研修会「早期支援に生かすペアレントトレーニング」豊前市役所10月30日
8. 田川市子育てボランティア講座「ペアレントトレーニングによる子育て支援」田川市子育て支援センター　11月6日
9. 平成27年度特別支援教育連携研修会「特別支援学校におけるペアレントトレーニングについて」佐賀県立大和特別支援学校　12月11日
10. 直方市スキルアップセミナー1月8日～2月26日　5回　直方市公民館
11. 田川市役所メンタルヘルス研修会「メンタルヘルスケア研修」3月8日～3月17日　3回　田川市民会館

９．附属研究所の活動等

1. 附属研究所長
2. 「お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）」の企画と運営
3. 「教師・保育士のための特別支援教育スキルアッププログラム」の企画と運営
4. 「福岡県立大学山本作兵衛コレクション保存管理計画」ユネスコ提出資料の作成
5. Fukuoka Prefectural University Preservation and Management Plan for the Sakubei Yamamoto Collection submitted to UNESCO (2015) 英語版の作成
6. Joint International Symposium on “Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution” and ”e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2015”の開催

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	教授	氏名	細井　勇

１．教員紹介・主な研究分野

主な研究分野は、社会事業史研究である。日本の近代化過程の特質とは何か、その中で社会福祉は如何に形成されてきたか、とくに、近代日本におけるキリスト教の受容、その隣人愛に触発された慈善事業に関心がある。これまで、岡山孤児院と石井十次に関する研究を続けてきたが、最近では、その事業のモデルとなった英国バーナードズ、児童ケアの日英比較に発展し、さらに現在では、日英比較では見えてこないドイツ等におけるソーシャル・ペタゴジーに注目するようになり、その日本の社会的養護への導入を試行しようとしている。

旧産炭地筑豊の生活保護史とキリスト教学生運動史の研究は、もう一つのライフワークである。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

細井勇「自由と全体性」杉山博昭編『戦前期における社会事業の展開―自由と全体性の変遷をめぐって―』社会福祉形成史研究会,2015年

菊池義昭、細井勇編・解説『史料・岡山孤児院　機関誌編』全5巻,六花出版,2014年

細井勇「日露戦争後の感化救済事業とキリスト教」日本キリスト教社会福祉学会編『日本キリスト教社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房,2014年

細井勇「ジョージ・ミュラー　ー神の恵みの証としてのブリストル孤児院ー」室田保夫編『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房,2013年

〈論文〉

細井勇「ソーシャル・ペタゴジーと児童養護施設ー福祉レジームの観点からの国際比較研究」『福岡県立大学人間社会学部紀要』24-2, 1-21,2016年

細井勇「岡山孤児院12則と里親委託」『社会的養護とファミリーホーム』6号、122-127,2015年

細井勇「アメリカン・ボード宣教師Ｊ.Ｈ.ペティーから見た岡山孤児院―The Missionary Heraldの掲載記事よりー」『石井十次資料館研究紀要』別冊Ⅲ,95-106,2015年

細井勇「児童ケアの目的と方法：アイデンティティーの観点からーバーナードズと岡山孤児院の比較検討を通じてー」『キリスト教社会福祉学研究』45,16-30,2013年

②その他最近の業績

〈書評〉

細井勇「書評：木原活信著『社会福祉と人権』」『キリスト教社会福祉学研究』46号、2015年

細井勇「書評:津崎哲雄著『英国の社会的養護の歴史：子どもの最善の利益を保障する』」『社会福祉研究』54-4,2014年

細井勇「書評：室田保夫著『近代日本の光と影―慈善・博愛・社会事業をよむ』」『社会事業史研究』44号,2013年

〈その他〉

細井勇「児童養護のルーツ」日本児童養護実践学会関西ブロック『こそだち』創刊号,2016年

細井勇「ドイツ・ペタゴギーとラウエハウスードイツの児童福祉施設を訪問して」『石井十次資料館研究紀要』16,2015年

細井勇「2104年度の研究活動報告並びに科研費研究「岡山孤児院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究(2010-2014)の成果報告」『石井十次資料館研究紀要』16, 2015年
細井勇「発刊にあたって」『石井十次資料館研究紀要』別冊Ⅲ（科研費研究「岡山孤児院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究」代表細井勇最終報告書）2015年
細井勇「結びにかえて」並松秀邦編『福岡県立大学社会福祉学会報告書　平成22年～26年、大会報告』福岡県立大学, 2015年
細井勇、菊池義昭、元村智明編『石井十次資料館蒐・所蔵資料仮目録　簿冊文書の部　高鍋図書館所蔵』石井十次研究会, 2014年
細井勇　「巻頭言」『石井十次資料館研究紀要』別冊Ⅱ（科研費研究「岡山孤児院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究」代表細井勇中間報告書）2014年
細井勇「スウェーデン及び英国出張報告」『石井十次資料館研究紀要』14, 2013年
細井勇、菊池義昭、三上邦彦、高松誠、飛田圭吾『（第16回石井十次セミナー冊子）石井十次に影響を与えたバーナードホームと現在のバーナードズ』石井十次研究会, 2013年

〈学会報告等〉
細井勇「（基調講演）日本の社会的養護に求められる専門性としてのソーシャルペタゴギーの役割と意義について」日本児童養護実践学会第8回研究大会（於大阪成蹊短期大学）2016年2月28日
細井勇、山内未紗希、三原博光「ドイツ・ペタゴギーと児童養護施設－現地訪問調査を通じて」日本社会福祉学会63回秋季大会（於留米大学）2015年9月20日
細井勇「（基調講演）歴史から学ぶ社会的養護実践」日本児童養護実践学会第6回研究大会（於目白大学）2014年2月15日
細井勇「児童ケア・リーヴァーの出生記録及びケア記録へのオープン・アクセスについて―英国バーナードズの経験から―」日本社会福祉学会第61回秋期大会（於北星学園大学）2013年9月21日

③過去の主要業績
細井勇・菊池義昭編・解説『岡山孤児院関係資料集成』全３巻、不二出版、2009年
細井勇『石井十次と岡山孤児院―近代日本と慈善事業―』ミネルヴァ書房、2009年
田川地区社会福祉研究会・細井勇監修『福岡県田川福祉事務所四十年史』、1996年
共著『山室軍平の研究』同朋社、1991年

５．所属学会
日本社会福祉学会、日本基督教社会福祉学会（理事）、社会事業史学会、司法福祉学会、同志社大学社会福祉学会、日本子ども虐待防止研究会、日本児童養護実践学会、福岡県立大学社会福祉学会（会長）

６．担当授業科目
（学部）
社会福祉概論Ⅰ・２単位・１年前期、社会福祉史入門・２単位・１年後期、児童福祉論／児童家庭福祉・２単位・２年前期、社会福祉発達史・２単位・３年後期、施設養護論・２単位・４年前期、社会福祉相談援助実習指導・３単位・２年～３年、社会福祉相談援助実習・４単位・３年、相談援助演習Ｃ・１単位・３年後期、社会福祉学演習・２単位・３年後期～４年前期、卒業論文・６単位・４年後期
（大学院）
社会福祉研究・２単位・前期、社会福祉演習・１単位・後期、特別研究・４単位・通年、フィールドワーク・２単位・１年後期

７．社会貢献活動

福岡県日常生活自立支援事業契約締結審査会委員
児童養護施設栄光園　評議員

８．学外講義・講演

細井勇「児童養護施設が果たしてきた役割と今日的課題」兵庫県児童養護施設連絡協議会（於兵庫県社会福祉協議会）2016年2月9日
細井勇「子ども家庭福祉と放課後児童クラブ」「特に配慮を必要とする子どもの理解」学童保育協会（於北九州市ムーブ）2015年12月19日
細井勇、同上（於苅田町中央公民館）2015年11月8日

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	教授	氏名	本郷　秀和

１．教員紹介・主な研究分野

私は、福祉活動に取り組むNPO法人において、社会福祉士・介護福祉士等として相談員や介護業務、運営管理業務等に従事した経験があることから、高齢者福祉活動（ソーシャルワークや介護、各種の生活支援）に取り組むNPO法人の役割にこれまで着目してきました。

現在の研究テーマとしては、①高齢者のニーズに応える生活支援サービス（特にNPO法人が提供するサービス）の提供に関する研究、②高齢者の権利擁護に関する研究（例：介護サービスの評価や苦情解決、高齢者虐待の予防と対応、認知症高齢者の地域支援等）、③高齢者が住み慣れた地域で生活が継続できるためのソーシャルワークの今後の展開（特に様々なニーズに応えられるためのサービス開発の推進方法や管理運営等等）に関するものがあります。また、研究上意識することとして、社会福祉に関する調査結果等を用いて、現実の福祉課題を抽出・発見し、それを福祉実践にフィードバックしていくことで現実の社会福祉サービスの向上に貢献できればと考えています。

２．研究業績

①最近の著書・論文（2013-2015年度）

1）本郷秀和「第14章 ソーシャルワーク -社会福祉の相談援助-」「第16章 社会福祉の諸問題とコメディカルへの期待」、鬼崎信好・本郷秀和編著『コメディカルのための社会福祉概論 第3版』2016年3月発行予定.

2）下田学・本郷秀和 「認知症高齢者に関する成年後見制度の利用支援の課題 －福岡県内の主要相談機関を中心に－」『九州社会福祉学』第 12 号、日本社会福祉学会 九州部会発行、2016 年 3 月発行予定.

3）本郷秀和・梶原浩介・田中将太「相談援助実習ガイドラインからみた相談援助実習の学習意識－福岡県立大学「相談援助実習」履修生の学習課題―」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 24 巻第 1 号、2015 年 9 月.

4）本郷秀和・永田千鶴・鬼﨑信好・荒木剛、「調査報告 フィンランド高齢者福祉を巡る動向Ⅰ（公的機関編）-2012-2013年度のヒアリング調査結果の紹介-」『福岡県立大学人間社会学部紀要 第23巻第1号』2014年9月.

5）永田千鶴・北村育子・松本佳代・東清巳・松本千晴・本郷秀和「エイジング・イン・プレイスを果たす認知症高齢者ケアモデルの開発－小規模多機能事業所併設グループホームにおけるケアサービスの探究－」『熊本大学医学部保健学科紀要』第10号、熊本大学医学部保健学科、2014年3月（※査読有）.

6）本郷秀和「第14章 社会福祉の相談援助」「第16章 社会福祉を巡る諸問題とこれからの社会福祉援助」、鬼崎信好編『コメディカルのための社会福祉概論 第2版』、講談社、2014年2月（※2015年3月に重版発行）.

7）本郷秀和「高齢者虐待の兆候察知における介護支援専門員の課題 －福岡市・北九州市の介護支援専門員の現状と意識－」『社会福祉学』第54号第2巻,日本社会福祉学会,2013年8月(※査読有).

8）田中将太・本郷秀和「主要職歴からみた介護系 NPO のマネジメントの課題－市民性・社会変革性・組織安定性とマネジメント意識-」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 20 巻第 2 号,2013 年 7 月.

②その他最近の業績（2013-2015 年度）

1）永松美奈子・本郷秀和、「北九州市における特別養護老人ホームの職場内集合研修の現状と課題1　―介護職員へのアンケート調査結果の紹介―」日本社会福祉学会 第53回大会 九州部会 口頭発表（会場：九州保健福祉大学）、2015年6月.

2）共著、科研費調査報告書「利用者本位の介護サービス評価システムの開発に関する研究」2015 年 3 月.

3）趙秀眞（ジョスジン）・本郷秀和「特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）における施設社会化の現状と課題」日本社会福祉学会第52回大会九州部会口頭発表（会場：鹿児島国際大学）、2014 年 6 月.
4)本郷秀和「相談援助実習における直前指導の現状と課題～高齢者福祉領域を中心に～」2013年度日本社会福祉士養成校協会 九州ブロック研究大会口頭発表（会場：沖縄国際大学）2014 年 2 月.
5）本郷秀和「高齢者虐待のリスク把握に関する介護支援専門員の現状と意識 」日本社会福祉学会第54回大会九州部会　口頭発表（会場：クローバープラザ）、2013年6月.
6）永田千鶴、本郷秀和 、北村育子、東清巳、松本佳代、松本千晴「エイジング・イン・プレイスを果たす認知症高齢者ケアモデルの開発　－地域密着型介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）編－」日本老年看護学会第 17 回学術集会 口頭発表（会場：石川県金沢市歌劇座、主催：石川県立看護大学)、2012 年 7 月.
7）田中将太・本郷秀和、「介護系NPOにおけるマネジメントの必要性と課題　―エクセレントNPO評価基準を用いた九州・沖縄地域の実態調査を通じて―」日本社会福祉学会第53回大会九州部会口頭発表(会場：久留米大学)、2012年6月

③過去の主要業績［2011年度以前、3点以内］
1）本郷秀和、「介護保険制度下のNPO法人におけるソーシャルワーク実践の方向性」、『日本の地域福祉』第17巻、日本地域福祉学会、2003年3月.
2）本郷秀和・鬼﨑信好・佐伯幸雄、「指定福祉NPOにおける社会福祉士の役割」『日本の地域福祉』第20巻、日本地域福祉学会、2006年3月.
3）本郷秀和、「第6章 福祉NPOが地域の主体となって取り組む」妻鹿ふみこ編著『地域福祉の今を学ぶ -理論・実践・スキル-』ミネルヴァ書房、2010年3月.

３.外部研究資金（2015年度のみ）
①平成26-29年度 科学研究費補助金【基盤研究C】（共同）※研究代表：本郷秀和、テーマ：「介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題」468万円(総額)
②平成25-28年度 科学研究費補助金【基盤研究C】（共同）※研究代表:永田千鶴(山口大学)、テーマ：「エイジング・イン・プレイスを果たす地域密着型事業所別認知症高齢者ケアモデルの開発」370万円（総額）.

４．所属学会
①日本社会福祉学会　②日本地域福祉学会　③日本社会福祉士会　④日本介護福祉学会
⑤日本老年看護学会　⑥日本高齢者虐待防止学会

５．担当授業科目（2015年度のみ）
〈学部：人間社会学部〉
①「相談援助の基盤と専門職Ⅱ」(2単位・1年後期)
②「社会貢献論」(2単位・1年前期・共同)
③「相談援助実習指導」(3単位・3年通年・共同)　④「相談援助実習」(4単位、3年通年)
⑤「相談援助実習指導」 (3単位・2年通年・共同)
⑥「相談援助の理論と方法B」(2単位・2年前期)
⑦「社会福祉学演習」(4単位・3年後期～4年前期・通年)
⑧「卒業論文」(6単位・4年次後期)　⑨「社会貢献論演習」(2単位・1年後期・共同)
⑩「福祉経営論」(2単位・3年前期)　⑪「相談援助演習A」(2単位・2年通年)
⑫「相談援助演習C」(1単位、3年後期)
〈大学院：人間社会学研究科（社会福祉専攻）〉
⑬「高齢者福祉研究」(2単位・1年後期)　⑭「高齢者福祉演習」(2単位・1年前期)
⑮「特別研究」(4単位・1-2年通年)　⑯「フィールドワーク」(2単位・1年後期)

６．社会貢献活動（2015年度のみ）
①福岡県社会福祉協議会　運営適正化委員会　委員
②福岡県社会福祉協議会　運営適正化委員会委員会　苦情解決小委員会委員
③福岡県社会福祉協議会　外部評価 評価審査委員会（地域密着型外部評価事業）
④福岡県国民健康保険団体連合会　介護給付費審査会審査委員
⑤篠栗町(福岡県粕屋郡)　地域福祉計画策委員会（委員長）
⑥篠栗町社会福祉協議会(福岡県粕屋郡)　地域福祉活動計画策委員会（委員長）
⑦嘉麻市（福岡県）地域福祉計画策定員会 委員
⑧田川市地域包括ケア調整会議 委員（福岡県）
⑨日本社会福祉学会九州部会運営委員（※九州部会研究誌「九州社会福祉学」査読委員）
⑩日本高齢者虐待防止学会 学会誌『高齢者虐待防止研究』査読委員.
⑪玉名荒尾地区（熊本県)「障害者児の生活を豊かにする会」(任意団体）会員・会計監査
⑫NPO 法人地域たすけあいの会（訪問介護・通所介護・居宅介護支援・住宅型有料老人ホーム、学童保育、配食、福祉有償運送、障害者総合支援法に基づく事業等を実施）理事代表.
⑬福岡県立大学社会福祉学会　事務局長他.

７．学外講義・講演（2015年度のみ）
①平成 27 年度 福岡県人権相談従事者研修「高齢者と虐待問題」(主催：福岡県人権啓発情報センター）講師、2015 年 9 月（会場：福岡県人権啓発情報センター）他.

【※資格等】博士（社会福祉学）、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、救急救命士、介護支援専門員、専門社会調査士他.

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	岩橋　宗哉

１．教員紹介・主な研究分野

1992年　九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程単位取得後退学。九州大学教育学部助手（心理教育相談室主任兼務）、緑風会水戸病院臨床心理士、久留米大学医学部神経精神医学講座助手を経て、2001年より福岡県立大学に勤務。

（１）現在まで、主に病院において精神分析的心理療法を行ってきた。治療関係の中でクライエントの内的世界をともに体験しながら、対象関係論的な観点からクライエントの転移を理解し、その理解をもとにどのようにクライエントに関わり、理解を伝えていくことが治療的であるのかを明確にしていくことを最も重要な研究分野としている。（２）どのような立場に立つ心理療法であれ、クライエントが主体になることを援助している側面があると考える。主体的になることを援助するかかわりとはどのようなものか、つまり、多様な心理療法に共通する中核的なかかわりとはどのようなもので、それを現実に行っていくためにはどのような条件が必要かということを明らかにしていきたいと考えている。それは、臨床心理行為を明確化することでもある。（３）臨床心理士養成の初期段階で、臨床心理行為の重要性と特性を習得するための養成モデルを構想していきたいと考えている。

２．研究業績

①　最近の著書・論文

論文

・岩橋宗哉「同一化を創造的に機能させる基盤としての結合対象へ―よい対象との失われた共通基盤を求めて―」『福岡県立大学心理臨床研究』第７巻　2015年３月

・岩橋宗哉「境界領域で＜私＞が形成される物語としての古事記中巻（Ⅰ）―神武記：万能的思考によるコトへの信念とそれを維持するための三項構造―」『福岡県立大学心理臨床研究』第６巻　2014年３月

・岩橋宗哉「境界領域で＜私＞が形成される物語としての古事記中巻（Ⅱ）―崇神記：コトと事の乖離による万能的思考の維持―」『福岡県立大学心理臨床研究』第６巻　2014年３月

・岩橋宗哉「境界領域で＜私＞が形成される物語としての古事記中巻（Ⅲ）―垂仁記：異なる存在を認めるための言を拓く＜私＞の誕生―」『福岡県立大学心理臨床研究』第６巻　2014年３月

・岩橋宗哉「境界領域で＜私＞が形成される物語としての古事記中巻（Ⅳ）―景行記：主体的な＜私＞の誕生と＜相手の内側の私の存在＞についての問い―」『福岡県立大学心理臨床研究』第６巻　2014年３月

・岩橋宗哉「境界領域で＜私＞が形成される物語としての古事記中巻（Ⅴ）―仲哀記：コトの吟味のために事の世界を主体的に確認する＜私＞の誕生―」『福岡県立大学心理臨床研究』第６巻　2014年３月

・岩橋宗哉「境界領域で＜私＞が形成される物語としての古事記中巻（Ⅵ）―応神記：コトに従わせる道徳と異なる者と交される言への信頼―」『福岡県立大学心理臨床研究』第６巻　2014年３月

②　その他最近の業績

・岩橋宗哉「かたちになる部分とかたちにならない部分」『福岡県立大学心理臨床研究』第8巻　2016年3月

・村田節子・岩橋宗哉・岩崎玲奈「患者に寄り添うコミュニケーション技術を高めるプログラム第２報－ロールプレイ演習とリフレクションによる評価－」第30回日本が

ん看護学会学術集会　千葉　2016年2月
・村田節子・岩橋宗哉「患者に寄り添うコミュニケーション技術を高めるプログラム―ロールプレイ演習のリフレクションによる評価―」第29回日本がん看護学会学術集会　横浜　2015年2月

③過去の主要業績

・岩橋宗哉・大崎知子「間主観的な場における体験の具体化とそれへの主観的妥当性確認について」『心理臨床学研究』第16巻第2号　1998年6月
・岩橋知子・岩橋宗哉「重度痴呆性老人の体験を共有しようとする試み―抱える環境としてのプレバーバルな関わり―」『心理臨床学研究』第17巻第1号　1999年4月
・岩橋宗哉「結合両親像によって破壊され創造される自己の方向感覚―精神分裂病者との心理療法過程から―」『心理臨床学研究』第17巻第６号　2000年2月

３．外部研究資金

なし

４．受賞

なし

５．所属学会

日本心理臨床学会、日本精神分析学会、日本人間性心理学会

６．担当授業科目

心身科学B・2単位・2年・後期、臨床心理学・2単位・3年・前期、演習・2単位、3～4年、通年、教育相談・2単位・4年・前期、卒業論文、6単位、4年・通年、臨床心理基礎実習・2単位・1年・通年、臨床心理学特論・4単位・1,2年・通年、臨床心理実習・2単位・2年・通年、心理臨床実習（施設）・1単位・2年・前期、特別研究・４単位・1～2年・通年、臨床心理学特論（看護学研究科）・2単位・1年・後期

７．社会貢献活動

・久留米大学病院精神神経科付属カウンセリングセンター臨床心理士
・飯塚市子どもなんでも相談事業専門相談員

８．学外講義・講演

・教員免許状更新講習　教育の最新事情　「『子どもの心』をはぐくむための関わり方」講師　2015年8月27日

９．附属研究所の活動等

福岡県立大学心理教育相談室　室長

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	岡本　雅享

１．教員紹介・主な研究分野

1997年横浜市立大学大学院国際文化研究科修士課程修了。2000年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。国際学修士。社会学博士。1991～93年、中国の北京師範学院（現在、首都師範大学）、中央民族大学民族語言三系（現在、中央民族大学少数民族語言学院）に留学、少数民族二言語教育の研究・調査を行う。2008年度、San Francisco State University（College of Ethnic Studies, Japanese American Studies)でVisiting Scholar。学内外で”Hidden Diversity of the Japanese People”に関する講演等を行う。

1989年以来、在日韓国・朝鮮人問題を起点とし、マイノリティの権利保障のための研究・活動に従事してきた。国連ECOSOC NGOでの3年間の勤務を含め、ジュネーブ国連欧州本部を中心とした国連人権活動に報告・提言の提出、会議への参加・発言等を通じて参加。

現在は、日本社会がますます多民族、多文化化する中で、あらためて明治以降の日本におけるNationの創造、混合民族論から単一民族論への変遷など、民族、言語、宗教、文化の各方面から、日本人（国籍者）内部の多様性を解き明かす作業を、出身地である出雲の視点から、試みている。

２．研究業績

①著書・論文（2013～2015年度）

＜著書＞

・『レイシズムと外国人嫌悪』（共著）明石書店、2013年
・『なぜ、いまヘイト・スピーチなのか』（共著）三一書房、2013年
・『民族の創出』（単著）岩波書店、2014年

＜論文＞

・「海の道のフロンティアとしての出雲」『現代思想』41 巻 16 号、2013 年
・「多元社会日本」別冊環20『なぜ今、移民問題か』藤原書店、2014年
・「日本的民族認同―從「出雲民族」案例看多元民族國家觀的建構」『民族学界』第36期、2015年

②その他の業績（2013～2015年度）

・新聞連載「出雲を原郷とする人たち」『山陰中央新報』2011年4月～2016年1月（全104回）紀伊編3回、越後佐渡編20回、信濃国編8回、武蔵国編5回、岩代国編6回、上野国編2回大和国編8回、山城国編2回、丹波国編1回、播磨国編1回、壱岐・新羅国編1回
・書評『琉球諸語の復興』（沖縄大学地域研究所編）『週間読書人』2013年11月22日
・書評『日本型排外主義』（樋口直人著）『大原社会問題研究所雑誌』675号、2015年1月
・週刊誌「神話と日本の民族意識」『週刊金曜日』23巻5号、2015年2月6日
・招聘報告「出雲からみた日本のネーションビルディング」関西学院大学先端社会学研究所定期研究会、2013年11月29日

③過去の主要業績（2013年度以前、3点）

・『中国の少数民族教育と言語政策（増補改定版）』社会評論社、2008年（単著）。
・『日本の民族差別―人種差別撤廃条約からみた課題』明石書店、2005年（監修・編著)。
・「中国のマイノリティ政策と国際規準」叢書「現代中国の構造変動」第７巻・毛里和子編著『中華世界――アイデンティティの再編』東京大学出版社、2001 年。

３．外部研究資金（今年度）

４．受賞（今年度）

５．所属学会（今年度）
・日本平和学会、エミシ学会

６．担当授業科目（今年度）
国際政治学・２単位・１年・前期、多文化社会論・２単位・2年・前期、東アジア関係史・２単位・2年・後期、政治学Ⅰ・２単位・２年・前期、政治学Ⅱ・２単位・２年・後期、国際共生研究・4単位・2年・通年、公共社会学研究・4単位・3年・通年、卒論指導・4単位・4年・通年

７．社会貢献活動（今年度）

８．学外講義・講演（今年度）
・筑豊市民大学「記紀神話と出雲神話―そして筑前との縁」2016年2月14日、福岡県田川市

９．附属研究所の活動等（今年度）

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	准教授	氏名	奥村　賢一

１．教員紹介・主な研究分野

私が現在行っている主要な研究分野は、以下の三点になります。

一つ目は、「学校ソーシャルワーク実践に関する研究」です。近年、複雑多様化する不登校・いじめ・非行等の学校教育問題を解決していくためにスクールソーシャルワーカーに課せられた専門的役割や機能について実践研究を行っています。

二つ目は、「児童虐待防止に向けた支援方法に関する研究」です。わが国の深刻な社会問題である児童虐待を早期発見・未然防止していくための支援方法として、アウトリーチを中心としたソーシャルワークについて研究を行っています。

三つ目は、「知的障害・発達障害（児）者の地域生活支援に関する研究」です。ノーマライゼーションの理念普及から知的障害・発達障害（児）者においても地域生活の充実を推進していく動きが高まりを見せていますが、現実的には利用可能な社会資源は限られており、障害特性に対応した専門的支援も不足しています。これらの状況から、地域生活の質を向上させる専門的支援方法等の研究に取り組んでいます。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

・門田光司・奥村賢一 監修、福岡県スクールソーシャルワーカー協会編集『スクールソーシャルワーカー実践事例集―子ども・家庭・学校支援の実際』，中央法規出版，2014 年 4 月．

＜論文＞

・奥村賢一「スクールソーシャルワーカーが相談対応する児童虐待の実態と実践課題―配置型と派遣型の活動形態に焦点化して―」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻，第2号，2016年2月．

・奥村賢一「スクールソーシャルワーカーのスーパービジョン」『学校ソーシャルワーク実践の動向と今後の展望』日本学校ソーシャルワーク学会10周年記念誌，2015年6月．

・住友雄資・畑　香理・平林恵美・奥村賢一「2013年度教育実践報告：「精神保健福祉援助実習指導―新カリキュラム導入を目前としたシラバス等の改変について―」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻，第1号，2014年7月．

・奥村賢一「スクール（学校）ソーシャルワーク実習に関する実態調査」『学校ソーシャルワーク研究』第 8 巻，2013 年 6 月．

・門田光司・鈴木庸裕・半羽利美佳・比嘉昌哉・浜田知美・大門俊樹・奥村賢一 「スクールソーシャルワーカーに対するスーパービジョン体制の動向調査結果の概要」『学校ソーシャルワーク研究』第 8 巻，2013 年 6 月．

②その他最近の業績

＜報告書＞

・門田光司・鈴木庸裕・半羽利美佳・比嘉昌哉・大門俊樹・奥村賢一 『スクールソーシャルワーカーのスーパービジョン研究―日本・アメリカ・カナダ・韓国での調査報告―』科学研究費助成事業（基盤研究 B）研究報告書，2014 年 2 月．

・奥村賢一『スクール（学校）ソーシャルワーク現場実習プログラムの構築に向けた基礎研究』科学研究費助成事業（若手研究 B）研究報告書，2013 年 3 月．

＜学会講演･シンポジウム･報告等＞

・奥村賢一「学校ソーシャルワーク研究の展望と課題」日本ソーシャルワーク学会セミナー2015，シンポジウム（大妻女子大学），2015年11月．

・奥村賢一「スクールソーシャルワーカーの組織化を図る～福岡県スクールソーシャルワーカー協会の活動を通して～」日本学校ソーシャルワーク学会第10回記念全国大会，基調報告（福岡国際会

議場）2015年7月.
・奥村賢一「児童虐待防止に向けた学校ソーシャルワーク実践に関する実態調査－活動形態の比較による被虐待児童生徒の状況分析」日本学校ソーシャルワーク学会第8回全国大会，自由研究発表（福島大学），2013年7月.

③過去の主要業績

＜著書＞
・奥村賢一「第 7 章 スクール（学校）ソーシャルワーカーとスーパービジョン」社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『スクール（学校）ソーシャルワーク論』，中央法規出版，2012 年 4 月.
・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと－スクールソーシャルワーカーのための実践ガイド』中央法規出版，2009 年 9 月.

＜論文＞
・奥村賢一「不登校児童生徒の状況改善に向けた家族支援の有効性に関する一考察－パワー交互作用モデルを基盤にした学校ソーシャルワーク」『学校ソーシャルワーク研究』第 4 巻，2009 年 6 月.
・奥村賢一「ストレングスの視点を基盤にしたケースマネジメントの有効性に関する一考察－軽度知的障害者の地域生活支援実践を通して」『社会福祉学』第 50 巻，第 1 号，2009 年 5 月.

３．外部研究資金

・科学研究費補助金（若手研究B）「ネグレクト防止に向けた学校ソーシャルワーク実践に関する基礎的研究」195万円，平成25年度～平成26年度．※期間延長
・門田光司（研究代表者）科学研究費（基盤研究C）「スクールソーシャルワーカーの専門性向上のためのスーパービジョン・プログラムの開発」1,289万円，平成23年度～平成27年度，共同研究者.

４．受賞

なし

５．所属学会

日本社会福祉学会（代議員）、日本学校ソーシャルワーク学会（理事兼事務局長）、日本ソーシャルワーク学会、日本子ども虐待防止学会、福岡県立大学社会福祉学会

６．担当授業科目

＜学部＞学校ソーシャルワーク論・1単位・4年・前期、学校ソーシャルワーク実習指導・1単位、4年・前期、学校ソーシャルワーク実習・2単位・4年・後期、相談援助の理論と方法C・2単位・2年・後期、相談援助演習B・4単位・3年・通年、社会福祉学演習・4単位・3年～4年・後期～前期、卒業論文・6単位・4年・後期、家族福祉論・2単位・3年・後期、精神保健福祉援助実習・8単位・4年・通年、精神保健福祉援助実習指導・3単位、3～4年・通年、不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期、不登校・ひきこもり援助応用演習・1単位・4年・後期
＜大学院＞子ども家庭福祉研究・２単位・１・２年・前期

７．社会貢献活動

・日本学校ソーシャルワーク学会・理事兼事務局長
・福岡県スクールソーシャルワーカー協会・副会長
・福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー
・福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー

・福岡県教育委員会 不登校児童生徒学校等復帰支援事業運営協議会　委員
・田川市要保護対策地域協議会代表者会議・委員
・北九州市立今町小学校 学校評議員・学校関係者評価委員
・福岡県立博多青松高等学校・学校関係者評価委員
・糸島市いじめ防止等対策委員会・委員
・香春町いじめ防止等対策委員会・委員

８．学外講義・講演

＜講演＞

・平成 27 年度保健主事・養護教諭合同研修会「子どもを中心とした支援のあり方について」小郡市生涯学習センター，2016 年 2 月.
・平成 27 年度青少年相談担当（リーダー）連携対応研修会「発達に課題を抱える 子どもとネグレクト家庭への対応について」福岡県庁，2016 年 2 月.
・第 16 回 筑紫地区人権・同和教育研究大会 「子ども中心の支援とは～子どもたちの居場所、ありますか？～」ミリカローデン那珂川，2016 年 1 月.
・福岡市医師会研修会「家族システムズ・アプローチ～多問題家族への支援について考える～」福岡市医師会館，2015 年 12 月.
・第 14 回市民フォーラム『子どもにやさしいまちづくり』「子どもの権利と学校ソーシャルワーク」福岡市市民福祉プラザ，2015 年 12 月.
・平成 27 年度児童虐待防止セミナー「子どもの貧困と虐待からみる家族支援の必要性」まいピア高田，2015 年 11 月.
・平成 27 年度特別支援教育コーディネータースキルアップ研修 「愛着障がいの背景と支援の実際」大分県教育センター，2015 年 10 月.
・平成 27 年度スクールソーシャルワーカー活用事業連絡協議会「関係機関との連係について～要保護児童対策地域協議会の活用～」長崎県教育センター，2015 年 8 月.
・平成 27 年度宇多津町教育連携協議会夏季研修会「困った子は困っている子～ネグレクト家庭への支援を中心に～」香川県宇多津町保健センター，2015 年 8 月.
・長崎市教育相談夏季研修会「スクールソーシャルワーカーの効果的活用に向けて」長崎市民会館，2015 年 7 月.
・人権擁護委員研修会「スクールソーシャルワーカーの活動内容と効果的連係に向けて」福岡法務局西陣出張所庁舎，2015 年 7 月.

＜メディア＞

・小学館「子どもの虐待・愛着不全　学校に何ができるのか」『小四教育技術　9月号』2015年8月17日.
・テレビ西日本「虐待の実態とは～“コドモは, 未来”連動企画」『土曜NEWSファイルCUBE』2015年8月1日.
・朝日新聞「専門家、歓迎と注文　カウンセラー、全校に配置方針」2015年7月4日.
・毎日新聞「非行情報、警察と共有へ…市教委」2015年5月22日.

その他多数

９．附属研究所の活動等

・不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

【上記とは別にＨＰ掲載する主な研究内容（１～３の項目数の範囲で）及び保有学位】

（研究内容）
１．学校ソーシャルワーク実践に関する研究
２．児童虐待防止に向けた支援方法に関する研究
３．知的障害・発達障害（児）者の地域生活支援に関する研究

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	櫻井　国芳

１．教員紹介・主な研究分野

上越教育大学大学院学校教育研究科芸術系コース（美術）修了。1998年、本学に着任。絵画制作を主な研究主題とし、公募展やグループ展、コンクールへの出品を続けている。
授業は、保育士や幼稚園教諭養成のための「造形」や「表現」などを担当している。

２．研究業績

①最近の著書・論文

なし

②その他最近の業績

＜作品発表＞

- 2014年２月　全日本アートサロン絵画大賞展（国立新美術館、大阪市立美術館）
- 2014年10月　MBCサムホール美術展（鹿児島・黎明館）
- 2015年２月　全日本アートサロン絵画大賞展（国立新美術館、大阪市立美術館）
- 2015年10月　MBCサムホール美術展（鹿児島・黎明館）
- 2016年２月　全日本アートサロン絵画大賞展（国立新美術館、大阪市立美術館）

③過去の主要業績

＜学術論文＞

- 1999年９月　「構成的表現・モダンテクニックに見られる表現過程の在り方」
  『福岡県立大学紀要』第８巻第１号　81～93p

＜作品発表＞

- 2004年10月　第72回独立展（独立美術協会・東京都美術館）
- 2012年４月　2012独立春季選抜展（東京都美術館）

３．外部研究資金

なし

４．受賞

・優秀賞（2016年２月　全日本アートサロン絵画大賞展）

５．所属学会

独立美術協会会友

６．担当授業科目

造形Ⅰ・２単位・１年・通年、造形Ⅱ・２単位・２年・通年、保育内容表現Ⅰ・１単位・３年・前期、保育内容表現Ⅱ・１単位・３年・後期、保育実習指導III・１単位・３年・後期、保育・教職実践演習（幼稚園）・１単位・４年・後期、保育内容演習・２単位・４年・後期、演習・２単位・３年後期～４年前期、卒業論文・６単位・４年・後期

７．社会貢献活動

なし

８．学外講義・講演

・　筑陽学園高校（2015年７月）
・　韓国・威徳大学教員、学生への学科説明・紹介（2016年２月）

９．附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	佐野　麻由子

１．教員紹介・主な研究分野

1999年立教大学社会学部社会学科を卒業。2006年3月立教大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程修了。博士（社会学）の学位を取得。お茶の水女子大学非常勤講師、フェリス女学院大学非常勤講師、立教大学社会学部助教等を経て2012年10月に本学着任。

主な研究分野は、社会学の中でもジェンダー、社会運動（変動）。「社会的課題を解決するための意図的な社会変革はどのような条件下で可能か」という関心のもと、（1）ネパール地域をフィールドに社会的達成における男女の非対称性を生み出す社会構造、その維持/変革につながる要因の社会学的分析、（2）左研究の知見の開発援助政策への応用および還元に取り組んでいます。

博士前期課程在籍中の2000～2001年に立教大学派遣交換留学生としてネパール国立パドマ・カンニャ・キャンパス・ウイメンズ・スタディ・コースに在籍。また、2003～2005年の期間に日本学術振興会特別研究員奨励費でネパールでのフィールドワークを実施するなど、長年ネパール社会に関わってきました。現在は、「ネパールにおける市場化・準市場化と男児選好」という研究テーマで「失われた女性たち（男児選好による選択的中絶、少女売買、女児の育児放棄）」の促進要因を解明することに取り組んでいます。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

佐藤寛・浜本篤史・佐野麻由子・滝村卓司，2015，『開発社会学を学ぶための60冊：援助と発展を根本から考えよう』明石書店.

佐野麻由子，2013，「身体経験にみるジェンダー秩序とその変容」鈴木紀・滝村卓司編『みんぱく実践人類学8巻　国際開発と協働-NGOの役割と ジェンダーの視点』明石書店，157-192.

佐野麻由子，2013，「北の女性と南の女性―相対化と判断停止」伊藤陽一他編『グローバル・コミュニケーション―キーワードで読み解く生命・文化・社会』ミネルヴァ書房, 105-122.

＜論文＞

佐野麻由子，2015，「ネパールにおける男児選好とその要因」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号，17～32.

佐野麻由子，2015，「途上社会の貧困，開発，公正」宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『国際社会学』有斐閣，148～165.

②その他最近の業績

＜学会発表＞

Mayuko SANO, 13 July 2014, Economic, *Social Change and Son-Preference in Nepal (*oral presentation)，RC06 (Committee on Family Research) programme of XVIII　ISA（International Sociological Association）World Congress of Sociology，Pacifico Yokohama.

佐野麻由子，「開発教育手法の社会学専門教育との接合―その効果と課題」，2013年12月1日，第24回国際開発学会大会，大阪大学吹田キャンパス.

佐野麻由子，「ネパールにおける性比問題へのアプローチ」，2013年9月7日，国際ジェンダー学会　2013年大会，和洋女子大学.

＜書評＞

佐野麻由子，2013，「書評：笹岡雄一著『グローバルガバナンスにおける開発と政治――国際開発を超えるガバナンス』明石書店」『国際開発研究』第22巻第2号，73-75.

＜報告書＞

佐野麻由子・堤圭史郎，2014，『平成25年度研究奨励交付金報告書―持続可能な生計論に依

拠した社会的排除問題への取り組み』.
＜研究ノート＞
佐野麻由子，2014，「ネパールにおける市場化・準市場化と男児選好」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 22 巻第 2 号，103-116.

③過去の主要業績
＜著書＞
佐野麻由子，2012，「開発・発展におけるジェンダーと公正―潜在能力アプローチから」宮島喬・杉原名穂子・本田量久編『公正な社会とは―教育、ジェンダー、エスニシティの視点から』人文書院，240-258.
小川（西秋）葉子・川崎賢一・佐野麻由子共編著，2010,『〈グローバル化〉の社会学：循環するメディアと生命』恒星社厚生閣.
佐野麻由子，2007,「平和とジェンダー」宮島喬・五十嵐暁郎編『平和とコミュニティ』明石書店140-162.
＜論文＞
佐野麻由子，2012，「開発援助プロジェクトとサステイナビリティ―社会学的制度論からのサステイナビリティの検討」『国際開発研究』第21巻1/2号，　47-57.
佐野麻由子，2011，「ネパールの社会運動組織の資源動員源にみる社会構造―予備的考察」『立教大学社会学部・応用社会学研究』第53号，227－236.
佐野麻由子，2010，「社会学的制度論の開発プロジェクトへの応用可能性―「組織・制度づくり」の評価項目に向けて」『国際開発研究』第19巻第1号，13-22.
＜学会発表＞
佐野麻由子,「オープンシステムサイエンスからの開発とジェンダー再考」，2011年9月18日，第84回日本社会学会大会，関西大学千里山キャンパス.
佐野麻由子,「開発援助研究における社会学の立ち位置」，2011年11月27日，第22回国際開発学会大会，名古屋大学東山キャンパス.

３．外部研究資金
文部科学省科学研費補助金・若手研究B、研究課題名「ネパールの男児選好にみるジェンダー、カースト・民族、機能分化的社会関係」（課題番号15K117189）、（平成27～29年度）、3900千円.

４．受賞
なし

５．所属学会
日本社会学会、関東社会学会、国際開発学会

６．担当授業科目
国際社会学Ⅰ・2単位・1年・前期、国際社会学Ⅱ・2単位・1年・後期、国際協力論・2単位・3年・後期、NPO論・2単位・3年生・後期、国際共生研究Ⅰ・1単位・2年・前期、国際共生研究Ⅱ・1単位・2年・後期、社会調査実習・2 単位・3 年・通年、公共社会学研究・2単位・3年・前期、公共社会学研究・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年、地域教育支援研究ⅡB。

７．社会貢献活動
国際開発学会編集委員会　委員
田川郡添田町総合戦略策定推進会議　副委員長（2015年）
田川郡福智町男女共同参画審議会　委員長（2015年）

８．学外講義・講演

佐野麻由子 「アジア女性交流・研究フォーラム（KFAW）主催アジア研究者ネットワークセミナー「ネパールの失われた女性たち」」（2014 年 7 月 25 日 18：30〜20：00 於北九州市立男女共同参画センター・ムーブ小セミナールーム）。

９．附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・一般教育等	職名	准教授	氏名	Stuart Gale

１．教員紹介・主な研究分野

Stuart Gale was born and raised in Hertfordshire, England. After graduating from The University of Leeds with a BA in history, he briefly worked in London before pursuing a teaching career in Japan. He returned to London to study for a Master's degree in English language teaching, passing with a distinction grade in 2002. Since then, he has taught at Fukuoka Women's University, Fukuoka University, Kyushu University, and Kyushu Sangyo University. He joined the staff at Fukuoka Prefectural University in the spring of 2007.

His research activities are focused upon two related areas. The first concerns the development of crtical thinking skills in Japanese university students. Aside from developing methodologies and courses in pursuit of this objective, Stuart Gale has also authored a textbook *Provoke A Response: Critical Thinking through Data Analysis* (2016) to accompany his courses at FPU. His second area of research concerns academic writing and how it may be taught more effectively to Japanese university students. This (action) research is conducted in university writing classes and involves a process of ongoing evaluation and modification in pursuit of more effective teaching. The results of this research have been incorporated into an academic writing textbook *Structure, Structure, Structure: The Best Guide to Reading and Writing Ever* (2012), the virtual learning website, and writing classes and academic writing seminars at FPU.

Stuart Gale was invited as a guest speaker to present on the teaching of writing and critical thinking skills at the Fukuoka ALT Skills Development Conference in 2012, 2013 and the Oita ALT Skills Development Conference in 2014.

２．研究業績

①最近の著書・論文

Gale, S., Fukuhara, S. (2016). *Provoke A Response: Critical Thinking through Data Analysis*. Tokyo: Nan’un-do.

Gale, S., Fukuhara, S. & Cross, T. (2012). *Structure, Structure, Structure: The Best Guide to Reading and Writing Ever*. Tokyo: Nan’un-do.

Gale, S. (2011, July). L1, consensus nil: Factors affecting the erratic application of oral translation as an EFL vocabulary teaching techniques at Japanese universities. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 20, No. 1, pp. 1-13.

②その他最近の業績

- Designer and teacher, UK-study abroad programme.
- Designer and author, Fukuoka Prefectural University’s online *Virtual Language Laboratory*.
- Designer and teacher (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University’s English Conversation Class for Local Japanese-national English Teachers*.
- Author, *Fukuoka Prefectural University’s Entrance Exam* (English).

- Author, *Fukuoka Prefectural University's official English language version website*.

③過去の主要業績

Gale, S. (2010) "編著, 楽しみながら英語力アップ 大学生になったら洋書を読もう!", アルク.

Mori, R. and Gale, S. (2009). Teacher development and reflecting on experience. *The Language Teacher*, Vol. 33, No. 5.

University Journals

Gale, S. (Sept. 2002). Standing in the way of progress: the social and pedagogic implications of Japan's hidden curriculum. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 34, No. 2 (No. 133), pp. 733-747.

Gale, S. (Dec. 2002). A wealth of limited potential: thoughts on the Internet and the extent and nature of its impact upon the language learning programmes of the future. *FULERC: Annual Review of Language Learning and Teaching*, No. 1, pp. 17-22.

Gale, S. (Sept. 2003). A nice idea in theory: examining the conflict between progressive learning theory and conservative practice in Japanese schools. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 35, No. 2 (No. 137), pp. 611-621.

Gale, S. (Dec. 2003). Make of it what you will: a brief evaluation of the principles behind Communicative Language Teaching and the role of Task-Based Learning. *FULERC: Annual Review of Language Learning and Teaching*, No. 2, pp. 17-24.

Gale, S. (Dec. 2003). Persistent, if nothing else: evaluating Situational Language Teaching and the extent of its contribution to communicative competence. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 35, No. 3 (No. 138), pp. 1137-1145.

Gale, S. (June 2004). No substitute for the real thing: the future of online learning, a virtual reality check. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 36, No. 1 (No. 140), pp. 175-186.

Gale, S. (Dec. 2004). Mistakes are good, but failure is better: devising an appropriate classroom response to the pragmatic dilemma. *FULERC: Annual Review of Language Learning and Teaching*, No. 3, pp. 29-36.

Gale, S. (March 2005). The nature and implications of language change and its impact upon teaching practice. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 36, No. 4 (No. 143), pp. 1081-1097.

Gale, S. (June 2005). Feed the medium: reconciling the nature of language with pedagogic practice. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 37, No. 1 (No. 144), pp. 83-96.

Gale, S. (2007). Towards a culture-sensitive pedagogy: critical awareness versus student-ethnocentric learning. *Gengo Bunka Ronkyu (Kyushu University Studies in Languages and Cultures)*, No. 22, pp. 67-88.

３．外部研究資金
４．受賞
５．所属学会
Member, *Japan Association of Language Teachers* (Fukuoka Chapter).

６．担当授業科目
英語Ⅰ　1単位　1年　前期 後期 (3 classes per semester)

英語Ⅲ　1単位　2年　前期 後期 (3 classes per semester)

海外語学実習事前指導 (UK programme preparation course, first semester only)

海外語学実習 (UK programme, second semester only)

Introduction to studying in English（英語で学ぶ；入門編）(教養演習, second semester only)

In addition, I have also taught the following 4-part skill-up seminars:

The basic essentials of academic essay writing

International languages: Reading about and listening to music in English

Data analysis and discussion on social issues

７．社会貢献活動

Course designer and teacher (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's English Conversation Class for Local Japanese-national English Teachers*. This class meets on one evening every other week for 2 hours.

Course designer and teacher (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's (koukai kouza) English Travel Class for Local Citizens* (April-May, 2008). This course consisted of 4 evening classes of 90 minutes each.

Gale, S. (2012) Community in the UK. Presentation to local citizens at the 国際交流セミナー organized by the Akamura Board of Education (赤村教育委員会), March 28th, 2012.

８．学外講義・講演

Gale, S. (2006) A comparative analysis of direct oral translation as a vocabulary teaching technique. Academic society lecture at the *2006 Temple University/Fukuoka JALT Applied Linguistics Colloquium*, Jogakuin University Tenjin Satellite Campus, June 11, 2006.

Gale, S. (2012) Community in the UK. Presentation to local citizens at the 国際交流セミナー organized by the Akamura Board of Education (赤村教育委員会), March 28, 2012.

Gale, S. (2012) How to teach writing. JTE/ALT training presentation at the *2012 ALT Skills Development Conference*, Fukuoka Prefectural Education Center, December 3, 2012.

Gale, S. (2013) Teaching critical thinking skills. JTE/ALT training presentation at the *2013 ALT Skills Development Conference*, Fukuoka Prefectural Education Center, November 25, 2013.

Gale, S. (2014) Developing critical thinking skills among Japanese junior high and high school students. JTE/ALT training presentation at the *2014 ALT Skills Development Conference*, Oita Prefectural Board of Education, November 20, 2014.

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	堤　圭史郎

１．教員紹介・主な研究分野

2008 年、大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。愛知文教大学・追手門学院大学・大阪樟蔭女子大学・金城学院大学・神戸女学院大学・四天王寺大学・佛教大学・龍谷大学非常勤講師、大阪市立大学都市文化研究センター研究員、同大学都市研究プラザ GCOE 特別研究員に従事。2009 年、大阪市立大学において博士（文学）を取得。2010 年 4 月より本学に着任。2011 年、共著書『ホームレス・スタディーズ―排除と包摂のリアリティ』により、第 7 回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）を共同受賞。2014 年、一般社団法人社会調査協会より、第 4 回社会調査協会賞『社会と調査』賞を受賞。

主な研究分野：社会学の立場から貧困問題・都市問題・地域問題を研究している。とりわけホームレスの人々をめぐる様々な「問題」について研究してきた。近年は、公式統計を用いた社会的排除地域析出に関する研究・生活困窮者支援モデルに関する研究・大都市都心のコミュニティ状況把握等を行っている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

奥田知志・稲月正・垣田裕介・堤圭史郎 , 2014,『生活困窮者への伴走型支援―経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』明石書店.

〈論文〉

鰺坂学・丸山真央・上野淳子・加藤泰子・堤圭史郎 , 2015,「『都心回帰』時代の名古屋市都心部における地域コミュニティの現状- マンション住民を焦点として」同志社大学社会学部『評論・社会科学』113:1-106.

鰺坂学・上野淳子・丸山真央・加藤泰子・堤圭史郎・徳田剛, 2014,「『都心回帰』時代の東京都心部のマンション住民と地域生活- 東京都中央区での調査を通じて」同志社大学社会学部『評論・社会科学』111:1-112.

鰺坂学・上野淳子・堤圭史郎・丸山真央, 2013,「『都心回帰』時代の大都市都心地区におけるコミュニティとマンション住民：札幌市、福岡市、名古屋市の比較（下）」同志社大学社会学部『評論・社会科学』106:1-69.

鰺坂学・上野淳子・堤圭史郎・丸山真央, 2013,「『都心回帰』時代の大都市都心地区におけるコミュニティとマンション住民：札幌市、福岡市、名古屋市の比較（上）」同志社大学社会学部『評論・社会科学』105:1-78.

堤圭史郎, 2013,「多重債務世帯への社会的介入- 『伴走型支援』を通した当事者の主観的意味への働きかけ」日本社会分析学会『社会分析』40:5-20.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

内田龍史・堤圭史郎,「社会的排除地域析出の試み- 2010 年国勢調査から」日本都市社会学会第 33 回大会, 静岡県立大学, 2015 年 9 月.

妻木進吾・西田芳正・堤圭史郎・内田龍史,「被差別部落の現在（1）- 2010 年国勢調査から見る大阪府の部落の実態」日本社会学会第 86 回大会, 神戸大学, 2014 年 11 月.

内田龍史・西田芳正・斎藤直子・妻木進吾・堤圭史郎 ,「被差別部落の現在（2）- 部落青年の雇用・生活実態」日本社会学会第 86 回大会, 神戸大学, 2014 年 11 月.

堤圭史郎,「『都心回帰』時代の地域コミュニティの動態―福岡市におけるマンション住民と行政の対応」地域社会学会第 38 回大会, 立命館大学, 2013 年 5 月.

内田龍史・西田芳正・妻木進吾・堤圭史郎 ,「児童自立支援施設と社会的排除―ケース記録調査から」日本社会学会第 86 回大会, 慶應義塾大学, 2013 年 10 月.

〈研究報告書等〉

特定非営利活動法人 抱樸，2015,『生活困窮者に対する就労訓練事業（社会的就労提供事業所）を支える伴走型支援体制、地域社会資源体制の仕組み作り、及び地域における相互多重型支援ネットワーク構築に関する調査・研究事業』厚生労働省平成 26 年度社会福祉推進事業報告書.（第 3 章を執筆）

特定非営利活動法人北九州ホームレス支援機構，2014,『若年生活困窮者に対する社会的就労提供事業』独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業報告書.（第 1 章第 1 節、第 2 章を執筆）

特定非営利活動法人北九州ホームレス支援機構，2014,『生活困窮者に対する生活自立を基盤とした就労準備のための伴走型支援事業の実施・運営、推進に関する調査研究事業報告書』厚生労働省平成 25 年度社会福祉推進事業報告書.（第 3 章第 1 節・第 2 節を執筆）

特定非営利活動法人北九州ホームレス支援機構，2013,『孤立状態にある若年困窮者に対して社会参加および生活自立・社会的自立・就労自立を促す総合的伴走型支援に関する研究事業報告書』厚生労働省平成 24 年度社会福祉推進事業報告書.（第 3 章、第 4 章第 1 節・第 2 節・第 3 節を執筆）

〈調査実習の事例報告〉

堤圭史郎，2014,「多重債務経験者等の生活問題に関する調査研究- 福岡県立大学人間社会学部公共社会学科の社会調査実習」『社会と調査』12:85-89.

〈事典〉

一般社団法人社会調査協会編，2013,『社会調査事典』丸善出版.（「インフォーマントとアポイントメント」「現地資料の収集」の項を執筆）

〈書評〉

堤圭史郎，2014,「書評　町村敬志編著『都市空間に潜む排除と反抗の力』明石書店」『日本都市社会学会年報』32:198-201.

③過去の主要業績

〈国際会議での報告〉

Tsutsumi, Keishiro, “Invisible Homelessness in Osaka: New Phases of Japanese Homeless Issue in Globalization,” ‘The 2nd International Conference on Locality and Humanities--Locality, Beyond the border of Space and Cognition,’ Pusan National University, June 18 2010.

〈著書・論文〉

青木秀男編，2010,『ホームレス・スタディーズ- 排除と包摂のリアリティ』, ミネルヴァ書房.（序章「ホームレス・スタディーズへの招待」5 章「家族規範とホームレス－扶助か桎梏か」（妻木進吾との共著）を執筆）

堤圭史郎，2009,「ホームレスの人々への類型的な理解と『孤立』のリアリティ- 『問題づくり』をめぐって」『ホームレスと社会』1: 50-57.

堤圭史郎，2006,「『善意』に支えられた『ホームレス支援』」『市大社会学』7:46-61.

３．外部研究資金

・文部科学省、科学研究費補助金（若手研究 B)『旧産炭地における定着・流出・還流―貧困・生活不安定層の移動経験と労働＝生活過程』、221 万円、2014～16 年度、研究代表者.

・文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 B)『「都心回帰」時代の大都市都心における地域コミュニティの限界化と再生に関する研究』、2013～15 年度、研究分担者（研究代表者・鰺坂学・同志社大学）.

・文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 C)『生活困窮者支援組織を核とした参加包摂

型地域社会の形成過程』、2015～17 年度、研究分担者（研究代表者：稲月正・北九州市立大学）.

４．受賞

５．所属学会

日本社会学会、関西社会学会、日本社会病理学会、日本都市社会学会（企画委員・編集委員）、地域社会学会、西日本社会学会、ソシオロジ同人、貧困研究会

６．担当授業科目

社会学 A・2 単位・1 年・前期
社会病理学・2 単位・2 年・前期
社会変動と社会問題・2 単位・3 年・後期
地域社会研究Ⅰ・１単位・2 年・前期
公共社会学研究Ⅰ・１単位・3 年・前期
日本事情 B・留学生・前期（分担）
地域問題研究・2 単位・大学院・後期
社会学 B・2 単位・1 年・後期
社会調査の設計・2 単位・2 年・後期
卒業論文・6 単位・4 年・通年
地域社会研究Ⅱ・１単位・2 年・後期
公共社会学研究Ⅱ・１単位・3 年・後期
社会貢献論・2 単位・1 年・前期（分担）

７．社会貢献活動

・大阪府同和問題解決のための実態把握検討プロジェクト有識者会議作業部会委員
・添田町立真木小学校学校関係者評価委員会・委員
・添田町子ども・子育て会議・会長
・田川市社会教育委員
・田川市生活困窮者自立支援協議会・会長
・特定非営利活動法人抱樸「地域連携型就労訓練事業所の運営推進事業」（平成 27 年度社会福祉振興助成金事業（WAM））・委員
・福岡県課題把握検討委員会作業部会・委員

８．学外講義・講演

・福岡県立小倉南高等学校にて出前講義（2015 年 7 月 13 日。題目「まちに取材にでかけよう―課題発見力とは何か」）
・地域連携型就労訓練事業所の運営推進事業報告会「就労困難要因を抱えた人々が総活躍できるソーシャルビジネスの可能性と相互多重型支援の地域づくりを考える」にてコーディネーター（2016 年 2 月 22 日。於北九州市立男女共同参画センター･ムーブ）

９．附属研究所の活動等

なし

所属	生涯福祉研究センター	職名	准教授	氏名	中　村　晋　介

１．教員紹介・主な研究分野

1.若者の意識・世代間ギャップに関する研究　「他者」を理解するための技法を洗練させてきた社会学や社会人類学に基づいて、若者や児童・生徒の考え方（就業観、社会観、恋愛観など）の解読を試みています。

2.ジェンダー論・結婚観に関する研究　日本社会における「女性の社会進出」や「非婚化社会の行く末」について、社会学的な観点から研究しています。

3.社会学理論に関する研究　主にピエール・ブルデュー（フランスの社会学者）の業績や思想について研究をおこなっています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

1.「『体育会系』女子学生のジェンダー観――「大学生のスポーツ・価値観に関する調査」より」（単著）,一般社団法人社会調査協会提出論文（2014年10月，専門社会調査士資格取得）.

②その他最近の業績

〈テキスト・研究ノートなど〉

1.「福岡県立大学「就業力アンケート調査」の再検討」（共著）『福岡県立大学心理教育相談室紀要』vol.7,　2016年3月.

2."Obstruction actor of Self-Support among Public Assistance Recipients: From the Statistical Analysis of Recipients in Tagawa Counties, Fukuoka Prefecture," *Proceedings of Joint International Symposium on Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution and e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2015*, 2015年10月.

3.『山本作兵衛の炭坑記録画・日記等の保存管理，整理，活用に関する研究(3)』福岡県立大学附属研究所（共著）,2014年3月.

4.『田川市職員のコンピュータ・セキュリティ意識と実践に関する調査研究』福岡県立 大学附属研究所（共著）,2014年3月.

5.『大学生の友人関係・恋愛観に関する調査』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科（共著）,2014年3月.

6.『山本作兵衛の炭坑記録画・日記等の保存管理、整理、活用に関する研究(2)』福岡県立大学附属研究所（共著）,2013年3月.

7.『福岡県立大学福祉用具研究会の軌跡――15年間のあゆみ』福岡県立大学附属研究所（共著）,2013年10月.

8.『大学生の結婚観・将来像に関する調査』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科（共著）,2013年3月.

〈学会等発表〉

1."Obstruction actor of Self-Support among Public Assistance Recipients: From the Stastistical Analysis of Recipients in Tagawa Counties, Fukuoka Prefecture," Joint International Symposium on Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution and e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2015, (Fukuoka Prefectural University), 2015年10月.

2.「恋愛への積極性／消極性の規定要因」（単独）,日本社会学会第87回大会（神戸大学）,2014年11月.

3.「『若者の恋愛離れ』についての考察――大学生を対象とする量的調査より」（単独）日本社会病理学会第30回大会（下関市立大学）,2014年10月.

4.「福岡県立大学福祉用具研究会――これまでとこれから」（単独）『第16回西日本国際福祉機器展』（西日本総合展示場）,2014年10月.
5.「webセキュリティの実践――大学生対象調査より」（単独）『大学ICT推進協議会2013年度年次大会』（幕張メッセ）,2013年12月.
6.「福岡県立大学福祉用具研究会――15年間のあゆみ」（単独）『第15回西日本国際福 祉機器展』（西日本総合展示場）,2013年11月.

③過去の主要業績
1.「ジェンダー・トラックの再生産」友枝敏雄・鈴木譲編『現代高校生の規範意識（第 2版）』九州大学出版会,2005年.
2.「社会学者と社会参加――ピエール・ブルデューのネオリベラリズム批判」『西日本社会学会年報』No.3, 2005年.

３．外部研究資金
1.（一財）マルボシ酢・アスキー食品技術研究所との共同研究事業「産学官市民連携による過疎化地域対策事業のモデルづくりについての研究――田川地域における『一村一品運動』の可能性』」共同研究代表者.
2.文部科学省 平成 26 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）「産業界のニーズに対応した教育改善 ・ 充実体制整備事業【テーマ B】インターンシップ等の取組拡大」取組名称「中長期・実践型インターンシップ推進と教育的な指導体制の構築」（幹事校）、事業分担者.

５．所属学会
日本社会学会、日本社会病理学会、日本社会分析学会、西日本社会学会

６．担当授業科目
・社会学史Ⅰ・２単位・１年・前期　　・社会学史Ⅱ・２単位・１年・後期
・プレ・インターンシップ・２単位・１～２年・通年
・社会調査法・２単位・２年・前期　　・質的調査法・２単位・２年、後期
・現代社会論Ａ（ジェンダー・世代）・２単位・２年・前期
・社会学の分析法Ｃ（マクロ理論）・２単位・３年・後期
・日本事情Ａ・２単位・留学生・分担・前期

７．社会貢献活動
1.川崎町子ども・子育て会議 会長
2.行橋市総合計画審議会 副会長
3.行橋市湾岸地域観光振興審議会 副会長
4.福岡県立飯塚研究開発センター 入居審査委員
5.NPO福祉用具ネット 理事
6.地域総合型スポーツクラブ EASTクラブたがわ 運営委員・会計監査
7.筑豊市民大学 アドバイザー
8.日本語くらぶ・たがわ アドバイザー

８．学外講義・講演
1.「若者の恋愛離れは本当か」筑豊市民大学、2015年12月13日
2.「占いはなぜあたるのか」宮崎県立宮崎北高等学校、2015年9月12日
3.「『若者の恋愛離れ』の実態と背景」玉川大学人文科学研究センター公開学術シンポジウム、2015年5月23日

９．附属研究所の活動等

1.附属研究所全体の管理運営に関する活動

附属研究所調整部会員

『附属研究所事業報告書』編集委員

2.公開講座の運営に関する活動：公開講座小部会副会長

2015年度福岡県立大学公開講座１「現代を生きる子どもたち」の企画・運営責任者

福岡県立三大学連携県民講座の企画／運営に参加

『2015年度福岡県立大学公開講座報告書』の編集

3.産学官連携に関する活動：産学官連携ワーキンググループ長

福岡県産学連携新生活産業促進事業への参加（大学側責任者）

産学官連携メールマガジン発行責任者

2015年度知的財産セミナー運営責任者

飯塚研究開発機構、九州ヘルスケア産業推進協議会、民間事業所との連携（本学研 究者のシーズ紹介、民間事業所とへの紹介など） 西日本国際福祉機器展への出展

4.生涯福祉研究センターの運営に関する活動 生涯福祉研究センター運営部会・副部会長

5.生涯福祉研究センター研究プロジェクトへの参加

「産学官市民連携による過疎化地域対策事業のモデルづくりについての研究」プロジェクト研究・共同責任者

6.生涯福祉地域支援事業・教育研修事業への参加

「福岡県立大学福祉用具研究会」代表

「さわやかな自己表現塾」運営責任者

「生命保険実学講座」運営責任者

「PCスキル養成講座2015」運営責任者

「日本語くらぶ・たがわ」アドバイザー

「筑豊市民大学」アドバイザー

「山本作兵衛絵画展」運営担当者

7.社会貢献・ボランティア支援センターの運営に関する活動

社会貢献・ボランティア支援センター運営部会・副部会長

8.就業力向上支援プログラム推進会議・委員

主に中長期・実践型インターンシップ、プレ・インターンシップ事業での学生指導、関連するイベントの運営を担当した。

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	准教授	氏名	平部　康子

１．主な研究分野

【日英の子ども支援の在り方に関する法的検討】

近年、「子どもの貧困」問題が顕在化し、我が国の社会保障制度が子どものニーズに対応できていないことが指摘されている。従来の社会保障制度において、子どもへの支援は親の状況と連動して支給を決定する仕組みをとることが多く、親の扶養責任と強く関連する給付や支給要件、子どもへの援助を世帯（主）への給付に包含するような給付、親の選択が重視される給付手続き等が定められてきた。しかし、親自身が非正規雇用であり１人で家族を養うことが難しい例や、離婚をしたが別居親から必要な養育費の分担を得られない例など、不利な状況の負担が親を通して、子にも課せられている状況が多くある。また、親子の利益が相反する場合、親が給付を適切に子どものニーズの充足に使用することができない場合など、子どもが必要な支援を受けらない事態が生じているにもかかわらずそれが見過ごされてきた。このような問題関心から、日英の比較法的研究を通じて、変容する社会経済や家族関係の中で、いかに「子ども」を社会保障法制に位置付けるかを検討する。

【日英の社会保障制度における家族負担】

家族形態の変容（核家族、単親家族）および労働市場への女性の参加が進むと、子の養育や家族の介護は、それを担う者にとって2重の負担（労働機会の喪失、養育や介護のための出費）となる。日英の比較を通じて、社会保障法上にちらばっている家族給付や福祉サービス（児童手当、介護手当や各種加算、介護および保育サービス）と負担（所得制限、費用負担）において家族負担がどのように位置づけられてきたかを把握するとともに、アンペイドワークを担う者が適切に評価され、他人の世話を要する者の支援を家族と社会で分担しうる社会保障法制を検討する。

２．研究業績

＜著書＞

- 平部康子「社会福祉の財政と利用者負担」　河野正輝編『社会福祉法入門　第３版』（2015年、有斐閣）
- 平部　康子「イギリスの介護保障」　増田雅暢編『世界の介護保障』（2014年、法律文化社）

＜論文＞

- 平部康子「児童相談所長による里親委託等の承認の申立て」岩村正彦他編『別冊ジュリスト　社会保障判例百選　第５版』（2016 年、有斐閣）

＜その他＞

・教育プログラムの開発

「学生の国際的理解の学習意欲を高める教育プログラムの開発に関する研究」（平成26-27年度研究奨励交付金）

３．外部研究資金

なし

４．受賞

なし

５．所属学会

日本社会保障法学会・理事・学会誌編集委員

日本労働法学会

６．担当授業科目

（学部）

教養演習・２単位・１年・前期、公的扶助論・２単位・２年・後期、社会福祉援助技術現場実習指導・３単位・２年後期～３年通年、権利擁護と成年後見制度・２単位・３年・前期、社会福祉法制論Ⅰ・２単位・３年・前期、３年・前期、外書講読Ａ・２単位・前期、社会福祉法制論Ⅱ・２単位・３年・後期、３年・通年、社会福祉援助技術現場実習・４単位・３年・前期、相談援助演習Ｃ・2単位・３年・後期、社会福祉学演習・２単位・３年後期～４年前期、卒論指導・６単位・４年・後期、日本事情Ⅰ・２単位・留学生・後期、

（大学院）

社会保障制度研究・２単位・後期

７．社会貢献活動

・内閣府「諸外国における子供の貧困対策に関する調査研究」企画分析委員

・福岡県職業能力開発審議会・委員

・福岡県県営住宅管理審議会・委員

・福岡県県土整備部・建築都市部公共事業再評価検討委員会・委員

・新福岡県住生活基本計画策定検討委員会　住宅セーフティーネット部会・部会員

・田川市男女共同参画審議会・委員長

・香春町次世代育成支援対策協議会・委員長

・香春町教育委員会評価委員会・委員長

・香春町立小中学校再編推進審議会・委員長

・飯塚市指定管理者選定委員会・委員長

８．学外講義・講演

・救急救命士養成研修　救急救命九州研修所「社会保障と社会福祉」

・平成27年度民生委員・福祉委員研修　飯塚市幸袋社会福祉協議会「イギリスの高齢者福祉と児童福祉の動向」

・平成27年度役員・施設長研修　北九州市社会福祉研修所「福祉施設における事故とその対応」

９．附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	藤澤 健一

１．教員紹介・主な研究分野

教育学、教育制度・政策史、教員史

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉
編著『沖縄の教師像―数量・組織・個体の近代史』榕樹書林、2014 年 3 月、全 435 頁

〈論文〉
単著「九州沖縄八県連合教育会の研究―通史的展望からみた組織的性質の解明」『日本教育史研究』第 32 号所収、日本教育史研究会、2013 年 11 月、103―120 頁（査読あり）
共著「追補遺　あらたに見出された『沖縄教育』に関する解説、ならびに総目次と附表にかかわる補正」『復刻版　沖縄教育』第 38 巻、不二出版、2013 年 12 月、1―11 頁（査読なし）
共著「追補遺（二）　あらたに見出された『沖縄教育』に関する解説、ならびに附表の再改訂」『復刻版　沖縄教育』第 39 巻、不二出版、2015 年 6 月、1―20 頁（査読なし）

②その他の業績

単著「『沖縄教育』あらたに 2 点確認」『沖縄タイムス』2013 年 5 月 27 日
書評、櫻澤誠著『沖縄の復帰運動と保革対立：沖縄地域社会の変容』有志舎、2012 年、同時代史学会『同時代史研究』第 6 号所収、日本経済評論社、2013 年 12 月、75―79 頁
書評、照屋信治著『近代沖縄教育と「沖縄人」意識の行方―沖縄県教育会機関誌『琉球教育』『沖縄教育』の研究』溪水社、2014 年、日本歴史学会編『日本歴史』803 号、吉川弘文館、2015 年 4 月　111-114 頁
単著「あらたに見出された「『沖縄教育』（上）」『沖縄タイムス』2015 年 4 月 7 日
単著「米軍占領初期の教員団体機関誌①」『沖縄タイムス』2015 年 9 月 7 日

③過去の主要業績

単著『近代沖縄教育史の視角―問題史的再構成の試み』社会評論社、2000年4月
単著『沖縄／教育権力の現代史』社会評論社、2005年10月

３．外部研究資金

研究代表者：科学研究費補助金基盤研究（B）「沖縄における教育指導者層の変容過程に関する研究―沖縄戦前後の人的構成に着目して」15H03475（2015 年度～2019 年度）、総額（直接経費）660 万円

４．受賞

なし

５．所属学会

日本教育制度学会 日本教育政策学会 日本教育行政学会 日本教育史研究会各会員

６．担当授業科目

教育学概論B・２単位・１年前期、教育史・２単位・２年前期、教育思想論・２単位・２年後期、教育実習事前事後指導・２単位・３年後期から４年前期、公共社会学研究Ⅰ・２単位・３年前期、公共社会学研究Ⅱ・２単位・３年前期、卒業研究・４年
地域と学校教育研究Ⅰ・２単位・大学院、地域と学校教育研究Ⅱ・２単位・大学院、地域と学校教育演習・２単位・大学院、特別研究・２単位・大学院

７．社会貢献活動

田川市教育委員会学力向上にかかわる有識者会議委員
教員免許更新講習（教育の最新事情）講師
添田町教育委員会の事務に関する事務点検評価委員

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等
なし

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	許　棟翰

１．教員紹介・主な研究分野

1998 年 3 月慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了．博士（商学）．1998 年 4 月から九州国際大学経済学部経済学科講師，2000 年 4 月に助教授，2005 年 4 月に教授（学部では「労働経済学」，大学院では「企業政策研究」を担当）．2008 年 3 月から韓国明知大学経営学部経営学科副教授（学部では「人的資源管理論」，「労使関係論」，「経営組織論」，大学院では人事・組織関連の科目を担当）．2015 年 4 月より本学に着任．専門分野は，労働経済学，人的資源管理論，労使関係論．

私の初期研究は，満足度の高い働き方と効率的な人事管理のあり方について「賃金支給システム」に焦点を当てて行われた．企業の賃金支給システムを「配分の仕方」という観点からアプローチした．いまは「成果主義賃金」をその分析対象とし，どのような合理的基準による配分の仕方であるのか，について研究を行っている．

働き方の変化，すなわち非正規職の増加や雇用形態の多様化によって企業内部の技能養成方式はどう変わっていくのか．また技能伝授は機能しているのか．私が関心を持っている 2 つ目の研究課題である．雇用形態の多様化が企業内部の技能養成方式や技能伝授の様子をどう変えたのかを究明するため，日本の生産現場の調査を行っている。

2012 年に私は，韓国政府によるプロジェクト「社会的企業の実態調査研究」のメンバーとして，社会的企業の 5 年間の活動や実績を分析する機会があった．ここで私は，「社会的企業の経済的持続可能性」と「大企業の社会的貢献活動と社会的責任」についての分析を担当した．「政府の支援が無くなっても経済的に自立できるのか」の観点から分析してみると，経済的持続可能性はとても低いことが明らかになった．引き続き現在は，社会的企業が収益を出せる組織，雇用を増やせる組織として発展できる条件について，研究を行っている．

２．研究業績

①最近の著書・論文

(共著)Youngsik Kang, Changjae Kang, Dongwook Son, Hyungjin Park, Donghan Hur & Pilkyo Seo, “Exploring Process Innovation Knowledge Discovery and Diagnostics based on Process Mining: Electronic Approval Process”, The Journal of Industrial Innovation, 28(1), 2012 年，pp.55～75.

(単著)「自動車産業における生産方式の変化と技能伝授－NPW を中心として」『Productivity Review』27(1)，2013 年，pp. 313～335.

(単著)「企業経営管理側面からの休憩制度検討及び運営戦略」『KEF Compensation Quarterly』22(1)，2014 年，pp. 20～31.

(共著)Gyuchang Yu, Woosung Park, Donghan Hur, Dongbae Kim & Jiyoung Chang,「労働環境の変化と賃金体系改編」『KEF Compensation Quarterly』22(2)，2014 年，pp. 20～47.

②その他最近の業績

＜学会発表＞

(単著)「自動車産業における生産方式と技能伝授：NPW を中心として」，韓国生産性学会春季学術大会，2012 年 5 月 18 日.

(単著)「韓国における社会的企業の持続可能性と経済的自立」，第 3 回韓国日本研究団体国際学術大会，2014 年 8 月 22 日.

＜シンポジウム＞

(単著)「Change of the Auto Industry Production System by the Diversification of the employment」，KPA International Conference，2012 年 8 月 24 日.

(単著)「The present Situation and Problem of "Youth Non-standard Employment" in contemporary Korea」，KOCOMA International Symposium，2013 年 10 月 18 日.

(単著)「韓国の労働市場の変化と若者の雇用問題」，アジア共生学会日韓シンポジウム，2014 年 11 月 15 日.

＜調査報告＞

(共同)「社会的企業の実態調査報告」，韓国政府雇用労働部・韓国社会的企業振興院，2012 年 11 月 30 日.

(共同)「共同研究事業の成果分析及び活用方案に関する研究報告」，韓国政府未来創造科学部・基礎技術研究会，2013 年 7 月 27 日.

＜研究資料＞

(単著)「グローバル人材育成と女性労働力の活用」『人事管理』第 281 号，2013 年.

(単著)「同一労働同一賃金原則の適用可能性と現実との乖離」『2013 年度版，人事･賃金事例総覧』(韓国経営者総協会)，2013 年.

(単著)「日本企業の雇用計画：適正人員と適正人件費算定」『人事管理』第 283 号，2013 年.

(単著)「家族親和経営としての Work-Life Management」『人事管理』第 285 号，2013 年.

(単著)「日本企業における女性労働力の活用とその特徴」『人事管理』第 288 号，2013 年.

(単著)「2014 年度日本企業の HR 展望：ハイブリッド HR」『人事管理』第 293 号，2014 年.

(単著)「日本企業における訂正人員の決定方案：適正人件費との連携を中心に」『人事管理』第 318 号，2016 年.

＜コラム＞

(単著)「100 歳時代の賃金革命：長期雇用と成果主義の両立模索」『韓経ビジネス』(韓国経済新聞社)，2014 年 3 月 19 日.

(単著)「企業の高齢化と望ましい賃金体系」『自動車経済』480 号(韓国自動車産業研究所)，2014 年 10 月 15 日.

③過去の主要業績

(単著)「同一価値労働同一賃金原則と企業内男女間賃金格差の実証分析」『三田商学研究』第 37 巻第 4 号，1994 年，pp. 51～67.

(単著)「日本における長期雇用慣行の変容と雇用形態の多様化」『九州国際大学経営経済論集』第 7 巻第 3 号，2001 年，pp. 89～126.

（単著）「日本の雇用形態多様化と知的熟練の必要性」『Journal of Knowledge Studies』7(2)，2009 年，pp. 113～139.

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本労務学会，日本組織学会，韓国人事組織学会（常任理事），韓国人事管理学会（理事），韓国企業経営学会（理事），韓国経営教育学会，韓国生産性学会（常任理事），韓国国際地域学会（理事），韓国労使関係学会，韓日経商学会（常任理事），韓国日本学会（常任理事）

６．担当授業科目

経済学Ａ・２単位・１年・前期，教養演習・１単位・１年・前期，経済学Ｂ・２単位・１年・後期，国際共生研究Ⅰ・１単位・２年・前期，労働経済論Ａ・２単位・２年・前期，社会保障論Ⅰ・２単位・２年・前期，国際共生研究Ⅱ・１単位・２年・後期，労働経済論Ｂ・２単位・２年・後期，社会保障論Ⅱ・２単位・２年・後期，公共社会学研究Ⅰ・１単位・３年・前期，公共性研究 C-Ⅰ（社会保障論Ⅰ）・２単位・３年・前期，公共社会学研究Ⅱ・１単位・３年・後期，公共性研究 C-Ⅱ（社会保障論Ⅱ）・２単位・３年・後期

７．社会貢献活動

あか村まち・ひと・しごと総合戦略策定委員会委員（2015年6月12日～2017年6月11日）

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

【上記とは別にＨＰ掲載する主な研究内容（１～３の項目数の範囲で）及び保有学位】

（研究内容）
１．成果主義賃金の配分の仕方，その合理性に関する研究
２．企業内部の技能養成方式と技能伝授に関する研究
３．地域経済の活性化と雇用機会の増大

（保有学位）
博士（商学）

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	麦島 剛

１．教員紹介・主な研究分野

発達障害・ストレス関連疾患・加齢についての生理心理学的研究

ADHDや自閉症などの発達障害、統合失調症等に見られる注意に関する障害、ストレスに関連する疾患、および認知症には、中枢神経機能の変化が関与する。そこで、神経生理学・行動薬理学・学習心理学の手法と理論を用いて、薬物による中枢神経系の活動変化・ストレス負荷・神経系の先天的異常が、電気生理学的神経活動・学習・社会行動・不安に対してどのような影響をもつのかを検討している。具体的には、おもに、以下について探求している。１）ADHD･統合失調症にみられる前注意過程を含む注意障害とcatecholamine神経系の活動異常との関連を電気生理学的に解明すること。２）ADHDを併発するとみられるてんかんモデル動物を用いて、ADHDにおける衝動性と不注意をオペラント学習理論と行動薬理学により解明すること。３）benzodiazepine受容体サブタイプによる不安やストレス反応への関与の違いの解明。４）老齢動物の注意機能・情動行動・記憶への認知改善薬（認知症治療薬）等の効果の解明と、これに基づく老年心理学領域での考察。これらの研究は、理論的進歩のみならず、より効果的な治療薬の開発や、より構造化された心理療法（行動療法）の開発の一助となると考えられる。また老年学や進路指導論（教育心理学）の立場から総合科学的考察を行っている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・春木 豊・麦島 剛（2014） 学習 梅本堯夫･大山正(編著) 心理学への招待［改訂版］ サイエンス社 Pp. 97-132.

・麦島 剛（2013) ADHD（注意欠陥・多動性障害）への臨床応用に向けた行動神経科学的研究の動向 ―衝動性の行動分析学を中心にして― 福岡県立大学心理臨床研究, 5, 21-26.

・麦島 剛（2014)注意欠陥・多動性障害（ADHD）の注意障害の行動神経科学―ミスマッチ陰性電位を中心としたモデル動物研究の動向― 福岡県立大学心理臨床研究, 6, 137-144.

・麦島 剛（2015)アルツハイマー病の動物モデル―高齢期の生理心理学における研究法の一方向性― 福岡県立大学心理臨床研究, 7, 67-76.

・麦島 剛（2016）神経経済学の進展と視座：衝動性をめぐる心理臨床・エネルギー政策・組織経営への応用と視座, 福岡県立大学心理臨床研究, 8, 25-35.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

・麦島剛・木村裕・久保浩明・林奈津美・市丸有美・後藤瑞貴・中本百合江・吉井光信. 遅延価値割引事態におけるELマウスの衝動的行動と手がかり刺激への注意―音と光を用いたSDHDモデル動物での検討― 2013年7月, 日本行動分析学会第31回年次大会.

・久保浩明・木村裕・市丸有美・後藤瑞貴・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 遅延価値割引課題における選択肢間の報酬遅延比がELマウスの衝動的行動に与える影響 ―ADHDモデル動物の衝動性と選択方略― 2013年7月, 日本行動分析学会第31回年次大会.

・麦島剛・久保浩明・岩崎瑠衣子・林田今日子・木村裕・榛葉俊一. ADHDモデルラットSHRのミスマッチ陰性電位様反応へのmethylphenidate投与の効果：前注意過程の不全の検討. 2013年9月,日本動物心理学会第73回大会.

・麦島剛･久保浩明･林奈津美･野見山遥･永井友幸･中野昂一･木村裕･中本百合江･吉井光信. ADHD モデル動物EL マウスの衝動的選択行動に対する治療薬atomoxetine 投与の効果. 2014年6月, 日本行動分析学会第32回年次大会.

・Saka, N., Shinba, T., Kubo, H., Nabeta, M., Hayashi, M., Kimura, H., Mugishima, G. (2014) Mismatch negativity-like response on stream segregation in spontaneously hypertensive rat (SHR) as an animal model of ADHD. 2014年7月, The 74th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.

・Kubo, H., Kimura, H., Nakano, K., Nagai, T., Nomiyama, H., Hayashi, N., Nakamoto, Y., Yoshii, M., Mugishima, G. (2014) On the subjective equivalence between amount and delay in EL mouse as an animal model of ADHD. 2014年7月, The 74th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.

・Mugishima, G., Kubo, H., Saka, N., Nabeta, M., Hayashi, M., Kimura, H., Sinba, T. (2014)

Effects of methylphenidate administration on mismatch negativity-like response in spontaneously hypertensive rat (SHR) as an animal model of ADHD. 2014年7月, The 74th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.
・麦島剛・久保浩明・木村裕・中本百合江・吉井光信. ADHDモデル動物ELマウスの遅延価値割引事態における衝動的選択に対する治療薬atomoxetine投与の効果. 2015年8月, 日本行動分析学会第33回年次大会.
・永井友幸・久保浩明・木村裕・林奈津美・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 環境明瞭度の増大が報酬比の大きい遅延価値割引下のELマウスの選択行動に与える影響. 2015年8月, 日本行動分析学会第33回年次大会.
・久保浩明・木村裕・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 遅延価値割引課題におけるELマウス（ADHDモデル）の主観的等価点および不注意に関する考察 . 2015年8月, 日本行動分析学会第33回年次大会.
・Mugishima, G., Kubo, H., SAKA, N., NAGAI, T., ISOZAKI, S., KIMURA, H., SHINBA, T. Attenuated latent inhibition of taste aversion learning in EL mouse as an animal model of ADHD. 2014年7月, The 75th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.
・Saka, N., Shinba, T., Kubo, H., Miyagawa, Y., Hayashi, M., Kimura, H., Mugishima, G. The effect of methylphenidate on the evoked potential to auditory paired stimulation in SHR as an animal model of ADHD. 2014年7月, The 74th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.
・森寺亜伊子・坂徳子・麦島剛. 高血圧自然発症ラット(SHR)の大脳皮質および海馬の自発脳波に対するmethylphenidate投与効果 －Attention deficit hyperactivity disorder （ADHD）モデル動物を用いた脳波学的検討－ 2015年9月, 日本心理学会第79回大会.

〈学会シンポジウム〉

・麦島剛 (2014) ADHDモデル動物による薬物療法と行動療法の理解　山口哲生・高瀬堅吉・柳井修一（企画） 発達障害の理解に向けて ―基礎研究の役割とその有用性を考える―　2014年9月, 日本心理学会第78回大会.

③過去の主要業績

・Shinba, T., Yamamoto, K., Cao, G.M., Mugishima, G., Andow, Y., Hoshino, T.. (1996) Effects of acute methamphetamine administration on spacing in paired rats: Investigation with an automated video-analysis method. Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry, 20, 1037-1049.
・麦島 剛･榛葉俊一･山本健一･星野忠夫 (1997) 自動画像解析で捉えたdopamine系活動亢進によるラットの行動変化. 動物心理学研究, 47, 91-98.
・麦島 剛 (1998) ラットの社会的行動と常同行動に関する自動画像解析システムの開発　－行動薬理実験への応用－　早稲田心理学年報, 30, 55-62.
・Shinba, T., Shinozaki, T., Mugishima, G. (2001) Clonidine immediately after immobilization stress prevents long-lasting locomotion reduction in the rats. Progress in Neuro- Psychopharmacology and Biological Psychiatry. 25, 1629-40.
・麦島 剛. 注意欠陥多動性障害（ADHD）をめぐる動向：新たな研究法の確立に向けて. (2006) 福岡県立大学人間社会学部紀要, 14 (2), 51-63.
・中本百合江・麦島 剛・佐藤弥都子・中山 繁・高松幸雄・池田和隆・吉井光信（2007）ADHDモデル動物としてのEL(てんかん)マウス. 日本神経精神薬理学雑誌.　27(5), 297, 11-25.
・Ishizaki, R., Shinba, T., Mugishima, G., Haraguchi, H., Inoue, M. (2007) Time-series analysis of sleep-wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy.　Physica A:　Statistical Mechanics and its Applications, 87 (13), 3145-3154.
・麦島 剛 (2009) 第10章 学習.　西本武彦・大薮泰・福沢一吉・越川房子 編著『現代心理学入門　進化と文化のクロスワード』川島書店.

３．外部研究資金

・日本学術振興会 科学研究費 基盤研究C（単独取得）「ＡＤＨＤマウスの衝動性と前注意機能を指標とした応用行動分析と薬物療法の統合の試み」　481万円, 2014～2016年度

５．所属学会

・日本心理学会、日本生理心理学会、日本動物心理学会、日本神経精神薬理学会、日本行動分析

学会、早稲田大学心理学会

６．担当授業科目

生理心理学Ⅰ 2単位, 2年前期、生理心理学Ⅱ 2単位, 2年後期、心身科学Ａ 2単位,2年前期、加齢基礎論 2単位, 2年後期2年, 実験測定法Ⅰ 2単位, 2年前期, 実験測定法Ⅱ 2単位, 2年後期, 老年心理学 2単位, 3年後期、演習 2単位, 3年後期・4年前期、卒業論文指導 6単位, 4年、教養演習 2単位, 1年前期、神経生理学特論 2単位, 修士1年、老年心理学特論 2単位, 修士1年、特別研究 4単位, 修士1年、特別研究 4単位, 修士2年

８．学外講義・講演

・職業訓練法人福岡地区職業訓練協会 福祉用具専門相談員養成課程「高齢者等の心理」 2015年9月.

９．附属研究所の活動等

・生涯福祉研究センター兼任研究員

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	准教授	氏名	村山　浩一郎

１．教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は「地域福祉」です。「地域福祉」は児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野ではなく、地域住民が主体となり、行政や専門職と協働しながら、援助を必要とする人を地域で支えたり、地域の共通課題の解決に取り組んだりする、地域を基盤とした福祉実践のあり方を意味しています。私の研究テーマは、このような「地域福祉」を推進するための様々な実践や方法を検討することです。具体的には、住民による小地域福祉活動、福祉ＮＰＯ、コミュニティワーク、地域福祉計画など、地域福祉を推進するための住民活動、援助技術、計画・政策などについて研究を行っています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・村山浩一郎「『進行管理』の視点から見た地域福祉計画の特徴と課題：3 自治体の第 1 期計画と第 2 期計画の比較から」,『リハビリテーション連携科学』第 14 巻 2 号, リハビリテーション連携科学学会, 2013 年 12 月

・村山浩一郎「第 9 章　地域福祉」, 鬼﨑信好・本郷秀和編著『コメディカルのための社会福祉概論　第 3 版』, 講談社, 2016 年 2 月

②その他最近の業績

＜調査報告書＞

・共著、科研費調査報告書『利用者本位の介護サービス評価システムの開発に関する研究』（研究代表：鬼﨑信好, 久留米大学）, 2015 年 3 月

＜学会＞

・コミュニティ政策学会第 12 回大会「分科会Ⅱ　迫る超高齢化社会に備える地域福祉を考える」コーディネーター, 2013 年 7 月 7 日

＜実践プログラム開発＞

・北九州市社会福祉協議会, 村山浩一郎監修『つくってみよう！　わたしたちのまちのふくしプラン～小地域福祉活動計画策定の手引き（改訂版）～』, 北九州市社会福祉協議会, 2014 年 3 月

＜辞典＞

・共著（編集委員）, 九州社会福祉研究会編『21 世紀の現代社会福祉用語辞典』, 学文社, 2013 年 4 月

③過去の主要業績

・村山浩一郎「小地域ネットワーク活動の課題に関する研究－北九州市のふれあいネットワーク事業を担う福祉協力員に対する質問紙調査の分析から－」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 18 巻第 2 号, 2010 年

・村山浩一郎「北九州市における小地域福祉活動の活動実態と課題に関する研究」,『西南女学院大学紀要』第 13 巻, 2009 年

・村山浩一郎「非営利組織と社会的監査－英国スコットランドの事例から－」,『社会福祉学』第 41 巻 2 号, 日本社会福祉学会, 2001 年

３．外部研究資金

・平成 23-26 年度 文部科学省科学研究費補助金【基盤研究Ｃ】（共同）※研究代表：鬼﨑信好（久留米大学）, 研究課題：「利用者本位の介護サービス評価システムの開発に関する研究」

４．受賞　　なし

５．所属学会

日本社会福祉学会, 日本地域福祉学会, 日本社会学会, 福祉社会学会, 地域社会学会,
リハビリテーション連携科学学会

６．担当授業科目

＜学部＞社会貢献論（2単位・1年・前期）, 社会貢献論演習（2単位・1年・後期）, 福祉行財政と福祉計画（2単位・3年・前期）, 社会福祉計画論（2単位・3年・前期）, 地域福祉論Ⅰ（2単位・3年・前期）, 地域福祉論Ⅱ（2単位・3年・後期）, 相談援助実習指導（3単位・2年～3年・通年）, 相談援助実習（4単位・3年・通年）, 相談援助演習B（2単位・3年・通年）, 相談援助演習C（1単位・3年・後期）, 社会福祉学演習（2単位・3年～4年・後期～前期）, 卒業論文（6単位・4年・後期）, プレインターンシップ（2単位・1・2年・通年）

＜大学院＞地域福祉研究（2単位・1・2年・前期）, 地域福祉演習（2単位・1・2年・後期）

７．社会貢献活動

・田川市地域福祉計画策定委員会・委員長
・田川市地域支え合い体制づくり検討委員会・見守り部会・部会長
・鞍手町地域福祉活動計画策定委員会・委員長
・小竹町地域福祉計画策定委員会・委員長
・福智町地域福祉活動計画策定委員会・アドバイザー
・大牟田市地域福祉計画推進委員会・委員長
・みんなで支えあう行橋市福祉のまちづくり推進委員会・委員
・みんなで支えあう行橋市福祉のまちづくり推進実務者会議・座長
・苅田町地域福祉推進委員会・委員長
・福岡県社会福祉協議会 市町村社協委員会 専門委員会・委員長
・北九州市社会福祉協議会総合企画委員会・委員
・北九州市社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター運営委員会・委員長

８．学外講義・講演

・福岡県社会福祉協議会・「新しい総合事業に関する勉強会」・講師
・福岡県保健医療介護部高齢者地域包括ケア推進課・ひとり暮らし高齢者等見守り活動・市民後見推進研修会・講師
・北九州市社会福祉協議会・小地域福祉活動計画策定研修・講師
・北九州市若松区社会福祉協議会・現任福祉協力員等研修・講師
・北九州市社会福祉協議会・地域福祉活動専門研修・講師
・北九州市社会福祉協議会・地域支援コーディネーター研修・講師
・北九州市竹末若葉地区社会福祉協議会・福祉協力員等研修・講師
・北九州市教育委員会・生涯学習指導者育成セミナー講師
・福智町社会福祉協議会・ふれあい交流研修会・講師
・田川地区社協連絡協議会職員研修会・講師
・志免町社会福祉協議会・四者合同会議講演・講師
・柳川市社会福祉協議会・福祉委員全体研修会・講師
・鞍手町自治公民館連絡協議会・講演会・講師

９．附属研究所の活動等

・附属研究所社会貢献・ボランティア支援センター・センター長

所属	人間社会学部・一般教育	職名	准教授	氏名	水野　邦太郎

１．教員紹介・主な研究分野

「英語を学ぶ・使う」という実践の背後に多くの「仲間」が存在し，多様な人々が差異によって響き合う「学びの共同体(未知の世界と出会い，他者と出会い，自らの存在と出会い対話する対話的実践を遂行するコミュニティ)」を，いかに「教室」という場と，「インターネット」を活用して創出できるか，その教育方法に取り組んでいる．これまで，以下の 4 つのサイトを立ち上げ実践してきた: Interactive Reading Community, Interactive Writing Community, Writing for the TOEFL Test, Wikinary Project.

今後，これら 4 つの「学びの共同体」を充実させていくために，世界中の教育機関とネットワークを結び，さらに，マルチメディアをフルに活用して様々な機能を実装していき，新しい英語学習環境の創出の研究と実践に従事していきたい.

２．研究業績

①　最近の著書・論文

Mizuno, K. 2015. From reading books to sharing books: Going beyond the virtuous circle of the good readers. *The Language Teacher,* Vol.39, Number 2, pp.16-21.

水野 邦太郎. 2015.「活動的で，協同的で，反省的な「読書コミュニティ」の創出 ～ 学生一人ひとりが想像の翼を広げる教養育を目指して」『第 21 回　大学教育研究フォーラム』pp. 262-263.

Mizuno, K. 2013. A Sociocultural Approach to Extensive Reading Classes: Engaging Students in a Reciprocal Community of Readers on the Internet. *Proceedings for the Second World Congress on Extensive Reading, SEOUL.* pp.151-155.

水野 邦太郎・東矢光代・川北直子・西納春雄. 2013.「プロジェクト IRC：多読授業における社会文化的アプローチの効果」『外国語教育メディア学会吸収・沖縄支部紀要』第133号. pp.41-69.

②　その他最近の業績

＜学会発表＞

Mizuno, K. 2015. Blended learning of extensive graded reading and data-driven learning. FLEAT VI Conference, Harvard University, Cambridge MA

Mizuno, K. 2014. Constructing linguistic knowledge utilizing the Oxford Bookworms library series corpus designed for data driven learning. AILA World Congress. Brisbane Australia.

Mizuno, K. 2013. ‘From Reading books to Sharing books: creating a reciprocal reading community on the Internet based on sociolcultural approach. JALT CALL. 2013. Conference & 6th Annual Extensive Reading Seminar. Shinshu University.

Mizuno, K. 2013. ‘Extensive graded reading and usage-based theory of language

acquisition' The 2nd Extensive Reading World Congress. Yonsei University, Seoul, Korea.

Mizuno, K .2013. Lexical chunks in the Oxford Bookworms Library (OBW) series: A case study of "HAVE" collocations' JALT 2013 39th Annual International Conference. Kobe Convention Center.

＜雑誌＞

水野 邦太郎. 2015. "You Can't Put It Down!" 2015.『読書のいずみ』(143 号), pp.24-25.

水野 邦太郎. 2015. "Oh, yes there will, because I have sent you a letter"『読書のいずみ』(142 号), pp.24-25.

水野 邦太郎. 2015. "MY MOM IS THE GREATEST MOM IN THE UNIVERSE!"『読書のいずみ』(141 号), pp.26-27.

水野 邦太郎. 2015. "I am a very happy man." 『読書のいずみ』(140 号), pp.28-29.

＜開発したサイト＞
http://www.interactive-l-community.com/IRC5/Login.php

③ 過去の主要業績

＜受賞＞

水野 邦太郎. 2010年8月5日. 第50回外国語教育メディア学会全国大会. 外国語教育メディア学会 学会賞 教材・システム開発賞「IRC(Interactive Reading Community): ICTを活用した社会構成主義に基づく多読コミュニティ・システムの構築」

水野 邦太郎・たがわ情報センター. ICTを活用した英日韓オンライン辞書づくりプロジェクト. 2010年3月10日. 2009年度 九州IT経営応援隊事業（九州経済産業局委託事業） 選考委員会奨励賞受賞

水野 邦太郎. 2005. 「本と人・人と人との絆を結ぶ互恵的な読書環境の創出」『コンピュータ & エデュケーション』Vol. 19. 75-84. 2007 年度 CIEC 学会賞・論文賞 受賞.

３．外部研究資金

水野 邦太郎. 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金 基盤研究（C)) 研究課題名 ：認知的/社会文化的アプローチを融合した多読プログラムの開発とその教育的効果の検証 (課題番号 26370670) 平成26年度～平成28年度.

４．受賞

５．所属学会

大学英語教育学会，全国英語教育学会，外国語教育メディア学会，認知言語学会，英語コーパス学会，コンピュータ利用教育学会，教育工学会

６．担当授業科目
英語Ⅱ(2) ・１単位・１年・後期，英語Ⅳ(2)・１単位・3 年・後期.

７．社会貢献活動
８．学外講義・講演
９．附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・人間社会学系	職名	准教授	氏名	森脇　敦史

１．教員紹介・主な研究分野

憲法学を専攻しており、特に情報と法との関わり合いを中心的な研究課題としている。電子通信技術の発達（特にインターネットの爆発的拡大）は、誰もが情報を発信することを可能とした。これは、思想の自由市場への参入者を拡大し、多様な情報が発信されるという面を持つ。一方で、発信者が限定的であったがゆえに成立していた従来の規律を破壊し、人々の権利を侵害する（名誉毀損やプライバシー侵害、著作権侵害など）という一面をも有している。このような問題に対して、憲法上の権利である表現の自由という観点から、個別の事例においてどのような解決を図るべきなのか、さらには、どのような制度設計を行うことが、最も適切な権利配分を人々に行うことになるのかということを考察している。

また近年は、アメリカの表現の自由法理が形成された歴史的背景についても研究を進めている。合衆国憲法において表現の自由が一定の保護を受けるようになったのは1940年代頃からであるが、無制限の保護が不可能である以上、規制されうる言論と規制され得ない言論の線引きが必要となる。個人・社会の多様化が進む日本において、あるべき言論の自由法理を提示するため、そのような線引きをいかなる理論的枠組みにより行おうとしたのかを検討している。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・大隈義和、大江正昭、井田洋子、井上禎男、植木淳、近藤敦、森脇敦史、湯浅墾道、奈須祐治、太田周二朗、日野田浩行『憲法学へのいざない　第3版』第8章（経済的自由）、第15章（内閣・行政組織）、青林書院、2015年4月

②その他最近の業績

＜判例研究＞

・森脇敦史「市議会議員の議会質問が市長の名誉を毀損するとして謝罪広告の掲載を命じた事例」新・判例解説 Watch Vol.13 、2013年9月

＜用語解説＞

・確認憲法用語（成文堂、2014年9月）

③過去の主要業績

森脇敦史「言論活動への政府資金助成に対する憲法上の規律」、阪大法学第53巻1号113～142頁、2003年

森脇敦史「図書館に対するフィルタリングの義務づけと今後のインターネット上における表現規制の態様－ＣＤＡ、ＣＯＰＡ、ＣＩＰＡの事例から－」、阪大法学第53巻3=4号393～419頁、2003年

森脇敦史「発言する政府、設計する政府」松井茂記、市川正人、紙谷雅子、鈴木秀美、福島力洋、森脇敦史、渡辺武達、宮崎寿子、田中智佐子、野原仁、ミッシェル・マクレラン、丹羽俊夫、木村哲也『メディアの法理と社会的責任』127-150頁、ミネルヴァ書房、2004年

森脇敦史「キャス・サンスティン　リスクと不確実性の憲法学」駒村圭吾、大林圭吾、葛西まゆこ、平地秀哉、奈須祐治、尾形健、大江一平、大河内美紀、中川律、山本龍彦、

森脇敦史、横大道聡『アメリカ憲法学の群像　理論家編』255-274頁、尚学社、2010年1月

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

関西アメリカ公法学会、関西憲法判例研究会、九州公法判例研究会、情報ネットワーク法学会、合衆国最高裁判所判例研究会

６．担当授業科目

法学・２単位・１年・前期、教養演習・１単位・１年、前期、憲法・２単位・１年・後期、現代社会論Ｃ（情報社会と法）・２単位・２年、法律学概論Ⅰ・２単位・３年・前期、法律学概論Ⅱ・２単位・３年・後期

７．社会貢献活動

田川市情報公開・個人情報保護審議会委員
築上町個人情報保護審査会委員
福智町情報公開審査会委員（会長）
福智町個人情報保護審査会委員（会長）
福智町まち・ひと・しごと総合戦略策定委員会委員（委員長）

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	吉岡　和子

１．教員紹介・主な研究分野

2004年3月に九州大学大学院人間環境学府博士後期課程を満期退学。臨床心理士として、病院（精神科）、保健福祉センター、学生相談室などに勤務後、2006年10月に本学に着任。

2007年2月に九州大学より博士（人間環境学）の学位を取得。

現在の主な研究領域は、①対人関係における自己表出の在り方に関する研究②アサーショントレーニング・プログラムの実践研究③心理アセスメントを用いた強迫性障害理解のための研究です。また、大学院で臨床心理士養成を行う上でケース・カンファレンスの進め方に関する研究も行っています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

・富田真弓・吉岡和子・河本　緑（2014）　強迫性障害の心理アセスメント　高橋靖恵（編）『「臨床のこころ」を学ぶ心理アセスメントの実際ークライエント理解と支援のために』（第3章）金子書房

・吉田加代子・吉岡和子（2014）ロールシャッハ法の学び方ー研修会が担う役割について高橋靖恵（編）『「臨床のこころ」を学ぶ心理アセスメントの実際ークライエント理解と支援のために』（第8章）金子書房

・吉岡和子（2014）社会的スキル　後藤宗理・二宮克美・高木秀明・大野　久・白井利明・平石賢二・佐藤有耕・若松養亮（編）『新・青年心理学ハンドブック』福村出版

＜論文＞

・久保山明梨・吉岡和子（2015）「自己アピールの苦手意識に対するアサーション・トレーニングの効果：「自分のこだわり」を語るワークを取り入れて『福岡県立大学心理臨床研究』7，21－30.

・大和美季子・吉岡和子（2015）「相手との関係性から捉えた間接的攻撃言動表出と心情」『福岡県立大学心理臨床研究』7，53－65.

・吉岡和子（2014）「譚・今野論文「中国人留学生における日本人への信頼感と適応の関連」を読んで」『青年心理学研究』25（2），137-141.

・小野田瑠璃・吉岡和子（2014）「家庭における居場所感が思春期の子どもに与える影響：自己肯定感と友人に対する「甘え」との関係に注目して」『福岡県立大学心理臨床研究』6（退官記念号），75－84.

・寺嶋　愛・吉岡和子（2014）「母子関係における愛着と依存・自律の関連：情緒的側面に焦点を当てて」『福岡県立大学心理臨床研究』6（退官記念号），93－102.

②その他最近の業績

＜学会報告＞

・富田真弓・吉岡和子（2014）強迫症者のロールシャッハ2事例の検討ー反応数が多い事例に表れた特徴　日本ロールシャッハ学会第18回大会

③過去の主要業績

・髙橋紀子・吉岡和子編（2010）「心理臨床、現場入門：初心者から半歩だけ先の風景」ナカニシヤ出版.

・吉岡和子・髙橋紀子編（2010）「大学生の友人関係論：友だちづくりのヒント」ナカニシヤ出版.

・吉岡和子（2007）「友人関係での自己表出における葛藤」『心理臨床学研究』24（6），日本心理臨床学会.

・吉岡和子（2002）「友人関係の理想と現実のズレ及び自己受容から捉えた友人関係の満足感」『青年心理学研究 』13，青年心理学会.

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

九州臨床心理学会　日本人間性心理学会　日本青年心理学会　日本心理臨床学会
日本教育心理学会　日本ロールシャッハ学会　日本パーソナリティ心理学会
日本精神分析学会　各会員

６．担当授業科目

＜学部＞パーソナリティ論／人格心理学・2単位・1年・後期，カウンセリング・2単位・4年・前期，家族心理学・2単位・4年・前期，教育相談（幼児教育）・2単位・4年・前期，演習・2単位・3年後期・4年前期，卒業論文・6単位・4年・後期
＜大学院＞臨床心理基礎実習・2単位・1年・通年，臨床心理学特論・2単位・1年・前期，臨床心理査定演習・2単位・1年・後期，臨床心理実習（学内）・1単位・2年・通年，臨床心理実習（施設）・1単位・2年・前期，特別研究・4単位・1-2年・通年

７．社会貢献活動

・NPO法人九州大学こころとそだちの相談室　理事／相談員
・福岡教育大学　心理査定委託相談員
・福岡女学院大学　心理査定委託相談員

８．学外講義・講演

・NPO法人九州大学こころとそだちの相談室　ロールシャッハ研修会講師（7月～2月：計6回）
・福岡県女性相談所 婦人保護事業新任者研修「DV相談と支援」6月24日
・産業カウンセラー養成講座「コミュニケーションの理論と活用」7月25日
・福岡県市町村職員研修所「カウンセリング・マインド養成研修」8月10－11日
・福岡市学校カウンセリング研究会「思春期の家族のあり方」8月19日
・産業カウンセラー養成講座「パーソナリティ理論・アセスメント」8月22日／23日
・平成27年度教職免許状更新講習会「『子どもの心』をはぐくむための関わり方」（岩橋宗哉准教授と共同担当）8月27日
・人権相談従事職員研修カリキュラム「面接技法講座 人権相談Ⅲ（対人援助）」9月15日・9月17日
・福岡県市町村職員研修　新規採用職員研修2015年後期「はじめてのメンタルヘルス講座」10月13日
・築城小学校　特別支援教育研修「自分も相手も大切にするコミュニケーション」12月1日
・小児慢性ピアカウンセリング研修会「病気の子どもと向き合うために」～親のメンタルヘルスを支える～」12月12日
・北九州LD等発達障害親の会　すばる勉強会　2月7日
・小郡市職員のメンタルヘルス研修　2月18日
・宮若市社会福祉協議会　地域福祉ゼミナール「自分も相手も大切にするコミュニケーション」2月23日
・田川市職員のメンタルヘルス研修　3月8日

９．附属研究所の活動等

＜生涯福祉研究センター＞　地域支援員
・お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）の企画と運営
・特別支援教育を行うためのスキルアップ・プログラムの企画と運営
・さわやかな自己表現塾の企画と運営
＜心理教育相談室＞　相談室委員

所属	人間社会学部／人間社会学研究科	職名	講師	氏名	池　志保

１．教員紹介・主な研究分野

医療（精神科・神経科・心療内科）及び教育を主な心理臨床のフィールドとしてきました。医療では、医療法人おくら会藤戸病院の常勤心理職を経て、医療法人弘恵会ヨコクラ病院、川谷医院などで非常勤心理職として従事してきました。教育では、福岡県中学校スクールカウンセラーを経て、現在も大学の学生相談室にて相談員を務めています。

研究では、「臨床及び発達における創造性」を研究の柱とし、1.　臨床における創造性の研究－理論生成の試み－、2.　発達と創造性に関する研究、3.　物語分析による女性の心理臨床的理解を主な研究テーマとしています。

2007年九州大学大学院人間環境学府博士後期課程単位取得後退学。2014年より、福岡県立大学人間社会学部・人間社会学研究科専任講師。その他、中村学園大学短期大学部幼児保育学科非常勤講師（2009年度後期「精神保健学」、2015年度前期「保育内容人間関係」）、西南学院大学大学院非常勤講師（2016年度集中予定「発達心理学特論」）など。

２．研究業績

①最近の著書・論文

［著書］

- 池志保（共著）「8章2節 タイプ分けと得点化－類型論と特性論」「10章3節 心の状態を判断する－心理アセスメント過程－」「あなたも実感No.19」「こんなところにNo.20」，『自ら実感する心理学－こんなところに心理学』土肥伊都子編著，他共同執筆者，保育出版社, pp.107-109, p.73, 2016.
- 池志保（共著）「5章4節 心理検査による査定」「事例で臨床心理学を学習する－あなたならどうしますか？－Case4」,『生きる力を育てる臨床心理学』小林芳郎編著，他共同執筆者，保育出版社, pp.65-68, pp.134-136, p.137, p.141, 2013.

［論文］

- 池志保・山本斉（共著）「バウムテストに見られる創造性の特徴－M-GTAによる理論生成の試み」，福岡県立大学人間社会学部紀要，第24巻第1号, pp.85-102, 2015.　査読有
- 池志保・山本斉・伊藤俊輔（共著）「バウムテストによる創造性の特徴－青年期女子を対象にした理論生成の試み－」，松山東雲女子大学人文科学部紀要第22巻, 2014.
- 伊藤俊輔・池志保・佐々木将太・桧田千裕（共著），「運動後の食事がヒト身体に及ぼす影響について」，松山東雲短期大学研究論文第44巻, 2014.
- 池志保（単著）「「非創造的」に生きていた芸術活動者－3種に分類した創造性の観点から事例理解を試みる－」，心理臨床学研究第30巻第6号, pp.899-910, 2013.　査読有

②その他最近の業績

［特集］

- 池志保（共著）「障害と創造性の臨床心理学」,『特集1 アウトサイダーアート入門』北山修編集,他共同執筆者，日本心理臨床学会 心理臨床の広場, 8巻2号,2016（発行予定）.

［報告］

- 中村晋介・池志保（共著）「就業力アンケート調査の再検討」研究ノート，福岡県立大学心理臨床研究, 8巻, 2016（発行予定）.
- 池志保（単独）症例検討,福岡精神分析研究会, 2016.
- 池志保（単独）「バウムテストによる創造性の特徴－青年期を対象とした理論生成の試み」, Characteristics of creativity determined by the Baum test: creating new theories targeted at adolescents，福岡県立大学研究奨励交付金（個別研究）平成26年度採択分報告書, 2015.
- 池志保（単著）「子どもの発達促進的環境を考える」,福岡県立大学公開講座Ⅰ『現代

を生きる子どもたち』第1回報告書,福岡県立大学附属研究所, 2015.

③過去の主要業績

［辞典］

・ 池志保（共著）「創造」，『日常臨床語辞典』北山修監督・妙木浩之編, 他共同執筆者, 誠信書房, pp.266-270, 2006.

［論文］

・ 池志保（単著）「鬱を呈する引きこもり青年との面接過程」，精神分析研究第51巻第2号, pp.85-90, 2007. 査読有

・ 池志保（単著）「心理臨床における芸術と創造性について」，九州大学心理臨床研究第26巻, pp.217-225, 2007. 査読有

［書評］

・ 池志保・北山修（共著）「『ウィニコット著作集4 子どもを考える』D.W.ウィニコット著、牛島定信・藤山直樹・生地新監訳」，精神分析研究第53巻第2号, pp.232-233, 2009.

３．外部研究資金

［その他（学内研究助成金）］

・福岡県立大学 平成27年度研究奨励交付金（若手奨励研究）、研究課題名「創造性とパーソナリティとの関連ーバウムテスト及びTEGを用いてー」、研究代表者：池志保（平成27年度期間、85,892円）。

・福岡県立大学 科研費補助制度、研究代表者：池志保（平成27年度期間、100,000円）。

４．所属学会

［学会］

日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本精神分析学会、日本教育心理学会、日本病蹟学会（各正会員）。

［その他の研究会］

日本精神分析学会認定 福岡精神分析研究会、コフート研究会（各正会員）、日本精神分析的自己心理学協会（準会員）。

５．担当授業科目

［学部］

発達心理学Ⅰ-A（2単位・1年・前期）、発達心理学Ⅰ-B（2単位・1年・前期）、発達心理学Ⅱ（2単位・1年・後期）、発達心理学Ⅲ（2単位・2年・前期）、教養演習（1単位・1年・前期）、演習（2単位・3年前期・4年後期）。

［大学院］

臨床心理実習（学内）（1単位・2年・通年）、臨床心理基礎実習（2単位・1年・通年）、発達心理学特論（2単位・1・2年・前期）、臨床心理実習（施設）（1単位・2年・前期）、臨床心理学研究法特論（2単位・1・2年・後期）。

６．社会貢献活動

・ （査読）福岡県立大学心理臨床研究

７．学外講義・講演

・ 福岡県立大学公開講座Ⅰ『現代を生きる子どもたち』第1回講師、「子どもの発達促進的環境を考える」、福岡県立大学附属研究所主催（2015年10月16日）

８．附属研究所の活動等

・ 附属研究所社会貢献・ボランティア支援センター運営部会・委員

・ 附属研究所調整部会・委員

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	講師	氏名	伊勢　慎

１．教員紹介・主な研究分野

保育者として現場経験が３年あり，授業や研究においてもその時の経験を活かし，子どもの育ちに寄与できるよう取り組んでいます。主な研究分野は，幼児教育，保育の内容に関すること，保育者養成に関することなどです。

２．研究業績

①最近の著書・論文

【著書】

・伊勢慎，森英子：『子育て考－特に三歳未満児までの大切な育児法－』，ふくろう出版，2014

②その他最近の業績

・伊勢慎：保育職における長期勤務の継続要因への着目．日本保育学会第 68 回大会，2015

・Makoto ISE：Factors behind Long-Term Employment in Child Care in Japan. Pacific Early Childhood Education Research Association 16th Annual Conference，2015

・木戸彩恵，伊勢慎，野田敦史，正岡里鶴子，奈良修三，香曽我部琢，中坪 史典：ケア労働者のよそおいによる専門性の表出と感情労働．日本質的心理学会第12回大会，2015

・Makoto ISE：Laying the Groundwork New Kindergarten Teachers in Career , The 8th KSECE Biennial International Conference, 2014

・伊勢慎，境愛一郎，保木井啓史，濱名潔：園内研修は保育所から幼稚園に異動した保育者に何をもたらしたかー「プレッシャー」を緩和する「コミュニケーションの場」としての役割ー，第 67 回日本保育学会，2014

・伊勢慎，境愛一郎，保木井啓史，濱名潔，中坪史典：園内研修における対話を促進させる要因－保育者個々の発言の特徴に着目してー．第25回日本発達心理学会，2014

・Makoto ISE, Miho KURAMITSU：The Attitude of Nursery School Teachers' Toward Internship Guidance at Nursery Schools: A Research Paper，Pacific Early Childhood Education Research Association 14th Annual Conference，2013

・伊勢慎，倉光美保：保育士の実習指導姿勢について３．第 66 回日本保育学会，2013

③過去の主要業績

・伊勢慎：『保育暦』，ふくろう出版，2012

・渡邊祐三，伊勢慎，横松友義：藍を用いた保育実践開発２―新たな実践開発とその経営条件―，日本保育学会第 65 回大会，2012

・後藤善友，仲嶺まり子，伊勢慎（他３名）：保育士養成校における初年次教育の成果と課題－九州ブロック保育士養成校である大学・短期大学に対する訪問調査をとおしてー，全国保育士養成協議会第51回研究大会，2012

・阿部敬信，仲嶺まり子，伊勢慎（他３名）：保育士養成校における初年次教育の実態－九州ブロック保育士養成校である大学・短期大学に対するアンケート調査をとおしてー，全国保育士養成協議会第51回研究大会発表，2012

・横松友義，渡邊祐三，伊勢慎，（他３名）：保育目標のとらえ方と保育実践の両者を質的に向上させる保育実践開発に関する考察，『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』第147号，125-133頁，2011

・横松友義，安達保雄，伊勢慎（他２名）：異年齢保育に関する体系的研究の重要性，『岡山大学教育学部研究集録』，第132号，69-76頁，2006

・伊勢慎，横松友義：子育ての知恵に基づく和多美知子の保育論構築―家庭教育研究の成果に基づく保育論構築―，日本家庭教育学会誌『家庭教育研究』第９号，23-31頁，2004

３．外部研究資金
　なし。

４．受賞
　なし。

５．所属学会
　日本保育学会，日本子ども社会学会，日本質的心理学会，日本発達心理学会，日本乳幼児教育学会

６．担当授業科目
・教養演習・１単位・１年・前期
・保育内容総論・２単位・２年・前期
・保育課程論・２単位・２年・後期
・保育実習指導Ⅰ・２単位・２～３年・通年
・保育実習Ⅰ・４単位・３年前期
・保育方法論・２単位・３年・後期
・演習・２単位・３年・後期
・保育内容演習・２単位・４年・後期
・保育・教職実践演習（幼稚園）・２単位・４年・後期

７．社会貢献活動
・大任町「まち・ひと・しごと創生有識者会議」委員

８．学外講義・講演
　なし。

９．附属研究所の活動等
・伊田小学校３年次講義「大学ってどんなところ」

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	講師	氏名	河野 高志

１．教員紹介・主な研究分野

2006年3月京都府立大学福祉社会学部卒業。2012年3月京都府立大学大学院公共政策学研究科博士後期課程修了。博士（福祉社会学）。京都府立大学、京都女子大学、神戸親和女子大学の非常勤講師を経て、2012年10月に本学着任。専門はソーシャルワーク論、ケアマネジメント論です。これまでの研究では、①英米を中心としたケアマネジメント発展過程の整理、②ミクロ・レベルからマクロ・レベルにおけるケアマネジメントの特徴の抽出、③ソーシャルワークにおけるケアマネジメント展開の検討を行ってきました。今後は、ソーシャルワーク実践として多分野で活用可能なケアマネジメント方法の構築を目指して研究を進めていきます。

２．研究業績

①最近の著書・論文

河野高志 「多分野のソーシャルワーク実践におけるケアマネジメント展開の比較　―福岡県内の相談支援事業所へのアンケート調査から―」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻　第１号、福岡県立大学人間社会学部、2015年

河野高志「日本のケアマネジメント展開の課題　–英米との比較をとおした今後の展望の考察-」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第22巻　第１号、福岡県立大学人間社会学部、2013年

②その他最近の業績

≪調査報告≫

河野高志 ・中村佐織「離島における福祉施設職員の研修の実態に関する一考察　―伊豆大島でのヒアリング調査による質的分析―」『福祉社会研究』第 16 号、京都府立大学福祉社会研究会、2016 年

河野高志「日本のソーシャルワークにおけるケアマネジメント展開の状況（１）　―ケアマネジメントに関わる問題と実施方針―」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻 第2号、福岡県立大学人間社会学部、2016年

≪学会発表≫

河野高志「多分野のソーシャルワーク実践にみるケアマネジメント展開の特徴　―相談支援機関へのアンケート調査から―」日本ソーシャルワーク学会　第32回大会、日本社会事業大学、2015年7月19日

河野高志「ソーシャルワークからみた日本のケアマネジメントの問題　―英米との比較をとおした考察―」日本ソーシャルワーク学会　第30回大会、仙台白百合女子大学、2013年6月30日

③過去の主要業績

河野高志『ソーシャルワークにおけるケアマネジメント方法の構築　―実践研究による方法の理論的検証―』京都府立大学大学院公共政策学研究科博士学位論文、2012年3月、pp.1-191

河野高志「海外のソーシャルワーク事情　- 英米の比較からみる日本のケアマネジャーの課題 - 」『月刊ケアマネジメント』12月号、環境新聞社、2010年、pp.12-14

太田義弘編、太田義弘・溝渕淳・長澤真由子・西内章・安井理夫・山口真里・西梅幸治・丸山裕子・伊藤佳代子・小榮住まゆ子・菊池信子・中村佐織・加藤由衣・河野高志・梅木真寿郎著『ソーシャルワーク実践と支援科学　- 理論・方法・支援ツール・生活支援過程 - 』相川書房、2009年、pp.178-183

３．外部研究資金
平成27年度～29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（B）「ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究」（研究代表者：丸山裕子、研究分担者：西梅幸治、伊藤佳代子、安井理夫、加藤由衣、河野高志、中村佐織、西内章）4,290千円（H.27）（H.27：250千円）

平成26～27年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）若手研究Ｂ「多分野で展開可能なケアマネジメント方法に関する基礎的研究」（研究代表者：河野高志）1,300千円

平成25～27年度科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究「離島の福祉施設職員に対する専門 的スキルアップ・システムの検討」（研究代表者：中村佐織、研究分担者：菊池信子、丸山 裕子、山口真里、加藤由衣、河野高志）2,800千円（H.25：100千円、H.26：100千円）

４．受賞
なし

５．所属学会
日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本リハビリテイション心理学会

６．担当授業科目
相談援助の理論と方法A（2単位・2年・前期）、相談援助の理論と方法D（2単位・3年・前期）、社会福祉学概論Ⅱ（2単位・1年・ 後期）、日本事情A（2単位・留学生・後期）、相談援助演習A（2単位・2年・通年）、相談援助演習C（1単位・3年・後期）、相談援助実習 （4単位・3年・通年）、相談援助実習指導（3単位・2～3年・通年）、社会福祉学演習（4単位・3年・後期）、卒業論文（6単位・4年・後期）

７．社会貢献活動
田川市男女共同参画センター運営委員会 委員
田川市地域人づくり事業に係る選考委員会　委員

８．学外講義・講演
福岡県社会福祉士会 認定社会福祉士基礎研修Ⅱ・Ⅲ（実践評価・実践研究系科目Ⅰ）講師

９．附属研究所の活動等
なし

所属	人間社会学部・一般教育	職名	講師	氏名	金　恩愛

１．教員紹介・主な研究分野

研究分野は、日韓対照研究。とりわけ、日本語と韓国語における表現様相の相違点の解明を中心テーマとする。韓国語と日本語は、同じ漢字文化圏という背景とともに、文法的な類似性もあって、両言語間に存在する表現様相の違いにはなかなか気づきにくい。私は、日本語と韓国語のこうした違いを、表現のあり方を問う表現様相という観点から捉えなおしている。表現様相という観点から見たとき、まず言えるのは、日本語は韓国語に比べ相対的に名詞的な表現が好まれ、韓国語は日本語に比べ相対的に動詞的な表現が好まれるという点である。こうした日韓表現様相論に立脚した研究成果は、言語教育にも即応用できるものである。今後は、韓国語と日本語における表現様相の違いを明らかにしていく研究とともに、そこから得られた研究成果を、言語教育の現場にどのように還元できるか、教材作りや、辞書編纂、日韓翻訳という角度から考えていきたい。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・金恩愛(2013)『テーマで学ぶ韓国語初級会話』、韓国：ことばの森、2013年3月
・金恩愛(2013)『はじめて学ぶ韓国語入門会話』、韓国：ことばの森、2013年10月
・金恩愛(2014)「日本語と韓国語における主語の現れ方について」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第22巻第2号、55-62頁(総8頁)、福岡県立大学、2014年1月
・金恩愛(2015)「일본어 -さ에 대응하는 한국어 표현(日本語の「-さ」に対応する韓国語の表現)」『일본의 한국어학(日本韓国語学)』、 韓国:サムギョン、 2015 年 3 月
(金恩愛(2006)「日本語の「-さ」派生名詞は韓国語でいかに現れるか--翻訳テクストを用いた表現様相の研究--」東京：日本語教育学会、『日本語教育』129 号の再録(一部修正後・翻訳))
・金恩愛(2015)『間違いやすい韓国語表現 100 上級編(韓国語実力養成講座３)』、東京：白帝社、2015 年 6 月

②その他最近の業績

＜口頭発表＞
・金恩愛(2013)「日本語と韓国語における主語の現れ方について」、韓国日本語学会・第28回秋季学術大会、韓国：ハンバッ大学、2013年9月28日(土)
・金恩愛(2014)「名詞志向の日本語vs.動詞志向の韓国語」、麗澤大学言語研究センター・シンポジウム「名詞的表現の機能に関する対照言語学的研究」2014年1月11日(土)
・金恩愛(2014)「日本語と韓国語の対照からみた名詞分類」、韓国日本語学会・第29回春季学術大会、韓国：ﾍﾟｯｿｸｲｪｽﾙ大学、2014年3月22日(土)

＜共同研究プロジェクト＞
・福岡県立大学 平成25年度研究奨励プロジェクト「山本作兵衛コレクションの保存・活用に関する総合的研究(2年目) ―福祉系総合大学のアーカイブス戦略―」、共同研究者（研究代表：森山 沾一）

＜報告書＞
・KIM, Eunae. 2013. Five levels in Korean. *Five Levels in Clause Linkage* [NINJAL Collaborative Research Project Reports], Tasaku Tsunoda(ed.), 415-450. Tachikawa, Japan: National Institute for Japanese Language and Linguistics.
・金恩愛(2014)「韓国ユネスコ世界記憶遺産調査報告：「5･18民主化運動記録物」を中心に」『福岡県立大学附属研究所　生涯福祉研究センター　研究報告叢書』vol.52、

福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター、2014年3月

＜翻訳＞

・金恩愛(2015.6～2016.3)「日本 와시노 아키코 선생님의 음악교육열전(鷲野彰子先生の)音楽教育熱伝『Music Friends』韓国：ヒョンデウマク(現代音楽)全10回

＜エッセイ＞

・金恩愛(2013.4～2016.3)「日本の風景」(原文は韓国語)『福岡韓国教育院　心』全36回

・金恩愛(2013)「日本語学習法、一、二、三」『日本語こう勉強しろ』、韓国日本語学編、韓国：ﾁｪｸｻﾗﾝ、2013年12月

③過去の主要業績

・金恩愛(2003)「日本語の名詞志向構造と(nominal-oriented structure)と韓国語の動詞志向構造(verbal-oriented structure) 」『朝鮮学報』第188輯。天理：朝鮮学会

・金恩愛(2006)「日本語の「-さ」派生名詞は韓国語でいかに現れるか－ 翻訳テクストを用いた表現様相の研究－ 」『日本語教育』129号。東京：日本語教育学会

・油谷幸利、金恩愛(2007)『韓国語実力養成講座1間違いやすい韓国語表現100 初級編』東京：白帝社 総233頁

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

・朝鮮学会、朝鮮語教育研究会、福岡朝鮮語教育研究会、日本語教育学会、韓国日本語教育学会、韓国日本語学会

6. 担当授業科目

・コリア語Ⅰ-(1)・コリア語Ⅰ-(2)・2単位・1年・通年、コリア語Ⅱ-(1)・コリア語Ⅱ-(2)・2単位・2年・通年、コリア語Ⅲ-(1)・コリア語Ⅲ-(2)・2単位・3年・通年、教養演習・1単位・1年・前期、韓国の社会と文化・2単位・2年・後期（育児休業：2015年5月19日～20016年1月31日）

7. 社会貢献活動

・「第 2 回九州ハングル学校韓国語弁論大会」（審査員）2015 年 10 月 24 日

・「第 7 回「話してみよう韓国語」福岡大会」（審査員）2015 年 12 月 12 日

・ 田川市民のための韓国語通訳・翻訳等

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部人間形成学科	職名	講師	氏名	小山憲一郎

１．教員紹介・主な研究分野

2013年3月鹿児島大学大学院医歯学総合研究科を修了。摂食障害患者の知能に関する研究を行い、医学博士を取得しました。また臨床心理士として、心療内科にて心身症、精神科において主にうつ病、不安障害に対する認知行動療法を実践し、研究を行ってきましたが、2015年10月に本学に着任しました。現在は、ストレス関連疾患における認知行動療法の研究、不安の受容を促す心理療法の作用機序に関する実証研究を主に行っています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・Ken Ichiro Koyama, Haruka Amitani, Ryo Adachi, Toshiki Morimoto, Megumi Kido, Yuka Taruno, Keizaburo Ogata, Marie Amitani, Akihiro Asakawa & Akio Inui. Good appearance of food gives an appetizing impression and increases cerebral blood flow of frontal pole in healthy subjects International Journal of Food Sciences and Nutrition 67,1, 2016

・小山憲一郎 乾明夫 FD診療ガイド 「困った症例」問診や信頼関係の構築がうまくいかない患者にはどう対応すればよいか？, 株式会社 ヴァンメディカル, 2015年, 単行本 (学術書)

・小山憲一郎 肥満症患者への適切な心理的アプローチ ： 臨床心理士の立場から (特集 現在の肥満症治療のあり方), 日本医事新報 , 4698,36-42, 2015

・小山憲一郎・乾明夫 認知機能アセスメントを活かした過敏性腸症候群の治療 ： WAIS-IIIを利用した心理社会的アプローチ (特集 過敏性腸症候群の病態と診療)Psycho-social approach to the treatment of IBS using the assessment of cognitive functions 消化器内科59 (3) ,237－241,2014

・小山憲一郎 浅川明弘 地方都市における若年の肥満症治療―Eメールを使った低強度認知行動療法―, 認知療法研究 , 6(2),155－156, 2013

・心身医学分野で若年の心理士が高齢者の心理的援助について悩み,学んだこと ： 認知行動療法の理論,技法を活かしながら(高齢者医療に必要な心身医学的知識,2012年,第53回日本心身医学会総会ならびに学術講演会(鹿児島)) 心身医学 53(4), 325-333, 2013

②その他最近の業績

・第31回日本肥満症治療学会, 国内会議, 2013年06月, 東京, シンポジウムⅢ「肥満症の治療―集学的治療の確立・普及を目指して―」肥満症への認知行動療法-アセスメントから技法選択まで-,
・第19回日本行動医学会, 国内会議, 2013年03月, 東京, 重度神経性食欲不振症制限型患者の体重回復前後におけるIQと認知機能の検討,

・第19回日本行動医学会, 国内会議, 2013年03月, 東京, シンポジウム2 心身症の行動医学とCBT：摂食障害治療－認知・行動からのアプローチ－,
・第99回日本消化器病学会, 国内会議, 2013年03月, 鹿児島, 認知機能アセスメントを活かした過敏性腸症候群の治療―WAIS‐IIIを利用した心理社会的アプローチ―, その他

③過去の主要業績

・職場での社交不安と関連した機能性消化管障害に認知行動催眠療法を用いた一症例，消化器心身医学，19（61-68），2012年04月，小山憲一郎、網谷東方、小木曽和磨、春田いづみ、雑敷孝博、浅川明弘、乾明夫

・Ken Ichiro Koyama, Akihiro Asakawa, Toshiro Nakahara, Hruka Amitani, Marie Amitani, Masaki Saito, Yuka Taruno, Takahiro Zoshiki, Kai-Chun Cheng, Daisuke Yasuhara, Akio Inui. Intelligence quotient and cognitive functions in severe restricting-type anorexia nervosa before and after weight gain, Nutrition, 28 (1132-1136) , 2012

・KI. Koyama, D. Yasuhara, T. Nakahara, T. Harada, M. Uehara, M. Ushikai, A. Asakawa, A. Inui. Changes in Acyl Ghrelin, Des-acyl ghrelin, and Ratio of Acyl Ghrelin to Total Ghrelin with Short-term refeeding in Female Inpatients with restricting-type Anorexia Nervosa., Hormone and Metabolic Research , 42 (595-598) , 2010

３．外部研究資金

特記なし

４．受賞

特記なし

５．所属学会

日本心理臨床学会　日本認知療法学会　日本心身医学会　日本摂食障害学会　日本肥満症治療学会　日本ポジティブサイコロジー医学会　日本森田療法学会

６．担当授業科目←助手の方は、**担当授業科目（補助）**としてください。

障害者（児）心理学・2単位・4年次・後期

７．社会貢献活動

日本心身医学会九州沖縄地区地方代議員

８．学外講義・講演

特記なし

９．附属研究所の活動等

・お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）

所属	人間社会学部	職名	講師	氏名	柴田　雅博

１．教員紹介・主な研究分野

1999年九州大学システム情報科学研究科修士課程を修了、2005年同大学同研究科博士後期課程を単位取得退学。1年間財団法人九州システム情報技術研究所に勤務後、九州大学システム情報科学研究科に戻り研究員を勤める。2012年フェリス女学院大学情報センター助手を勤めたのち、2015年本学人間社会学部講師に着任する。

専門は自然言語処理という人間が日常使っている言葉（自然言語）をコンピュータで解析し他の処理に応用する研究である。その中で私は特にWWW上にある膨大なテキストデータ（HTMLやPDFなど）を利用し、そこから言語知識を獲得し、英日のフレーズ翻訳知識を収集したり対話処理に応用したりといったことを行っている。

本学では情報学教育を中心として、福祉情報教育プログラムに携わっている。

２．研究業績

① 最近の著書・論文

なし

② その他最近の業績

- 内田奈津子，柴田雅博，春木良且：フェリス女学院大学における新入生の情報教育に関する実態調査とその対応，大学 ICT 推進協議会 2013 年度年次大会，F3D−4，(2013.12).
- 柴田雅博，内田奈津子，春木良且：ICT スキルの可視化と対策 ～初年次から卒業までのスキルアップ計画～，教育改革ＩＣＴ戦略大会，D-15, (2014.9)
- 内田奈津子，柴田雅博，春木良且：新入生 ICT 活用能力に関する実態調査とその対応，大学 ICT 推進協議会 2014 年度年次大会，W3E-1, (2014.12).
- 柴田雅博，石崎龍二：保健福祉系大学における全学横断型での統計・情報教育拡充への取り組み,第 134 回コンピュータと教育研究会, (2016.3).

③ 過去の主要業績

（論文）

- 柴田雅博，冨浦洋一，田中省作：Web 上の語の共起性に基づいたコロケーションの翻訳支援，情報処理学会論文誌，Vol.46, No.6, pp.1479-1491, (2005.6).
- 行野顕正，田中省作，冨浦洋一，柴田雅博：統計的アプローチによる英語スラッシュ・リーディング教材の自動生成，情報処理学会論文誌，Vol.48, No.1, pp.365-374, (2007.1).
- 冨浦洋一，青木さやか，柴田雅博，行野顕正：仮説検定に基づく英文書の母語話者性の判別，自然言語処理，Vol.16, No.1, pp.25-46, (2009.1).
- 柴田雅博，冨浦洋一，西口友美：雑談自由対話を実現するための WWW 上の文書からの妥当な候補文選択手法，人工知能学会論文誌，Vol.24, No.6, pp.507-520, (2009.9).
- M. Shibata, T. Nishiguchi, Y. Tomiura: “Dialog System for Open-Ended Conversation Using Web Documents”, Informatica, Vol.33, No.3, pp.277-284, (2009.10).
- 田中省作，柴田雅博，冨浦洋一：Web を源とした質情報付き英語科学論文コーパスの構築法，英語コーパス研究，No.18, pp.61-71,(2011.6).
- M. Shibata, T. Funatsu, Y. Tomiura: “Extraction of Alternative Candidates for Unnatural Adjective-Noun Co-occurrence Construction of English”, Procedia - Social and Behavioral Sciences, Vol.27, pp.32-41, (2011.11).

（国際会議）

- M. Shibata, Y. Tomiura, S. Tanaka: “A Method for Retrieving Translation of

Collocation in Web Data", Asian Symposium on Natural Language Processing to Overcome Language Barriers, pp.1-8, (2004.3).

- T. Ienaga, M. Matsumoto, N. Toyoda, Y. Kimura, H. Gotoh, M. Shibata, T. Yasukouchi: "Travel Aid System with Auditory-map and Video Phone for the Visually Impaired", The 21st Annual International Technology and Persons with Disabilities Conference, (2006.3).
- T. Ienaga, M. Matsumoto, M. Shibata, N. Toyoda, Y. Kimura, H. Gotoh, T. Yasukouchi: "A Study and Development of the Auditory Route Map Providing System for the Visually Impaired", 10th International Conference on Computers Helping People with Special Needs（ICCHP2006）, LNCS 4061, pp.1265-1272, (2006.7).
- M. Shibata, Y. Tomiura, H. Matsumoto, T. Nishiguchi, K. Yukino, A. Hino: "Developing a Dialog System for New Idea Generation Support", 21st International Conference on the Computer Processing of Oriental Languages, pp.490-497, (2006.12).
- M. Shibata, T. Nishiguchi, Y. Tomiura: "A Method for Automatically Generating Proper Responses to User's Utterances in Open-ended Conversation by Retrieving Documents on the Web", The 2008 IEEE International Conference on Information Reuse and Integration (IEEE-IRI 2008), pp.268-273, (2008.7).
- M. Shibata, Y. Tomiura, T. Mizuta: "Identification among Similar Languages Using Statistical Hypothesis Testing", PACLING2009, pp.47-52, (2009.9).

（国内発表）

- 柴田雅博，冨浦洋一，日高達：翻訳文法を用いた変換主導型機械翻訳，火の国情報シンポジウム 2001 公演論文集 pp.31-38, (2001.3).
- 冨浦洋一，柴田雅博，田中省作：WWW ドキュメントからの日本語共起に対する英訳候補の検出，言語処理学会第 10 回年次大会，pp.616-619 ，(2004.3).
- 家永貴史，松本三千人，豊田信之，木村陽子，後藤拓志，柴田雅博：視覚障害者用音声地図の生成規則と有用性の検討，第 4 回情報科学技術フォーラム(FIT 2005)講演論文集, pp.525-527, (2005.9).
- 冨浦洋一, 柴田雅博，西口友美：対話における応答文の候補文検索型生成法，言語処理学会第 13 回年次大会発表論文集, pp.927-930, (2007.3).
- 柴田雅博，冨浦洋一，西口友美：Web 文書を言語資源とする情報検索型対話システム，人工知能学会言語・音声理解と対話処理研究会（第 50 回） pp.71-76, (2007.7).
- 西口友美，冨浦洋一，柴田雅博：話題の遷移と意味的関連性を利用した対話システムの開発，JAWS2007 発表論文集, (2007.10).
- 青木さやか，冨浦洋一，柴田雅博：Web 上からの母語話者英論文・非母語話者英論文の自動収集システム，JAWS2007 発表論文集, (2007.10).
- 田中省作, 小林雄一郎, 徳見道夫, 後藤一章, 冨浦洋一, 柴田雅博：学校英文法の学参例文データベースとその応用，情報処理学会研究報告 2012-CH-093, pp.1-8, (2012.1）.

他

３．外部研究資金

なし

４．受賞

なし

５．所属学会

情報処理学会，電子情報通信学会，人工知能学会言語処理学会

６．担当授業科目
　教養演習・1単位・1年前期，情報処理の基礎と演習・2単位・1年前期

７．社会貢献活動
・社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会情報の共有及び活用に関するプロジェクト　外部アドバイザー（2015.6.～2015.8.）

８．学外講義・講演
　なし

９．附属研究所の活動等
　なし

【上記とは別にＨＰ掲載する主な研究内容（１～３の項目数の範囲で）及び保有学位】

（研究内容）
１．自然言語処理に関する研究
２．情報教育に関する研究

（保有学位）
　博士（工学）

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	講師	氏名	寺島　正博

１．教員紹介・主な研究分野

主な研究対象については、知的障害者のグループホーム（以下、ＧＨと省略する）従事者における専門職性、障害福祉サービス従事者における無意識の虐待等である。

ＧＨ従事者の専門職性については、近年の「地域生活移行」の風潮に伴いＧＨは増加の一途を辿っている。しかし、利用者の増加に伴いニーズは多様化をみせ、その範囲は拡大し続けているにも関わらず、それを受け止めるＧＨ従事者の専門職性が必ずしも追いついているとは言えない。「ＧＨ従事者は専門職と成り得るのか」といった研究テーマを設定し、歴史研究や理論研究、さらには、実態解明の研究を基に専門職への道筋について探究してＧＨ従事者の専門職性を実証的に検討している。

また、昨今の新聞等が大きく報道するように、障害者への虐待は重大な人権侵害である。このような虐待問題の解消に取り組むため、国内外において未だ明らかにされていない障害福祉サービス従事者が行う無意識の虐待等について研究している。具体的には従事者が無意識の虐待等に対してどのような意識であるのか、無意識の虐待等と従事者の個人属性や労働環境がどのような関係にあるか、また従事者が無意識であることから間接手法を用いて観察従事者による加害従事者の無意識の虐待等について明らかとしている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜論文＞

・（単著）「無意識の不適切行為の防止に関する研究－全国アンケート調査における観察従事者の視点－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第２号，福岡県立大学人間社会学部，2015年，１－16頁.

・（単著）「障害福祉サービス従事者による虐待の防止に関する研究－虐待の概念に対する検討－」『東京福祉大学・大学院紀要』（研究ノート）第３巻第１号，東京福祉大学，2013年，57-65頁.

②その他最近の業績

＜学会発表＞

・（単独）「無意識の不適切行為の防止に関する研究－全国障害福祉サービス従事者の意識調査から－」『日本社会福祉学会第62回全国大会（会場：早稲田大学，口頭発表）』日本社会福祉学会，2014年11月.

・「A Study on the Prevention of Unconscious Maltreatment of People with Disabilities Committed by Disability Welfare Service Employees－Consideration Based on Occurrence Factors and Resolution Conditions of Practice Sites by a Nationwide Interview Survey－」Masahiro TERAJIIMA，e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2015, poster presentation(2015).

＜セミナー＞

・（単独）「日本・中国・韓国３ケ国の障害福祉に関するセミナー」主催：韓国障害者開発院「日中韓障害者福祉の現状について」（会場：韓国障害者開発院，口頭発表），2014年５月.

＜解説集＞

・（共著）『2016社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2015年.

・（共著）『2016社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2015年.

・（共著）『2015社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2014年.

・（共著）『2015精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規，2014年.

・（共著）『2014社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2013年.

・（共著）『2014精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規，2013年.

③過去の主要業績

＜著書＞

・（単著）『障害者の地域移行への援助－グループホーム従事者の専門職性』文芸社，2012年.

＜論文＞

・（単著）「知的障害者のグループホーム従事者による利用者のコンピテンス評価の課題－全国調査による一人暮らしのニーズに対する阻害要因から－」『東京福祉大学・大学院紀要』第２巻第２号，東京福祉大学，2012年，133－140頁.

・（単著）「知的障害者グループホーム利用者と地域住民の交流に対する意義と促進要因の研究－地域住民と知的障害者グループホーム従事者のインタビュー調査から－」『社会科学論集』第２号，2010年，27-108頁.

３．外部研究資金

・「障害福祉サービスで起こる『無意識の虐待』の存在と防止モデルに関する研究」平成25年度科学研究費助成事業（基盤研究Ｃ）

４．受賞

・e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2015” poster award(2015).

５．所属学会

・日本社会福祉学会
・日本ソーシャルワーク学会
・障害学会

６．担当授業科目

障害者福祉論（２単位・２年・前期)、精神保健福祉論Ⅰ（２単位・２年・後期)、相談援助実習指導（３単位・２年～３年・通年)、社会福祉学演習（２単位・３年～４年・後期～前期)、相談援助演習Ｂ（２単位・３年・通年）、相談援助演習Ｃ（１単位・３年・後期）、教養演習（２単位・１年・前期).

７．社会貢献活動

・糸田町地方創生・人口減少対策委員

８．学外講義・講演

・北九州市立自然史・歴史博物館ユニバサールミュージアム化事業（知的障がい児者の現状と課題）
・宗像市社会福祉協議会地区福祉連絡協議会（障害者差別解消法の現状と課題）
・戸畑高校（出前講義）
・北筑高校（出前講義）

９．附属研究所の活動等

・公開講座の運営に関する企画・運営
・生命保険実学講座に関する運営

（研究内容）

１．障害福祉サービス従事者における無意識の虐待等に関する研究
２．知的障害者のグループホーム従事者における専門職性に関する研究
３．障害者の養護者における無意識の虐待等に関する研究

（保有学位）
博士（学術）

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	講師	氏名	平林　恵美

１．教員紹介・主な研究分野

我が国では、精神障害者の社会復帰活動やリハビリテーションは、医療の領域に限定された狭い意味で用いられてきました。近年では精神障害者の就労に対するニーズが高まり、その内容も多様化しています。過去に行った研究結果では、精神障害者の就労支援は、精神保健福祉士が職場開拓を行うとか、授産施設などにおける就労訓練・就労準備を行い、一般就労に向けた仕事を探すことが一般的であり、そのため、退院、社会への適応、就労などを社会復帰と表現していました。またリハビリテーションにおいては、過去の考えから大きく変わったものとして、「全人的復権」の考え方があります。現在では、医学モデルに基づいた治療から反省して、利用者の主体性や尊厳、自己決定権の尊重、自由を基調とするようになり、リハビリテーションには医療だけでなく、福祉的援助が不可欠であることが共通の認識になってきました。

以前より精神科領域で使われてきた「社会復帰」という言葉は、近年ではこの「リハビリテーション」に言い換えられてきているようですが、人が自ら持っている力を活かし、社会参加や自己実現をし、より良い生活をしていくために状況に応じて主体的に対処し、対応していける力を発揮できるように援助することは、ソーシャルワークの役割であるとともに、それはリハビリテーションの技術にも関わるものであると考えます。今後もめまぐるしく変化する障害者施策の状況に鑑み、精神科リハビリテーションの実践的・理論的発展が喫緊の課題となっています。

今後の私の研究については、当事者の社会参加の方法、就労支援のあり方やその体系化の検討だけでなく、ソーシャルワーカーの役割と実践的課題について検討を深めていきたいと考えています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・平林恵美「第5章 障害者自立支援法と組織・団体の役割」新版 精神保健福祉士・社会福祉士養成セミナー編集委員会編集 精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー『第11巻 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』、へるす出版、2012年5月

②その他最近の業績

③過去の主要業績

・入江多津子・平林恵美「精神保健福祉援助演習Ｉにおける学生の学びの実際－演習の意味を考える－」『健康科学大学紀要』第7号、2011年3月

・荒田寛、池田武俊、岩尾貢、内出幸美、大谷るみ子、水井勇一、平林恵美、高村智子、山梨恵子、橋詰清『独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」平成21年度助成事業「認知症グループホームにおける運営推進会議の実態調査・研究事業」』報告書、2010年3月

・平林恵美『精神障害者の就労支援における福祉工場の機能に関する研究－地域生活における「生活者」を重視した支援方法の展開の検討－』財団法人明治安田こころの健康財団「2005年度研究助成論文集」通巻第41号、 2006年10月

５．所属学会

・日本社会福祉学会、日本病院・地域精神医学会、日本精神障害者リハビリテーション学会、（社）日本精神保健福祉士協会

６．担当授業科目

精神保健福祉相談援助の基盤（専門）・2単位・2年・前期、精神保健福祉援助技術各

論Ⅰ・2単位・3年・前期、精神保健福祉援助技術各論Ⅱ・2単位・3年・後期、精神保健福祉援助演習・2単位・4年・通年、精神保健福祉援助演習・2単位・3年～4年・3年後期～4年後期、精神保健福祉援助実習・8単位・4年・通年、精神保健福祉援助実習指導・3単位・3年～4年・3年前期～4年後期、社会福祉学演習・2単位・3年～4年・3年後期～4年前期、卒業論文・6単位・4年・後期

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	講師	氏名	松岡　佐智

１．教員紹介・主な研究分野

私は現在、高齢者福祉と社会福祉教育を主な研究分野としています。高齢者福祉分野では、これまで、高齢者の生きがい支援のあり方、高齢者が積極的に社会参加できる地域ケアシステムの課題について研究を進めてきました。今後は、高齢者の権利擁護の必要性を踏まえ、「介護施設内における高齢者虐待の防止に向けた課題」について研究を進めていきたいと考えています。

また、社会福祉教育分野では、社会福祉士・精神保健福祉士の実習教育のあり方にも関心を持っています。これまでの具体的な取組みとして、「社会福祉学科学生の実習意識に関する調査」等の調査を実施してきました。今後も継続して、社会福祉専門職養成としての実習のあり方や学生に対する実習教育方法、及び実習受入れ側の施設等との連携のあり方等を研究テーマとして取り組んでいきたいと考えています。

２．研究業績

①最近の著書・論文　［2013（平成 25）年度～2015（平成 27）年度］

(1) 松岡佐智・田中将太・袖井智子「社会福祉士養成における相談援助実習の実態と課題(1)－旧相談援助実習ガイドラインからみた実習内容の課題－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』 第 22 巻第 2 号、福岡県立大学、2014 年 1 月

(2)松岡佐智「第 11 章精神保健福祉」、鬼﨑信好（編）、『コメディカルのための社会福祉概論 第 2 版』、講談社、2014 年 2 月

(3) 松岡佐智「第 11 章精神保健福祉」、鬼﨑信好（編）、『コメディカルのための社会福祉概論 第 3 版』、講談社、2016 年 2 月

②その他の業績

〈調査報告書〉

(1) 鬼崎信好（研究代表)編集、本郷秀和、村山浩一郎、松岡佐智、永田千鶴、荒木剛「利用者本位の介護サービス評価手法の開発に関する研究」久留米大学発行、2015 年 3 月.（平成 23～26 年度科学研究費補助金基盤研究 C 研究成果報告書）

③過去の主要業績

(1) 松岡佐智「第 9 章 社会福祉のニーズとサービス」、鬼﨑信好（編）、『コメディカルのための社会福祉概論』、講談社、2012 年 4 月

(2)本郷秀和、荒木剛、松岡佐智、袖井智子「介護系 NPO の実態と課題　－平成 21 年度制度外サービスを実施する NPO 法人全国実態調査における自由回答の分析を中心に－」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第 19 巻第 2 号、福岡県立大学、2011 年 1 月

(3)松岡佐智・本郷秀和「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究 －福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性Ⅱ－」、『福岡県立大学人間社会学部 紀要』第 17 巻第 2 号、福岡県立大学、2009 年 1 月

(4)松岡佐智「高齢者の生きがいと社会参加に関する調査研究　－北九州市のアンケート調査をもとにして－」『九州社会福祉学』創刊号、日本社会福祉学会九州部会、2005 年 3 月

３．外部研究資金（平成 27 年度）

(1) 平成 26-29 年度 科学研究費補助金【基盤研究 C】研究代表：本郷秀和、テーマ：「介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題」468 万円(総額)　共同研究者

４．所属学会

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本福祉教育・ボランティア学習学会

５．担当授業科目
(1)「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」(2 単位・1 年前期)
(2)「教養演習」(1 単位・1 年前期)
(3)「社会貢献論演習」(2 単位・1 年後期・共同)
(4)「社会福祉特講 A」(2 単位・2 年・3 年後期)
(5)「相談援助演習 A」(2 単位・2 年通年)
(6)「相談援助実習指導」(3 単位・2 年通年・共同)
(7)「相談援助実習指導」(3 単位・3 年通年・共同)
(8)「相談援助実習」(4 単位、3 年通年)
(9)「相談援助演習 C」(1 単位、3 年後期)

６．社会貢献活動
(1)福岡県介護保険審査会　三者合議体委員
(2)川崎町地域包括ケアシステム推進委員

７．学外講義・講演
(1)出前講義：福岡県立青豊高等学校「社会福祉入門」(8 月 31 日)

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	講師	氏名	鷲野　彰子

１．教員紹介・主な研究分野

ピアノ及び歴史的楽器（クラヴィコード、フォルテピアノ）の演奏を行うかたわら、19世紀の演奏様式を研究している。近年は、20世紀初期の録音と楽譜を照らし合わせることで、当時の人々が楽譜をどのように読み、解釈していたか、また、19世紀の当時の演奏習慣（ルバート等）それ自体を明らかにする研究を行っている。

本学では、ピアノの個人指導の他、楽典や幼児教育の表現の授業（音楽）等を担当している。

２．研究業績

①最近の著書・論文

[論文]

鷲野彰子（2013），ブラームスが想定した《Op.117-1》の演奏はいかなるものであったのか：「ズレ」が表現するもの．福岡県立大学紀要，22/1，55-68.

鷲野彰子（2014），ブラームスとアルペジオ：当時の演奏から楽譜上に現れた／現れなかったアルペジオの意味合いを読み解く．福岡県立大学紀要，22/2，77-102.

鷲野彰子（2015），ピアノロールのデータ分析の試み：パデレフスキによるショパン《ワルツ Op.34-1》演奏のワルツのリズム部分に着目して．福岡県立大学紀要，24/1，55-71.

中藤広美・鷲野彰子（2015），実習前教育における学生教育の課題と方法：環境構成に関する学生の理解状況を踏まえて．福岡県立大学紀要，24/2，17-31.

鷲野彰子（2016），パデレフスキのルバート：ピアノロールの分析試論（１）．フィロカリア，33，27-58.

②その他最近の業績

[学会発表]

鷲野彰子，「ズレ」た演奏：録音（1900 年-1920 年頃）からブラームス後期小品集を再考する．日本音楽表現学会，アイーナ（岩手），2013 年 6 月.

鷲野彰子，シューマンの書法における「ズレ」の読み方を考える：ブラームス作品における「ズレ」との比較．日本音楽表現学会，帝塚山大学（奈良），2014 年 6 月.

鷲野彰子，ピアノロールの計量的解析によるパデレフスキのルバート奏法分析．日本音楽表現学会，沖縄県立芸術大学（沖縄），2015 年 6 月.

中藤広美・鷲野彰子，実習前における学生の環境構成についての意識の現状と課題．全国保育士養成協議会第 54 回研究大会，ロイトン札幌（北海道），2015 年 9 月.

[書評]

鷲野彰子（2015），シューマンの結婚：語られなかった真実．週刊読書人，2015年6月19日版，6.

[新聞記事]

鷲野彰子（2015），民音音楽博物館西日本館．大阪日日新聞，2015 年 9 月 9 日版，18.

[雑誌記事]

鷲野彰子（2013），ウィーンの音楽界に新たな楽器が参入するとき．Music Friends（韓国），68，16-21.

鷲野彰子（2013），フォルテピアノ製作家の現在．Music Friends（韓国），69，17-21.

鷲野彰子（2013），フォルテピアノから見える景色．Music Friends（韓国），70，17-22.

鷲野彰子（2013），自動演奏ピアノ．Music Friends（韓国），71，18-22.

鷲野彰子（2013），待つこと、休符. Music Friends（韓国），72, 18-22.
鷲野彰子（2013），ズレの存在. Music Friends（韓国），73, 18-22.
鷲野彰子（2013），デトレフ・クラウス先生. Music Friends（韓国），74, 18-22.
鷲野彰子（2013），作曲家の声. Music Friends（韓国），75, 18-22.
鷲野彰子（2013），室内楽. Music Friends（韓国），76, 18-22.
鷲野彰子（2014），《ラ・ヴァルス》：幻のバレエ《ウィーン》. Music Friends（韓国），77, 18-22.
鷲野彰子（2014），教材の選択：ツェルニーの《練習曲》. Music Friends（韓国），78, 18-22.
鷲野彰子（2014），100 年前の演奏. Music Friends（韓国），79, 18-22.
鷲野彰子（2014），音楽家とサロン. Music Friends（韓国），80, 18-22.
鷲野彰子(2014), 19 世紀におけるユダヤ人音楽家の存在. Music Friends(韓国), 81, 18-22.
鷲野彰子（2014），同一曲の出版譜が複数ある理由. Music Friends（韓国），82, 18-22.
鷲野彰子（2014），チェコ人作曲家ヤン・ヴァーツラフ・ヴォジーシェク. Music Friends（韓国），83, 18-22.
鷲野彰子（2014），安城男寺党（アンソン・ナムサダン）. Music Friends（韓国），84, 18-22.
鷲野彰子（2014），和音を同時に弾かない 19 世紀のピアニスト. Music Friends（韓国），85, 18-22.
鷲野彰子（2014），味わいある作品。そしてその制作者. Music Friends（韓国），86, 18-22.
鷲野彰子（2014），間合い. Music Friends（韓国），87, 18-22.
鷲野彰子（2014），練習. Music Friends（韓国），88, 20-23.
鷲野彰子（2015），魔法的要素と錯覚. Music Friends（韓国），89, 20-23.
鷲野彰子（2015），土地に根づいた芸術. Music Friends（韓国），90, 20-24.
鷲野彰子（2015），ショパン《ワルツ Op.34-1》の楽譜比較. Music Friends（韓国），91, 20-24.
鷲野彰子（2015），ショパン《ワルツ Op.34-1》の作品比較. Music Friends（韓国），92, 20-24.
鷲野彰子（2015），もうひとつのショパン《ワルツ Op.34-1》：２つの楽譜からショパンの作曲行程を探る. Music Friends（韓国），93, 20-24.
鷲野彰子（2015），トリルをどう弾くか？ Music Friends（韓国），94, 20-24.
鷲野彰子（2015），シューマンの実像. Music Friends（韓国），95, 20-24.
鷲野彰子（2015），作曲家による自作自演. Music Friends（韓国），96, 20-24.
鷲野彰子（2015），ショパンの《ノクターン》に見られる旋律の「歌い回し」方. Music Friends（韓国），97, 20-24.
鷲野彰子（2015），マルコム・ビルソン名誉教授. Music Friends（韓国），98, 20-24.
鷲野彰子（2015），技術. Music Friends（韓国），99, 20-24.
鷲野彰子（2015），楽器博物館. Music Friends（韓国），100, 20-24.
鷲野彰子（2016），アルバート・ロトというピアニスト. Music Friends（韓国），101, 20-24.
鷲野彰子（2016），子どものための音楽教育（１）：何を教えるか？ Music Friends（韓国），102, 20-25.

［演奏会］
金澤攝（Pf），鷲野彰子（Pf），伊東信宏（聴き手），「ショパンと親友たち」
ザ・フェニックスホール（大阪），2013 年 12 月.

③過去の主要業績

[ラジオ]

リューベン・ヘルソン（Bas），鷲野彰子（Pf）,ライブ録音
　　北オランダ放送，2000年6月.

[演奏会]

鷲野彰子（Pf），「シューベルトとヴォジ―シェク」
　　ザ・フェニックスホール，2007年2月.
　　大倉山記念館，2007年１月.

鷲野彰子（Pf），「モーツァルトとショパン～隠れた水脈～」
　　衍芸館，2008年10月.
　　ザ・フェニックスホール，2008年10月.

鷲野彰子（Pf，クラヴィコード），「クラヴィコードand/orピアノ」
　　ザ・フェニックスホール，2009年12月.

[主催]

フォルテピアノ・ワークショップ『楽譜を読むこと』
（伊東信宏大阪大学教授と共同主催）
　　講師：マルコム・ビルソン（コーネル大学名誉教授）
　　京都市立芸術大学 2010年9月.
　　神戸女学院大学 2010年10月.

３．外部研究資金

平成25-26年度 科学研究費補助金・若手研究(B)
「録音から辿る19世紀の演奏様式」（課題番号：25770065），研究代表者.
平成27-29年度 科学研究費補助金・若手研究(B)
「ピアノロールの計量的解析によるワルツ作品の演奏分析」（課題番号：15K16642），
　　研究代表者.

４．受賞

５．所属学会

日本音楽表現学会，日本音楽学会

６．担当授業科目

音楽Ⅰ：2単位，1年通年
音楽Ⅱ：2単位，2年通年
保育内容・表現Ⅰ：1単位，3年前期
保育内容・表現Ⅱ：1単位，3年後期
保育実習指導Ⅱ：1単位，3年後期
保育実習：2単位，3年後期
演習：2単位，3年後期～4年前期
卒業論文：6単位，4年後期

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

生涯福祉研究センター兼任研究員

所属	人間社会学部社会福祉学科	職名	助教	氏名	畑　香理

１．教員紹介・主な研究分野

私は、これまで医療機関でソーシャルワーカーとして患者や家族の方への相談援助を行ってきた経験があることから、医療ソーシャルワーク実践について関心を持ち、研究に取り組んでいます。

近年、我が国の保健・医療・福祉の制度・政策面は大きく変化を遂げています。効率的な医療政策の下で、患者はもちろん、患者を支える家族への経済的・身体的・精神的負担は深刻です。また、入院患者の中には脳卒中・内臓疾患・骨折等の後遺症に伴う機能障害・介護者問題・住宅問題・金銭問題等、様々な理由で在宅生活を断念せざるを得なくなった方も少なくありません。入院患者が地域生活を再び安心して送れるような専門的支援やネットワーク構築等が求められています。医療ソーシャルワーカーは病院と地域社会とをつなぎ、患者や家族の方を支援していく役割を担っています。地域での安寧な生活を継続できる社会が求められる中、今後ますます医療ソーシャルワークの専門的支援方法の向上が必要になってくると考えます。

そのため、私は医療ソーシャルワークを基盤とした支援方法に関する研究をすすめ、実践の課題に対する検討等についてもこれから研究していきたいと考えています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・畑香理・住友雄資・平林恵美・奥村賢一・梶原浩介「2014年度教育実践報告：旧カリ『精神保健福祉援助実習』・新カリ『精神保健福祉援助実習指導』」福岡県立大学発行、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第1号, 2015年9月.

・住友雄資・畑香理・平林恵美・奥村賢一「2013年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』―新カリキュラム導入を目前としたシラバス等の改変について―」福岡県立大学発行、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第1号, 2014年9月.

②その他最近の業績

③過去の主要業績

・畑香理「第13章 社会福祉の実践事例」鬼﨑信好編著『コメディカルのための社会福祉概論』講談社、2012年4月.

・今村浩司・本郷秀和・畑香理「成年後見制度に関する一考察 - 北九州成年後見センターの取り組みを参考に - 」福岡県立大学発行、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第19巻第2号, 2011年1月.

３．外部研究資金

４．受賞

５．所属学会

日本社会福祉学会
日本保健福祉学会
福岡県立大学社会福祉学会
日本医療社会福祉協会、日本精神保健福祉士協会

６．担当授業科目

教養演習・１単位・１年・前期
精神保健福祉援助実習指導・３単位・３～４年・通年

精神保健福祉援助演習・２単位・３～４年・通年
社会福祉特講C・２単位・３年・前期
精神保健福祉援助実習・５単位・４年・通年

７．社会貢献活動

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等
・平成27年度リカレントセミナー運営担当スタッフ

所属	生涯福祉研究センター	職名	助教	氏名	二見妙子

１．教員紹介・主な研究分野

障害を社会モデルの立場で捉える障害学研究を土台とした、インクルーシブ教育（保育）の研究を行っています。これまでは、イギリス障害学の視点を援用し、1970年代に日本各地で展開された障害児教育運動の分析を行ってきました。今後は、インクルーシブ保育（教育）を発展させるための、実践内容に関する研究を進めたいと考えています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞・・・（共著）

（1）「『共に生きる教育』の運動における条件整備論の陥穽」堀正嗣編『共生の障害学』2012年　第6章。

（2）「子どもの声をどのように聞き、どのように伝えるか」堀正嗣編『子どもアドボカシー実践講座』2013年158-161頁。

（3）「特別支援学級で問題視されている障害児自身の声を聴こう」堀正嗣編『子どもアドボカシー実践講座』2013年182-185頁。

＜論文＞

（1）「インクルーシブ教育を再活性化する要因－大阪府豊中市1970年代の運動における条件整備論の分析から」公教育計画学会編『公教育計画研究４』2013年76-91頁。

（2）「大阪府豊中市における障害児優先入園(所)運動の経緯－保育者の加配をめぐって」公教育計画学会編『公教育計画研究５』2014年。

(3) 「インクルーシブ教育運動の構造分析―1970年代の大阪府豊中市における原学級保障運動の分析と教育運動を活性化させる戦略の解明」熊本学園大学大学院社会福祉学研究科提出博士論文2016年。

②その他最近の業績

＜学会発表＞

（1）第4回公教育計画学会「共に生きる教育運動における条件整備の意味－大阪府豊中市ひろがり学級設置運動における条件整備をめぐる言説分析」2012年。

（2）第5回公教育計画学会「大阪府豊中市における障害児優先入所制度獲得の論理－障害児教育における加配の意味」2013年。

（3）第6回公教育計画学会「大阪府豊中市における原学級保障成立期の障害児教育運動と条件整備」2014年。

＜エッセイ＞

(1)　「『共に生きる教育』の運動に学ぶ」『はらっぱ』2015年6月号2頁－５頁。

(2)　「第2分科会の報告」『ＮＥＷＳ　ＬＥＴＴＥＲ』公教育計画学会2015年8月。

③ 過去の主要業績

（1）「熊本県の教育に見る障害児者観の変遷と特別支援教育」熊本学園大学大学院社会福祉学研究科提出修士論文　2005年。

３．外部研究資金　（なし）

４．受賞　（なし）

５．所属学会　障害学会、公教育計画学会

６．担当授業科目　障害児保育論2単位・2年次・通年

７．社会貢献活動

(1)障害学研究会九州沖縄部会事務局。
(2)家庭的保育室「はぐくみ・こころ・めばえ」苦情処理第3者委員会評価委員。
(3)福岡県立大学と共に歩む会会員。
(4)田川市「障害」児・者問題を考える会「ふきのとう」会員。
(5)福岡県地方自治研究所環境プロジェクト委員。

８．学外講義・講演　（なし）

９．附属研究所の活動等

(1)アンビシャス親子広場にて、子育て支援の場の提供及び個別相談活動。
(2)アンビシャス活動への学生及び市民の参画促進に関すること。
(3)ペアレントトレーニング活動参加。

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	助手	氏名	佐藤　繁美

１．教員紹介・主な研究分野

・大原孫三郎の研究
・地域の権力構造の研究

２．研究業績
①最近の著書・論文
・「福岡県立大学人間社会学部における統計処理演習の教育効果（2015年）」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第2号、2016年2月
・「福岡県立大学人間社会学部における統計処理演習の教育効果（2014年）」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号、2015年2月
・「福岡県福智町における地域防災と地域防犯に関する調査研究――福岡県立大学の事例報告」、『社会と調査』第5号、清田勝彦・佐藤繁美、2010年10月
・「田川市民意識と防災・防犯行動」、『田川市における地域防災と地域防犯』、2010年3月
・「福智町における防犯意識の構造」、『 地域防災と地域防犯に関する調査研究』、2009年3月
②その他最近の業績
・『公共社会学入門「公共性研究Ａ（公共性の社会学）」テキスト』2015年4月
・『福岡県立大学開学記念誌　ひらく夢　筑豊に育まれて』2012年3月
・『公共社会学科開設記念シンポジウム報告書「公共社会学の構想」』2011年3月
③過去の主要業績
・『生活研究生成期における生活構造の概念と変容過程』
「大原孫三郎の経営思想」、科学研究費研究成果報告書、2005 年６月
・『香春町史』、香春町資料編纂委員会 編、香春町史料編纂員会，2001.3

３．外部研究資金
・ 科学研究費・基盤研究（B）
「岡山孤児院におけるネットワーク形成と自立支援に関する総合的研究」、260万円、2006年度から2009年度、共同研究（研究代表者：細井勇）
・ 科研費研究・基盤研究(A)
「岡山孤児院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究」、600万円、2010年度から2014年度、共同研究（研究代表者：細井勇）

４．受賞

５．所属学会
・ 日本社会学会
・ 関西社会学会
・ 社会分析学会

６．担当授業科目
（学部）

・ 社会調査実習（補助）　２単位・３年・実習・通年
・ データ処理とデータ解析Ｉ（補助）　１単位・３年・演習・前期

・　データ処理とデータ解析Ⅱ（補助）　１単位・３年・演習・後期
（大学院）
・　フィールドワーク（補助）　　２単位・１年・実習・後期

７．社会貢献活動
・「田川市における地域防災と地域防犯―市民意識調査―」

８．学外講義・講演

９．附属研究所の活動等

所属	生涯福祉研究センター	職名	助手	氏名	中藤広美

１．教員紹介・主な研究分野

15年間幼稚園や保育所で乳幼児保育および保育者養成に携わった経験を基盤とした研究活動です。

①「お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）」のスタッフとして、保護者の思いに寄り添いながらも客観的なデータに基づいた子育て支援のあり方を探り、保護者が子どもの発達に確かな手ごたえを感じられるような実践と研究を目指しています。

②　子ども時代からの外反母趾等をはじめ、日本人の足の問題が指摘されている昨今、子どもを取り巻く環境が足の成長にどのような影響を及ぼすのか、また望ましい足の成長を守るための靴や歩き方、遊び方など生活様式との関連についても研究を進めていきたいと考えています。

③　保育者志望の学生が保育を行う際の環境を整えることの重要性に気づき、その点に意識をもって保育所・幼稚園実習に臨むことができるための学生指導のありかたについても関心があり研究を開始しました。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・　中藤広美、鷲野彰子「実習前教育における学生教育の課題と方法 —環境構成に関する学生の理解状況を踏まえて—」, 福岡県立大学人間社会学部紀要 2015, Vol. 24, No. 1, 17－31

・　池 田孝博、 中藤広 美、青柳領　「幼児期における「はだし保育」と体力の関連」, 福岡県立大学人間社会学部紀要 2015, Vol. 24, No. 1, 73－83

②その他最近の業績

・　**産学連携によるFPU（福岡県立大学）ブランド子ども用靴の開発**

・　是永陽子・吉岡和子・中藤広美・福田恭介「ペアレントトレーニングが保育士・教師の特別支援教育スキルアップに及ぼす効果」九州心理学会第75回大会（2014.11.15）

・　中藤広美・鷲野彰子,『実習前における学生の環境構成についての 意識の現状と課題』, 全国保育士養成協議会第 54 回研究大会(2015.9,23)

・　Yoko Korenaga, Kazuko Yoshioka, Hiromi Nakafuji, Emiko Nakamura, Shiori Sakai, Kiyoko Shinaya, & Kyosuke Fukuda , 『IMPROVEMENT OF TEACHERS' SKILL FOR CHILDREN'S BEHAVIORAL PROBLEM IN SCHOOLS THROUGH A COGNITIVE-BEHAVIORAL APPROACH BY PARENT TRAINING』,J.I.S.R.I e-ASIA2015（2015.10.1）, ,

・　中藤広美、渡辺好庸,『靴の装着が足部骨格および歩容の偏倚などを有する子どもに及ぼす影響』,第 12 回子ども学会議（日本子ども学会学術集会）(2015.10.10）,

③過去の主要業績

・　「福岡県立大学における発達遅滞児の親訓練プログラムの評価」　福田恭介、中藤広美　2000年11月30日

・　「福岡県立大学における発達遅滞児の親訓練プログラムの評価（2）」福田恭介、中藤広美　、本多潤子、興津真理子　2005年3月17日

・　西原尚之、中藤広美、『生活保護自立阻害要因の研究～福岡県田川地区生活保護廃止台帳の分析から～/母子世帯・父子世帯』福岡県監査保護課・受託研究報告書、2008・3

・　中藤広美「1部-4, 2部-1, 4, 5, 6, 3部-8」福田恭介編,『ペアレントトレーニング実践ガイドブック-きっとうまくいく子どもの発達支援-』, あいり出版, 2011年

３．外部研究資金
なし

４．受賞
なし

５．所属学会
日本保育学会、日本発達心理学会、日本こども学会、九州心理学会

６．担当授業科目
幼児教育心理学（補助）

７．社会貢献活動
NPO福祉用具ネット理事　　福岡県保健所運営協議会委員

８．学外講義・講演
- 『特別支援教育を行うためのスキルアッププログラム（福岡県立大学）-小学校・養護学校・幼稚園・保育園の先生方向け-』,5月29日,6月12日,6月26日,7月10日,7月24日
- 直方市要保護児童対策協議会研修会,植木保育所,10 月 20 日,10 月 29 日,11 月 10 日,11 月 19 日
- 福岡県立大学公開講座Ⅰ,『子どもの望ましい行動をはぐくむ～ほめて、待って、手助けを～』,10.23
- 北九州市社会福祉施設研修所　研修事業　領域「健康」,『足の健康と成長を考える』,11 月 13 日
- 慢性疾病児童等療育相談支援事業における研修会（福岡県嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所）,『幼児の望ましい行動をはぐくむ　Part1　行動を理解する視点や方法』,12 月 10 日
- 慢性疾病児童等療育相談支援事業における研修会（福岡県嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所）,幼児の望ましい行動をはぐくむ　Part2　環境の構造化や手助けの方法』,12 月 17 日
- みのり保育園（田川市）職員研修会,『子どもの望ましい行動をはぐくむ』,12 月 16 日
- 福岡県立大学「足と靴」の人材育成事業,『足の健康講座』, 2 月 6 日
- 『保育士・教師のための「ペアレントトレーニングスキルアップ講座」（直方市）』,1 月 8 日,1 月 15 日,1 月 29 日,2 月 12 日,2 月 26 日
- 田川市主任児童委員会研修会,『発達障害の理解と支援』,2月18日
- NPO法人ふくおか自然・環境保護協会「たがわ遊友大学」リーダー養成講座,『足の成長と健康を考える』,3月26日

９．附属研究所の活動等
- お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）
- 特別支援教育スキルアッププログラム
- 足と靴の相談室
- 足と靴の人材育成事業
- おもちゃとしょかん・たがわ
- 福祉用具研究会
- 山本作兵衛遺品管理および展示

・公開講座
・生涯福祉研究センターHP更新　　その他

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	田中　美智子

１．教員紹介・主な研究分野

1992 年千葉大学大学院医学研究科博士課程修了。1992 年～鹿児島純心女子短期大学講師、鹿児島純心女子大学看護学部講師として勤務。1998 年～宮崎県立看護大学に講師、助教授、准教授として勤務し、2009 年 4 月本学に着任。

・　高齢者の健康維持増進と慢性閉塞性肺疾患患者の呼吸法

高齢者の健康維持増進に向けて、意識的に横隔膜を使用して行なう呼吸法が循環動態や自律神経系にどのような影響を与えるかについて検討している。

・　睡眠の簡易評価システム開発と高齢者における睡眠の質改善

日常的な睡眠状態の測定・評価を可能にするためのシステム開発と高齢者に見られる睡眠に関する問題を解決するために、睡眠の質改善のための援助について考えている。

これらの研究の他に身体を温めることの効果についても検討している。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

田中美智子,1 章 1 節,4 章 1・2・4 章,　呼吸機能障害/循環機能障害, 健康の回復と看護①, ナーシンググラフィカ. 佐伯由香・田中美智子 編集. メディカ出版,2014 年 1 月.第 3 版.

〈論文〉

・田中美智子、長坂　猛、江上千代美、近藤美幸、榊原吉一：日常生活環境下における第1夜効果の有無の評価. 看護人間工学研究誌,13, 25-27, 2013.

・田中美智子、長坂　猛、江上千代美、近藤美幸、榊原吉一：センサーマット型睡眠計と睡眠日誌による高齢者の睡眠評価～一事例の検討～,看護人間工学研究誌, 14, 29-34, 2014.

・田中美智子、江上千代美、近藤美幸、長坂猛、榊原吉一：高齢者 1 事例におけるライフイベントが睡眠状態に与える影響. 看護人間工学研究誌, 16, 37-42, 2016.

・細野恵子、加藤木真史、吉良いずみ、菱沼典子、田中美智子、井垣通人、丸山朱美、加藤京里：排便パターン分類のためのフローチャートの開発－調査研究データの再分析から－, 日本看護技術学会, 15(1), 2016. 印刷中.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・M.Tanaka, M.Nagasaka, C.Egami, M.Kondo, Y.Sakakibara.(2013) The effect of the first night on sleep parameter measured in the home of subjects. *第 90 回日本生理学会*. 東京.

・M.Tanaka, M.Nagasaka, C.Egami, M.Kondo, Y.Sakakibara.(2013) Autonomic nervous response and subjective evaluation about sleep quality for sleep in the menstrual cycle. 37th *International Union of Physiological Sciences*. Birmingham.

・田中美智子, 長坂 猛, 江上千代美, 近藤美幸, 榊原吉一.(2013) 眼への温熱刺激による自律神経反応及び主観的評価. *第 39 回日本看護研究学会学術集会*. 秋田

・田中美智子, 長坂 猛, 江上千代美, 近藤美幸, 榊原吉一.(2014) 性周期における睡眠前半の自律神経反応と睡眠評価. *第 40 回日本看護研究学会学術集会*. 奈良

・田中美智子, 江上千代美, 近藤美幸, 長坂 猛.(2014)　高齢者 1 事例のライフイベントと睡眠状態. *第 13 回日本看護技術学会学術集会*. 京都

・M.Tanaka, M.Nagasaka, C.Egami, M.Kondo, Y.Sakakibara.(2015) Autonomic nervous response and subjective sleep quality for sleep in older adults. *第 92 回日本生理学会*. 神戸.

・田中美智子, 江上千代美, 近藤美幸, 長坂 猛.(2015) 高齢者における睡眠評価に影響している因子の検討. *第 14 回日本看護技術学会学術集会*. 愛媛

・M.Tanaka , M.Nagasaka, C.Egami, M.Kondo, Y.Sakakibara.(2016) The relationship between sleep parameter and subjective evaluation about sleep quality during follicular and luteal phases of the menstrual cycle. *第93回日本生理学会*. 札幌.

③過去の主要業績

〈論文〉

・M.Tanaka, A.Masuda, Y.Honda, et al.: Estimation of CO_2 chemosensitivity from the carotid body in humans. Oxygen Sensing: Molecule to Man, edited by S.Lahiri et al. Kluwer Academic / Plenum Publishers. 663-670, 2000.

・M.Tanaka, M.Nagasaka, Y.Honda, et al.: Improved O_2 transport and utilization capacity following intermittent hypobaric hypoxia in rats. Adv. Exp. Med. Biol. 499, 375-379, 2001.

・M.Tanaka, M.Kusuda(Takeshita), K.Abe. and M.Nagasaka.: Effects of iron deficiency anemia on growth rate of rats. Structure and Function. 7(2), 67-75, 2009.

３．外部研究資金

・研究代表者：文部科学省、科学研究費補助金(基盤研究 C)「働く更年期女性の睡眠に着目した就労生活の質を改善するケアの検討」、700,000（平成27年度）、平成27年度～30年度

・研究分担者：文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究C）「目もとと後頸部のどちらを暖めるとよく眠れるのか」、50,000(平成27年度)、平成26年度～29年度

５．所属学会

日本看護研究学会、日本看護研究学会九州地方会（地方会役員、地方会監事、選挙管理委員）、日本生理学会（評議員）、日本臨床生理学会、日本呼吸器学会、日本病態生理学会、日本人間工学会、看護人間工学部会（編集委員長）、日本登山医学会、コメディカル形態機能学研究会（学術委員）、日本看護技術学会（査読委員、評議員、研究活動推進委員）、日本看護科学学会（代議員、和文誌編集委員、英文誌査読委員）

６．担当授業科目

〈学部〉

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年・前期、生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年・後期、教養演習・1単位・1年・前期、専門職連携入門・1単位・1年・後期、病態・生態看護学実験・1単位・2年・前期、生態機能看護学Ⅲ・1単位・4年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・前期（通年）、卒業研究・2単位・4年・通年教養演習・1単位・1年・前期、専門職連携入門・1単位・1年・後期、

〈大学院〉

実験看護学特論・2単位・1年・前期、実験看護学演習・2単位・1年・後期、Advanced 生理学・病態生理学・2単位・1年・前期、終末期高齢者看護論・2単位・1年･後期（一部）、基盤看護学特別研究・8単位・2年・通年

７．社会貢献活動

福岡県准看護師試験委員

８．学外講義・講演

出前講義「からだのリズム～睡眠と覚醒～」：戸畑高校（7/13）、嘉穂東高校（10/22）、糸島高校（10/29）

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	永嶋　由理子

１．教員紹介・主な研究分野

主な研究分野は,看護技術の熟達化と思考の関係性に関する研究である．この研究は,平成 16 年度～平成 17 年度の科研(基盤研究(C))に採択され,引き続き平成 18 年度～平成 20 年度科研(基盤研究(C))に採択され,継続的に調査及び実験研究を進めてきた．関連研究で平成 23 年度～平成 25 年度科研(基盤研究(C))が採択され，平成 24 年度は研究計画に沿って,看護技術の熟達化を思考の視点から客観的に解明するため,光イメージング脳機能測定装置を使用しプレ実験を行った．平成 25 年度は本実験を実施し,一部興味深い結果をえることができた．　平成 26 年度は,新たに科研（平成 26 年度～平成 28 年度挑戦的萌芽研究）が採択され,引き続きメインテーマとしている看護技術の熟達化検証についてこれまでの検証結果を踏まえ,研究を進めている.

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

三原博光,松本百合美編著,永嶋由理子,渕野由夏,加藤法子,於久比呂美ほか,豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援,第 1 章高齢者の健康,関西学院大学出版会,p9-15,2013.

〈論文〉

・於久比呂美,永嶋由理子,宮崎千尋,藤野靖博,渕野由夏,加藤法子,津田智子．病室環境が生体反応にもたらす影響への検討．福岡県立大学看護学研究紀要, 10(1), p39-46, 2012.

・藤野靖博,加藤法子,於久比呂美,渕野由夏,津田智子,永嶋由理子．清拭時の湯を適温に維持・管理するための方法の検討．福岡県立大学看護学研究紀要, 10(1), p33-38, 2012.

・永嶋由理子．特集 意欲と主体性を育てる 実習計画・指導・記録評価のポイント,患者アセスメントと看護過程に関する評価のポイント．看護人材育成，8・9 月号，p50-55, 2015.

②その他最近の業績

〈調査研究報告書〉

・永嶋由理子,津田智子,渕野由夏,加藤法子,藤野靖博,於久比呂美．頸部温罨法の生体反応に関する実験的検証,平成24年度研究奨励交付金成果報告書,p118-119,2012.

・永嶋由理子,,津田智子,渕野由夏,加藤法子,藤野靖博,於久比呂美．看護技術の安楽に関する科学的検証,平成平成 25 度研究奨励交付金研究成果報告書,2013.

〈学会発表〉

・松枝美智子,渡邉智子,江上史子,村田節子,永嶋由理子.A 県の医療機関等に所属する看護管理者の高度実践看護師に対する雇用ニーズ：雇用中もしくは雇用したい理由．第 46 回日本看護学会　－看護管理－学術集会，福岡,2015.

・江上史子,松枝美智子,渡邉智子,村田節子,永嶋由理子.APN の雇用ニーズ調査：看護管理者が雇用しない理由．第 46 回日本看護学会－看護管理－学術集会，福岡,2015.

・松枝美智子,村田節子,江上史子,松井聡子,永嶋由理子.A 県の医療施設等の看護管理者が高度実践看護師（Advanced Practice Nurse）に提供したいと考えている支援,日本看護研究学会 第 41 回学術集会抄録集,広島,2015.

・森田愛璃香,於久比呂美,永嶋由理子.頸部温罨法と腰部温罨法がもたらす生理的反応の比較.第 28 回日本看護研究学会 中国・四国地方会学術集会,島根,2015.

・山名栄子,田中美智子,永嶋由理子,照屋典子，當山裕子,清水かおり,中嶋恵美子,斉藤ひさ子,末永陽子,日高艶子,石橋通江.九州沖縄看護系大学 8 大学の共同連携による科目の統一コード化.第 40 回日本看護研究学会学術集会,奈良,2015.

・山名栄子,江上千代美,田中美智子,松浦賢長,永嶋由理子,矢野雅子,松尾ミヨ子,清水かおり,斉藤ひさ子,中嶋恵美子,正野逸子,石橋通江,宮林郁子,北川明,安酸史子.第 34 回日本看護科学学会学術集会,愛知,2014.
・於久比呂美,永嶋由理子,藤野靖博,渕野由夏,加藤法子,津田智子. 病室内のにおい環境と生体反応に関する検討. 第 26 回近畿・北陸地方会学術集会,和歌山,2013.
・加藤法子,渕野由夏,藤野靖博,於久比呂美,加藤洋司,木村幸生,井上誠,永嶋由理子. ATP を指標とした清拭の効果に関する一考察（第一報）－清拭による皮膚表面の ATP の変化から－. 第 17 回日本看護研究学会 東海地方会学術集会,神奈川,2013.
・渕野由夏, 加藤法子,於久比呂美, 藤野靖博,加藤洋司,木村幸生,井上誠,永嶋由理子. ATP を指標とした清拭の効果に関する一考察（第二報）－清拭温度の違いによる皮膚表面の ATP の変化から－. 第 17 回日本看護研究学会 東海地方会学術集会,神奈川,2013.
・加藤法子,渕野由夏,永嶋由理子:ディスポーザブルタオルによる清拭の効果に関する検討, 第 33 回日本看護科学学会学術集会,大阪,2013.
・渕野由夏,加藤法子,永嶋由理子:訪問看護師の職業性ストレス尺度の信頼性・妥当性の検討, 第 33 回日本看護科学学会学術集会,大阪,2013.

③過去の主要業績

・永嶋由理子,山川裕子. 血圧測定技術を構成する下位スキルの検討. 福岡県立大学看護学部紀要, 2(2),p1-8,2005.
・永嶋由理子. 看護過程の考え方と進め方(基礎編). 月刊看護きろく,17(1), p75-84, 2007.
・永嶋由理子. フィジカル・アセスメントの基礎知識. 臨床看護臨時増刊号,34(4),p433-454, 2008.

３．外部資金獲得

研究代表者, 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（挑戦的萌芽研究）,「看護技術の熟達化過程に伴う「感情変化」と「習熟度」に関する実証研究」, 3,510,000 円（3 年間）, 700,000 円（平成 27 年度）,平成 26 年度～28 年度

４．所属学会

日本看護学会, 日本看護科学学会, 本看護研究学会,日本看護学教育学会, 日本教育心理学会, 日本協同教育学会

５．担当授業科目

〈学部〉

基礎看護学概論･2 単位･1 年･前期, ケアリング論･1 単位･1 年･前期, 基礎看護学実習I･1 単位･1 年･前期, 基礎看護技術論･2 単位･1 年･後期, フィジカルアセスメント論･1 単位･2 年･前期, 看護過程･1 単位･2 年･前期, 基礎看護学実習II･2 単位･2 年･前期, シンプトンマネジメント論･1 単位･後期, 看護研究･1 単位･3 年･後期, 統合実習･2 単位･4 年･前期

〈大学院〉

看護理論・2 単位・1 年・前期, 看護心理学特論・2 単位・1 年・前期, 看護心理学演習・2 単位・1 年, 基盤看護学特別研究・1～2 年・通年

６．社会貢献活動

・日本看護学会学術集会（看護管理）準備委員
・平成 27 年度看護職員確保対策連絡協議会委員
・福岡県田川保健所運営協議会委員
・田川市国民保護協議会委員
・田川市住宅政策審議会委員

・福岡ゆたか中央病院地域協議会委員

７．学外講義・講演・その他

・永嶋由理子.「実習指導の原理」福岡県看護協会　看護師研修会, 2015 年 7 月
・永嶋由理子.「看護過程」福岡県看護協会　看護師研修会，2015 年 8 月
・永嶋由理子.「フィジカルアセスメント」脳神経センター大田記念病院　看護師研修会，2015 年 5 月,8 月
・永嶋由理子.「フィジカルアセスメントの構成と基本技術、観察法」,北九州総合病院 卒後 2～3 年目看護師研修会，2015 年 8 月

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	石田　智恵美

１．教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府　発達・社会システム専攻　教育学コース　博士後期課程単位取得退学。

学習者に存在するであろう知識構造を想定し，知識の構造化を促進するための教授方略の研究・開発を行っている。具体的には，講義・演習・実習をつなぐための方略を授業で実践し，「わかる授業」を目指した授業研究を実施している。その他，卒後教育の一貫として，卒後 1～2 年目の看護職者を対象とした，タスクマネージメント研修を行っている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

中本亮　石田智恵美　自己調整学習を導入した授業を経験した学生の自己効力感の特徴　－自由記述をコレスポンデンス分析して－，福岡県立大学看護学研究紀要 2016 年 3 月

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・児玉裕美　石田智恵美　安酸史子　中堅看護師の新人看護師への教育的役割に関する研究－自己効力感の視点から－　第 33 回日本看護科学学会学術集会　2013 年 12 月　大阪

・清水夏子　石田智恵美　松井聡子　安酸史子　看護大学生が抱く実習直前の不安要因についての検討　第 33 回日本看護科学学会学術集会　2013 年 12 月　大阪

・小野美穂　安酸史子　北川明　山住康恵　松浦江美　山崎喜比古　米倉佑貴　上野治香　湯川慶子　石田智恵美　生駒千恵　松井聡子　武田飛呂城　千脇美穂子　慢性疾患患者の己管理支援を考える～慢性疾患セルフマネジメントプログラムとは？～　第 33 回日本看護科学学会学術集会　2013 年 12 月　大阪

・石田智恵美　看護基礎教育における看護学生の知識の獲得に関する研究　日本教授学習心理学会　第 10 回年会　2014 年 7 月　宮城

・生駒千恵　石本佐和子　石田智恵美　看護実践経験豊富な学生の学習経験 - 糖尿病認定看護師教育課程で最も困難を感じた学習経験について -　日本看護学教育学会第 24 回学術集会　千葉

・石田智恵美　稲留由紀子　中山晃志　秦野環　照屋典子　木村弘江　佐藤千春　原田直樹　松浦賢長　看護学生を対象とした，国際活動実施施設における短期研修プログラムに関する研究　第 34 回日本看護科学学会学術集会　2014 年 11 月　名古屋

・石田智恵美　中本亮　看護学氏江の知識の構造化を目指した講義・演習・実習連携授業に関する研究　日本教育工学会　第 31 回全国大会　2015 年 9 月　東京

・中本亮　石田智恵美　自己調整学習を導入した精神看護学の授業効果　日本教育工学会　第 31 回全国大会　2015 年 9 月　東京

・石田智恵美　看護実践力向上を目指した思考トレーニングプログラムの開発に関する研究　第 35 回日本看護科学学会　12 月　広島

③過去の主要業績

・石田智恵美　久米弘　看護学生のための知識の構造化のための講義・演習・実習連携評価モデル　大学教育第 10 号　九州大学高等教育総合開発研究センター　pp.77-97. 2004.

・石田智恵美　看護学実習における臨床指導者を含めた教材化と教師の役割 九州大学大学院教育学コース院生論文集　飛梅論集第 6 号　pp.23-48. 2006.

・石田智恵美　動的なプログラム学習による学習者の知識の構造化に関する研究－会話による知識構造推測型の発問生成ストラテジーの効果－　教育学習心理学研究　第 3 巻　第 2 号　pp.37-53. 2007.

５．所属学会

日本教育工学会，日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本教授学習心理学会，日本赤十字看護学会　日本教育学会

６．担当授業科目

〈学部〉

ケアリングと教育・2 単位・人間社会学部 2 年&看護学部 4 年・後期，看護研究・2 単位・3 年・前期，看護教育学・１単位・3年・前期，看護実践論・１単位・3年・前期，教師論・2単位・3 年・前期，専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期，国際看護論・2 単位・4 年・前期，教養演習・2 単位・1 年・前期，統合実習・2 単位・4 年・通年，卒業研究・2 単位・4 年・後期

〈大学院〉

看護教育学特論・2 単位・1 年・前期，看護教育学演習・2 単位・1 年・後期，看護教育学・2 単位・1 年・後期，基盤看護学特別研究・8 単位・1～2 年・通年

７．社会貢献活動

・福岡赤十字病院　卒後教育（卒後１年目，２年目の看護職者を対象とした，タスクマネージメント研修の開催）卒後１年目：5 月，10 月，3 月　卒後２年目：11 月
・嘉麻赤十字病院　卒後教育（卒後１年目，２年目，３年目の看護職者を対象とした，タスクマネージメント，実習指導のための研修）：6 月・8 月・12 月
・嘉麻赤十字病院　研究指導　6 月～3 月まで１回/月

８．学外講義・講演

・純真学園大学　非常勤講師　「看護教育論」
・ウエストジャパン看護専門学校　非常勤講師　「国際看護論」
・糖尿病看護認定看護師教育課程　非常勤講師　「文献検索・文献購読」「指導」
・認定看護管理者教育課程　セカンドレベル講師　「ヘルスケアサービス管理論」
・実習指導者研修会講師　自己学習力を高めるためには？　学習意欲を促進するために

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	芋川　浩

１．教員紹介・主な研究分野

1992 年名古屋大学大学院理学研究科博士後期課程修了(理学博士)。その後、日本学術振興会・特別研究員(PhD)、科学技術振興機構 ERATO プロジェクト・グループリーダー、University College London(UCL)上級研究員、理化学研究所・発生再生総合科学研究センター上級研究員を経て、2005 年本学に着任。

現在、再生医療に関する研究を、脊椎動物で唯一手足などを再生できるイモリやプラナリアやマウスなどを用いて解析している。ヒトなどは、一度手足や臓器を失うと、元通りに再生させることはできないが、アカハライモリという有尾両生類は、手足やレンズ、各臓器を失っても、完全に再生できるのである（イモリはヤモリとは違います！）。また、近年のめざましい生命科学の進歩により、手足をつくる重要な遺伝子群もよくわかってきた。その結果、手足をもつ脊椎動物は、全く同じ遺伝子を利用して手足を形成する。では、同じ遺伝子を持っているにもかかわらず、なぜイモリは再生できて、ヒトは再生できないのか？その難問を解明しようと研究を進めている。これが解明できれば、ヒトもイモリと同じように手足を再生できるはずである。

しかし、ES 細胞や iPS 細胞を使っても、３次元的な生体臓器器官の作成をイモリのように再生することまだ誰も成功していない。このような夢の医療の実現をイモリやプラナリアから教えてもらいたいと考えている。

また、このような再生医学的アプローチばかりではなく、独自で「スキンクリーム」を開発し、今年度、福岡県立大学初の特許取得にも成功した。さらに、医療に使える殺菌抗菌効果の解析も進めており、興味深い結果も得ている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・『生命の神秘(仮称)』、芋川　浩著、木星舎　(印刷中)

・Imokawa Y. , Baba H. , Fukada R., Baba Y. , & Koyamatsu N. Medical applications of green tea using antibacterial effect. Joint International Symposium on「Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution」and「e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2015」, 30 October -1 November (2015)

・芋川　浩、平神摩紀、松崎里咲、 村瀬美晴、『実用化に向けた精油の殺菌抗菌効果の解析　その１.タイムレッド』、福岡県立大学看護学研究紀要（印刷中）

・芋川　浩、今浪　愛里、『精油（ティートリーとラベンダー）の抗菌効果の検討　その 1』、福岡県立大学看護学研究紀要 vol.11, p63-p70（2014）

②その他最近の業績

・(国際シンポジウム)
Imokawa Y. , Baba H. , Fukada R., Baba Y. , & Koyamatsu N.
Medical applications of green tea using antibacterial effect. Joint International Symposium on「Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution」and「e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2015」, 30 October -1 November, (2015, Fukuoka)

・芋川　浩、『本当に緑茶に抗菌効果はあるのだろうか？緑茶は看護技術に応用できるのだろうか？』日本看護研究学会　第 41 回学術集会　(2015 年　広島)

・芋川　浩、『ミョウバンを用いた看護技術開発のための解析　その１』日本看護研究学会　第 40 回学術集会(2014 年 奈良)

・芋川　浩、『緑茶効果の看護技術応用のための検討 1』日本看護研究学会　第 39 回学術集会(2013 年 秋田)

・芋川　浩、講演会『生と性』　福岡県立宗像中学校（2016 年 2 月 22 日）

・芋川　浩、講演会『生命誕生の神秘』　粕屋東中学校（2014 年 2 月 28 日）

③過去の主要業績

・Y. Imokawa & K.Yoshizato. Expression of Sonic Hedgehog Gene in Newt Regenerating Limb Blastemas Recapitulates That in Developing Limb BudsProc. Natl. Acad. Sci. USA **94**, 9159-9164 (1997).
・Y. Imokawa & J. P. Brockes. Selective Activation of Thrombin is a Critical Determinant for Vertebrate Lens Regeneration.Curr. Biol. **13**, 877-881 (2003).
・Y. Imokawa, A. Simon & J. P. Brockes. A Critical Role for Thrombin in Vertebrate Lens Regeneration.Philos. Trans. R. Soc. Lond. B. Biol. Sci., **359**, 765-776 (2004).
・Y. Imokawa, P. B. Gates, Y-T Chang, H-G. Simon & J. P. Brockes.Distinctive Expression of Myf-5 in Relation to Differentiation and Plasticity of Newt Muscle Cells.Int. J. Dev. Biol., **48**, 285-291 (2004).
・再生―甦るしくみ―　吉里勝利編（第２－3 章）羊土社

５．所属学会

日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本動物学会、日本看護研究学会

６．担当授業科目

専門看護学ゼミ・２単位・３年・通年、卒業研究・２単位・４年・通年、生物学・２単位・１年・前期、教養演習・２単位・１年・前期、生態病態看護学実験・２単位・２年生・前期、遺伝学・２単位・１年・後期、看護生化学・２単位・１年・後期、化学・２単位・１年・後期、日本事情(科学事情 I&II) ・２単位・交換留学生・後期、がん病態学・２単位・大学院修士１年・前期、老年病診断治療学・２単位・大学院修士１年・前期、老年看護学特論・２単位・大学院修士１年・前期

７．社会貢献活動

・産学連携による新生活産業創出として、福岡県内の企業と共同研究
・宗像市・福津市による青少年育成事業として、海とマリンスポーツに親しむ奨励事業を両市の小中学生等に指導紹介する活動を行っている
・宗像市による「人づくりでまちづくり事業」において、宗像市の花「かのこゆり」保護活動をかのこゆり研究会役員として活動している

８．学外講義・講演

・平成 27 年 06 月 10 日　福岡県立中間高等学校（高校訪問）
・平成 27 年 06 月 16 日　福岡県立須恵高等学校（高校訪問）
・平成 27 年 07 月 22 日　福岡県立小倉東高等学校（高校訪問）
・平成 27 年 07 月 29 日　福岡県立育徳館高等学校（高校訪問）
・平成 27 年 09 月 10 日　ホテル日航熊本（入試説明会）
・平成 27 年 10 月 17 日　福岡マリンメッセ（入試説明会）
・平成 27 年 10 月 27 日　福岡県立新宮高等学校（高校訪問）

９．附属研究所の活動等

・特許の取得　(平成 28 年 03 月末日)
・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	江上　千代美

１．教員紹介・主な研究分野

親のレジリエンスを高めるための家族支援に関する介入研究

親の養育レジリエンスの向上：トリプルＰ（positive parenting program）という認知行動療法を用いて、親の養育レジリエンスの向上を目指す介入とそのメカニズムを明らかにする研究を行っています。また、子育てスタイル、ストレス（生体指標と質問紙）、子どもの行動等の関係性を明らかにすることも行っています。トリプルＰを学んだ親は「子育てが楽しくなった。」、「もう一人子どもを産んでみようかな。」という感想がよく聞かれ、未来を担う健全な子どもの育成や少子化対策にもつながっています。トリプルＰの名前にも反映しているように子どもをもつ全ての親が楽しく学ぶことで健全な家族づくり、ひいては健全な街づくりを目指すことができます。

観察力に反映する看護アセスメントのシュミレーションシステムの開発

「目は心の鏡」に、代表されるように、目の動きは人の精神生理的な指標であり、目の動きにはさまざまな人の行動理解や支援の手がかりが含まれています。これまで行ってきた発達障害の対人的視覚認知機能障害や不注意等の解明と支援につながる研究をもとに、現在、看護学生や看護師のセーフティ・マネジメント支援を目標とした臨床に活かせる研究を行っています。さまざまな看護場面におかれたときに看護学生や看護師はどのような目の動きをするのか、教育や経験により異なるのか、変化しない場合には何が影響しているのかという検討を基に、どのようなセーフティ・マネジメント支援の必要性があるのか、どのような集団教育および個人教育につなげる必要があるのか課題提示と支援プログラムの開発に取り組んでいます。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- Egami C, Yamashita Y, Tada Y, Anai C, Mukasa A, Yuge K, Nagamitsu S, Matsuishi(2015). Developmental trajectories for attention and working memory in healthy Japanese school-aged children.Brain Dev,37(9),840-8.
- 江上千代美,長坂猛,近藤美幸,井垣通人,田中美智子(2014).下腹部と腰部の温罨法が生体に及ぼす効果の検討, 福岡県立大学看護学研究紀要,11(2),45-51.
- 江上千代美,長坂猛,近藤美幸,井垣通人,田中美智子(2014).温罨法が末梢と心臓の自律神経系に及ぼす効果,日本看護技術学会,12(3),34-9,2014.
- Ohya T, Morita K, Yamashita Y, Egami C, Ishii Y, Nagamitsu S, Matsuishi T. Impaired exploratory eye movements in children with Asperger's syndrome. Brain Dev. 36(3), 241-7, 2014.
- 江上千代美,近藤美幸,福田恭介,田中美智子(2012).看護場面における看護学生の危険認知力評価-眼球運動指標の活用-.福岡県立大学看護学研究紀要,10:13-20.
- 江上千代美,近藤美幸,福田恭介,田中美智子,他(2012).看護場面における看護学生の危険認知と眼球運動との関係. 看護人間工学研究誌,12:15-20.

②その他最近の業績

- 江上千代美,山下裕史朗(2015).発達障がい児をもった母親の養育レジリエンス向上に向けた支援~母親の変化と子どもの行動~,第 24 回日本 LD 学会,佐賀,349-350.
- 江上千代美,田中美智子他,医療安全教育の有用性－眼球運動から解析した危険認知の変化－,第 12 回日本看護技術学会　　(浜松)
- 江上千代美,田中美智子他,看護場面における看護師と看護学生の眼球運動から類推される危険認知の比較, 第 39 回日本看護研究学会(秋田)

・江上千代美,長坂猛,田中美智子他,温罨法除去後の生体反応,第 20 回看護人間工学部会,横浜,2012.
・江上千代美,田中美智子,近藤美幸,福田恭介．看護場面における看護学生の眼球運動と危険認知の特徴.日本看護研究学会,沖縄,2012.
・江上千代美,田中美智子,近藤美幸,福田恭介．危険認知評価に用いる眼球運動指標の有効性－看護師の危険認知－,福岡,2012.
・Yamashita Y, Egami C,et.al . Effects of a Summer treatment program in Japan: used for ADHD battery assessment, The 1st Asian Congress on ADHD,seoul,2012

③過去の主要業績

・Yushiro Yamashita , Akiko Mukasa , Chizuru Anai , Yuko Honda , Chie Kunisaki ,Junichi Koutaki, Yahuhiro Tada, Chiyomi Egami, Naoko Kodama, Masayuki Nakashima, Shin-ichiro Nagamitsu , Toyojiro Matsuishi:Summer treatment program for children with attention deficit hyperactivity disorder: Japanese experience in 5 years. Brain Dev. 33, 260-7, 2011.
・江上千代美，森田喜一郎，石井洋平，大矢崇志，山下裕史朗，松石豊次郎．アスペルガー障害児と健康児における探索眼球運動の比較検討，臨床神経生理学,38:63-70,2010.
・Egami C ,Morita K, Ohya T, Ishii Y, Yamashita Y, Matsuishi T: Developmental characteristics of visual cognitive function during childhood according to exploratory eye movements. Brain Dev. 31(10), 750-7, 2009.

３．外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）(基盤研究(C))27 年度～29 年度　交付金額 4,810 千円
研究課題、トリプル P 介入によって発達障害児をもつ母親の子育てレジリエンスは向上するか

５．所属学会

日本生理学会会員、日本小児神経学会会員、日本 LD 学会会員、日本看護学教育学会員、日本看護研究学会会員、日本看護技術学会会員、看護人間工学部会員、日本看護科学学会会員

６．担当授業科目

〈学部〉

生態機能看護学Ⅰ・2 単位・1 年次・前期，生態機能看護学Ⅱ・2 単位・1 年次・後期，生態・病態看護学実験 2 単位・2 年次，専門看護学ゼミ・2 単位・3 年次・通年，総合実習・2 単位・4 年次・前期，卒業研究・2 単位・4 年次・通年，不登校引きこもり応用演習・2 単位・4 年次

〈大学院〉

Advanced 生理学・病態生理学・2 単位・1 年次

７．社会貢献活動

トリプル P 実践活動：久留米市・飯塚病院小児科・田川（福岡県立大学）

８．学外講義・講演

・トリプル P 講演会　主催：飯塚病院
・発達障がいと前向き子育て　主催：福岡県田川児童相談所、宗像児童相談所、京築児童相談所
・前向き子育て　　主催：福岡県立大学　附属研究所公開講座
・眼球運動から見える看護　主催：人間工学部会　宮崎

９．研究所の活動等

・久留米大学小児科学
・飯塚病院　小児科
・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	四戸　智昭

１．教員紹介・主な研究分野

アルコール依存症などの依存症問題、児童虐待、不登校・ひきこもりなど主に家族機能に関する行動病理学を主な研究対象としています。具体的には、①不登校・ひきこもりの子を抱えた親の問題、②幼児期に児童虐待を受けた人の複雑性 PTSD に関する問題、③生活保護受給世帯におけるアルコール依存症の問題　などに関して調査研究をしています。

家族のあり方が多様化している一方で、その家族が地域から孤立してしまっているような悲しいニュースを聞かない日はありません。地域保健活動などでこういった分野に関わっていらっしゃる方や学校関係者の方、また、福祉関係者の方、ご要望があればいつでもお話しを伺いに参ります。お気軽にメールでご連絡ください。

（E-MAIL：shinohe@fukuoka-pu.ac.jp）

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

田中哲也編著、四戸智昭著. ”第 3 章資料を探そう－上手に本を探すテクニック－”. 『旅する大学生のガイドブック－レポートの書き方 2014 年度版』.　(2014). 福岡、福岡県立大学教養演習テキスト出版会.

②その他の業績

〈学会発表〉

四戸智昭. 「不登校・ひきこもりの子を抱える親の心理的特徴とグループミーティングに関する研究」. 日本嗜癖行動学会第 25 回学術集会. 鳥取. (2014,11).

〈シンポジウム〉

KHJ 全国大会（福岡）、シンポジウム「ひきこもりの回復をめざして」座長、2013 年 9 月 29 日

〈新聞連載〉

西日本新聞朝刊連載、家族百景Ⅱ「不登校・ひきこもり考－親子の視点から」
2013 年 8 月 13 日～12 月 24 日（全 19 回）

① 「共依存」を抜け出す（西日本新聞朝刊）2013 年 8 月 13 日掲載
② 昼夜逆転の原因は･･･（西日本新聞朝刊）2013 年 8 月 20 日掲載
③ 子どもと社会をつなぐ（西日本新聞朝刊）2013 年 8 月 27 日掲載
④ 親が変わることから（西日本新聞朝刊）2013 年 9 月 3 日掲載
⑤ 感情を共有する一歩（西日本新聞朝刊）2013 年 9 月 10 日掲載
⑥ 親子に必要な境界線（西日本新聞朝刊）2013 年 9 月 17 日掲載
⑦ 選択肢増やす生き方（西日本新聞朝刊）2013 年 9 月 24 日掲載
⑧ 条件付きの愛情では（西日本新聞朝刊）2013 年 10 月 1 日掲載
⑨ 自助グループが力に（西日本新聞朝刊）2013 年 10 月 8 日掲載
⑩ 原因は親や親族にも（西日本新聞朝刊）2013 年 10 月 22 日掲載
⑪ 「登校拒否」僕の理由（西日本新聞朝刊）2013 年 10 月 29 日掲載
⑫ 外に助け求め新風が（西日本新聞朝刊）2013 年 11 月 5 日掲載
⑬ 「良い子」の落とし穴（西日本新聞朝刊）2013 年 11 月 12 日掲載
⑭ 街から消える居場所（西日本新聞朝刊）2013 年 11 月 19 日掲載
⑮ 一冊の本と出会って（西日本新聞朝刊）2013 年 11 月 26 日掲載
⑯ 生き延びるための回避（西日本新聞朝刊）2013 年 12 月 3 日掲載
⑰ いじめで PTSD に（西日本新聞朝刊）2013 年 12 月 10 日掲載
⑱ 地域での役割があれば（西日本新聞朝刊）2013 年 12 月 17 日掲載
⑲ まず親が変わる勇気を（西日本新聞朝刊）2013 年 12 月 24 日掲載

〈書評〉
・雄山真弓著『心の免疫力を高める「ゆらぎ」の心理学』（祥伝社新書）．日本嗜癖行動学会学会誌『アディクションと家族』29 巻 1 号.(2013,3)
・諸富祥彦著『人生を半分あきらめて生きる』（幻冬舎新書）．日本嗜癖行動学会学会誌『アディクションと家族』29 巻 1 号.(2013,3)
・内藤朝雄著『いじめの構造－なぜ人が怪物になるのか』（講談社現代新書）．日本嗜癖行動学会学会誌『アディクションと家族』29 巻 2 号.(2013,5)
・茂木健一郎著『幸福になる「脳の使い方」』（PHP 新書）．日本嗜癖行動学会学会誌『アディクションと家族』29 巻 2 号.(2013,5)
・橋木俊詔、迫田さやか著『夫婦格差社会－二極化する結婚のかたち』（中公新書）日本嗜癖行動学会学会誌『アディクションと家族』29 巻 3 号. (2014,1)
・武内徹著『お前はうちの子ではない　橋の下から拾った来た子だ』日本嗜癖行動学会学会誌『アディクションと家族』29 巻 3 号. (2014,1)
〈エッセイ〉
・福岡市楠の会会報 32、「今の私をつくっているものとは？」（2014,4）
・福岡市楠の会会報 33、「回復への旅路」（2014,5）
・福岡市楠の会会報 34、「機能不全家族の修復は可能か」（2014,6）
・福岡市楠の会会報 35、「どうしてその家族に「ひきこもりの子」が必要なのか？」（2014,7）
・福岡市楠の会会報 36、「ひきこもりは社会の窓」（2014,12）
・福岡市楠の会会報 37、「人生の選択史を増やす」（2015,1）
・福岡市楠の会会報 38、「子どもに話しかけるということ」（2015,2）
・福岡市楠の会会報 39、「まずは私から心のルールを書き換えよう」（2015,4）
・福岡市楠の会会報 40、「そのいたずらが意味するもの」（2015,6）
・福岡県楠の会会報 41、「嘘に隠されたルール」（2015,10）
・福岡県楠の会会報 42、「母という役割の衣を脱ぐとき」（2015,12）

③過去の主要業績
・四戸智昭著.（単著）.『浪費を止める小さな習慣』.(2001). 光文社.
・丸山久美子編著. 柏木哲夫、佐藤禮子、吉井光信、楯林義孝、石谷邦彦、平山正実、日野原重明、萬代隆、宮崎貴久子、小林美智子、丸山久美子、加藤淳、竹村和久、須田誠、南隆男、木島恒一、四戸智昭、大塚健樹、鈴木則子、小泉晋一、松井洋、西村洋一、作田明、小谷みどり．”第 14 章家族の孤立という危機－ディスコミュニケーションが生む家族の苦悩－”.『２１世紀の心の処方学―医学・看護学・心理学からの提言と実践―』.(2008). 東京、アートアンドブレーン出版.

３．外部研究資金
科学研究費補助金（若手研究 B）H25～27「不登校・ひきこもりの子を抱える親の心理的特徴とグループミーティングに関する研究」（研究代表者　四戸智昭）

４．所属学会
日本嗜癖行動学会（学会誌編集委員）、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本心理臨床学会、日本アルコール関連問題学会、日本看護アディクション学会、子ども虐待防止学会

５．担当授業科目
情報処理演習・２単位・１年・前期、教養演習・１単位・１年・前期、現代社会と嗜癖・２単位・１年・後期、看護学研究・２単位・３年・後期、保健医療福祉政策論・２単位・４年・前期、専門看護学ゼミ・２単位・４年・前期、卒業研究・２単位・４年・後期、
大学院看護学研究法・２単位・１年・前期、大学院家族社会学特論・２単位・１年・後期

６．社会貢献活動

・福岡県北九州市地域薬物関連問題連絡会議・委員
・福岡県ひきこもり支援者等ネットワーク会議・アドバイザー
・嘉穂鞍手保健福祉環境事務所「ひきこもり個別相談会」・相談員
・福岡県覚せい剤・麻薬禍対策協議会委員
・田川市教育委員会審議会委員

７．学外講義・講演

・田川市小中学校校長及び人権・同和教育推進担当者合同研修会講師、2015 年 7 月 28 日
・福岡県市町村研修所ディベート研修会講師、2015 年 9 月 3～4 日
・佐賀県精神保健福祉センター平成 27 年度こころのケア研修会講師、2015 年 9 月 5 日
・福岡市早良区人権講座講師、2015 年 9 月 11 日
・北九州 LD 等発達障害親の会すばる講演会講師、2015 年 10 月 18 日
・平成 27 年度福岡県配偶者からの暴力防止対策嘉飯・直鞍地域連絡会議における講演会講師、2015 年 11 月 5 日
・宗像・遠賀保健福祉環境事務所、心の健康づくり講演会講師、2015 年 11 月 12 日
・北九州市精神保健福祉センター、ひきこもり支援実務者連絡会講師、2015 年 11 月 19 日
・北九州市民生委員児童委員協議会主任児童委員研修会講師、2015 年 12 月 3 日
・行橋市社会人権・同和教育指導者研修会講師、2016 年 1 月 29 日
・佐世保市アディクション講演会講師、2016 年 1 月 30 日
・長崎県ひきこもり家族会「花たば」講演会講師、2016 年 2 月 4 日
・福岡県婦人保護・救護施設協議会、施設長・職員研修会講師、2016 年 2 月 16 日

８．附属研究所の活動等

福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	杉野　浩幸

１．教員紹介・主な研究分野

広島大学大学院工学研究科博士課程後期修了、博士（工学）。細菌学演習を中心とした授業改善・教材開発、看護職を対象とした学会発表支援・情報機器操作支援（Microsoft Office Specialist 取得）など、ICT テクノロジーを活用した研究・教育を行っている。現在の研究テーマは、1）看護系教育機関における効果的な細菌学演習マニュアルの作成、2）中堅看護従事者のための学会参加支援プログラムの開発、3）看護師、看護学部教員を対象とした細菌培養実験の指導、4）看護系教育機関における効率的な細菌学演習を支援するデータベースの構築と運用

２．研究業績

①最近の著書・論文

・杉野浩幸、学会発表、院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第2回：効率的な編集作業-2、フォトアルバムの活用、2013 年 4 月臨牀看護、vol.39 no.6,pp880-883
・杉野浩幸、学会発表・院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第 3 回：効率的な編集作業-3、SmartArt グラフィックの活用、2013 年 5 月、臨牀看護、vol.39 no.7, pp1022-1025
・杉野浩幸、学会発表・院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第 4 回：効率的な編集作業-4、図の変更、2013 年 6 月、臨牀看護、vol.39 no.8, pp1143-1147
・杉野浩幸、学会発表・院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第 5 回：効率的な編集作業-5、テキストボックスの活用、2013 年 7 月、臨牀看護、vol.39 no.9, pp1275-1279
・杉野浩幸、学会発表・院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第 6 回：効率的な編集作業-6、ハイパーリンクの活用、2013 年 8 月、臨牀看護、vol.39 no.10, pp1430-1435
・杉野浩幸、学会発表・院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第 7 回：効率的なプレゼンテーションの管理-1、スライドの再利用、2013 年 9 月、臨牀看護、vol.39 no.11, pp1572-1575
・杉野浩幸、もう一度学ぶ臨床検査のキーワード　補体のはたらき①、2013年10月、看護実践の科学、vol.38 no.12 pp64-67
・杉野浩幸、学会発表・院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第 8 回：効率的なプレゼンテーションの管理-2、セクションの活用、2013 年 10 月、臨牀看護、vol.39 no.12, pp1906-1911
・杉野浩幸、学会発表・院内勉強会に活用できるスライド作成テクニック：第 9 回：効率的なプレゼンテーションの管理-3、目的別スライドショーの活用、2013 年 11 月、臨牀看護、vol.39 no14, pp2060-2065
・杉野浩幸、もう一度学ぶ臨床検査のキーワード　補体のはたらき②、2013年11月、看護実践の科学、vol.38 no.13 pp42-44
・杉野浩幸、イベント・研修のプラニングに欠かせない！　医療安全情報を検索するコツ&お役立ちサイト情報、2015 年 2 月、病院安全教育、vol.2 no.4、pp21-28
・松井聡子、政時和美、杉野浩幸、村田節子、中井裕子、視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～e ラーニングシステムを使用して～、福岡県立大学看護学研究紀要、2015 年

②その他最近の業績

〈学会発表〉

杉野浩幸、看護学部教育におけるデジタル資料活用と学習意欲：微生物学演習における電子ブック形式テキストの活用事例、日本看護学教育学会・学術集会、2013 年 8 月、仙台国際センター

③過去の主要業績

・H. Sugino, M. Sasaki, H. Azakami, M. Yamashita, and Y. Murooka, A monoamine-regulated *Klebsiella aerogenes* operon containing the monoamine oxidase structural gene (*maoA*) and the *maoC* gene. 1992. *J. Bacteriol.* **174**:2485-2492

・H. Sugino, Y. Terakawa, A. Yamasaki, K. Nakamura, Y. Higuchi, J. Matsubara, H. Kuniyoshi, and S. Ikegami, Molecular characterization of a novel nuclear transglutaminase that is expressed during starfish embryogenesis. 2002, *Eur. J. Biochem.* **269**: 1957-1967

・H. Sugino, S. Furuichi, S. Murao, M. Arai and T. Fujii, Characterization of a *Rhodotorula*-lytic enzyme from *Paecilomyces lilacinus* having ß-1,3-mannanase activity. 2004, *Biosci. Biotechnol. Biochem.* **68**:757-760

５．所属学会

日本看護学教育学会、日本看護研究学会

６．担当授業科目

感染・免疫看護学演習・1 単位・1 年・後期、生態・病態看護学演習・1 単位・2 年・前期、看護研究・1/15 単位・3 年・前期

７．社会貢献活動

田川地区対象 PC 講習会、すぐに使える PC テクニック（全 10 回）

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	加藤　法子

1．教員紹介・主な研究分野

平成 15 年 4 月より本学に着任し、基礎看護学の教育に携わっています。

研究は、看護技術・看護教育をキーワードに、看護技術の科学的検証や科学的根拠に基づいた技術教育プログラムの開発、実習による教育効果の検討など、看護基礎教育の充実を目指した研究に取り組んでいます。現在は特に、気管内吸引の吸引圧、吸引時間の調整指標の開発に向けた研究を行っています。

①最近の著書・論文

〈著書〉

加藤法子:高齢者の栄養管理．三原博光,松本百合美編著,豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援,関西学院大学出版会,2013.

〈論文〉

木村幸生、竹内千晶、井上誠、近藤美也子、加藤法子、渕野由夏、加藤洋司:爪背部に着目した手洗い手技の比較,日本精神科看護学術集会誌,56(3)P63-67,2013．.

〈学会報告〉

・渕野由夏、加藤法子、永嶋由理子：労災認定基準に依拠した看護職業務におけるストレスの実態、第 35 回看護科学学会学術集会,2015.

・加藤法子,渕野由夏,永嶋由理子:ディスポーザブルタオルによる清拭の効果に関する検討,第 33 回日本看護科学学会学術集会,2013.

・渕野由夏,加藤法子,永嶋由理子:訪問看護師の職業性ストレス尺度の信頼性・妥当性の検討,第 33 回日本看護科学学会学術集会,2013.

〈調査研究報告書〉

・渕野由夏，永嶋由理子，加藤法子：看護技術教育における視覚的教示方法の教育効果の検証 平成 23・24 年度研究奨励交付金研究成果報告書，p.83-84，2013.

・永嶋由理子，津田智子，渕野由夏，加藤法子，藤野靖博，於久比呂美：寝床内環境変化と生体反応についての実験的検証．平成 23・24 年度研究奨励交付金研究成果報告書,p.64-65,2013.

・永嶋由理子，津田智子，渕野由夏，加藤法子，藤野靖博，於久比呂美：頸部温罨法の生体反応に関する実験的検証．平成 23・24 年度研究奨励交付金研究成果報告書，p.118-119，2013.

〈その他〉

・加藤法子:看護師国家試験対策 e-learning　Nプラス,基礎看護学（第 102 回看護師国家試験問題解答・解説）一部分担，メディカ出版,2013.

・加藤法子:看護師国家試験対策 e-learning　Nプラス,基礎看護学（第 103 回看護師国家試験問題解答・解説）,一部分担，メディカ出版,2014.

・加藤法子:看護師国家試験対策 e-learning　Nプラス,基礎看護学（第 103 回看護師国家試験追加試験　問題解答・解説）,一部分担，メディカ出版,2014.

③過去の主要業績

・加藤法子，佐藤友美，髙橋清美，永嶋由理子，中野榮子:基礎看護実習Ⅰにおける実習内容の検討　実習レポートの分析から.福岡県立大学看護学部紀要,1(1),pp71-78,2003.

・加藤法子,呼吸困難感により自宅にこもりがちな在宅酸素療養患者.安酸史子,奥祥子編,患者がみえる成人看護の実践,メディカ出版,2007.

・加藤法子.呼吸器系器官に問題のある対象へのフィジカルアセスメント.臨床看護,34（4）,457-490.2008.

・加藤法子,渕野由夏,永嶋由理子,津田智子,山名栄子,中野榮子:基礎看護実習Ⅰにおける教育効果の検討:実習前後の学習意欲の変化から.福岡県立大学看護学研究要,5(2),52-60.2008.

・渕野由夏,永嶋由理子,加藤法子:在宅酸素療法患者の健康管理行動の実態.福岡県立大学看護学部紀要,3(1),p.33-37,2005.

５. 所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会

６. 担当授業科目

〈学部〉

基礎看護実習Ⅰ・１単位・１年・前期、基礎看護技術論・２単位・１年・後期、フィジカルアセスメント論・１単位・２年・前期、看護過程・１単位・２年・前期、基礎看護実習Ⅱ・２単位・２年・前期、シンプトンマネジメント論・１単位・２年・後期、統合実習・２単位・４年・前期、専門看護学ゼミ・２単位・３年・通年、卒業研究・２単位・４年・通年

〈大学院〉

看護心理学特論・2 単位・1 年・前期、看護心理学演習・2 単位・1 年、後期.

７. 社会貢献活動

・田川市男女共同参画委員会委員
・ゆめっせフェスタ実行委員会
・第 46 回日本看護学会学術集会抄録選考委員
・福岡県看護協会研究発表支援員
・第 35 回日本看護科学学会学術集会実行委員

８. 学外講義・講演

・出前講義　（自由が丘高等学校、看護の「技」について、平成 27 年 7 月 23 日）
・出前講義　（福岡県立香住丘高等学校，看護の「技」について，平成 27 年 3 月 5）

９. 附属研究所の活動等

・看護実践教育センター
・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	小出　昭太郎

１．教員紹介・主な研究分野

教育については、学生が、社会学的な研究方法や「ものの見方」を臨床や政策などの実践に生かすことができるようになることを目標にしています。

主な研究分野は、第１に、保健医療・社会保障の制度・政策に関して、制度・政策策定者サイドの視点よりも市民・患者サイドの視点に基づいた歴史研究・理論的研究・調査研究を行ってきました。現在は、イギリスの医療保障財源の設計根拠に関する歴史研究を行っており、この研究においても主に市民・患者サイドの視点に着目しています。第２に、健康の社会的不平等に関する研究を行ってきました。特に、性・年齢層別の検討を行っています。

２．研究業績

②その他の業績

・岩崎玲奈・村田節子・櫟直美・小出昭太郎、「治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援の現状と関連要因の検討」、第 29 回日本がん看護学会、2015 年.

・岩崎玲奈・村田節子・櫟直美・小出昭太郎、「治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援における家族支援の現状と関連要因の検討」、第 29 回日本がん看護学会、2015 年.

③過去の主要業績

・小出昭太郎・田村誠、「1991 年英国 NHS 改革後の政府規制とその背景――「病院サービスの購入者」の設定に関する問題」、『病院管理』、第 36 巻第 1 号、1999 年.

・小出昭太郎・田村誠、「イギリス NHS 成立時における財源調達方式の設計の根拠に関する考察」、『医療政策に関わる一般市民・医療従事者の価値判断とその論拠（平成 10 年度～平成 12 年度科学研究費補助金（基盤研究（B）(2)）研究成果報告書）（研究代表者：田村誠）』、2001 年.

・小出昭太郎・山崎喜比古、「収入と general health perceptions との関連の性・年齢による差異」、『要介護状態及び健康の形成過程における社会経済的要因の役割に関する実証的研究（平成 14 年度～平成 17 年度科学研究費補助金（基盤研究（A））研究成果報告書）（研究代表者：武川正吾）』、2006 年.

５．所属学会

日本保健医療社会学会、日本社会福祉学会、日本医療・病院管理学会、日本公衆衛生学会、東北哲学会

６．担当授業科目

〈学部〉

保健社会学・1 単位・1 年・後期、保健医療福祉行政論Ⅰ・1 単位・2 年・後期、看護研究・2 単位・3 年・後期、保健医療福祉行政論Ⅱ・2 単位・4 年・後期、日本事情 B・2 単位・留学生・前期

〈大学院〉

看護政策論・2 単位・修士 1 年・通年、データ解析特論・2 単位・修士 1 年・前期、高齢者保健医療福祉政策・ケアシステム論・2 単位・修士 1 年・後期

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	渕野　由夏

１．教員紹介・主な研究分野

・　基礎看護学教育に関する研究
①看護技術の習得過程や習得に関わる諸要因について科学的に検証し，看護技術習得を促進するための効果的な看護技術教育方法の開発を行っている．
②基礎看護学実習の実習前後の思考動機，看護師イメージ，学習意欲などの変化の比較から基礎看学護実習の教育効果の検証および評価を行っている．

・　看護職の職業性ストレスに関する研究
①訪問看護師の職業性ストレス測定尺度を開発し，活用法等について検討を行っている．
②看護職の職業性ストレスおよび職場環境等について，法律学的アプローチを加えながら検討を行っている．

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

渕野由夏：健康な生活を送るための生活の工夫；高齢者が起こしやすい問題とその管理－嚥下障害－，三原博光，松本百合美編，豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援－保健医療福祉の連携より－，関西学院大学出版会，2013.

〈論文〉

・木村幸生，竹内千晶，井上誠，近藤美也子、加藤法子，渕野由夏，加藤洋司：爪背部に着目した手洗い手技の比較，日本精神科看護学会誌，56(3)，p.63-67，2013.
・渕野由夏：労働者のメンタルヘルスと労災補償－厚生労働省「労災認定基準」の検討を中心として－，法学論集，21(1･2･3)，p.71-133，2015.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・渕野由夏，加藤法子，永嶋由理子：訪問看護師の職業性ストレス尺度の信頼性・妥当性の検討，第 33 回日本看護科学学会学術集会，2013.
・加藤法子，渕野由夏，永嶋由理子：ディスポーザブルタオルによる清拭の効果に関する検討 第 33 回日本看護科学学会学術集会，2013.
・渕野由夏，加藤法子，永嶋由理子：労災認定基準に依拠した看護職業務におけるストレスの実態，第 35 回日本看護科学学会学術集会，2015.

〈報告書〉

・渕野由夏，永嶋由理子，加藤法子：看護技術教育における視覚的教示方法の教育効果の検証．平成 23・24 年度研究奨励交付金研究成果報告書，p.83-84，2013.
・永嶋由理子，津田智子，渕野由夏，加藤法子，藤野靖博，於久比呂美：寝床内環境変化と生体反応についての実験的検証．平成 23・24 年度研究奨励交付金研究成果報告書，p.64-65，2013.
・永嶋由理子，津田智子，渕野由夏，加藤法子，藤野靖博，於久比呂美：頸部温罨法の生体反応に関する実験的検証．平成 23・24 年度研究奨励交付金研究成果報告書，p.118-119，2013.

〈その他〉

・渕野由夏：看護師国家試験対策 e-learning　Nプラス，基礎看護学・必修問題［一部］（第 102 回看護師国家試験問題解答・解説），メディカ出版，2013.
・渕野由夏：看護師国家試験対策 e-learning　Nプラス，基礎看護学・必修問題［一部］（第 103 回看護師国家試験問題解答・解説），メディカ出版，2014.
・渕野由夏：看護師国家試験対策合格パプリ　基礎看護学・必修問題［一部］（第 98～103 回看護師国家試験問題解答・解説），メディカ出版，2014.

③過去の主要業績

・渕野由夏，永嶋由理子，加藤法子：在宅酸素療法患者の健康管理行動の実態．福岡県立大学看護学部紀要，3(1)，p.33-37，2005.
・渕野由夏：リフレイミング．安酸史子編著，目からウロコの新人ナースプリセプティ指導術，メディカ出版，2007.
・渕野由夏：健康診断で肝機能障害を指摘されアルコール性脂肪肝と診断された労働者．安酸史子，奥祥子編，患者がみえる成人看護の実践，メディカ出版，2007.
・渕野由夏，永嶋由理子，中野榮子，山名栄子，加藤法子，津田智子：基礎看護実習Ⅱの実習前･後における看護学生の思考動機の実態．福岡県立大学看護学研究紀要，4(2)，p.82-87．2007.
・渕野由夏，加藤法子，中野榮子，永嶋由理子，津田智子，山名栄子：基礎看護実習Ⅰの実習前後における看護師イメージ変化の比較検討．福岡県立大学看護学研究紀要，5(2)， p.89-96, 2008.

３．外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金，挑戦的萌芽研究，看護師業務における業務上精神障害予防のための教育プログラムの開発（課題番号：25671023），平成 25 年度：78 万円（直接経費 60 万円，間接経費 18 万円），平成 26 年度：65 万円（直接経費 50 万円，関接経費 15 万円），平成 27 年度：65 万円（直接経費 50 万円，関接経費 15 万円），平成 25～27 年度，研究代表者.

５．所属学会

日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本公衆衛生学会，日本産業衛生学会

６．担当授業科目

教養演習・1 単位・1 年・前期，基礎看護学実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期，基礎看護技術論・2 単位・1 年・後期，フィジカルアセスメント論・2 単位・2 年・前期，看護過程・1 単位・2 年・前期，基礎看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年・前期，シンプトンマネジメント論・1 単位・2 年・後期，専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年，統合実習・2 単位・4 年・通年，卒業研究・2 単位・4 年・通年，看護心理学特論・2 単位・1 年・前期，看護心理学演習・2 単位・1 年・後期，Advanced フィジカルアセスメント・2 単位・1 年・後期

７．社会貢献活動

・福岡県看護学会研究発表支援員（平成 26 年 4～平成 28 年 3 月）
・福岡県看護協会学会委員会委員（平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月）
・第 46 回日本看護学会学術集会［看護管理］抄録選考委員会（平成 27 年 3～9 月）
・田川市立病院看護研究研修会講師（平成 27 年 6 月 23 日）
・介護職員スキルアップ研修会講師（平成 27 年 7 月 28 日）
・平成 27 年度福岡県看護実習指導者講習会講師（平成 27 年 8 月 17 日）
・第 49 回 田川市立病院看護研究発表会講評（平成 27 年 10 月 17 日）
・学校法人博多学園博多高校出前講義（平成 27 年 8 月 24 日）
・福岡県立須恵高校出前講義（平成 27 年 11 月 13 日）

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	増満　誠

１．教員紹介・主な研究分野

鹿児島大学医療技術短期大学部看護学科卒業後，名古屋大学医学部附属病院（集中治療部・救急部），医療法人同心会杉田病院（精神科）で看護師として 6 年，鹿児島大学医学部保健学科，国際医療福祉大学福岡看護学部で教員としての 9 年を経て，平成 25 年 4 月より本学に着任しました。また平成 22 年に本学看護学研究科を修了しました。

主な研究は，看護における「間」（時間や空間）をどのように解釈するのか，演出するのか，とくに沈黙を中心に探究しています。また，教材としてのコミュニケーション感性トレーニングを開発中です。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書（分担執筆）〉

渡辺多恵子，渡辺裕一，安梅勅江編著；日本保健福祉学会編集：保健福祉学 当事者主体のシステム科学の構築と実践（第 4 章 6 節 いじめ防止に向けた取り組み担当），北大路書房，2015

〈論文〉

増満　誠，松村智大，中本　亮，馬場保子，谷多江子，小浜さつき，石本祥子，姫野深雪，佐藤亜紀：看護大学生の所属大学を超えた交流の効果の検討，福岡県立大学看護学研究紀要，13，51-56，2016.

梶原由紀子，原田直樹，三並めぐる，増満　誠，松浦賢長：特別支援学校教員の特定行為実施における期待感・不安感に関する研究，日本保健福祉学会誌，20(1)，21-34，2013.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

・Makoto Masumitsu：Strengths Obtained by Nursing College Students Through the Planning and Staging of Intercollegiate Exchange，The 2nd International Conference on Caring and Peace in Tokyo，2015.

・Aki Sato, Hiromi Kodama, Makoto Masumitsu, Seita Kuzuhara, Nagisa Okada, Tomoyuki Ueda，Naoki Ariyasu，Tomohiro Matsumura：Construction of nursing faculty network for the purpose of teaching force and research force improvement，The 2nd International Conference on Caring and Peace in Tokyo，2015.

・田出美紀，山﨑不二子，増満　誠，二重作清子，一原由美子，金城祥教，上田智之，岡村　純，木村涼平，北川　明，安酸史子，松浦賢長：大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討－教員と卒業生の比較による支援体制の考察－，第 35 回日本看護科学学会学術集会，広島，2015.

・木村涼平，一原由美子，山﨑不二子，増満　誠，二重作清子，田出美紀，金城祥教，上田智之，岡村　純，北川　明，安酸史子，松浦賢長：大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討－卒業生との交流からみるメンターの介入時期の検討－，第 35 回日本看護科学学会学術集会，広島，2015.

・増満　誠：看護大学生の PBL を用いた演習科目における医療・看護の改革に対する提言テーマの傾向分析，日本看護学教育学会第 25 回学術集会，徳島，2015.

・藤野靖博，増満　誠，谷多江子，小手川良江，児玉裕美，塚原ひとみ，當山裕子，嘉手苅英子，金城祥教，松浦賢長：「しなやかな使命感」を育成するためのナーシング・キャリアカフェ実施の効果，日本看護学教育学会第 24 回学術集会，千葉，2014.

・増満　誠：統合失調症患者の看護師との対話場面における沈黙の意味の検討，第 34 回日本看護科学学会学術集会，名古屋，2014.

・増満　誠，山崎不二子，田出美紀，二重作清子，一原由美子，金城祥教，生野繁子，岡村純，北川　明，安酸史子，松浦賢長：大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築

の検討－メンター制導入に対する教員の展望と懸念－，第 34 回日本看護科学学会学術集会，名古屋，2014.

・山﨑不二子，増満　誠，田出美紀，二重作清子，一原由美子，金城祥教，生野繁子，岡村純，北川　明，安酸史子，松浦賢長：大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討－教員が捉えた卒業生が求める交流とその対応－，第 34 回日本看護科学学会学術集会，名古屋，2014.

・二重作清子，一原由美子，増満　誠，山崎不二子，田出美紀，金城祥教，生野繁子，岡村純，北川　明，安酸史子，松浦賢長：大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討－卒業１年目看護師が教員と行っている交流状況－，第 34 回日本看護科学学会学術集会，名古屋，2014.

・北川　明，原田直樹，増満　誠，安酸史子，松浦賢長，金城芳秀，二重作清子，山住康恵，砂川洋子，佐藤亜紀，日高艶子，吉武美佐子，當山裕子，金城祥教，福嶋龍子，梅﨑節子，岡村純，藤川真紀，正野逸子，宮林郁子：看護系大学における特別な支援を必要とする学生の行動特性確認リストの開発，第 34 回日本看護科学学会学術集会，名古屋，2014.

・増満　誠：看護大学生がプレゼンテーションをぴあレビューするという試み，第 19 回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会，熊本，2014.

〈交流集会〉

・増満　誠，日高艶子，金城祥教，正野逸子，山名栄子，秦野　環，谷多江子，砂川洋子，金城芳秀，斉藤ひさ子，下條三和，佐藤亜紀，岡村　純，木村弘江，藤野靖博，永嶋由理子，松浦賢長：「しなやかな使命感」育成の取組～ナーシング・キャリアカフェと単位互換制度構築の 2 つの取組の紹介～，第 35 回日本看護科学学会学術集会，広島，2015.

・Makoto Masumitsu，Itsuko Shono，Eiko Yamana，Kaori Shimizu, et all : Initiatives for cultivating a “shinayakana sense of mission” The transmission and development of the concept of Kyushu and Okinawa as “caring islands”, The 2nd International Conference on Caring and Peace in Tokyo，2015.

・増満　誠，松村智大，有安直貴，上田智之：若手看護教師はみんな悩んで成長している～実習場面における“ほぐす・つなぐ・つむぐ”ためのコメント力～，日本看護学教育学会第 25 回学術集会，徳島、2015

・増満　誠，金城祥教，砂川洋子，嘉手苅英子，下條三和，佐藤亜紀，日高艶子，姫野稔子，原田直樹，永嶋由理子，松浦賢長：躍進する「ナーシング・キャリアカフェ」しなやかな使命感育成のための交流の場を創るということ，日本看護学教育学会第 24 回学術集会，千葉，2014.

・原田直樹，江上千代美，小出昭太郎，増満　誠：共同教育推進事業「しなやかな使命感」育成プロジェクトの取組　多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築，第 8 回日本慢性看護学会学術集会，福岡県久留米市，2014.

③過去の主要業績

〈論文〉

・増満　誠：看護場面における沈黙に関する看護研究の動向と課題，国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部・福岡看護学部紀要，6，21-29，2010.

・増満　誠，堀尾良弘：児童期の学校ストレスの実態と学校心理的ストレス尺度の作成．鹿児島大学医学部保健学科紀要（17），55-63，2007.

〈翻訳〉

増満　誠：小林奈美監訳　はじめて学ぶ質的研究　第 10 章翻訳．医歯薬出版株式会社，55-63，2007.

〈学会報告〉

・増満　誠：精神看護師が語った患者との沈黙場面における沈黙経験の意味（第一報）沈黙の意味の解釈と対応，第 30 回日本看護科学学会学術集会，札幌，2010.

・増満　誠：精神科看護師が語った患者との沈黙場面における沈黙経験の意味（第二報）沈黙の解釈と対応の変化要因，第30回日本看護科学学会学術集会，札幌，2010.
・増満　誠：精神科看護師が語った患者との沈黙場面における沈黙経験の意味（第三報）～場に規定される沈黙の意味と対応の相違～，第15回日本看護研究学会九州沖縄地方会学術大会，福岡，2010.
・増満　誠，脇崎裕子，福原百合：精神科看護師のリーダーとしての困りごとの分析　リーダーシップ研修におけるグループワークテーマ設定を通して，第36回日本精神科看護学会福岡大会，福岡，2011.
・増満　誠，脇崎裕子，上田智之：精神看護方法論における「ポートフォリオとプロジェクト学習」展開の試み，第1回国際医療福祉大学学会学術大会，栃木，2011.

３．外部研究資金
・文部科学省科学研究費補助金，若手研究(B)，うつ病患者の看護師との対話場面における沈黙の意味の検討，平成26～28年度，研究代表者.
・文部科学省科学研究費補助金，基盤研究(B)，看護系大学における発達障害傾向学生に対するサポート・スペクトラム構築に関する研究，平成25～27年度，研究分担者（研究代表者：安酸史子）.
・文部科学省科学研究費補助金，基盤研究(A)，卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究，平成24～27年度，研究分担者(研究代表者：松浦賢長).

５．所属学会
日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本看護研究学会，日本精神保健看護学会，日本心理学会

６．担当授業科目
〈学部〉
社会貢献論・2単位・1年・前期，不登校ひきこもり援助論・2単位・1年・前期，基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期，基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・前期，看護情報学・1単位・2年・後期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，統合実習・3単位・4年・通年，不登校ひきこもり応用演習・2単位・4年・後期，疫学・2単位・2年・後期，専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期，卒業研究・2単位・4年・後期
〈大学院〉
データ解析演習・2単位・1年・後期

７．社会貢献活動
・福岡県看護協会看護の進路・進学支援委員会委員
・ケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアム・戦略連携室教員
・日本精神科看護協会教育認定委員会査読委員
・日本保健福祉学会査読委員
・日本精神科看護協会福岡県支部広報委員長・査読委員
・九州思春期研究会　幹事
・介護労働安定センター福岡支部嘱託ヘルスカウンセラー
・鹿児島市立皇徳寺中学校同窓会長

８．学外講義・講演
・増満　誠：福岡県看護協会出前講義講師連絡会「看護師を目指すというキャリアデザインといのちとこころに寄り添うことを考える」講師，福岡県看護協会，平成27年5月20日.

・増満　誠：日本精神科看護協会福岡県支部研修「看護研究基本の『き』」講師，福岡県精神科病院協会会館，平成26年5月23日．
・増満　誠：日本精神科看護協会福岡県支部研修「精神看護塾アドバンス（第1回）」講師，福岡県精神科病院協会会館，平成26年5月23日．
・増満　誠：河野粕屋病院職員研修「対象理解のためのコミュニケーション力」講師，河野粕屋病院，平成27年6月10日．
・増満　誠：福岡県看護協会出前講義「看護師を目指すというキャリアデザインといのちとこころに寄り添うことを考える」講師，福岡県立春日高等学校，平成27年7月14日．
・増満　誠：日本精神科看護協会福岡県支部研修「看護研究基本の『ほ』」講師，福岡県精神科病院協会会館，平成27年7月25日．
・増満　誠：日本精神科看護協会福岡県支部研修「精神看護塾アドバンス（第2回）」講師，福岡県精神科病院協会会館，平成26年7月25日．
・増満　誠，江藤則子，森﨑ルミ子：マイナビ主催「九州夢大学」お仕事研究ゾーン看護師ブース講師，福岡国際センター，平成27年7月28日．
・増満　誠：日本精神科看護協会熊本県支部「看護研究発表会」講評，熊本保健科学大学，平成27年9月17日．
・増満　誠：日本精神科看護協会宮崎県支部研修「対象理解のためのコミュニケーション力」講師，宮崎県立病院講堂，平成27年9月19日．
・増満　誠：福岡県栄養士会研修「コミュニケーション教育の実際」講師，福岡県看護協会研修室，平成27年10月10日．
・増満　誠：日本精神科看護協会福岡県支部研修「看護研究基本の『ん』」講師，福岡県精神科病院協会会館，平成27年9月26日
・増満　誠：日本精神科看護協会福岡県支部研修「精神看護塾アドバンス（第3回）」講師，福岡県精神科病院協会会館，平成26年9月26日．
・増満　誠：高齢者福祉施設なの国研修「介護職のメンタルヘルス」講師，高齢者福祉施設なの国，平成27年12月17日．
・増満　誠：介護老人保健施設若杉の里研修「介護職のメンタルヘルス」講師，介護老人保健施設若杉の里，平成27年12月18日．
・増満　誠：日本精神科看護技術協会福岡県支部北九州地区研修「看護研究発表会」講評，平成28年2月20日．
・増満　誠：日本精神科看護技術協会福岡県支部北九州地区研修「看護の素晴らしさを形にしよう！～実践を研究に結びつけるために～」講師，平成28年2月20日．
・増満　誠：福岡県看護協会出前講義「看護師を目指すというキャリアデザインといのちとこころに寄り添うことを考える」，大和青藍高等学校普通科2年，平成28年3月9日．
・増満　誠：大法山病院「看護研究」研修講師・グループ指導，平成28年10月2日～平成28年3月25日（計7回）．

９．附属研究所の活動等

・不登校ひきこもりサポートセンター教員スタッフ（家族交流会・訪問支援担当）
・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
・看護実践教育センター兼任講師（糖尿病認定看護師課程「情報管理」担当）

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助教	氏名	於久　比呂美

１．教員紹介・主な研究分野

１）看護技術に関する研究

看護技術の科学的検証を行い，エビデンスに基づいた看護技術教育方法の開発に取り組んでいます.

２）看護師の自己成長に関する研究

これまで看護師の成長力をもらたす促進因子の一部について検討してきました．今後は，得られた研究知見に詳細な分析を積み重ねるとともに，他の促進因子の解明を引き続き進め，看護師に向けた教育プログラムの開発などを考えています.

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

永嶋由理子，渕野由夏，於久比呂美，加藤法子，島野麻里子，佐藤三矢，民安和宏，松永美輝恵，吉村淳子，國定美香，冨田川智志，小口将典，勝見吉彰，笹原義昭，石田加奈子，小林美和：三原博光，松本百合美編集：豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援－保健医療福祉の連携より－．関西学院大学出版会，2013.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

・於久比呂美，永嶋由理子，藤野靖博，渕野由夏，加藤法子，津田智子：病室内のにおい環境と生体反応に関する検討．日本看護研究学会 第 26 回近畿・北陸地方会学術集会，2013 年 3 月.

・森田愛璃香, 於久比呂美, 永嶋由理子:頸部温罨法と腰部温罨法がもたらす生理的反応の比較. 日本看護研究学会 第28回中国・四国地方会学術集会，2015年3月.

③過去の主要業績

〈論文〉

・於久比呂美，永嶋由理子，宮崎千尋，藤野靖博，渕野由夏，加藤法子，津田智子：病室環境が生体反応にもたらす影響への検討．福岡県立大学看護学研究紀要，10 (1)，39-46，2012.

３．外部研究資金

於久比呂美，文部科学省 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C），臨床看護師の「自分磨きの極意」と「伝授法」に関する検討．総額247万円（2014年：91万円、2015年：78万円、2016年：78万円），2014～2016.

５．所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会

６．担当授業科目

教養演習･1 単位･1 年･前期，基礎看護学実習Ⅰ･1 単位･1 年･前期，基礎看護技術論･2 単位･1 年･後期，フィジカルアセスメント論･2 単位･2 年･前期，看護過程･1 単位･2 年･前期，基礎看護学実習Ⅱ･2 単位･2 年･前期，シンプトンマネジメント論･1 単位･2 年･後期，専門看護学ゼミ･2 単位･3 年･通年，統合実習･2 単位･4 年･通年，専門看護学ゼミ･2 単位･4 年･前期，卒業研究･2 単位･4 年･後期

８．学外講義・講演

出前講義（福岡県立青豊高等学校，看護の「技」について，平成27年12月5日）

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助教	氏名	近藤　美幸

１．教員紹介・主な研究分野

現在、清潔援助（入浴・清拭・部分浴等）や罨法による援助技術の解明を主な研究分野としている。その中でも清潔援助については、対象が清潔援助を受けた前後での皮膚組織への影響を、顕微鏡を用いて観察し、清潔援助を行っている施行者の動きをさまざまな実験器具を用いて数値化・画像化している。罨法については、温罨法を貼用した際の人体の生理学的な反応を、体温変化や自律神経活性の変化等を測定し、明らかにする試みを行っている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・江上千代美,長坂猛,近藤美幸,井垣通人,田中美智子.(2014.1)温罨法が末梢と心臓の自律神経に及ぼす影響.日本看護技術学会誌,12(3),34-39.

・田中美智子,長坂猛,江上千代美,近藤美幸,榊原吉一, (2013.3)日常生活環境下における第 1 夜効果の有無の評価. 看護人間工学研究誌,13,25-27.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

・近藤美幸,江上千代美,田中美智子. (2014.8)月経時随伴症状に対する温罨法の効果―月経開始から 3 日間の唾液アミラーゼの変化―. 看護研究学会,奈良.

・近藤美幸,江上千代美,田中美智子,長坂猛.(2013.8) 月経随伴症状に対する温罨法の効果.第看護研究学会,秋田.

・江上千代美,田中美智子,近藤美幸,福田恭介.(2013.8) 看護場面における看護師と看護学生の眼球運動から類推される危険認知の比較.看護研究学会,秋田.

・田中美智子,江上千代美,近藤美幸,長坂猛,榊原吉一. (2013.8) 眼への温熱刺激による自律神経反応及び主観的評価.看護研究学会,秋田.

・江上千代美,田中美智子,近藤美幸.(2013.9) 医療安全教育の有用性―眼球運動から解析した危険認知の変化―.日本看護技術学会,浜松.

・田中美智子,江上千代美,近藤美幸,長坂猛.(2013.10) 高齢者 1 事例の睡眠評価－センサーマット型睡眠計と睡眠日誌との比較－.看護人間工学部会,滋賀.

・近藤美幸,江上千代美,田中美智子.(2013.10) 月経随伴症状に対する腹部温罨法の効果－唾液アミラーゼ活性の検討－.看護人間工学部会,滋賀.

・護人間工学部会研究会,東京.

５．所属学会

日本母性衛生学会、日本看護技術学会、日本看護研究学会、看護人間工学部会

６．担当授業科目

〈学部〉

フィジカルアセスメント論・１単位・1 年・前期、基礎看護実習Ⅰ・１単位・1 年・前期、病態看護学Ⅰ・２単位・１年・後期、生態・病態看護学実験・１単位・2 年・前期、基礎看護実習Ⅱ・２単位・２年・前期、生態看護学・2 単位・4 年・後期

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助教	氏名	藤野　靖博

１．教員紹介・主な研究分野

看護技術がひとの体に及ぼす影響について，生理学的指標などを用い明らかにして、臨床における看護援助に還元できるように努めていきたいと考えています.

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

・藤野靖博，加藤法子，於久比呂美，渕野由夏，津田智子，永嶋由理子：清拭時の湯を適温に維持・管理するための方法の検証. 福岡県立大学看護学研究紀要，10(1)，33-38. 2012.

・於久比呂美、永嶋由理子、宮崎千尋、藤野靖博、渕野由夏、加藤法子、津田智子：病室環境が生体反応にもたらす影響への検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 10(1), 39-46. 2012.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・於久比呂美，永嶋由理子，藤野靖博，渕野由夏，加藤法子，津田智子：病室内のにおい環境と生体反応に関する検討. 日本看護研究学会第 26 回近畿・北陸地方会学術集会. 2013.

・加藤法子、渕野由夏、藤野靖博、於久比呂美、加藤洋司、木村幸生、井上誠、永嶋由理子:「ATP を指標とした清拭の効果に関する一考察（第一報）－清拭による昼表面の ATP の変化から－」. 日本看護研究学会第 17 回東海地方学術集会. 2013.

・渕野由夏、加藤法子、於久比呂美、藤野靖博、加藤洋司、木村幸生、井上誠、永嶋由理子：ATP を指標とした清拭の効果に関する一考察（第二報）－清拭温度の違いによる皮膚表面の ATP の変化から－. 日本看護研究学会第 17 回東海地方学術集会. 2013.

・藤野靖博，増滿誠，谷多江子，小手川良江，児玉裕美，塚原ひとみ，當山裕子，嘉手苅英子，金城祥教，松浦賢長：「しなやかな使命感」を育成するためのナーシング・キャリアカフェ実施の効果. 日本看護学教育学学会第 24 回学術集会. 2014.

・増滿誠、日高艶子、金城祥教、小野逸子、山名栄子、秦野環、谷多江子、砂川洋子、照屋典子、金城芳秀、牧内忍、清水かおり、斉藤ひさ子、下條三和、佐藤亜紀、岡村純、木村弘江、藤野靖博、永嶋由理子、松浦賢長：「しなやか使命感」育成の取組～ナーシング・キャリアカフェと単位互換制度構築の 2 つの取組紹介～. 日本看護科学学会第 35 回学術集会. 2015.

〈その他〉

・永嶋由理子，津田智子，渕野由夏，加藤法子，藤野靖博，於久比呂美：看護師国家試験対策合格パプリ，基礎看護学，メディカ出版. 2012.

・永嶋由理子，津田智子，渕野由夏，加藤法子，藤野靖博，於久比呂美：看護師国家試験対策合格パプリ，基礎看護学，メディカ出版. 2013.

・永嶋由理子，津田智子，渕野由夏，加藤法子，藤野靖博，於久比呂美：看護師国家試験対策合格パプリ，基礎看護学，メディカ出版. 2014.

・文部科学省大学間連携共同教育推進事業「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を育成する教育共同体の構築」. 平成 24 年度年次報告書. 2013.

・文部科学省大学間連携共同教育推進事業「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を育成する教育共同体の構築」. 平成 25 年度年次報告書. 2014.

・永嶋由理子，津田智子，渕野由夏，加藤法子，藤野靖博，於久比呂美：頸部温罨法の生体反応に関する実験的検証. 平成 24 年度研究奨励交付金成果報告書. 2013.

・永嶋由理子、藤野祐子、渕野由夏、津田智子、加藤法子、藤野靖博、於久比呂美：看護技術の適応的熟達に伴う思考と感情の変化過程に関する実験検証. 平成 23～25 年度科学研究費補助金研究成果報告書. 2013.

③過去の主要業績

・ 藤野靖博：ウォームアップが歩行運動時の循環応答・深部温度に及ぼす影響．日本人間工学学会看護人間工学部会誌（8），15-20．2007.
・ 矢﨑義雄、篠山重威、藤野靖博他：心不全下巻－最新の基礎・臨床研究の進歩．日本臨床社．2007.

５．所属学会

日本看護研究学会，日本看護科学学会，日本人間工学会看護人間工学部会，日本看護学教育学会

６．担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期，基礎看護技術論・1 単位・1 年・後期，看護過程・1 単位・2 年・前期，フィジカルアセスメント論・2 単位・2 年・前期，シンプトンマネジメント論・1 単位・2 年・後期，基礎看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年・前期，専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期，卒業研究・2 単位・4 年・後期，統合実習・3 単位・4 年・通年

担当授業科目（補助）

基礎看護学概論・2 単位・1 年・前期，ケアリング論・1 単位・1 年・前期，看護研究、2 単位・3 年・後期

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	教授	氏名	赤司　千波

１．教員紹介・主な研究分野

成人看護学（慢性期）を担当しています。これまで、認知症高齢者の看護、高齢者の口腔ケア、終末期看護、介護、循環器疾患の看護等に関する研究を行い、教育や現場への活用を検討してきました。現在は、慢性疾患を有する患者の「自己管理行動」の獲得プロセスに関する研究、終末期ケアと看取りケアに関する研究を行っています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

・Shinichi Tanihara, Chinami Akashi, Junichi Yamaguchi, Hiroshi Une,Effects of family strcture on risk of institutionalization of disabled older people in Japan. Australasian Journal on Ageing,2013

・赤司千波，田中理恵：終末期患者の退院支援に関して病棟看護師に求められるもの-訪問看護師の思いを分析して-、第 45 回日本看護論文集、慢性期看護、2015

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・田中理恵、赤司千波：自宅での看取り目的で退院した終末期患者に対する病棟看護師の退院支援の現状－訪問看護師の視点から－、第 40 回日本看護研究学会、2014/8、奈良市

・赤司千波、田中理恵：終末期患者の退院支援に関して病棟看護師に求められるもの-訪問看護師の思いを分析して-、第 45 回日本看護学会　慢性期看護、2015/9、徳島市

③過去の主要業績

・赤司千波、永井あけみ、グループホームにおける痴呆性高齢者に関する情報収集の現状－情報収集担当者を対象とした質問紙調査－、九州大学医学部保健学科紀要 1 号、89-97，2003

・赤司千波、豊澤英子、三重野英子、桶田俊光：グループホームにおける痴呆性高齢者の情報収集に関する研究－入居適応に焦点をあてて－、日本看護研究学会誌 26（2）、73-88、2003

・川上千普美、松岡緑、樗木晶子、長家智子、赤司千波、篠原純子、原頼子：冠動脈インタベーションを受けた虚血性心疾患患者の自己管理行動に影響する要因－家族関係および心理的側面に焦点をあてて－、日本看護研究学会誌 29（4）、33-40、2006

５．所属学会

日本看護学会、日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本循環器看護学会、日本老年看護学会、日本公衆衛生学会

６．担当授業科目

〈学部〉

成人看護概論（1 単位/2 年前期）、成人慢性看護学（2 単位/2 年後期）、成人看護実践論（1 単位/3 年通年）、成人看護学演習Ⅰ（1 単位/3 年前期）、成人看護学演習Ⅱ（1 単位/3 年前期）、成人看護実習（4 単位/3 年通年）、成人慢性看護学実習（3 単位/3 年後期，4 年前期）、専門看護学ゼミ（2 単位/4 年前期）、専門看護学ゼミ（2 単位/3 年通年）、卒業研究（2 単位/4 年後期）、統合実習（2 単位/4 年前期）

〈大学院〉

成人看護学特論（2 単位/1 年前期）、成人看護学演習（2 単位/1 年後期）、臨床看護学特別研究（8 単位/1～2 年通年）

７．社会貢献活動

・村田節子、赤司千波、宮園真美、中井裕子、大島操、政時和美、松井聡子、柴北早苗：福岡県立大学主催　平成 27 年度がん看護勉強会
・赤司千波　中間市役所　保健福祉部介護保険課主催、「介護施設での看取り」について講演、2015/07/03
・赤司千波　介護老人保健施設ハーモニー聖和・聖和記念病院における職員研修、「介護現場で働く職員のメンタルヘルス」について講演、2015/08/21

９．附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
・ヘルスプロモーション実践研究センター長
・福岡県立大学公開講座小部会長

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	教授	氏名	佐藤　香代

１．教員紹介・主な研究分野

1996 年　九州大学大学院法学研究科　修了（修士：法　学）
2005 年　北里大学大学院看護学研究科修了（博士：看護学）
九州大学医療技術短期大学部勤務後、英国テームズバリー大学大学院（Midwifery Practice）留学、帰国後九州看護福祉大学に勤務。2005 年、本学に着任。

女性の一生の健康をサポートする研究を一貫して行っており，特に身体感覚に焦点を当てた女性の健康ケアモデルの開発と展開に関するものが中心である。身体経験を基盤にした身体感覚活性化の健康ケアモデルは，女性が本来持っている産み育てる力や自己治癒力を最大限に引き出していく健康ケアへの新たな試みである。主な研究は以下の通りである。

①「身体感覚活性化マザークラス」の実践とその評価
・妊婦の身体感覚と内面的変容過程
・女性に寄り添う女性（ドゥーラ）研究
・看護職・学生への教育とその評価・プログラム作成
②身体感覚に基づく女性の健康－身体とのコミュニケーションのとり方
③性教育

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

・佐藤香代．第 102 回看護師国家試験問題 解説，大阪：メディカ出版，2013 年.
・佐藤香代．ケアリングに基づく看護技術マニュアル：メヂカルフレンド社，2013 年.
・佐藤香代．Ⅴ　女性の健康と基本理論　2．エンパワーメント．村本淳子・高橋真理編「ウイメンズヘルスナーシング概論」第 2 版 4 刷，92-94，東京：ヌーヴェルヒロカワ，2014 年.

〈論文〉

・佐藤香代, 森山沾一．(2013)．日本初世界記憶遺産・山本作兵衛コレクションと福岡県立大学附属図書館の取り組み．*看護と情報* 20:45-52.
・佐藤香代，安河内静子．(2013)．「身体感覚活性化マザークラスの哲学と実践―妊婦の力を引き出すわざ―」．*秋田県母性衛生学会雑誌* 27：52-53.
・石村美由紀，古田祐子，佐藤香代．（2015）．助産実習における学生のパワーレス状態に関する研究 －その要因と回復の促進－．*福岡県立大学看護学研究紀要*，12，13-24.
・吉田静，佐藤香代, 鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子，鄔　継紅, 王　琦, 候　小妮．（2015）．中国北京における妊婦の食生活と文化．*福岡県立大学看護学研究紀要*，12，25-36.
・安河内静子, 古田祐子, 佐藤香代．（2015）．大学院における助産師教育に対するニーズ調査．*福岡県立大学看護学研究紀要*，12，53-62.
・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子，鄔　継紅，王　琦．（2015）．中国における中国伝統医療の現状 －北京中医薬大学を中心とした医療施設の視察を通して－．*福岡県立大学看護学研究紀要*，12，73-84.
・小林絵里子，佐藤香代．（2015）．本学助産学課程におけるホリスティックケア履修者の学びと実践．*福岡県立大学看護学研究紀要*，12，85-94.
・石村美由紀，佐藤香代，吉田静．（2015）．死産を体験した母親の次子の妊娠・出産・育児に関する研究（第 1 報）－次子妊娠の体験の語りから―．*母性衛生* 56(4)，692-700.
・石村美由紀，古田祐子，佐藤香代，鳥越郁代．（2016）．学士課程における助産実践能力（分娩介護技術および健康教育）の到達状況と課題．*福岡県立大学看護学研究紀要*，13，1-10.
・吉田静，佐藤香代，山下恵子，増田匡裕．（2016）．「子どもを喪失した両親に携わる看護者の語りの会」の評価と今後の課題．*福岡県立大学看護学研究紀要*，13，91-98.

〈報告書〉

・佐藤香代．妊婦における飲用効果．*乳酸菌生成エキス 研究・臨床データ集 ver5.* 2013 年 5 月．

・佐藤香代，鳥越郁代，安河内静子，吉田静，小林絵里子，郝暁卿，侯小妮，鄔継紅．日本と中国における妊婦の食の比較調査研究．平成 23～24 年度研究奨励交付金研究成果報告書．2013 年 7 月．

・中野榮子，安酸史子，佐藤香代，郝暁卿，石田智恵美，原田直樹，清水夏子，山住康恵，生駒千恵，東あゆみ，石本佐和子．東洋医療の健康観に基づく健康意識の日中比較研究．平成 23～24 年度研究奨励交付金研究成果報告書．2013 年 7 月．

・安河内静子，佐藤香代．看護学生の喫煙防止・禁止支援に関する研究．平成 23～24 年度研究奨励交付金研究成果報告書．2013 年 7 月．

・吉田静，佐藤香代．「身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」におけるドゥーラ体験の評価．平成 23～24 年度研究奨励交付金研究成果報告書．2013 年 7 月．

・安河内静子，佐藤香代．病産院における「身体感覚活性化マザークラス」の展開モデルに関する研究．平成 23～24 年度研究奨励交付金研究成果報告書．2013 年 7 月．

・吉田静，佐藤香代，山下恵子，増田匡裕．子どもを喪失した両親に携わる看護者の語り．平成 23～24 年度研究奨励交付金研究成果報告書．2013 年 7 月．

・佐藤香代，助産師育成をめぐる現状と動向(キャリアパス・クリニカルラダー/助産師出向システム/助産師の適正配置/産科混合病棟におけるユニットマネジメント)．助産実践能力強化支援事業報告書．2013 年 12 月．

・佐藤香代，長谷川まどか，松尾則子，濱嵜真由美，石田麗子，栗屋和枝，藤原裕美子，岩隈裕美子，林田郁. 平成 24 年度院内助産システム推進研修報告書. 福岡県看護協会．2014 年 3 月.

・佐藤香代．平成 25 年度助産師職能だより．福岡県看護協会助産師職能委員会．2014 年 6 月．

・佐藤香代．平成 26 年度助産実践能力強化支援事業「院内助産システムのさらなる推進」: 院内助産スキルアップ研修報告書．2015 年 1 月．

・佐藤香代　からだの智慧で産み育てる．妊婦における「乳酸菌生成エキス」飲用の効果．すこやかメッ No.53. 2015 年 3 月．

・佐藤香代．平成 26 年度助産師職能だより．福岡県看護協会助産師職能委員会．2015 年 6 月．

・佐藤香代．平成 26 年度助産実践能力強化支援事業「妊婦のフィジカルアセスメント」: 院内助産スキルアップ研修報告書．2016 年 1 月．

・佐藤香代，小林絵里子，吉田静，石村美由紀，鳥越郁代，佐藤繭子，安河内静子，王琦，鄔継紅，侯小妮．中国における妊娠前女性の食文化－中国の文化・妊娠前教育と食の実態との関連－．プロジェクト研究．平成 25-26 年度研究奨励交付金研究成果報告書．P18～21．2016 年 2 月．

・吉田静，佐藤香代，山下恵子，増田匡裕．「子どもを喪失した家族に携わる看護者の語り」に関する研究－企画プログラムの検討とその有用性の検証－．平成 25～26 年度研究奨励交付金研究成果報告書．p71～72．2016 年 2 月．

・吉田静，佐藤香代，山下恵子，増田匡裕．「子どもを喪失した家族に携わる看護者の会」に関する研究．平成 25～26 年度研究奨励交付金研究成果報告書．p103～104．2016 年 2 月．

・佐藤香代．平成 27 年度「助産師出向制度アンケート調査」報告書．福岡県看護協会．2016 年 3 月．

②その他最近の業績

〈学会講演〉

・佐藤香代．「身体感覚活性化マザークラス」の哲学と実践－妊婦の力を引き出すわざ－．第 28 回秋田県母性衛生学会 特別講演，秋田．2013 年 6 月．

・佐藤香代．妊婦の産み育てる力を育む妊婦教育―身体感覚活性化マザークラスの哲学と実践―．北京中医薬大学講演．北京．2013 年 12 月．

・佐藤香代．将来の助産師教育を考える －あるべき卒業時の到達像と教育 －．助産師教育コロキアム．全国助産師教育協議会.基調講演．福岡．2014 年 8 月．
・佐藤香代． 日本における妊娠・出産・育児の現状.天津中医薬大学招聘講演．天津．2015 年 3 月．
・佐藤香代．身体は答を知っている－女性の身体に備わった賢い仕組みを学ぼう！－．天津体育大学招聘講演．天津．2015 年 3 月．

〈学会発表〉

・小林絵里子，佐藤繭子，佐藤香代．母乳育児支援学習コース受講者による評価．第 27 回日本助産学会，金沢．2013 年 5 月．
・田嶋比紗乃，吉田静，佐藤香代．日本におけるおむつの変遷．第 27 回日本助産学会，金沢．2013 年 5 月．
・長谷川まどか，藤原裕美子，佐藤香代，石田麗子，本田しのぶ，松尾則子，濱嵜真由美，栗谷和枝，乾文枝．平成 24 年度福岡県助産師職能委員会「超音波による胎児画像技術研修」報告．第 22 回福岡母性衛生学会，福岡．2013 年 7 月
・田中里美，津田佳代子、清田哲子,小林絵里子，佐藤香代．母親の心身に影響する要因の分析 ―産後 10 ヶ月間を通して―．第 22 回福岡母性衛生学会，福岡．2013 年 7 月
・津田智子，佐藤香代，安河内静子，田中美樹，楢橋明子，生野繋子，北川明，松浦賢長，安酸史子．大学が行う新人看護師を対象とした看護技術支援とその評価．日本看護研究学会第 39 回学術集会，秋田.2013 年 8 月．
・石田麗子，本田しのぶ，佐藤香代，乾史枝，栗谷和枝，濱嵜真由美，長谷川まどか，藤原裕美子，松尾則子．新人助産師への継続教育－第 1 回新人助産師合同研修の評価－．第 54 回日本母性衛生学会，埼玉．2013 年 10 月．
・石村美由紀，古田祐子，佐藤香代．助産実習における学生のパワーレスとその要因．第 54 回日本母性衛生学会，埼玉．2013 年 10 月．
・吉田静，佐藤香代．「子どもを喪失した家族に携わる看護者の会」の実践報告．第 70 回助産師学会，福岡．2014 年 5 月．
・松尾則子，濱嵜真由美，石田麗子，岩隈真由美，栗屋和枝，長谷川まどか，林田郁，藤原裕美子，佐藤香代．『院内助産システム推進研修』の評価．第 70 回助産師学会．2014 年 5 月．
・長谷川まどか，佐藤香代，藤原裕美子，石田麗子，岩隈真由美，栗屋和枝，林田郁，濱嵜真由美，松尾則子．平成 25 年度福岡県助産師職能委員会「助産師管理者リフレッシュ研修&交流会」報告．第 23 回福岡母性衛生学会，福岡．2014 年 7 月．
・石村美由紀，佐藤香代，小林絵里子．看護学生のマザークラス企画による学び ―身体感覚活性化マザークラスのレッスン企画を通して ―．第 55 回日本母性衛生学会，千葉．2014 年 9 月．
・安河内静子，佐藤香代，吉田静．「身体感覚活性化マザークラス」参加経験が、病産院のマザークラス運営への意識に及ぼす影響について．第 55 回日本母性衛生学会，千葉．2014 年 9 月．
・安河内静子，佐藤香代，吉田静．病産院における「身体感覚活性化マザークラス」展開時の課題 ―A 病院助産師へのアンケート調査より ―．第 55 回日本母性衛生学会，千葉．2014 年 9 月．
・林田郁，栗屋和枝，佐藤香代，長谷川まどか，石田麗子，松尾則子，藤原裕美子，濱嵜真由美，岩隈真由美．助産実習教育者研修の評価と今後の展望．第 55 回日本母性衛生学会，千葉．2014 年 9 月．
・吉田静，佐藤香代，山下恵子．子どもを喪失した家族に携わる看護者の語り」に関する研究 ―企画プログラムの検討とその有用性の検証 ―．第 55 回日本母性衛生学会，千葉．2014 年 9 月．
・林千絵，石村美由紀，佐藤香代，吉田静，清田哲子．死産を経験した母親の次子妊娠の体験．第 55 回日本母性衛生学会，千葉．2014 年 9 月．

・林千絵，石村美由紀，佐藤香代，吉田静，清田哲子．死産を経験した母親の次子出産・育児の体験．第 55 回日本母性衛生学会，千葉．2014 年 9 月．
・藤木久美子，佐藤香代，母親が出産施設で受けた母乳育児支援 ―産後 4 ヶ月の母親の調査から ― ．第 55 回日本母性衛生学会，千葉．2014 年 9 月．
・藤木久美子，佐藤香代，母親が医療者に望む母乳育児支援（産後 4 ヶ月時の調査から）第 55 回日本母性衛生学会，千葉．2014 年 9 月．
・石村美由紀，古田祐子，佐藤香代．助産実習における学生のパワーレス状態からの回復に必要な要因．第 55 回日本母性衛生学会，千葉．2014 年 9 月．
・佐藤繭子，小林絵里子，佐藤香代．看護系大学における母乳育児支援教育の現状と課題．第 55 回日本母性衛生学会，千葉．2014 年 9 月．
・小林絵里子，佐藤香代，吉田静，安河内静子，鳥越郁代．中国における女子大学生の食文化 ―中国の文化・教育と食の実態との関連 ―．第 55 回日本母性衛生学会，千葉．2014 年 9 月．
・石田麗子，岩隈真由美，佐藤香代，栗屋和枝，濱嵜真由美，林田郁，長谷川まどか，藤原裕美子．新人助産師への継続教育 －第 2 回新人助産師合同研修　実践報告．第 29 回日本助産学会．東京．2015 年 3 月．
・横溝悠，佐藤香代，道園亜希．日本における性意識構築に関する文献的考察「性＝恥ずかしい」という性意識はいつどのようにつくられたのか．第 24 回福岡母性衛生学会，久留米．2015 年 7 月
・安藤由加里，濱嵜真由美，佐藤香代，石田麗子，岩隈真由美，長谷川まどか，藤原裕美子，市川博美，林田郁．「院内助産スキルアップ研修の評価～助産師の自律に向けて～」．第 24 回福岡母性衛生学会，久留米．2015 年 7 月．
・石村美由紀，佐藤香代，佐藤繭子，道園亜希．身体感覚活性化マザークラス（世にも珍しいマザークラス）に参加した妊婦の変化－バースプランの分析から－．第 24 回福岡母性衛生学会，久留米．2015 年 7 月．
・Miyuki Ishimura, Yuko Furuta, Kayo Sato. A Nine-Year Study into the Nature and Extent of Skills Relevant to Perinesl Protection Acquired by Midfifery Undergraduates，The ICM Asia Pacific Regional Conference，July, 2015, Yokohama.
・Kayo Sato，Madoka Hasegawa，Yumiko Fujiwara，Mayumi Hamasaki，Reiko Ishida，Kaoru Hayashida，Hiromi Ichikawa，Mayumi Iwakuma，Yukari Ando. Evaluation of “Midwife Administrator Networking Meeting”，The ICM Asia Pacific Regional Conference，July, 2015, Yokohama.
・Kayo Sato．Reiko Ishida，Mayumi Iwakuma，Madoka Hasegawa，Mayumi Hamasaki，Yumiko Fujiwara，Kaoru Hayashida，Yukari Ando，Hiromi Ichikawa．Evaluation of “New Midwife Training Workshop”，The ICM Asia Pacific Regional Conference，July, 2015, Yokohama.
・市川博美，林田郁，佐藤香代，安藤由加里，石田麗子，岩隈真由美，長谷川まどか，濱嵜真由美，藤原裕美子．助産師教育研修においての受講者の学び～受講後のアンケート調査から～．第 56 回日本母性衛生学会，盛岡．2015 年 10 月．
・吉田静，佐藤香代，山下恵子．「子どもを喪失した家族に携わる看護者の会」に関する研究．第 56 回日本母性衛生学会，盛岡．2015 年 10 月．
・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，石村美由紀，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子．「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性たちの食生活．第 56 回日本母性衛生学会，盛岡．2015 年 10 月．
・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子．中国における中国伝統医の現状～北京中医薬大学を中心とした医療施設の視察を通して～．第 56 回日本母性衛生学会，盛岡．2015 年 10 月．
・箱崎友美，鳥越郁代，佐藤香代．「帝王切開分娩による出産体験の満足度と産褥早期のうつ傾向の関連」，第 30 回日本助産学会学術集会，京都，2016 年 3 月

・清田哲子，佐藤香代，石田麗子，濱寄真由美，市川博美，安藤由加里，栗丸香織，藤原裕美子，田上ゆかり．「助産師管理者交流会報告」，第 30 回日本助産学会学術集会，京都，2016 年 3 月
・石村美由紀，佐藤香代，小林絵里子，吉田静，鳥越郁代．「身体感覚活性化マザークラスに参加した妊婦のバースプランおよび出産体験」，第 30 回日本助産学会学術集会，京都，2016 年 3 月
・小林絵里子，佐藤香代，鳥越郁代，石村美由紀，吉田静．「中国天津地域における大学生の食文化－中国の文化・教育と食の実態との関連－」，第 30 回日本助産学会学術集会，京都，2016 年 3 月

〈座談会・シンポジウム〉

・佐藤香代．施設をこえて助産師のキャリア up を考える，シンポジウム座長，第 22 回福岡母性衛生学会，福岡，2013 年 7 月．
・佐藤香代．一般演題「地域・国際助産 2」座長，第 28 回日本助産学会学術集会，長崎，2014 年 3 月．
・鳥越郁代，佐藤香代，小林絵里子．アメリカの助産師教育と妊婦ケア講演会，平成 25 年度福岡県立大学招聘事業，2014 年 3 月．
・佐藤香代,．テーマフォーラム「分娩介助の本質を紐解く」ファシリテーター，第 70 回日本助産学会，福岡，2014 年 5 月．
・佐藤香代．川嶋朗，藤田紘一郎，姫野友美，水上治，山口貴子．共創の医学への発表．体の智慧で産み育てる．乳酸菌生成エキスシンポジウム，東京，2014 年 11 月
・佐藤香代．一般演題「助産師の体験 1」座長，第 29 回日本助産学会学術集会，東京，2015 年 3 月
・佐藤香代．子どものあたたかい心を育む（羽ぐくむ）ために今私たちにできること，コーディネーター，母と子を護る多職種の会，福岡．2015 年 3 月．
・佐藤香代．「未来へつなぐ食～からだは食べたものからできている～」，コーディネーター，福岡県看護協会総会合同職能集会，福岡，2015 年 6 月
・佐藤香代．やんばる（山原）で安心して子供を産み育てるとは～支えあうやんばる（山原）の母性を考える～，パネリスト，第 11 回名桜大学人間健康学部公開シンポジウム，沖縄．2015 年 9 月．
・佐藤香代．子どもの幸せな未来を創造するために～母子を護る仕組みづくり～，コーディネーター，福岡県看護協会助産師・保健師職能合同研修，福岡．2015 年 9 月．
・佐藤香代．「市民公開講座 2」お父さんからおとうさんになりました　座長，第 30 回日本助産学会学術集会，京都，2016 年 3 月

〈出版物〉

・佐藤香代．(2013)．図書館だより．*福岡県立大学広報*，No.14.
・佐藤香代．(2013)．妊婦さんの悩みが乳酸菌で改善！，ニュースリリース．
・佐藤香代．(2013)．妊婦における飲用効果，乳酸菌生成エキス，ＮＰＯ法人レックス・ラボ．
・佐藤香代．(2014)．体の智慧で産み育てる．乳酸菌生成シンポジウムスライドデータ抄録集．
・佐藤香代．(2015)．日本の助産師教育の行方．福岡県助産師会ニュースレターNo57，P4-5.
・佐藤香代．(2015)．始まる！助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ認証制度．福岡県助産師会ニュースレターNo58，P3-4.
・佐藤香代．(2015)．妊婦における飲用効果．乳酸菌生成エキス研究臨床データ集 ver5，P22.
・佐藤香代．(2015)．妊娠期の乳酸菌生成エキス．すこやかMESSAGE No54，P8-9.
・佐藤香代．(2016)．巻頭言：理事会の活動を通して学んだこと～全助協組織強化の必要性．全国助産師教育協議会ニュースレターNo86，p1.

〈教材開発〉

・佐藤香代，安藤由加利，藤原裕美子.（2015）．リーフレット：妊娠・出産に関する啓発．若いみなさんに今、知っておいてほしいこと．地域少子化対策強化事業「妊娠・出産等に関する正しい知識の普及啓発事業」．福岡県．福岡県看護協会.

〈新聞記事等〉

・第 9 回「世にも珍しいマザークラス in たがわ」.読売新聞 2013 年 9 月 13 日
・第 9 回「世にも珍しいマザークラス in たがわ」.毎日新聞 2013 年 10 月 2 日
・第 9 回「世にも珍しいマザークラス in たがわ」.毎日新聞 2013 年 10 月 4 日
・第 9 回「世にも珍しいマザークラス in たがわ」.毎日新聞 2013 年 10 月 6 日
・第 9 回「世にも珍しいマザークラス in たがわ」.毎日新聞 2013 年 10 月 8 日
・第 18 回「世にも珍しいマザークラス in 福岡」.毎日新聞 2013 年 12 月
・第 10 回「世にも珍しいマザークラス in たがわ」.毎日新聞 2014 年 9 月
・第 10 回「世にも珍しいマザークラス in たがわ」.読売新聞 2015 年 1 月
・第 19 回「世にも珍しいマザークラス in 福岡」.毎日新聞 2015 年 1 月
・第 19 回「世にも珍しいマザークラス in 福岡」.読売新聞 2015 年 1 月
・第 20 回「世にも珍しいマザークラス in 福岡」.毎日新聞 2015 年 9 月
・第 20 回「世にも珍しいマザークラス in 福岡」.読売新聞 2015 年 9 月
・大切な方を亡くした方に寄り添う看護者さんのお茶会．毎日新聞 2015 年 1 月
・母と子どもを護る多職種の会　特別講演・シンポジウム．毎日新聞 2015 年 3 月
・医師、助産師、保育士・・・、家庭支援への連携を考えるシンポジウム．西日本新聞 2015 年 3 月
・世にも珍しいマザークラス－妊婦とママのためのセミナー田川市報 2015 年 5 月
・第 11 回「名桜大学人間健康学部公開シンポジウム」やんばる（山原）で安心して子供を産み育てるとは～支えあうやんばる（山原）の母性を考える～．琉球新聞 2015 年 9 月
・第 11 回「名桜大学人間健康学部公開シンポジウム」やんばる（山原）で安心して子供を産み育てるとは～支えあうやんばる（山原）の母性を考える～．沖縄タイムス 2015 年 9 月
・大切な方を亡くした方に寄り添う看護者さんのお茶会．毎日新聞 2016 年 1 月
・大切な方を亡くした方に寄り添う看護者さんのお茶会．読売新聞 2016 年 1 月

③過去の主要業績

・佐藤香代．性ってなーに，西日本新聞社，福岡，1992 年.
・佐藤香代．日本助産婦史研究，東銀座出版社，東京，1997 年.
・佐藤香代．母と子の絆は地球を救う，絆，京都アカデミア叢書，京都，2008 年.
・佐藤香代，高橋真理．マザークラスにおける妊婦の身体感覚活性化の効果測定－これからのよりよい家族支援に向けて－，*家族看護学研究*，10(2)，2－9，2004 年
・佐藤香代．新しい Know-How を学ぶこれからの出産準備教室　妊婦に寄り添う「参加型」クラスのすすめかた，世にも珍しいマザークラス．*ペリネイタルケア増刊号*，219‐230，2005 年.

３．外部研究資金

・科学研究費（基盤研究(C)）研究代表者，女性の産み育てる力を高める教育プログラムの検証と構築に関する研究.500 万円.平成 25 年～29 年度.
・日本看護協会 助産実践能力強化支援事業研究代表者．院内助産スキルアップ研究（妊婦のフィジカルアセスメント.10 万円.平成 27 年度.
・厚生労働省 看護職員確保対策特別事業「助産師学生の分娩介助例数と学習到達度に関する研究」.400 万円.平成 27 年度.

５．所属学会

日本助産学会　代議員　査読委員，日本助産師学会　査読委員，日本母性衛生学会　査読委員，

福岡県母性衛生学会　理事，日本看護研究学会　評議員　学会誌査読委員，日本看護科学学会代議員　専任査読委員，日本家族看護学会，日本母乳哺育学会，日本母乳の会，日本ラクテーション・コンサルタント協会

６．担当授業科目

〈学部〉

ホリスティック人間論・1 単位・1 年・前期，女性看護学概論・1 単位・2 年・前期，女性看護学・2 単位・2 年・後期，女性看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期，女性看護学演習Ⅱ・1 単位・3～4 年・後期～前期，女性看護学実習・2 単位・3～4 年・後期～前期，統合実習・2 単位・4 年・通年，専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年，卒業研究・2 単位・4 年・後期

〈大学院〉

看護研究法・2 単位・修士 1 年・前期，ウィメンズヘルス特論・1 単位・修士 1 年・前期，ウィメンズヘルス演習・1 単位・修士 1 年・後期，代替・補完看護学特論・2 単位・修士 1 年・前期，代替・補完看護学演習・2 単位・修士 1 年・後期，臨床看護学特別研究・8 単位・修士 1・2 年・通年，基礎助産学特論・2 単位・修士 1 年・前期，基礎助産学演習・2 単位・修士 1 年・通年，助産学特論・2 単位・修士 1 年・前期，助産学演習・2 単位・修士 1 年・後期，ホリスティック助産学特論・1 単位・修士 1 年・前期，ホリスティック助産学演習・2 単位・修士 1 年・後期，助産実践学Ⅰ・2 単位・修士 1 年・前期，助産学実習Ⅰ・1 単位・修士 1 年・前期，助産学実習Ⅱ・8 単位・修士 1 年・後期，助産学実習Ⅲ・2 単位・修士 2 年・前期，助産学実習Ⅳ・1 単位・修士 2 年・前期，助産学実習Ⅴ・2 単位・修士 2 年・後期，助産実践アドバンス特論・1 単位・修士 1 年・後期，助産実践アドバンス実習・4 単位・修士 2 年・後期，助産学課題研究・4 単位・修士 1・2 年・通年，助産学特別研究・8 単位・修士 1・2 年・通年

７．社会貢献活動

・身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス：福岡市，田川市
・フムフム（Fukuoka Midwives Female & Male＝FM²）ネットワーク主宰
・福岡県立嘉穂高等学校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）運営指導委員
・全国助産師教育協議会　副会長
・一般財団法人日本助産評価機構　試験問題検討委員
・日本助産実践能力推進協議会委員
・福岡県看護協会　職能理事　助産師職能委員長
・日本看護協会　代議員
・NPO 法人　患者の権利オンブズマン会議委員・代議員

８．学外講義・講演

・佐藤香代.（2015.5）．特別講演「始まる！助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ認証制度」，福岡県助産師会通常総会，福岡.
・佐藤香代.（2015.5）．「いのちの大切さ、こころとからだの話」，福岡県看護協会「看護の出前授業」連絡会，福岡.
・佐藤香代，吉田静，佐藤繭子，久田亜希（2015.6）マタニティフェア「プレママ・プレパパの体験コーナー」，イオンモール福岡.
・佐藤香代，小林絵里子，石村美由紀，佐藤繭子，鳥越郁代（2015.6）第 11 回世にも珍しいマザークラス in たがわ（お手当編）－クラス１　子どもとママと、ともにリラックス【ベビーマッサージ】．福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業，田川.
・佐藤香代，小林絵里子，石村美由紀，佐藤繭子，鳥越郁代（2015.6）第 11 回世にも珍しいマザークラス in たがわ（お手当編）－クラス２　病院に行く前に家でできることって？【家族のためのお手当講座】．福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業，田川.

・佐藤香代，鳥越郁代，小林絵里子，佐藤繭子．（2015.6）第 11 回世にも珍しいマザークラス in たがわ（お手当編）－クラス 3　自分で癒すエネルギーセラピー【癒しのとんとんタッピング】．福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業，田川.
・佐藤香代，小林絵里子，石村美由紀，佐藤繭子，鳥越郁代（2015.7）第 11 回世にも珍しいマザークラス in たがわ（お手当編）－クラス 4　野菜のエネルギーを引き出す簡単重ね煮レシピ【重ね煮を作ろう！】．福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業，田川.
・佐藤香代，石村美由紀，小林絵里子，鳥越郁代（2015.7）第 11 回世にも珍しいマザークラス in たがわ（お手当編）－クラス 5　ツボとお灸でもっと健康に!!【妊娠中・お産に役立つツボとお灸】．福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業，田川.
・佐藤香代．（2015.7）．平成 27 年度産科管理者交流集会「所属施設における助産師の必要人数を算出しよう！」．ファシリテーター　日本看護協会.
・佐藤香代．（2015.7）．性とともに生きる．福岡県看護協会．看護の出前授業．福岡市立箱崎中学校 2 年生.
・佐藤香代．（2015.7）．性とともに生きる．福岡県看護協会．看護の出前授業．福岡市立箱崎中学校 3 年生.
・佐藤香代．（2015.7）．命の教育．福岡県母子福祉協会．母子生活支援施設　百道寮 4～6 年生.
・佐藤香代．(2015.7)．アメリカの助産師教育と妊産婦ケア講演会「大学院での助産師教育を開始して」，福岡県立大学大学院看護学研究科助産学領域，田川.
・佐藤香代．(2015.7)．助産師としての倫理．新人助産師研修会．福岡県看護協会助産師職能委員会研修会，福岡.
・佐藤香代．(2015.8)．助産師管理者交流会～助産師の未来を考える～．福岡県看護協会助産師職能委員会研修，福岡.
・佐藤香代．(2015.9)．「助産師に求められるリーダーシップとは」「助産師の自分と向き合う」「自分の目指す助産師像をわかちあう」．助産師指導者研修，三重県立看護大学地域交流センター地域貢献事業，三重.
・佐藤香代．（2015.9）．命の教育．福岡県母子福祉協会．母子生活支援施設　百道寮 1~3 年生.
・佐藤香代．(2015.10)．「助産哲学」．新人助産師研修会．福岡県看護協会助産師職能委員会研修会，福岡.
・佐藤香代，吉田静，佐藤繭子．(2015.10)．第 20 回世にも珍しいマザークラス in 福岡－クラス 1　息を感じる触って感じる【呼吸、出会いゲーム】．福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業，福岡.
・佐藤香代，佐藤繭子，吉田静，鳥越郁代．(2015.10)．第 20 回世にも珍しいマザークラス in 福岡－クラス 2　食で感じるわたしのからだ【クイズ、食の話】．福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業，福岡.
・佐藤香代，石村美由紀，佐藤繭子，吉田静，鳥越郁代．(2015.10)．第 20 回世にも珍しいマザークラス in 福岡－クラス 3　アロマで感じる私のからだ においとふれるで快を感じる【アロママッサージ】．福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業，福岡.
・佐藤香代，石村美由紀，，佐藤繭子，吉田静，鳥越郁代，小林絵里子．(2015.10)．第 20 回世にも珍しいマザークラス in 福岡－クラス 4　からだの智慧で産み・育てる【お産体験】．福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業，福岡.
・佐藤香代，石村美由紀，佐藤繭子，吉田静，小林絵里子．(2015.10)．第 20 回世にも珍しいマザークラス in 福岡－クラス 5　音に響くからだでわたしを知る【癒しの音色・修了式】．福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業，福岡.
・佐藤香代．(2015.11)．第 7 回健康大使セミナー　子どもに伝える性 - あなたはわが子にいのちをどう伝えますか？－.福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター事業，福岡.

・佐藤香代.　(2015.11)．性とともに生きる．～人はなぜ性を選んだの？～．福岡市立多々良中学校 3 年生.
・佐藤香代.　(2015.11)．大切なあなたの性．～こころとからだを正しく知ろう～．福岡市立多々良中学校 2 年生.
・佐藤香代.　(2015.12)．いのちの奇跡．粕屋町立粕屋東中学校 1、2 年生.
・佐藤香代.　(2015.12)．性とともに生きる．～人はなぜ性を選んだの？～．粕屋町立粕屋東中学校 3 年生.
・佐藤香代.　(2015.12)．いのちの奇跡．粕屋町立粕屋中学校全学年.
・佐藤香代，石村美由紀，吉田静，佐藤繭子．(2016.2)．「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」の哲学と実践．身体感覚活性化マザークラス医療者セミナー，電気ビル共創館，福岡.
・佐藤香代.　(2016.2)．いのちのつながり．福岡県看護協会．看護の出前授業．古賀市立古賀中学校 2 年生.
・佐藤香代．(2016.2)．「すべての妊婦にマザークラスを」－いまなぜ、妊婦に助産師のケアが必要なのか？－，身体感覚活性化マザークラス医療者セミナー，電気ビル共創館．福岡.
・佐藤香代．(2016.3)．「助産師と教育」・「助産師と倫理」．ラダーⅢ対応ステップアップ研修．福岡県助産師会研修，福岡.

９．附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
・ヘルスプロモーション実践研究センター事業
①身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 福岡・田川
②身体感覚活性化マザークラス医療者セミナー
③健康大使セミナー
④女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	教授	氏名	村田　節子

１．教員紹介・主な研究分野

平成 21 年より当大学に就任。主な研究分野はがん患者の身体的ケアや社会復帰に関する研究で、特にがん患者のスキンケア、排泄と排泄環境に関する研究を行っている。又、ケア技術選択の根拠となる看護アセスメント過程に関心を持ち、看護過程・看護診断に関する研究を行っている。

ケアは、単に身体機能の回復を助けるだけでなく、患者という立場になった人々の生活の再構築を支援していく役割がある。そのためには、国や地域の慣習や伝統を考慮する必要がある。今後は「排泄環境」を通して、アジアの看護についても検討していきたい。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

・資料：松井聡子，政時和美，杉野浩幸，村田節子，中井裕子「視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～e ラーニングシステムを使用して～,福岡県立大学紀要（2015）

・政時和美,松井聡子，笹野莉奈，村田節子，中井裕子「A 地区における AED の配置に関する調査研究」福岡県立大学紀要（2015）

〈著書〉

村田節子：分担部分単独執筆（共著者：加來 恒壽、渡辺 美子、他）各論　1.副作用Ⅳ,排便障害（ストーマ・ケア）、婦人科がん患者の臨床と看護,Pp104-110,医学出版,2013

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・村田節子、岩橋宗哉、岩崎玲奈「患者に寄り添うコミュニケーション技術を高めるプログラム第 2 報　–ロールプレイ演習とリフレクションによる評価–」第 30 回日本がん看護学会(2016. 2.20)

・西坂恵子、村田節子、宮園真美「自宅で生活を送るがんサバイバーが感じる情緒的支援と対処行動・心理的適応と関連」第 30 回日本がん看護学会(2016.　2.20)

・宮園真美、村田節子、政時和美、植木昭代「地域でがんについて語り合う「キャンサー・ナーシング・カフェの取り組み」～医療スタッフの意識調査～」第 17 回日本看護医療学会(2015)

・村田節子、宮園真美、政時和美「地域で語り合うがんとの向き合い方～キャンサー・ナーシング・カフェの取り組み～」第 17 回日本看護医療学会(2015)

・西坂恵子、村田節子、宮園真美「がんサバイバーの情緒的支援と対処行動, 心理的適 応に関する文献的考察」第 41 回日本看護研究学会(2015)

・廣兼利来、野口未生、村田節子、中井裕子「日本人看護師と外国人患者の間に生じる課題に関す る文献検討」第 41 回日本看護研究学会(2015)

・野口未生、廣兼利来、村田節子、中井裕子「化学療法を受ける高齢者の苦痛に関する文献検討」第 41 回日本看護研究学会(2015)

・松枝美智子、村田節子、江上文子、松井聡子、永嶋由理子「A 県の医療施設等の看護管理者が高度実践看護師（Advanced Practice Nurse)に提供したいと考えている支援」第 41 回日本看護研究学会(2015)

・村田節子、岩橋宗哉「患者に寄り添うコミュニケーション技術を高めるプログラム
－ ロールプレイ演習のリフレクションによる評価 － 」第 29 回日本がん看護学会（2015）

・岩崎玲奈、村田節子、櫟直美、小出昭太郎「治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援における家族支援の現状と関連要因の検討」第 29 回日本がん看護学会（2015）

・岩崎玲奈、村田節子、櫟直美、小出昭太郎「治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援の現状と関連要因の検討」第 29 回日本がん看護学会（2015）

・Sumiko Watanabe[1], Tsunehisa Kaku[2], Maki Kusaba[3], Natsuki Eguchi[3], Kazunori Nishimura[3], Setsuko Murata[4], Setsuo Sugishima[5], Tsuyoshi Iwasaka[6]「Formation Mechanism of Binucleated HeLa Cells」38th European Congress of Cytology（2014）
・政時和美,松井聡子，村田節子，中井裕子「A 地区における AED 設置調査」,第 40 回日本看護研究学会（2014）
・政時和美,松井聡子，村田節子，中井裕子「過疎地域における AED 設置の問題点」,第 34 回日本看護科学学会（2014）
・岩崎玲奈、村田節子、櫟直美、新垣亮太「治療が困難になったがん患者への療養上の意思決定に必要な看護支援」第 33 回日本看護科学学会（2013）
・Sumiko Watanabe, Tsunehisa Kaku, Masafumi Ohki, Sadafumi Tamiya, Setsuo Sugishima, Setsuko Murata ,Yoshihiro Ohishi, Masatoshi Yokoyama, Yoshiko Kashimura, Masamichi Kashimura, Tsuyoshi Iwasaka「Correlation between nuclear chromatin pattern and cell cycle 」International congress of Cytology 2013 (web)
・村田 節子、長家 智子（2013）「本邦における看護過程の教授方法の工夫に関する文献検討」、日本看護学会誌 VOL18, No2, pp130-131, 2013

③過去の主要業績
・村田節子　「ターミナル期における自己尊重の障害への介入について－子宮頚癌Ⅲb 期再発の 47 歳の症例を通して－」、日本看護診断学会学会誌 vol 1.No1、 p 66-76、1996.
・村田節子　「ネパールにおける看護教育とケアシステムの現状と課題」、九州大学医療技術短期大学部紀要第 28 号 p 45-62、2001.
・村田節子、熊谷秋三、平田伸子、平野祐子　「トイレ弱者の立場からみた公的空間の排泄環境整備と基準化に関する研究」、社会福祉事業助成金「第 34 回三菱財団　事業報告書」三菱財団発行、2002.

５．所属学会
日本看護診断学会、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会　（評議委員）、日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本看護研究学会、日本褥瘡学会、日本ネパール協会、国際看護研究会

６．担当授業科目
〈学部〉
成人看護学概論・2 単位・2 年・前期、成人急性期看護論・2 単位・2 年・後期、成人看護実践論 IV・1 単位・3 年・通年、成人看護実習・4 単位・3 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・通年、専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期、卒業研究・2 単位・4 年・後期.
〈大学院〉
成人看護学特論・1 年・通年、成人看護学演習・1 年・通年、がん看護学特論 I・2 単位・1 年・前期、がん看護学特論 II・2 単位・1 年・後期、臨床心理学特論・1 年・後期、がん看護学実習 I・4 単位・2 年・前期、がん看護学実習 II・2 単位・２年・前期、課題研究・4 単位・１–2 年・通年、臨床看護学特別研究・8 単位・2 年・通年.

７．社会貢献
・九州がんプロフェッショナル養成協議会　福岡県立大学代表コーディネーター
・第 2 回キャンサー・ナーシング・カフェ企画、開催（2016.3.5）
・第 22 回看護診断学会　企画委員会実行委員長（H26～H28）
・福岡県立大学がん看護勉強会（1 回/2 か月　福岡県立大学内）
・川崎町立病院評価委員会委員
・田川市政治倫理審査委員

８．学外講義・講演

・村田節子（2016.1.31）九州放射線治療システム研究会 教育講演「がん患者の身体的ケアと社会復帰支援」

・村田節子（2015.8.8、8.9）熊本医療センター　第 4 回ナースのためのエンド･オブ･ライフ･ケアセミナー（ELNEC-J コアカリキュラム）

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	楺　直美

１．教員紹介・主な研究分野

研究分野は「高齢者とその家族の心身の健康支援」をテーマとし、特に近年は認知症を抱える家族介護者の健康支援において、多職種が協働した効果的な介入方法について研究中です。介護保険制度が施行され家族の身体的介護負担は軽減された側面もありますが、孤立した家族介護者の寂しさや閉塞感は以前と変わっていないように感じます。本当に必要な看護支援を見出すためには、自ら介護家族者と触れ合いその苦悩を感じ取る感性が必要だと考えます。そのために介護アドバイザーや介護関係の研修会講師など地域での実践活動を積極的に行い、その活動を通して、介護保険制度にはないインフォーマルな関係性を構築していきたいと思います。そして目指すはエビデンスに基づいた家族介護者のエンパワメント向上への看護支援です。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

・博士論文；家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究―家族介護者の介護力向上のために必要な看護支援の検討―．北九州市立大学大学院社会システム研究科地域社会システム専攻博士後期課程，2015.

・丸山 泰子・楺 直美・横尾 ・美智代．介護老人保健施設の看護職の役割・認識とやりがい感との関連．日本看護研究学会雑誌，Vol38,No5,2016.

・楺直美・尾形由起子・田渕康子・横尾美智代「家族介護者の介護力構成要素と介護負担感との関連」福岡県立大学看護学紀要、第 11 巻 2 号,2013.

・楺直美・尾形由起子・田渕康子・横尾美智代「家族介護者の介護力評価を測定する尺度の構成」日本看護研究学会雑誌 Vol36,No3，2013.

〈報告書〉

・文部科学省，科学研究費補助金(基盤研究 C),「通所サービスにおける家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究」報告書，2015，研究代表者.

・文部科学省，科学研究費補助金(基盤研究 B)，「経験型実習教育の研修プログラムの有効性に関する研究」報告書，2014，共同研究(研究代表者：安酸史子).

・楺直美、尾形由起子、江上史子「高齢家族介護者の介護力向上のための協同ケアモデル構築に関する研究」平成 23 年度研究奨励交付金成果報告書、2013 年.

〈解説〉

看護師国家試験学習支援ツールの解説「老年看護学」ICT 活用遠隔教育センター,メディカ出版，2013.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

・野口忍，尾形由起子，楺直美，岡田麻里．地域包括ケアシステムの基盤となる人生最期の過ごし方を自ら選択できる住民への教育について．第 35 回日本看護科学学会交流集会，広島，2015.12 月.

・楺直美，尾形由起子，横尾美智代，田渕康子．家族介護者の介護力獲得のための看護支援方法の検討“看護師に対するニーズと介護力の関連性から” 第 35 回日本看護科学学会，広島，2015.12 月.

・岩﨑玲奈，村田節子，楺直美，小出昭太郎．治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援の現状と関連要因の検討．第 29 回日本がん看護学会，横浜，2015 年 2 月.

・岩﨑玲奈，村田節子，楺直美，小出昭太郎．治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援における家族支援の現状と関連要因の検討．第 29 回日本がん看護学会，横浜，2015 年 2 月.

・尾形由紀子，岡田麻里，野口忍，楙直美．がんの終末期療養者配偶者が行った「在宅看取り」に向うセルフマネジメントプロセス．第19回日本在宅ケア学会，福岡，2014年11月．
・楙直美，尾形由起子，田渕康子，横尾美智代「家族介護者の介護力向上における看護支援の検討 」第18回日本在宅ケア学会，東京,2014年3月．
・楙直美，尾形由起子，田渕康子，横尾美智代「家族介護者の介護負担感及び介護継続意思と認知症との関連」第33回日本看護科学学会，大阪，2013年12月．
・岩﨑玲奈,村田節子,楙直美,新垣亮太「治癒が困難になったがん患者への療養上の意思決定に必要な看護支援」第33回日本看護科学学会，大阪，2013年12月．
・楙直美・尾形由起子・田渕康子・横尾美智代「家族介護者の介護力評価を測定する尺度の構成」第39回日本看護研究学会，秋田，2013年8月．
・尾形由起子，岡田麻里，山下清香，楙直美，林さやか，松尾和枝「地域住民へのエンド・オブ・ライフ選択のための支援方法の検討」第72回日本公衆衛生学会，三重県，2013年10月．
・松枝美智子,安酸史子,安永薫梨,浅井初,坂田志保路，中野榮子,渡邉智,楙直美,吉田恭子,江上史子,清水夏子,小森直美,小野美穂. 経験型実習教育研修プログラムの効果：研修参加の有無による精神科看護師の教師効力の比較.日本教師学学会第14回自由研究発表,秋田市,2013年3月．
・江上史子，浅井初，坂田志保路，安酸史子，渡邉智子，小森直美，松枝美智子，安永薫梨，中野榮子，楙直美，吉田恭子，清水夏子，小野美穂，経験型実習教育における学生の学びの内容－3年生を対象としたフォーカスグループインタビューから－日本教師学学会第14回大会，2013年3月．
・楙直美,尾形由起子,田渕康子,横尾美千代「介護肯定感形成における家族介護者の対処行動の特徴」第16回日本在宅ケア学会，東京，2013年3月．

３．外部研究資金

・文部科学省科科学研究費補助金、基盤Ｃ（平成26～28年）「認知症高齢者を抱える家族介護者の介護力獲得支援プログラムの有効性に関する研究」研究代表者（2,549千円）
・文部科学省科科学研究費補助金、基盤Ｃ（平成26～28年）「地域における住民の在宅医療セルフマネジメント教育プログラムの開発」研究分担者（代表；尾形由紀子）
・文部科学省科科学研究費補助金、基盤Ｃ（平成23～26年）「通所サービスにおける家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究」研究代表者（2,340千円）
・文部科学省科科学研究費補助金、基盤Ｃ（平成25～27年）「地域在住高齢者による睡眠改善教育プログラムの生活機能低下及び虚弱の効果」研究分担者（代表；田中美加）（4,915千円）

５．所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本在宅ケア学会、日本健康教育学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、日本公衆衛生学会、日本地域看護学会

６．担当授業科目

老年看護概論・1単位・2年・前期，老年看護学・2単位・2年・後期, 老年看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期, 老年看護学演習Ⅱ，1単位・3～4年・通年，老年看護実習Ⅰ・1単位・2年・通年, 老年看護実習Ⅱ・2単位・3～4年・通年，老年看護学実習Ⅰ・1単位・2年・通年，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，統合実習・2単位・4年・前期, 卒業研究・2単位･4年・後期, 老年看護学特論･2単位・修士1年, 老年看護学演習・2単位・修士1年，高齢者医療保健福祉政策・ケアシステム論2単位・修士1年,

７．社会貢献活動

・NPO法人「ヘルスアイランドライツサポートうりずん」第三者評価委員会理事
・「老いを支える北九州家族の会」介護アドバイザー
・NPO法人「福祉・医療機関教育評価機構」理事・第三者評価委員

・NPO 法人「生涯現役支援センター」高齢者健康相談員
・平成 27 年度「人に優しい町・田川をつくる会」理事
・田川市看看護連携研修会「看看連携で進める地域包括ケアシステムづくり」コーディネーター
・筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」参画し年間を通し地域住民との協同的実践活動.

８．学外講義・講演

・産学官技術交流会，講師．「高齢者の誤嚥予防について～あきらめない経口摂取へのアプローチ～」福岡女子大学，2015 年、11 月.
・北九州市介護従事者研修会講師「高齢者の誤嚥予防～あきらめない食事へのアプローチ～」ウェル戸畑，2015 年 9 月、10 月.
・職業訓練法人福岡地区職業訓練協会主催，福祉用具専門相談員指定講習会講師「介護の知識、介護概論」職業訓練法人福岡地区職業訓練協会，2015 年 8 月、9 月.
・NPO 法人生涯現役支援センター講師「健やかに老いる」行橋.2015 年 8 月.

９．附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員.
・筑豊市民大学ヘルシーエイジングゼミ講師「食事と健康法」，福岡県立大学．2015 年 6 月.
・筑豊市民大学ヘルシーエイジングゼミ講師「介護保険の上手な利用法」，福岡県立大学．2015 年 9 月.
・筑豊市民大学ヘルシーエイジングゼミ講師「笑いヨガ」，福岡県立大学．2016 年 1 月.

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	鳥越　郁代

１．教員紹介・主な研究分野

大学病院で看護師,助産師としての勤務経験を経たあと,助産師教育に携わる。1992 年玉川大学大学院文学研究科修士課程修了。1999 年に英国のテームズバリー大学大学院に留学,助産実践修士課程修了（2002 年）。2003 年本学看護学部に着任。2010 年兵庫県立大学大学院看護学研究科博士課程修了（博士：看護学）。

現在,帝王切開分娩後の女性が,次の出産を迎えたときの出産様式選択における意思決定支援を主な研究テーマとしている。患者との意思決定の共有（shared decision-making）モデルを根底におくオタワ決定サポート枠組みをもとに帝王切開分娩後の女性の出産選択のための決定援助プログラムを開発し,そのプログラムを用いた介入研究の実施・分析を行っている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

・鳥越郁代. (2015). 「第 2 章　助産師が行うケアの概念,3.女性の意思決定を支えるしくみ」.山本あい子編 『助産師基礎教育テキスト第 1 巻, 助産概論』（第 1 版 2015 年版),42-54.日本看護協会出版.

・鳥越郁代.(2012) . 「正常な産褥の看護ケア」.村本淳子・高橋真理編『周産期ナーシング』（第 2 版 1 刷）, 197-214,　221-227,ヌーヴェルヒロカワ.

〈論文〉

・Ikuyo Torigoe, Brett Shorten, , Shizuka Yoshida, Allison Shorten. Trends in birth choices after caesarean section in Japan: A national survey examining information and access to vaginal birth after caesarean. (2016). Midwifery,37, 49-56.

・石村美由紀,　古田祐子, 佐藤香代, 鳥越郁代. (2016). 学士課程における助産実践能力（分娩介助技術および健康教育）の到達状況と課題. 13, 1-10.

・吉田静,佐藤香代,鳥越郁代,安河内静子,小林絵里子,佐藤繭子, 邬继红, 王琦, 侯小妮. (2014). 中国北京における妊婦の食生活と文化. 福岡県立大学看護学部紀要, 12, 25-35.

・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦. (2014). 中国北京における中国伝統医療の現状. 福岡県立大学看護学部紀要, 12,73-84.

・Allison Shorten, Ikuyo Torigoe, Lisa Weinstein, Andrey Muto. (2014). Continitity, Confidence, Compassion and Culture: Lessons leraned from Japanese midwives. Journal of Midwifery &Women's Health.. 59 (5),551.

・鳥越郁代, 藤木久美子, 古田祐子, 佐藤繭子, 安河内静子, 吉田静, 小林絵里子, 佐藤香代, 石村美由紀.(2012).助産師学生の分娩期助産課程の到達状況に関する一考察.福岡県立大学看護学部紀要, 9 (2), 53-61.

・吉田静, 佐藤香代, 佐藤繭子, 安河内静子, 鳥越郁代,小林絵里子, 藤木久美子.(2011).「身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー」に参加した医療者のドゥーラ体験. 福岡県立大学看護学部紀要, 9 (2), 43-52.

・佐藤繭子, 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 鳥越郁代.(2011).「身体感覚活性化マザークラス」を体験した看護学生の内面的変容. 福岡県立大学看護学部紀要, 9 (2), 63-70.

②その他最近の業績

〈セミナー〉

鳥越郁代, 吉田静,小林絵里子,藤木久美子,佐藤繭子,古田祐子,佐藤香代. 帝王切開後の出産選択について考えるセミナー.～看護職としての意思決定支援とは～(平成 23 年度 採択　科学研究費助成事業) , 企画・運営総括, 福岡, 2012.3.4.

〈国家試験問題解説〉

・鳥越郁代.（2010）. 第 99 回看護師国家試験解説　母性看護領域（必修問題）」国家試験対策 e-Learning　NPlus,佐藤香代監修,http://m-nplus.jp/.

・鳥越郁代.　（2011）. 看護師国家試験過去問題 2012. Vol 1,2. 第 98 回,99 回,100 回の看護師国家試験問題解説 母性看護領域. Vol.1: p.126,232,233,234. Vol. 2:371,427,439,447.　MC メディカ出版.

〈教材開発〉

佐藤香代, 安河内静子, 吉田静,　佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体活性化（世にも珍しい）マザークラスの哲学と実践（DVD）, 2012.

〈学会発表〉

・佐藤香代,安河内静子,佐藤繭子,吉田静,小林絵里子,鳥越郁代,藤木久美子,米倉圭介.妊婦における乳酸菌生成エキス飲用の効果, 第 52 回日本母性衛生学会,京都,2011.

・吉田静,佐藤香代,鳥越郁代,安河内静子,小林絵里子,佐藤繭子,藤木久美子.身体感覚活性化マザークラス医療者セミナーにおけるドゥーラ体験の評価, 第 52 回日本母性衛生学会,京都,2011.

・鳥越郁代.帝王切開分娩を経験した女性のための次子の分娩方法選択への支援:決定援助プログラムの介入評価. 第 2 回(第 26 回)一般社団法人日本助産学会,札幌,2012.

・鳥越郁代,藤木久美子,佐藤繭子,古田祐子,安河内静子,吉田静,小林絵里子,佐藤香代,石村美由紀. 助産師学生の分娩期助産診断の到達状況と課題, 第 52 回日本母性衛生学会,京都,2011.

・鳥越郁代,吉田静.帝王切開分娩を経験した女性の出産選択における意思決定支援に関する調査, 第 53 回日本母性衛生学会,福岡,2012.

・鳥越郁代,吉田静.帝王切開後の出産選択を考えるセミナーの開催と評価～参加者の視点から～, 第 53 回日本母性衛生学会,福岡,2012.

・佐藤香代,安河内静子,佐藤繭子,吉田静,小林絵里子,鳥越郁代,米倉圭介.妊婦における乳酸菌生成エキス飲用の効果　第 2 報- 便秘傾向妊婦と非便秘妊婦との比較. 第 53 回日本母性衛生学会, 福岡,2012.

・鳥越郁代,吉田静.帝王切開分娩を経験した女性の出産選択における意思決定支援に関する調査, 第 3 回（27 回）日本助産学会学術集会,金沢,2013

・吉村昭子、山口佳子、鳥越郁代.　女子大学生の出産に対するイメージと陣痛・産痛緩和方法についての意識に関する調査,　第 54 回日本母性衛生学会学術集会, 埼玉, 2013

・藤木久美子、佐藤香代、鳥越郁代.　生後 4 カ月児をもつ母親の授乳への満足感と育児困難感,　第 54 回日本母性衛生学会学術集会, 埼玉, 2013

・吉田静、佐藤香代、松岡百子、安河内静子、鳥越郁代、石村美由紀、小林絵里子.　「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の気功体験,　第 54 回日本母性衛生学会学術集会, 埼玉, 2013

・佐藤香代、吉田静、鳥越郁代、安河内静子、小林絵里子.　中国における妊婦の食生活の現状（第 1 報）,　第 54 回日本母性衛生学会学術集会, 埼玉, 2013

・佐藤香代、吉田静、鳥越郁代、安河内静子、小林絵里子.　中国における妊婦の食生活の現状（第 2 報）,　第 54 回日本母性衛生学会学術集会, 埼玉, 2013

・Allison Shorten, Ikuyo Torigoe, Lisa Weinstein, Andrey Muto. Continitity, Confidence, Compassion and Culture: Lessons leraned from Japanese midwives. The　American College of Nurse-Midwives' 59th Annual Meeting. USA., 2014.5

・Ikuyo Torigoe, Shizuka Yoshida, Allison Shorten. Birth choice after cesarean section in Japan:
focusing on giving information about VBAC and repeat cesarean. ICM 30th Triennial Congress, Prague,Czech Republic, 2014.6.2

・山名栄子、江上千代美、田中美智子、鳥越郁代、松浦賢長、松尾ミヨ子、照屋典子、清水かおり、中嶋恵美子、小池秀子、石橋通江、正野逸子. 九州沖縄看護系大学 8 大学の統一コード化からみた慢性看護の現状,第 8 回日本慢性看護学会学術集会,2014.7.5-6

・箱崎友美, 鳥越郁代, 佐藤香代. 帝王切開分娩による出産満足度と産褥早期のうつ傾向の関連, 第 6 回（30 回）日本助産学会学術集会,京都,2016.3.19-20
・横手直美, 鳥越郁代, 山下恵. VBAC(帝王切開後経膣分娩)に挑戦した女性の出産体験－統合分析の結果－, 第 6 回（30 回）日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.19-20
・鳥越郁代, 横手直美, 山下恵. VBAC(帝王切開後経膣分娩)に挑戦した女性の出産体験－個別分析の結果－, 第 6 回（30 回）日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.19-20
・小林絵里子, 佐藤香代, 鳥越郁代, 石村美由紀, 吉田静. 中国天津地域における大学生の食文化－中国の文化・教育と食の実態との関連－, 第 6 回（30 回）日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.19-20
・石村美由紀, 佐藤香代, 小林絵里子, 吉田静, 鳥越郁代. 身体感覚活性化マザークラスに参加した妊婦のバースプランおよび出産体験, 第 6 回（30 回）日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.19-20

③過去の主要業績
・鳥越郁代.（2000）.「第 10 章子どもを産む」,成山文夫,石川道夫編著『家族・育み・ケアリング』,163-178,北樹出版.
・鳥越郁代.（2002）.「第 6 章一対一の助産実践を提供して満足感を得る（Providing one-to-one practice and enjoying it）」翻訳,Lesley Ann Page 原著『The New Midwifery: science and sensivity in practice』,鈴井江三子監修『新助産学』,129-149,メディカ出版.
・鳥越郁代.（2009）.シンポウム『帝王切開分娩を経験した女性のための出産選択の支援』を開催して」,助産雑誌,63(1),54-58.

３．外部研究資金
・科学研究費(基盤研究　C)（研究代表者）,帝王切開分娩を経験した女性のための出産選択への支援：看護職者による決定援助の評価,直接経費 400 万円,平成 23 年～27 年度
・科学研究費（基盤研究　C)（研究分担者）、横手直美：緊急帝王切開に対する妊婦の適応力を高める出産準備教育プログラムを用いた介入研究,平成 24 年度～28 年度

５．所属学会
日本母性衛生学会,日本助産学会,日本看護科学学会

６．担当授業科目
〈学部〉
女性看護学・2 単位・2 年・後期,女性看護実践論・2 単位・2 年・前期,通年,国際看護論・2 単位 4 年・前期,女性看護実習・2 単位・3 年・通年,助産診断・技術学ⅠⅡ・6 単位・4 年・前期,助産実習Ⅰ・7 単位・4 年・前期, 助産実習Ⅱ・2 単位・4 年・前期,専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期,卒業研究・2 単位・4 年・後期

〈大学院〉
助産学特論・2 単位・ 1 年・前期,助産学演習・2 単位・1 年・後期,臨床看護学特別研究・8 単位・2 年・通年

７．社会貢献活動
・日本看護科学学会和文誌専任査読委員
・第 28 回日本助産学会学術集会一般演題査読

８．学外講義・講演

・性教育（いのちの奇跡）講演.福岡市立片江中学校(2013.11)
・看護職を目指す高校生へ向けての講演. 鹿児島県立鹿児島中央高校「好学舎」(2013.11)
・Midwifery in Japan: Historical viewpoints and current issues. Special Lecture for graduate students, and in Regular Meeting of Clinical Nurse Midwives in New Haven .Yale School of Nursing, Yale University West Campus,USA(2014.9.8)
・助産診断過程の展開，福岡県看護協会助産師職能研修会．福岡県看護協会(2015.3.6)
・帝王切開を経験した女性の次子の出産選択における情報提供：共有意思決定の支援の視点から. シンポジストとして，帝王切開分娩の情報提供のあり方（セミナー）：女性はいつ、どのような情報を必要としてい るか. 中部大学名古屋キャンパス，名古屋（2015.3.8）
・Midwifery in Japan: Special Lecture for Midwives in King Edward Memorial Hospital, Perth, Australia (2015.8,24)
・TOLAC（既往帝王切開経膣分娩）経験者の語りから分かること．シンポジストとして，出産準備教育における帝王切開分娩の情報提供を考えるセミナー. 中部大学名古屋キャンパス，名古屋(2016.3,13)

９．附属研究所の活動等

・看護学部ヘルスプロモーション実践研究センター研究員
・「世にも珍しいマザークラス in 田川」同窓会～産んだわたしのからだと生まれた赤ちゃん～(201510.6)
・第 7 回健康大使セミナー（2015. 11.20）
・「世にも珍しいマザークラス in 福岡」同窓会～産んだわたしのからだと生まれた赤ちゃん～(2015.12.1)
・第 20 回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 福岡（2015.10～11）
・第 11 回身体感覚マザークラス医療者向けセミナー（2016.2.21）

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	古田　祐子

１．教員紹介・主な研究分野

肌トラブルを有する新生児・乳児の皮膚バリア機能及び皮膚洗浄法に関する研究や助産教育，特に，助産技術・健康教育到達度に関する研究を主な研究分野としている。また、月経に関心を持ち，ヘルスプロモーション実践研究センターでは“性の健康に関する事業”の責任者として，月経に関するなんでも相談，月経に関連した研修会（布ナプキン作成講座・マンスリービクス講座等）を開催している．その他，地域貢献活動の一環として，中・高校生や養育者・教育者を対象とした性教育や子育て講演活動を行っている．

２．研究業績

①最近の著書・論文

・古田祐子. 乳児の皮膚洗浄法が乳児と実施者である養育者に及ぼす影響−異なる３つの洗浄法の分析より−，福岡県立大学看護学部紀要 15(1)，福岡県立大学,25-33.2016.
・古田祐子，安河内静子．簡易型Ｓ皮膚洗浄法が肌トラブルを有する乳児と実施者である養育者に及ぼす影響，福岡県立大学看護学部紀要 15(1)，福岡県立大学,11-20.2016.
・石村美由紀,古田祐子,佐藤香代. 学士課程における助産実践能力（分娩介助技術および健康教育）の到達状況と課題−9 年間の調査より−，福岡県立大学看護学部紀要 15(1)，福岡県立大学,1-10.2016.
・古田祐子.『第 105 回看護師国家試験対策テスト第 3 回解答・解説』.メディカコンクール委員会編集，メディカ出版，大阪， 2015.
・古田祐子. 乳児の肌トラブル発症に影響を及ぼす沐浴教育要因，福岡県立大学看護学部紀要 14(1)，福岡県立大学,1-11.2015.
・石村美由紀,古田祐子,佐藤香代.助産実習における学生のパワーレス状態に関する研究－その要因と回復の促進－，福岡県立大学看護学部紀要 14(1)，福岡県立大学, 13-23 .2015.
・安河内静子.古田祐子,佐藤香代. 大学院における助産師教育に対するニーズ調査，福岡県立大学看護学部紀要 14(1)，福岡県立大学, 53-62 .2015.
・古田祐子.『2015 年受験者対象第 1 回看護師国家試験対策テスト解答・解説』.メディカコンクール委員会編集，メディカ出版，大阪， 2014.
・古田祐子. 第 1 部第 3 節 「乳児の表皮 PH・水分量・皮膚温の測定」， 技術情報協会監修『皮膚の測定・評価法バイブル』初版,技術情報協会,東京, 417-427, 2013.
・古田祐子.『2014 年受験者対象第 1 回看護師国家試験対策テスト解答・解説』.メディカコンクール委員会編集，メディカ出版，大阪， 2013.
・古田祐子，安河内静子．乳児の皮膚トラブルに対する皮膚洗浄法の有用性—ある助産師の皮膚洗浄技術の効果から—，日本看護技術学会誌，11（3），35-45．2013.
・古田祐子．「正常な産褥の看護ケア」.村本淳子・高橋真理編『周産期ナーシング』（第 2 版 1 刷）, 169-196,215-220,ヌーヴェルヒロカワ. 2013.

②その他最近の業績

〈報告書〉
・古田祐子. 十代妊婦の子育て力育成に関する研究−十代妊婦の家事遂行能力に影響を及ぼす要因−．平成 23-24 年度研究奨励交付金研究成果報告書.73-74 頁.2013.7.
・小林絵里子,古田祐子.精油を用いたオイルマッサージの末梢血管拡張作用の持続性に関する研究．平成 23-24 年度研究奨励交付金研究成果報告書.138-139 頁.2013.7.

〈学会発表〉
・佐藤繭子，古田祐子．布ナプ看護系女子学生の布製ナプキン使用感．日本助産学会，京都市，2016.3.
・古田祐子，安河内静子．Ｓ洗浄法が実施者と肌トラブルを有する乳児（60 日未満）に及ぼす影響．日本科学学会，広島市，2015.12.

・古田祐子, 安河内静子, 鳥越郁代. ３つの異なる沐浴法が乳児の表皮 pH･角層水分･皮脂量に及ぼす影響. ICM アジア,横浜市, 2015.7.
・石村美由紀,古田祐子,佐藤香代. 学士課程における分娩介助技術習得の分析−9 年間の分娩介助技術到達度調査から−. ICM アジア,横浜市, 2015.7.
・古田祐子, 村田千代子. 病産院での沐浴教育が要因と考えられる乳児の肌トラブル事例報告. 日本助産師学会. 福岡. 2014.5.24
・古田祐子, 安河内静子, 鳥越郁代. Usefulness of a skin cleansing method developed by midwife M for infants with skin disorders. ICM, Prague Congress center. 2014.6.2
・石村美由紀,古田祐子,佐藤香代. 助産実習における学生のパワーレス状態からの回復に必要な要因. 日本母性衛生学会.千葉. 2014.9.14
・古田祐子, 安河内静子. S 皮膚洗浄法の試みが実施者と乳児に及ぼす影響―皮膚トラブルを有する日齢 60 日未満の乳児を対象としてー.日本母性衛生学会. 埼玉. 2013.10.5
・安河内静子.古田祐子. 生後 60 日未満の乳児を対象とした沐浴法が実施者に及ぼす影響-疲労度・身体症状・困難性・状態不安について-.日本母性衛生学会. 埼玉. 2013.10.5
・小林絵里子,古田祐子,佐藤香代. 精油を用いたオイルマッサージの末梢血管拡張作用の持続性に関する研究.日本母性衛生学会.埼玉. 2013.10.5
・石村美由紀,古田祐子,佐藤香代. 助産実習における学生のパワーレスとその要因. 日本母性衛生学会.埼玉. 2013.10.4
・田中智美, 古田祐子. 女子大学生の冷え症に関する研究―夏季における皮膚温・月経不順との関連―.日本母性衛生学会.埼玉. 2013.10.4
・古田祐子, 安河内静子. 洗顔法が日齢60日未満の乳児に及ぼす影響―皮膚症状・表皮pH・水分・油分について―.日本看護技術学会. 静岡.2013.9.14.
・安河内静子. 古田祐子. 沐浴法が日齢 60 日未満の乳児に及ぼす影響―体重・深部温・授乳回数・排便回数・睡眠時間について―.日本看護技術学会. 静岡.2013.9.14.

〈座長〉
・一般演題：第一群. 福岡母性衛生学会,2014.7.6.福岡市
・一般演題（ポスター）：子育て支援.日本助産学会,2014.3.22.長崎県

〈査読〉
・第 70 回日本助産師学会　査読者　2014.2～3
・第 29 回日本助産学会学術集会　査読者　2014. 7 ～10
・第 28 回日本助産学会学術集会　査読　2013.7.

〈小冊子作成〉
・古田祐子. 『布ナプキン』.2014.8
・古田祐子. 『知っとお？月経のこと』.2013.12

③過去の主要業績
・古田祐子, 安河内静子. 皮膚トラブルを有する生後 3 ヶ月未満児の表皮 pH・水分量・皮膚温の皮膚洗浄前後の変化.母性衛生 51（2）, 320-328, 2010.
・村田千代子, 古田祐子.『Baby エステ』, 櫂歌書房. 全 124 頁. 2008.
・古田祐子, 分娩介助技術指導において助産師学生に「わかった」と認識させる指導者の言語的教育技法, 『母性衛生』, 45（2）, 2004.

３．外部研究資金

平成 27 年度文部科学省科学研究費助成事業, 科学研究費補助金（基盤（C））, 肌トラブルを有する乳児の皮膚洗浄法に関する研究−S 洗浄法の母子に及ぼす影響− ,5,200,000 円(平成 27 年度交付金 700,000 円), 平成 24 年度～平成 27 年度, 研究代表者.

５．所属学会

日本母性衛生学会 ， 日本助産学会 ， 日本思春期学会 ， 福岡県母性衛生学会（評議員）， 日本看護科学学会，日本看護技術学会，日本看護研究学会

６．担当授業科目

〈学部〉

女性看護学概論・1 単位・2 年・前期，女性看護学・2 単位・2 年・後期， 女性看護学演習Ⅰ・１単位・3 年・前期，女性看護学演習Ⅱ・1 単位・3～4 年・通年，女性看護学実習・2 単位・3～4 年・通年，統合実習・2 単位・4 年・前期，専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年，卒業研究・2 単位・4 年・後期

〈大学院〉

基礎助産学演習・2 単位・１年・通年,助産学特論・２単位・１年・前年，助産学実習Ⅰ・１単位・１年・前期，助産学演習・２単位・１年・後期，助産実践学Ⅲ・２単位・１年・後期，、助産実践学Ⅳ・２単位・１年・後期，、コミュニティ助産学特論・１単位・１年・後期，コミュニティ助産学演習・２単位・１年・後期，助産学実習Ⅱ・８単位・１年・後期，助産学課題研究・４単位・１～２年・通年,臨床看護学特別研究・８単位・1～２年・通年

７．社会貢献活動

・福岡県母性衛生学会評議員
・０歳期からの親子教室企画運営委員.田川市教育委員会. 2015.5～2016.3
・日本助産師評価機構助産実践個人認証評価部評価委員. 2015. 4～2016. 6

８．学外講義・講演

・福岡県看護実習指導者講習会「助産師養成課程」講師，福岡県看護協会. 2015.6.30.福岡市.
・性の健康に関する事業「マンスリービクス　月経のブルーな気分にさようなら」講師. 2015. ７.1.田川市.
・性の健康に関する事業:出前講義「乳がんなんて怖くない！乳がんの体験を通して」講師.シャイニングハート宗像. 2015.8.6.宗像市
・性の健康に関する事業「布ナプキンって？」講師.附属研究所,2015.9.30.田川市
・性教育講演「いのちの誕生」講師. 香春町立勾金中学校，2016.3.7.田川市

９． 附属研究所の活動等

・s

〈企画・運営事業〉

・マンスリービクス. 田川市, 2015.7.1.
・布ナプキンワークショップ. 田川市. 2015. 9. 30.
・不妊に悩む女性のホットスポット. 田川市. 2015. 12. 11.
・女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」（運営メンバー）

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	松枝　美智子

１．教員紹介・主な研究分野

〈学歴〉

久留米大学医学部看護専門学校で看護の基礎教育を受け、佛教大学通信教育部社会福祉学科にて学士（社会福祉学）を取得。兵庫県立大学大学院看護学研究科で修士（看護学）を取得。神戸大学大学院保健学研究科博士後期課程を満期修了退学。

〈職歴と教育業績〉

基礎教育後、久留米大学病院の精神神経科病棟、脳神経外科病棟、放射線科・第４内科病棟にて看護師として勤務。平成７年から５年間、久留米大学医学部看護学科成人・老年看護学講座にて助手として勤務し、主に精神看護学実習を担当。平成 16 年に福岡県立大学看護学部に助教授として着任。看護学部、平成 19 年度からは大学院看護学研究科看護学専攻で研究コースを担当。平成 22 年度からはそれらに加えて専門看護師コース（精神看護学,26 単位）で精神看護学を担当。平成 27 年度に日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程認定委員会の認可を受け、平成 28 年４月より専門看護師コース(精神看護学,38 単位)を開講。地域精神看護又はリエゾン精神看護のサブスペシャリティを持つ精神看護専門看護師の育成と継続的なキャリア形成支援に力を注いでいる。38 単位精神看護専門看護師コースでは、これまで学部での実習教育で経験型実習教育を展開してきた経験をもとに、精神看護専門看護師コースの教育に「経験型実習教育」(安酸,2015)を導入する予定で、現在効果的な教育方法を模索中である。

〈研究活動〉

興味を持っている主な研究の焦点は次のとおりである。

1)精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の開発
2)モジュール型精神障害者社会復帰援助研修プログラムの作成
3)安酸 (2015)が提唱する経験型実習教育の精神看護学実習における展開
4)臨床と専門看護師教育課程の連携による高度実践看護師のキャリア形成支援システムの構築に関する研究

用いている研究法は、研究テーマにより特定の理論に基づかない質的・記述的研究方法、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、文献研究、量的研究方法、混合研究法など。近年は研究疑問に関連する現象を多角的な観点から描き出せる混合研究法に魅力を感じている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

・川野雅資編.(2016).精神看護学.東京；ピラールプレス.
・安酸史子.(2015).経験型実習教育.東京;医学書院(Chapter2 精神看護学の理論と技術、Chapter4 状態像と看護の一部を分担・共同執筆
・川野雅資編.(2015).*精神看護学Ⅱ:臨床精神看護学*.第６版,東京:ヌーヴェルヒロカワ.(第１章の２分担・共同執筆)

〈論文〉

江上史子,松枝美智子,村田節子,松井聡子,永嶋由理子.(2016)A 県における高度実践看護師の雇用ニーズ調査―看護管理者が雇用しない理由とその障壁―.*福岡県立大学看護学研究紀要*,pp. 109-117.

〈学会発表〉

・安藤愛,松枝美智子.(2016). 看護系大学生が就職先を精神科に決定する要因.日本教師学学会第 17 回大会, 奈良県生駒郡.

・松枝美智子,村田節子,江上史子,松井聡子,永嶋由理子.(2015). A 県の医療施設等の看護管理者が高度実践看護師(Advanced Practice Nurse)に提供したいと考えている支援.第 41 回日本看護研究学会学術集会,広島市.
・松枝美智子,渡邉智子,江上史子,村田節子,永嶋由理子.(2015). A 県の医療機関等の看護管理者が APN を雇用したい理由.第 46 回（平成 27 年度）第 35 回日本看護学会学術集会:看護管理,福岡市.
・松枝美智子,松井聡子,江上史子,渡邉智子,村田節子,永嶋由理子. A 県内医療機関等の看護管理者による APN 教育のあり方に関する要望.日本看護科学学会学術集会,広島市.
・江上史子,松枝美智子,村田節子,松井聡子,永嶋由理子.(2015). A 県の医療機関等に所属する看護管理者の高度実践看護師に対する雇用ニーズ：雇用しない理由. 第 46 回（平成 27 年度）第 35 回日本看護学会学術集会:看護管理,福岡市.
・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う事と教授-学習活動との関連 第 34 回日本看護科学学会学術集会,名古屋市.
・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から看護したいと思うことに関連する要素.第 34 回日本看護科学学会学術集会,名古屋市.
・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う程度とその理由.第 34 回日本看護科学学会学術集会,名古屋市.
・池田智,松枝美智子.(2014).大学病院に勤務する新卒看護師の Sense of Coherence と職業性ストレス・精神健康度の関連.*産業精神保健*,22, 72.
・江上史子，安酸史子，渡邉智子，楾直美，吉田恭子，浅井初，坂田志保路，松枝美智子，清水夏子，小森直美，小野美穂，中野榮子．経験型実習教育における学生の学びの内容（第2報）－3 年生を対象としたフォーカスグループインタビューから－．日本教師学学会第 15 回大会，2014 年 3 月.
・江上史子，浅井初，坂田志保路，安酸史子，渡邉智子，小森直美，松枝美智子，安永薫梨，中野榮子，楾直美，吉田恭子，清水夏子，小野美穂．経験型実習教育における学生の学びの内容－3 年生を対象としたフォーカスグループインタビューから－．日本教師学学会第 14 回大会，2013 年 3 月.
・浅井初，江上史子，坂田志保路，安酸史子，渡邉智子，松枝美智子，安永薫梨，中野榮子，楾直美，吉田恭子，清水夏子，小森直美，小野美穂．経験型実習教育におけるプロジェクト学習の有効性の検討－実習の中間にポートフォリオを活用した学習による体験から－．日本教師学学会第 14 回大会，2013 年 3 月.
・松枝美智子,安酸史子,安永薫梨,浅井初,坂田志保路，中野榮子,渡邉智,楾直美,吉田恭子,江上史子,清水夏子,小森直美,小野美穂．経験型実習教育研修プログラムの効果：研修参加の有無による精神科看護師の教師効力の比較.日本教師学学会第 14 回自由研究発表,秋田市,2013 年 3 月.

②その他の最近の業績

・安酸史子,中野榮子,楾直美,小森直美,松枝美智子,渡邉智子,小野美穂,安永薫梨,浅井初,江上史子,清水夏子,吉田恭子,坂田志保路.(2013).経験型実習教育の研修プログラムの有効性に関する研究.*平成 21 年~平成 24 年度科学研究費補助金,基盤研究(B)研究成果報告書*(研究代表者:安酸史子,課題番号 21390571)
・安酸史子企画・著作,安酸史子,松枝美智子監,安酸史子,松枝美智子,安永薫梨,浅井初,坂田志保路.(2013).経験型実習教育の研修プログラム:ビデオ教材(精神看護学編). 平成 21 年~平成 24 年度科学研究費補助金,基盤研究(B) (研究代表者:安酸史子,課題番号 21390571)
・安酸史子企画・著作,安酸史子,中野榮子監,安酸史子,中野榮子,小野美穂,清水夏子,松枝美智子.経験型実習教育の研修プログラム:ビデオ教材(成人看護学編). 平成 21 年~平成 24 年度科学研究費補助金,基盤研究(B) (研究代表者:安酸史子,課題番号 21390571)

③過去の主要業績

・松枝美智子, 坂田志保路, 安永薫梨, 浅井初, 梶原由紀子, 北川明, 中野榮子, 安酸史子, 安田妙子, 政時和美, 松井聡子.(2011).精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の検討：因子分析と信頼性の検証.*福岡県立大学看護学研究紀要*,9,(1),1-10.

・松枝美智子,安永薫梨,安田妙子,大見由紀子.(2008).精神看護実習で学生の患者ケアへの内発的動機づけが高まる要因.*福岡県立大学看護学研究紀要*,5(2),66-79.

・松枝美智子.(2005).精神科超長期入院患者の社会復帰援助が成功するシステム上の要因　日本版治療共同体の実践の分析から.*福岡県立大学看護学部紀要*,2(2),80-91.

５．所属学会

日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本家族看護学会、日本 CNS 看護学会、日本集団精神療法学会、日本老年看護学会、日本看護学会、日本精神科看護学会、日本認知療法学会

６．担当授業科目

〈学部〉

精神看護学概論・2 単位・2 年・前期、精神看護学・2 単位・2 年・後期，精神看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年前期、精神看護学実習・2 単位・3 年後期~4 年前期，専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年，統合実習・2 単位・通年，卒業研究・2 単位・4 年・後期

※平成 28 年度からは、平成 28 年度からは精神看護学概論、専門看護学ゼミ、卒業研究、統合実習を担当。

〈大学院〉

精神看護学特論・2 単位・1 年・前期、精神看護学演習・2 単位・1 年・後期、精神看護対象論・1 年・前期・2 単位，精神看護援助論・4 単位・1 年・通年，精神看護セラピー・4 単位・1 年・通年，精神看護関連法規・制度政策論・2 単位・通年，精神看護直接ケア実習Ⅰ・1 年・通年・2 単位，精神看護専門看護師役割実習Ⅰ・2 単位・1 年・通年，精神看護直接ケア実習Ⅱ・2 単位・2 年・通年，精神看護専門看護師役割実習Ⅱ・4 単位・2 年・通年，臨床看護学特別研究 8 単位・1-2 年・通年，課題研究・4 単位・1－2 年・通年

※平成 28 年度からは、精神看護専門看護師コース(38 単位)の新カリキュラムの科目に変更。詳細は大学院の科目概要をご参照ください。

７．社会貢献活動

・平成 27 年度日本看護学会誌(精神看護)の論文選考委員

・第 4 回精神看護ディスコース研究会誌の査読委員

９．附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員.

・大学院看護学研究科,松枝美智子,安永薫梨,宮﨑初,坂田志保路,安藤愛.福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻臨床看護学領域精神看護学分野夏季セミナー(講師：九州大学講師　青本さとみ先生、福岡大学助教　池田智先生、見立病院事業本部課長　熊本勝治先生、一本松すずかけ病院精神看護専門看護師　山本智之先生、当大学准教授　松枝美智子)と第１回精神看護事例検討会：事例提供:一本松すずかけ病院看護師　矢治亜希子様).2015.9.19.

・大学院看護学研究科,松枝美智子,安永薫梨,宮﨑初,坂田志保路,安藤愛,大学院看護学研究科.大学院公開授業(特別研究、課題研究)：グラウンデッド・セオリー・アプローチの理論と実際(講師：慶應義塾大学教授　戈木クレイグヒル滋子先生).2016.3.4.

・大学院看護学研究科,松枝美智子,安永薫梨,宮﨑初,坂田志保路,安藤愛. 福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻臨床看護学領域第２回精神看護事例検討会(事例提供:福岡県立精神医療センター太宰府病院副看護師長　市原明徳様).2016.3.19.

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	宮園　真美

１．教員紹介・主な研究分野

平成 26 年度より当大学に就任した。主な研究テーマは，地域療養者の QOL 向上とソーシャルサポート活用，温熱刺激を活用した看護介入，がん看護研究である。がんプロフェッショナル養成に関わる教育にも携わっている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・A Nationwide Cross-Sectional Study on Congenital Heart Diseases and Symptoms of Sleep-disordered Breathing among Japanese Down's Syndrome People, Hiroyuki Sawatari, Akiko Chishaki, Mari Nishizaka, Fumio Matsuoka, Chikara Yoshimura,　Hiromi Kuroda, Anita Rahmawati,　Nobuko Hashiguchi, Mami Miyazono, Junji Ono, Tomoko Ohkusa, Shin-ichi Ando, Internal Medicine vol.54 pp. 1003-1008 May2015

・Influence of primary and secondary prevention indications on anxiety about the implantable cardioverter-defibrillator, Anita Rahmawati, Akiko Chishaki, Tomoko Ohkusa, Hiroyuki Sawatari, Miyuki Tsuchihashi-Makaya,, Yuko Ohtsuka, Mori Nakai, Mami Miyazono, Nobuko Hashiguchi, Harumizu Sakurada, Masao Takemoto, Yasushi Mukai,Shujirou Inoue, Kenji Sunagawa, Hiroaki Chishaki, Journal of Arrhythmia Accepted 5 October 2015

・Health-related quality of life in patients with lower rectal cancer after sphincter-saving surgery: a prospective 6-month follow-up study, Y. KINOSHITA, K.M. NOKES, R. KAWAMOTO, M. KANAOKA, M. MIYAZONO, H. NAKAO, A.CHISHAKI, R. MIBU, European Journal of Cancer Care, Accepted 14 October 2015

・病院から地域へのシームレスなケア構築を目指して 植込み型除細動器患者の現状とメンタルケアの必要性，宮園真美，Nursing Business，2014 年 5 月号

・Gender Disparities in Quality of Life and Psychological Disturbance in Patients With Implantable Cardioverter-Defibrillators，Anita Rahmawani, Akiko Suyama Chishaki, Hiroyuki Sawatari, Miyuki Tsushihashi-Makaya, Yuko Ohtsuka, Mori Nakai, Mami miyazono, Nobuko Hashiguchi, Harumizu Sakurada, Masao Takemoto, Yasushi Mukai, Inoue Shujiro, Kenji Sunagawa, Hiroyuki ChishakiCirculation Journal Vol.77,No5, 2013.6.22

・循環器ナースのための！ガイドライン読解塾～ガイドラインを理解し，看護支援に活かす～心臓突然死の予知と予防法のガイドライン，宮園真美，Heart，2013 年 2 月

・下部直腸がんに対し内肛門括約筋部分切除を受けた後の Quality of Life の変化が顕著であった対象の事例研究，木下由美子，川本利恵子，樗木晶子，宮園真美，金岡麻希，富岡明子，孫田千恵，潮みゆき，中尾久子，壬生隆一，インターナショナル Nursing Care Research 第 12 巻　第 4 号，2013 年

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・自宅で生活を送るがんサバイバーが感じる情緒的支援と，対処行動・心理的適応との関連，西坂恵子，村田節子，宮園真美，第 30 回日本がん看護学会学術集会，2016.2.20

・経口抗がん剤治療中の大腸がん患者における服薬アドヒアランスとセルフケア能力の関連,永松有紀，鍋島直美，中山善文，皆川紀剛，菊田志保，篠原義剛，豊福佳代，宮園真美，佐藤実，樗木晶子，第 30 回日本がん看護学会学術集会, 2016.2.20

・胃切除後 2 週間のセルフケア能力と身体的・心理的状態の実態調査，豊福佳代，永松有紀，宮園真美，樗木晶子，第 30 回日本がん看護学会学術集会，2016.2.20

・婦人科疾患開腹術後のイレウス予防看護の取り組み，柳亜依香，宮園真美，山口貞子，江田桂子，古賀幸代，秋野照美，藤原真希，下村実奈代，藤田みのり，矢幡秀昭 小倉香奈恵，第30回日本がん看護学会学術集会,2016.2.20
・植込型除細動器患者の QOL 向上をめざした精神的ケアの構築，樗木晶子（代　宮園真美）,【ファイザーヘルスリサーチ振興財団】第22回 HRF,2015.11.28
・大学病院女性看護師の健康意識行動と東洋医学的未病の関係，金岡麻希，木下由美子，宮園真美，孫田千恵，澤渡浩之，濱田正美，中畑高子，樗木晶子，第35回看護科学学会，2015.5.3
・地域で語り合うがんとの向き合い方　～キャンサー・ナーシング・カフェの取り組み～,村田節子，宮園真美，政時和美，植木昭代，　2015.10.10
・地域でがんについて語り合う「キャンサー・ナーシング・カフェ」の取り組み　～医療者側スタッフの意識調査～，宮園真美，村田節子，政時和美，植木昭代，2015.10.10
・がん患者の「自己概念の“ゆらぎ”」の概念分析，谷川このみ，宮園真美，日本看護研究学会第41回学術集会，　2015.8.22-23
・がんサバイバーの情緒的支援と対処行動，心理的適応に関する文献的考察，西坂恵子，村田節子，宮園真美，日本看護研究学会第41回学術集会，2015.8.22-23
・大学病院に勤務する看護師の漢方医学への関心と認識に関する実態調査，金岡麻希，佐々木圭子，木下由美子，伊豆倉理江子，大草知子，中畑高子，濱田正美，宮園真美，田原英一，矢野博美，井上博喜，宮田潤子，貝沼茂三郎，樗木晶子，第66回日本東洋医学会, 2015.6.12-14
・人工膝関節置換術後の積極的肢位調整と排液量の関係 -トラネキサム酸使用，ドレーン留置本数の影響を考慮して-，高橋公一，秋永和之，松田美由紀，宮園真美 ，第15回日本運動器看護学会, 2015.6.6
・人工膝関節置換術後の肢位調整とドレーン排液量・腫脹との関連，秋永和之，高橋公一，松田美由紀，宮園真美，第15回日本運動器看護学会, 2015.6.6
・脚部サウナ継続使用が高齢女性の血管内皮機能，寒冷感および睡眠状態へ及ぼす影響：宮園真美，澤渡浩之，小野淳二，橋口暢子，孫秀英，三上聡美，孫田千恵，豊福佳代，山崎啓子伊豆倉理恵子，大草知子，栃原裕，樗木晶子，第2回看護理工学会，2014
・下肢加温療法は睡眠呼吸障害を合併した慢性心不全患者の心機能を改善する：澤渡浩之，細川和也，宮園真美，西坂麻里，安藤眞一，竹本真生，井上修二朗，坂本隆史，アニタ・ラハマワティ，橋口暢子，樗木浩朗，大草知子，砂川賢二，樗木晶子，循環器制御学会，2013
・睡眠呼吸障害を合併した慢性心不全患者における下肢加温療法による睡眠改善が及ぼす心機能への効果：澤渡浩之，細川和也，宮園真美，西坂麻里，安藤眞一，竹本真生，井上修二朗，坂本隆史，アニタ・ラハマワティ，橋口暢子，樗木浩朗，大草知子，砂川賢二，樗木晶子，ホルター・ノンインベンシブ心電学研究会，2013
・Leg Thermal Therapy Improved Cardiac Function in the Patients with　Heart Failure and Sleep Disordered Breathing—Novel Analysis of polysomnography-:澤渡浩之，細川和也，　宮園真美，西坂麻里，安藤眞一，竹本真生，井上修二朗，坂本隆史，アニタ・ラハマワティ，橋口暢子，樗木浩朗，大草知子，砂川賢二，樗木晶子，第 78 回日本循環器学会学術集会，2013
・植込み型除細動器(ICD)治療が及ぼす気分障害および心的外傷後ストレス障害(PTSD)における性差：宮園真美，眞茅みゆき，樗木晶子，アニタラハマワティ，澤渡浩之，石川勝彦，宮島健，大塚祐子，仲井盛，櫻田春水，第7回日本性差医学・医療学会学術集会，2013
・ダウン症者における睡眠呼吸障害の実態とその発生要因に関する全国調査：小野淳二，黒田裕美，澤渡浩之，宮園真美，橋口暢子，西坂麻里，安藤眞一，樗木晶子，日本看護科学学会，2013
・脚部サウナ使用時の 高齢者の生理・心理反応：宮園真美，澤渡浩之，小野淳二，橋口暢子，前野有佳里，木下由美子，金岡麻希，梶原弘平，潮みゆき，孫田千恵，中尾久子，樗木晶子，日本看護科学学会，2013

・慢性心不全患者における下肢加温療法による不眠の改善：澤渡浩之，宮園真美，西坂麻里，竹本真生，井上修二朗，坂本隆，安藤眞一，アニタ・ラハマワティ，橋口暢子，樗木浩朗，砂川賢二，樗木晶子，第 70 回日本循環器心身医学会総会，2013
・心不全患者における遠赤外線下肢加温療法の血行動態および血管内皮機能への効果：澤渡浩之，宮園真美，橋口暢子，樗木晶子，第 1 回日本看護理工学会，2013
・脚部サウナによる若年者と高齢者の生理心理反応：宮園真美，第 1 回日本看護理工学会，2013
・夏季および冬季室内における高齢者の生理・心理反応に及ぼす除湿・加湿の影響 ：橋口暢子 宮園真美，澤渡浩之，樗木晶子，第 1 回日本看護理工学会，2013
・心疾患を有するダウン症者における眠気と身体的特性に関する検討：小野淳二，澤渡浩之，黒田裕美，宮園真美，橋口暢子，安藤真一，樗木晶子，第 10 回日本循環器看護学会　学術集会，2013
・Leg Thermal Therapy Improved Sleep Structure in Patients with Congestive Heart Disease, Hiroyuki Sawatari, Mami Miyazono, Shin-ichi Ando, Mari Nishizaka, Nobuko Hashiguchi, Anita Rahmawati, Shujiro Inoue, Masao Takemoto, Takafumi Sakamoto, Hiroaki Chishaki, Kenji Sunagawa, Akiko Chishaki., 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society，2013
・A Small Device for Topical Leg Warming Improved Vascular Endothelial Function in Patients with Chorionic Heart Failure without Any Harmful Hemodynamic Changes : Hiroyuki Sawatari, Mami Miyazono, Shin-ichi Ando, Mari Nishizaka, Nobuko Hashiguchi, Anita Rahmawati, Shujiro Inoue, Masao Takemoto, Takafumi Sakamoto, Hiroyuki Tsutsui, Daisuke Goto, Tomoo Furumoto, Shintaro Kinugawa, Hiroaki Chishaki, Kenji Sunagawa, Akiko Chishaki., 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society，2013
・Cross-sectional general survey on the relationship between congenital heart diseases and sleep disordered breathing in patients with Down syndrome，Hiroyuki Sawatari, Akiko Chishaki, Mari Nishizaka, Fumio Matsuoka, Hiromi Kuroda, Nobuko Hashiguchi, Anita Rahmawati, Junji Ono, Mami Miyazono, Shin-ichi Ando., European Society of Cardiology Congress，2013
・The abnormal sleep postures that are frequently observed in people with Down syndrome indicated high prevalence of the sleep disordered breathing in Japanese cross-sectional studies，Hiroyuki Sawatari, Akiko Chishaki, Hiromi Kuroda, Fumio Matsuoka, Anita Rahmawati, Junji Ono, Nobuko Hashiguchi, Mami Miyazono, Mari Nishizaka, Shin-ichi Ando，SLEEP 2013
・Leg thermal therapy improved sleep structure and subjective sleep quality in chronic heart failure : Hiroyuki Sawatari, Mami Miyazono, Mari Nishizaka, Shin-ichi Ando, Kenji Sunagawa, Akiko Chishaki，5th World Congress on Sleep Medicine，2013
・下肢加温療法は，慢性心不全患者の睡眠を改善する：澤渡浩之，宮園真美，竹本真生，井上修二朗，坂本隆史，西坂麻里，アニタ・ラハマワティ，橋口暢子，安藤眞一，樗木浩朗，砂川賢　二，樗木晶子，日本睡眠学会第 38 回定期学術集会，2013
・Leg thermal therapy improves sleep quality with amelioration of vascular endothelial function in patients with chronic heart failure : Hiroyuki Sawatari, Mami Miyazono, Nobuko Hashiguchi, Anita Rahmawati, Shujiro Inoue, Masao Takemoto, Mari Nishizaka, Tomomi Ide, Shin-ichi Ando, Hiroaki Chishaki, Kenji Sunagawa, Akiko Chishaki，第 77 回日本循環器学会学術集会，2013
・The first national survey of the relationship between sleep disordered breathing and heart diseases in Down syndrome，Hiroyuki Sawatari, Akiko Chishaki, Hiromi Kuroda,

Fumio Matsuoka， Anita Rahmawati， Junji Ono， Nobuko Hashiguchi， Mami Miyazono， Mari Nishizaka， Shin-ichi Ando，第 77 回日本循環器学会学術集会，2013
・ICD 患者の QOL と患者属性との関係：宮園真美，澤渡浩之，橋口暢子，アニタ・ラハマワティ，石川勝彦，竹本真生，向井靖，井上修二朗，砂川賢二，眞茅みゆき，大塚祐子，櫻田春水，仲井盛，樗木浩朗，樗木晶子，第 77 回日本循環器学会学術集会，2013

③過去の主要業績
・サウナによる生理・心理反応と看護への応用，九州大学（博士論文）2011
・頸部下ドーム型サウナ使用時の生理・心理反応，人間と生活環境， 17 巻 1 号，31-37，2010
・頸部下ドーム型サウナ使用時の高齢者の生理・心理反応，日本循環器看護学会誌，5 巻 1 号，43-51，2009

３．外部研究資金
研究責任者
慢性疼痛トリガーポイントへの温熱療法を活用した寝たきり防止看護プログラムの構築，文部科学省学研究費補助金（基盤 C），2015 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日
研究分担者
・生活習慣病を有する高齢者における皮膚温度感受性評価と看護ケア開発，文部科学省学研究費補助金（基盤 B），2013 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日，寄託者：橋口暢子
・集学的治療を受ける直腸がん患者の外来における看護支援モデルの構築，文部科学省学研究費補助金（基盤 C），2015 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日，寄託者，木下由美子
・ソーシャルサポートによる喉頭摘出者の心理的・社会的適応の経時的変化と介入効果検証，文部科学省学研究費補助金（基盤 B），2012 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日，寄託者：
・市町村保健師の処遇困難事例への支援技術教育プログラムの開発 文部科学省学研究費補助金（基盤 C），2015 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日，寄託者，前野有佳里
・睡眠を核とする生活習慣病の予防と改善に向けたヘルスプロモーションの為の基盤構築，文部科学省学研究費補助金(基盤 B)，2015 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日， 寄託者：樗木晶子
・入院患者における睡眠呼吸障害の症状を考慮した転倒リスク評価指標の開発，文部科学省学研究費補助金（挑戦的萌芽），2014 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日，寄託者：樗木晶子
・がん患者の意思決定を支える看護者の役割と倫理教育，文部科学省学研究費補助金（基盤 C），2013 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

５．所属学会
日本看護学教育学会，日本看護研究学会，日本看護科学学会，日本循環器病予防学会，日本循環器学会，日本循環器看護学会，日本生理人類学会，人間-生活環境系学会，STTI：Sigma Theta Tau International，日本精神保健看護学会，日本応用心理学会，日本運動器看護学会，日本性差学会

６．担当授業科目
〈学部〉
成人慢性期看護論・2 単位・2 年・後期，成人看護実践論・1 単位・3 年・通年，成人看護実習・4 単位・3 年・通年，統合実習・2 単位・4 年・通年，専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期，卒業研究・2 単位・4 年・後期.
〈大学院〉
成人看護学特論・1 年・通年，成人看護学演習・1 年・通年，がん看護学実習 I・4 単位・2 年・前期，がん看護学実習 II・2 単位・２年・前期，課題研究・4 単位・１−2 年・通年，臨床看護学特別研究・8 単位・2 年・通年

７．社会貢献

・第 2 回キャンサー・ナーシング・カフェ企画，開催（2016.3.5）
・九州大学病院看護研究指導
（人工関節術後看護，ステロイド療法中小児看護，婦人科術後イレウスについて）
・福岡県立大学がん看護勉強会（1 回/2 か月 福岡県立大学内）

８．学外講義・講演

・福岡県看護協会主催「教員養成講習会」外部講師
・九州大学病院における現任教育：臨床指導者講習会　講師
・関門医療センター看護師教育（看護研究）

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	渡邉　智子

１．教員紹介・主な研究分野

筑豊地域に住んで、皆さんや学生と出逢い，10 年経ちました。住民の皆さんが住み慣れた場で健康な暮らしを送れるよう支えるために、その場に住んで、住民の皆さんの暮らしぶりや価値観を理解することから始めました。Respect という Key 概念に出逢い、身体の動きが、暮らしぶりや価値観に影響していることを実感しています。行き着いた関心は、認知症があっても高齢者が健康な暮らしを送る上での支障となる不定愁訴を自ら管理する方法についてです。まず、高齢者が身体の動きをよくするための評価・介入する方法として、M-Test（身体の動きに伴って引き起こされる様々な症状を指標にして診断および治療を行うメソッド）の有用性を検討しています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

安酸史子，北川明，江上千代美，江上史子，奥祥子，小野美穂，金城やす子，小森直美，清水 夏子，田中美延里，塚原ひとみ，坪井桂子，中嶋恵美子，中富利香，二井矢清香，原田奈穂子，　伴佳子，松枝美智子，宮野香里，安永薫梨，山住康恵，吉田恭子，渡邉智子．経験型実習教育- 看護師をはぐくむ理論と実践．東京：医学書院，2015 年.

〈論文〉

吉本照子，茂野香おる，渡邉智子，八島妙子，井上映子，杉田由加里，酒井郁子（2013）．介護老人保健施設における看護職、介護職、リハビリテーション職、および支援相談員の在宅支援行動，日本老年看護学会誌　18（1），45-55.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・江上史子，浅井初，坂田志保路，安酸史子，渡邉智子，小森直美，松枝美智子，安永 薫梨，中野榮子，楾直美，吉田恭子，清水夏子，小野美穂．（2013）．経験型実習教育における学生の学びの内容－3 年生を対象としたフォーカスグループインタビューから－，日本教師学学会第 14 回大会，秋田.

・浅井初，江上史子，坂田志保路，安酸史子，渡邉智子，松枝美智子，安永 薫梨，中野榮子，楾直美，吉田恭子，清水夏子，小森直美，小野美穂．（2013）．経験型実習教育におけるプロジェクト学習の有効性の検討－実習の中間にポートフォリオを活用した学習による体験から－，日本教師学学会第 14 回大会，秋田.

・坂田志保路，浅井初，江上史子，安酸史子，渡邉智子，小森直美，松枝美智子，安永 薫梨，中野榮子，楾直美，吉田恭子，清水夏子，小野美穂．（2013）．経験型実習教育の有効性の検討―4 年生の看護学生を対象としたフォーカスグループインタビューから―，日本教師学学会第 14 回大会，秋田.

・廣瀬理絵，伊福セツ子，渡邉智子．（2013）．がん看護専門看護師のコーディネーション～チーム医療の実践内容からの分析～，日本看護倫理学会第 6 回年次大会，鹿児島.

・吉本照子，杉田由加里，八島妙子，茂野香おる，渡邉智子．（2013）．介護老人保健施設の在宅支援に対する利用者の家族介護者による評価，第 17 回日本地域看護学会学術集会，徳島.

・渡邉智子, 吉田恭子．（2014）．老年看護学教育における経験型実習教育ツールの検討　臨床実習指導者のイメージ・マップを用いた臨床実習指導経験, 第 24 回日本看護学教育学会学術集会, 千葉.

・松枝美智子, 松井聡子, 江上史子, 渡邉智子, 村田節子, 永嶋由理子．（2015）．A 県内医療機関等の看護管理者による APN 教育のあり方に関する要望, 第 35 回日本看護科学学会学術集会, 広島.

・江上史子，松枝美智子，渡邉智子，村田節子，永嶋由理子．(2015)．APN の雇用ニーズ調査：看護管 理者が雇用しない理由，第 46 回日本看護学会-看護管理-学術集会，福岡.

・WatanabeTomoko,EgamiFumiko.(2015).The factors of continuing the volunteer activity that nursing undergraduates valued dialogue between elderly people，ICCHNR 国際地域看護学会，ソウル.

〈シンポジウム〉

渡邉智子.（2013）.「地域で支え合うために私たちができること　専門職と地域（インフォーマルサービス）との連携について考えようー学生ボランティア花満会活動の取組．福岡県介護支援専門員協会筑豊ブロック　筑豊地域ケアネットワーク研究協議会，直方市・飯塚市後援，1 月 27 日.

〈資格〉

End-of-Life Nursing Education Consortium Trainer【ELNEC‐G179】2013 年 8 月.

③過去の主要業績

・渡邉智子.　（2001）．痴呆症高齢者ケアの場における判断の構造．兵庫県立看護大学大学院修士論文.

・渡邉智子.（2001）．中西睦子監修，水谷信子編著「老人看護学」（担当箇所「閉じ困りがちな高齢者」，62-71．建帛社

・渡邉智子，八島妙子，茂野香おる，井上映子，杉田由加里，酒井郁子，吉本照子.（2006）．介護老人保健施設での看護・介護職者が有する倫理的ジレンマー高齢者の生活リズムに調整に関してー，第 36 回日本看護学会論文集―看護管理―，p392-p394.

・渡邉智子.（2010）．中西睦子監修，安酸史子編著「実践成人看護学―慢性期」（担当箇所「第 3 部Ⅴ肝硬変―希望を持って生きるための支援」，143-154．建帛社.

３．外部研究資金

文部省科学研究費　挑戦的萌芽研究　高齢者の身体活動量維持のための M-Test を用いたセルフマネジメントに関する研究　3,640,000 円　H27.4 –H29.3.

５．所属学会

日本老年看護学会，日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本教師学学会，日本地域看護学会　各会員

６．担当授業科目

〈学部〉

老年看護学実習Ⅰ・１単位・２年・通年，老年看護学概論・１単位・２年・前期，老年看護学・２単位・２年・後期，老年看護学演習Ⅱ・１単位・３年・通年，老年看護学実習Ⅱ・３単位・３年・通年，専門看護学ゼミ・２単位・３年・通年，老年看護学演習Ⅰ・１単位・３年・前期，看護研究・２単位・３年・後期，統合実習・２単位・４年・前期，卒業研究・２単位・４年・後期

〈大学院〉

課題研究・４単位・修士 1 年・通年，老年看護学特論・2 単位・修士 1 年・前期，老年看護学演習・2 単位・修士 1 年・前期，高齢者健康生活アセスメント論・2 単位・修士 1 年・前期，老年病診断治療学・１単位・修士 1 年・前期，老年病診断治療学演習・１単位・修士 1 年・前期，高齢者看護方法論・2 単位・修士 1 年・前期，Ad フィジカルアセスメント・2 単位・修士 1 年・後期，高齢者地域・家族看護方法論・1 単位・修士 1 年・後期，高齢者保健医療福祉政策・ケアシステム論・2 単位・修士 1 年・後期，終末期高齢者看護論・2 単位・修士 1 年・後期，終末期老年看護実習Ⅰ・2 単位・修士 1 年・後期，終末期老年看護実習Ⅱ・3 単位・修士 1 年・後期，　臨床看護学特別研究・８単位・修士２年・通年

７．社会貢献活動

・老人クラブ・花満会：高齢者関係地域活動（神幸祭、高齢者宅訪問）、筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」アドバイザー、福岡ヘルシー・エイジングケア研究会：企画・準備・開催
・田川市地域支え合い体制づくり会議委員　見守り部会担当
・田川市男女共同参画審議会委員

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践教育センター研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	石村　美由紀

１．教員紹介・主な研究分野

特に不妊支援、妊婦教育、助産教育に関する研究に取り組んでいる。不妊支援においては、不妊専門相談センターのあり方に関する研究を行うとともに、不妊当事者のおしゃべり会開催や行政の不育症相談員として活動している。妊婦教育においては、身体感覚活性化マザークラスの企画・運営に携わり、その効果を広く報告している。助産師教育においては、助産学実習における学生のパワーレスに関する研究や、分娩介助技術習得過程に関する研究を行っている。また小中高校生対象の性教育も積極的に行っている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・石村美由紀．（2014）．不妊専門相談センター活動における職種間連携と看護職への期待－看護職の立場から－．日本生殖看護学会誌 11（1），73-77.

・石村美由紀，古田祐子，佐藤香代．（2015）．助産実習における学生のパワーレス状態に関する研究―その要因と回復の促進―．福岡県立大学看護学部紀要 12（1），13-23.

・石村美由紀，佐藤香代，吉田静，林千絵，清田哲子．（2016）．死産を体験した母親の次子の妊娠・出産・育児に関する研究（第 1 報）－次子妊娠の体験の語りから－．母性衛生 56（4），692-700.

・石村美由紀，古田祐子，佐藤香代，鳥越郁代．（2016）．学士課程における助産実践能力（分娩介助技術および健康教育）の到達状況と課題．福岡県立大学看護学部紀要 13（1），

②その他最近の業績

・石村美由紀．（2013）「不妊専門相談センター活動における職種間連携と看護職への期待」―看護職の立場から―．日本生殖看護学会学術集会，シンポジスト．京都．2013.9.

・石村美由紀，古田祐子，佐藤香代．（2013）．助産実習における学生のパワーレスとその要因．第 54 回日本母性衛生学会学術集会，埼玉．2013.10.

・吉田静，佐藤香代，松岡百子，安河内静子，鳥越郁代，石村美由紀，小林絵里子．（2013）．「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の気功体験．第 54 回日本母性衛生学会学術集会，埼玉．2013.10.

・石村美由紀，佐藤香代，小林絵里子．（2014）．看護学生のマザークラス企画による学び－身体感覚活性化マザークラスのレッスン企画を通して－．第 55 回日本母性衛生学会学術集会，千葉．2014.9.

・石村美由紀，古田祐子，佐藤香代．（2014）．助産実習における学生のパワーレス状態からの回復に必要な要因．第 55 回日本母性衛生学会学術集会，千葉．2014.9.

・林千絵，石村美由紀，佐藤香代，吉田静，清田哲子．（2014）．死産を体験した母親の次子妊娠の体験．第 55 回日本母性衛生学会学術集会，千葉．2014.9.

・林千絵，石村美由紀，佐藤香代，吉田静，清田哲子．（2014）．死産を体験した母親の次子出産・育児の体験．第 55 回日本母性衛生学会学術集会，千葉．2014.9.

・石村美由紀，佐藤香代，佐藤繭子，道園亜希．（2015）．身体感覚活性化マザークラス（世にも珍しいマザークラス）に参加した妊婦の変化－バースプランの分析から－．第 24 回福岡母性衛生学会学術集会，福岡．2015.7.

・石村美由紀，古田祐子，佐藤香代．（2015）．学士課程における分娩介助技術習得の分析－9 年間の分娩介助技術到達度調査から－．第 11 回 ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会，横浜．2015.7.

・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，石村美由紀，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子．（2015）．「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性たちの食生活．第 56 回日本母性衛生学会学術集会，岩手．2015.10.

・石村美由紀，佐藤香代，小林絵里子，吉田静，鳥越郁代．（2016）．身体感覚活性化マザークラスに参加した妊婦のバースプランおよび出産体験．第 30 回日本助産学会学実集会，京都，2016.3.
・小林絵里子，佐藤香代，吉田静，鳥越郁代，石村美由紀．（2016）．中国における大学生の食文化‐中国の文化・教育と食の実態との関連‐．第 30 回日本助産学会学実集会, 京都, 2016.3.

③過去の主要業績

・鳥越郁代，藤木久美子，古田祐子，佐藤繭子，安河内静子，吉田静，小林絵里子，佐藤香代，石村美由紀．（2012）．助産師学生の分娩期助産過程の到達状況に関する一考察．福岡県立大学看護学部紀要 9（2），53-61.
・石村美由紀．（2011）．不妊専門相談センターの役割の実態－不妊当事者の認知と利用－．母性衛生 52（2）．319-326.
・石村美由紀，浅野美智留，佐藤香代．（2009）．不妊女性における苦悩とその克服－女性の語りから考察する－．母性衛生 49(4)，592‐601.
・石村美由紀，佐藤香代，安河内静子，吉田静，森純子．（2009）．第 3 回「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」医療者向けセミナーの企画・開催に関する一考察．福岡県立大学看護学部紀要.
・石村美由紀．（2009）．不妊支援を目的とした「子どもの有無を越えた共感型フォーラム」の試みと意義．こころの健康，24(2)，68-74.
・石村美由紀，古田祐子，佐藤香代．（2009）．分娩介助技術の習得過程－本学での分娩介助技術評価調査より－．福岡県立大学看護学研究紀要，7(1)，18‐28.

５．所属学会

日本母性衛生学会，日本助産学会，日本不妊カウンセリング学会，日本精神衛生学会，日本生殖看護学会，日本思春期学会，日本看護科学学会ほか

６．担当授業科目

〈学部〉

女性看護学(2)・2 年後期，女性看護学演習Ⅰ(1)・3 年前期，女性看護学演習Ⅱ(1)・3 年前期～4 年後期，女性看護学実習(2)・3 年後期～4 年前期，専門看護ゼミ(2)・3 年通年，卒業研究(2)・4 年通年，統合実習(2)・4 年前期，

〈大学院〉

助産学特論(2)・1 年前期，助産学演習(2)・1 年後期，ウイメンズヘルス特論(1)・1 年前期，ウイメンズヘルス演習(1)・1 年後期，基礎助産学特論(2)・1 年前期，基礎助産学演習(2)・1 年通年，助産実践学Ⅰ(2)・1 年前期，助産実践学Ⅱ(4)・1 年通年，助産学実習Ⅰ(1)・1 年前期，助産学実習Ⅱ(8)・1 年生後期，助産学実習Ⅲ(2)・2 年生前期，助産学実習Ⅳ(1)・2 年生前期，助産学実習Ⅴ(2)・2 年生後期，助産実践アドバンス特論(1)・1 年生後期，助産実践アドバンス実習(4)・2 年生前期

７．社会貢献活動

・北九州市不妊専門相談センター　不育症相談担当
・福岡県助産師会　相談業務

８．学外講義・講演

・性教育「大切なあなたの性‐“こころ”と“からだ”を正しく知ろう－」．香春町立香春中学校 1 年生．（2015.7）
・性教育「いのちの誕生－大切なあなた－」．下関市立内日小学校．（2015.10）
・性教育「大切なあなたの性‐“こころ”と“からだ”を正しく知ろう－」．福岡市立多々良中学校 2 年生．（2015.11）

・性教育「大切なあなたの命と性 - “こころ”と“からだ”を正しく知ろうー」．福岡県立鞍手竜徳高校全校生徒対象. （2016.2）

９．附属研究所の活動等

・健康大使への継続教育：「健康大使セミナー」開催、田川（2015.9）
・身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス（田川）レッスン１（2015.6～7 月）
・身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス（福岡）
・性の健康に関する事業：不妊のおしゃべり会主催（子どもがいてもいなくても、大切なわたし＊大切なあなた）（2015.3 月、12 月）
・身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー（2016.2）

所属	看護学部／臨床看護看護学系	職名	講師	氏名	大島　操

１．教員紹介・主な研究分野

成人看護学（慢性期）を担当しています。これまで、終末期看護やさまざまな場で働く看護師の役割について研究してきました。現在は、糖尿病や高血圧など生活習慣病に対する看護師の患者指導について関心をもっています。特にクリニックなどで慢性疾患を有する患者にかかわる看護師の役割は重要と考えています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・大島操，新居富美，安部恭子(2015)：診療所における看護師の役割に関する文献的検討,九州看護福祉大学紀要,15,81-89.

・大島操，藤本明日香，新居富美，安部恭子(2014)：一般診療所における看護師による糖尿病患者指導,日本医学看護学教育会誌,23(1), 7-11.

③過去の主要業績

・大島操，赤司千波，柴北早苗(2012)：介護付有料老人ホームと認知症グループホームにおける終末期ケアおよび看取りの現状と看護職者の思い,日本看護研究学会雑誌,35(1), 175-181.

・赤司千波，大島操，中山晃志(2011)：介護付有料老人ホームにおける終末期ケアおよび看取りケアの実態,日本看護学会論文集（老年看護）41 号,121-124.

５．所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本老年看護学会、日本医学看護学教育学会、看護経済・政策研究学会

６．担当授業科目

〈学部〉

成人慢性看護学・2 単位・2 年・後期、成人看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1 単位・3 年・前期、成人慢性看護学実習・3 単位・3～4 年・後期～前期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・通年

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	田中　美樹

１．教員紹介・主な研究分野

「子どもの健康見守り隊」として、地域で子どもたちが安全・安楽に成長発達できるための研究を行っています。具体的には、小児科外来・クリニックにおける家族向けプレパレーションツールの開発や、子どもや家族に対する健康教育、保育士さんなどに対する保育看護などを通して、子どもと子どもに関わる家族や専門職者の方への支援などを行っています。

２．研究業績

①著書・論文

・江上千代美、田中美智子、柏原やすみ、田中美樹、吉川美桜、青野広子、宮城由美子、「*眼球運動指標による新人看護師への看護技術支援の評価*」福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.13no.1、2016 年 掲載決定（2016 年 1 月 25 日受理）

・吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子「*赤ちゃん先生を活用した小児看護技術演習の効果*」福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.13no.1、2016 年 掲載決定（2016 年 1 月 12 日受理）

・青野広子、吉川未桜、田中美樹、江上千代美、宮城由美子「小児看護技術支援における看護学部 4 年生の医療的看護技術の傾向と感想の検討」福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.13no.1、2016 年 掲載決定（2016 年 1 月 25 日受理）

・吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子、「*小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み*」、福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.12 no.1、2015 年

・田中美樹、「*保育所における食物アレルギーをもつ子どもと保護者に対する看護職の取り組み*」、保育と保健　、vol.19 no.1.pp45-48、2013 年

・田中美樹、「*保育所における慢性疾患をもつ子どもへの支援*」保育と保健、vol.19 no.2.pp68-72、2013 年

②その他の業績

〈学会発表〉

・宮城由美子、吉川未桜、田中美樹、青野広子、「*食物アレルギー児の緊急対応に関する保育士の認知について*」、第 21 回日本保育保健学会、2015 年 10 月、鹿児島

・田中美樹、宮城由美子、吉川未桜、柿木里香、「*外来で検査・処置を受ける子どもと家族の力を引き出すプリパレーションツールの開発*」、第 25 回日本外来小児科学会、2015 年 8 月、仙台／第 19 回九州外来小児科学研究会、2015 年、福岡

・田中美樹、宮城由美子、吉川未桜、柿木里香、「*外来で子どもが検査・処置を受けるパパ.ママのためのプリパレーション*」、第 25 回日本外来小児科学会、2015 年 8 月、仙台

・吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子、「*小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み*」、第 15 回九州・沖縄小児看護教育研究会、2014 年 8 月、熊本

・田中美樹、宮城由美子、吉川未桜、青野広子、池隅好乃、山田智子、岡田久美子、柿木里香、「*外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプレパレーション用ポスター*」、第 24 回日本外来小児科学会年次集会、2014 年 8 月、大阪

・青野広子、田中美樹、吉川未桜、宮城由美子、「*小児看護学外来実習で受け持ち親子制を取り入れた学習効果の検討*」、日本看護研究学会第 19 回九州・沖縄地方会学術集会、2014 年 11 月、熊本

・宮城由美子、柏原やすみ、吉川未桜、田中美樹、青野広子、「*『保育園におけるアレルギー対応の手引き』導入後の食物アレルギーの認知に関する研究*」、第 16 回日本子ども健康科学会学術大会、2014 年 12 月、京都

③過去の主要業績

・吉川未桜、柏原やすみ、田中美樹、宮城由美子、「*小児看護学実習で絵本の読み聞かせを行った学生の学び - 保育所実習のレポートから -*」、第 32 回日本看護科学学会学術集会、2012 年 12 月、東京

・田中美樹、吉川未桜、柏原やすみ、宮城由美子、「*保育所における慢性疾患をもつ子どもへの支援*」、第 14 回日本子ども健康科学学会学術集会、2012 年 12 月、東京
・宮城由美子、吉川未桜、田中美樹、柏原やすみ、「*保育士と看護職と協働で行う健康保育 - 保育士から見た健康保育の効果 -*」、第 14 回日本子ども健康科学学会学術集会、2012 年 12 月、東京
・吉川未桜、田中美樹、宮城由美子、「*看護学生が絵本の読み聞かせを通して学ぶ子どもの発達 - 保育所実習を通して -*」、第 18 回日本保育園保健学会、2012 年 10 月、東京
・田中美樹、布施芳文、高野政子、「*『父親になった』という父性の自覚に関する研究*」、母性衛生、vol.52 no.1.pp71-77、2011 年
・柏原やすみ、吉川未桜、田中美樹、宮城由美子、「*卒業前に実施した小児看護技術の演習効果*」、第 12 回九州・沖縄小児看護教育研究会、2011 年 8 月、大分県
・山本浩世、田中美樹、高野政子、「*『母乳が不足している』という母親の母乳育児に関する認識*」、母性衛生、vol.50 no.1.pp110-117、2009 年

３．外部研究資金

文部科学省研究費助成事業・研究分担者、「気になる子どもを含む発達障がい児の外来受診時における包括的支援プログラム開発」2014～2016

５．所属学会

日本小児保健協会、日本外来小児科学会、日本子ども健康科学学会、日本保育園保健協議会、九州小児看護教育研究会、日本看護研究学会、日本小児看護学会

６．担当授業科目

「小児看護学概論」・1 単位・2 年前期、「小児看護学」・2 単位・2 年・後期、「小児看護学演習Ⅰ」・1 単位・3 年、「小児看護学演習Ⅱ」・1 単位・3 年、「小児看護学実習」・2 単位・3 年、「専門看護学ゼミ」・2 単位・3 年，4 年前期、「統合実習」・2 単位・4 年、「卒業研究」・2 単位・4 年、「小児看護特論」・2 単位・大学院 1 年・前期、「小児看護学演習」・2 単位・大学院 1 年・後期

７．社会貢献活動

・家族の子どもの検査・処置に対する理解向上のための活動：外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプレパレーション用ポスターの吸入編と採血編を作成し、実習病院・クリニックおよび希望された全国の病院・クリニックに配布し普及に努めた。
・田川市中央保育所保護者会「子どもの事故予防と応急手当」について講義・質疑応答

８．学外講義・講演

・田中美樹、平成 25 年度 田川市ファミリーサポート養成講座「子どもの事故防止の基礎知識」講師、2015 年 6 月
・田中美樹、福岡県立光陵高等学校出前講義「子どもの世界～遊びを通して看護しよう！～」講師、2014 年 7 月田中美樹、福岡県立光陵高等学校出前講義「子どもの世界～遊びを通して看護しよう！～」講師、2014 年 7 月
・田中美樹、平成 25 年度 田川市子育てボランティア養成講座「子どもの事故防止の基礎知識」講師、2015 年 11 月
・田中美樹、宮城由美子、平成 25 年田川郡保育士会、「子どもの食物アレルギーとアナフィアラキシーショックへの対応」「子どもの予防接種」講師、2015 年 5 月
・田中美樹、宮城由美子、吉川未桜、青野広子、平成 25 年度田川郡保育士会、「もうあわてない！もしものときの対応」講師、2014 年 7 月

９．付属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

・田中美樹、健康保育「自分のからだ大切に！」三萩野保育園年中クラス３回実施

① テーマ「ホネホネくんを元気に」2015 年６月

② テーマ「おしりもトイレもピッカピッカ大作戦」2015 年８月

③ テーマ「すいみん電車の旅　スーパーホルモンのひみつ」2016 年２月

・田中美樹、健康保育「自分のからだ大切に！北方保育園年中クラス３回実施

① テーマ「ホネホネくんを元気に」2015 年６月

② テーマおしりもトイレもピッカピッカ大作戦」2015 年７月

③ テーマ「すいみん電車の旅　スーパーホルモンをひみつ」2016 年２月

・田中美樹、青野広子、宮城由美子、保育看護学習会「いざというときの応急手当」北九州市保育士対象３回実施

① 北九州市立三萩野保育園、2015 年６月

② 北九州市立北方保育所、2015 年７月

③ 田川市郡保育士対象、福岡県立大学 2015 年８月

・田中美樹、健康保育「自分のからだ大切に！」2,015 年９月、田川市立幼稚園

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	中井　裕子

１．教員紹介・主な研究分野

総合病院内科系病棟での臨床勤務の後，2001 年に千葉県立衛生短期大学助手として着任。2010 年 4 月に本学講師として着任し，成人看護学（急性期）の教育に携わっています。主な研究分野は周手術期看護，高齢者看護，看護教育です。主な研究テーマは周手術期患者のニーズ，高齢者に対する急性期看護，臨床での看護学生のリアリティショックを緩和するための演習方法の検討です。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

・政時和美，笹野莉奈，松井聡子，村田節子，中井裕子：A 地区における AED の配置に関する調査研究，福岡県立大学看護学研究紀要，2014.

・松井聡子，政時和美，杉野浩幸，村田節子，中井裕子：視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～e ラーニングシステムを使用して～，福岡県立大学看護学研究紀要，2014.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・野口未生，廣兼利来，村田節子，中井裕子：化学療法を受ける高齢者の苦痛に関する文献検討，日本看護研究学会第 41 回学術集会，広島，2015.

・廣兼利来，野口未生，村田節子，中井裕子：日本人看護師と外国人患者の間に生じる課題に関する文献検討，日本看護研究学会第 41 回学術集会，広島，2015.

・政時和美，笹野莉奈，松井聡子，村田節子，中井裕子：過疎地域における AED 設置の問題点，日本看護科学学会第 34 回学術集会，愛知，2014.

・政時和美，笹野莉奈，松井聡子，村田節子，中井裕子：A 地区における AED 設置調査，第 40 回日本看護研究学会学術集会，奈良，2014.

③過去の主要業績

・中井裕子，比田井理恵，小林繁樹：1 看護アセスメント　患者の安全の確保と精神的援助，小林繁樹編集，新看護観察のキーポイントシリーズ　脳神経外科，中央法規出版，2011.

・中井裕子，榎本麻里，三枝香代子，堀之内若名：成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討（第二報），千葉県立衛生短期大学紀要，27(1・2)，143-151，2009.

・三枝香代子，榎本麻里，中井裕子，堀之内若名：クリティカルケアの演習における教育方法の検討―患者急変時デモンストレーションの有効性についての分析―，千葉県立衛生短期大学紀要，27(1・2)，109-115，2009.

・中井裕子，堀之内若名，三枝香代子，榎本麻里：成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討，千葉県立衛生短期大学紀要，26(2)，105-112，2008.

・大谷則子，堀之内若名，中井裕子，榎本麻里：手術室見学実習における学び―二つの実習形態の比較検討による考察―，*OPE NURSING*，21(6)，98－108，2006.

５．所属学会

日本看護学会，日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本看護学教育学会，日本看護技術学会，日本老年社会科学会

６．担当授業科目

成人急性看護学・2 単位・2 年・後期，成人看護学演習Ⅰ・2 単位・3 年・前期，成人看護学演習Ⅱ・1 単位・3 年・前期，成人急性看護学実習・3 単位・3 年・通年，専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年，統合実習・2 単位・4 年・通年，卒業研究・2 単位・4 年・後期，成人看護学特論・2 単位・修士 1 年・2 単位・前期，成人看護学演習・2 単位・修士 1 年・後期

７．社会貢献活動

九州がんプロフェッショナル養成プランに関する活動，村田節子，宮園真美，赤司千波，中井裕子，大島操，政時和美，松井聡子，柴北早苗．福岡県立大学主催．第 37 回～第 41 回福岡県立大学がん看護勉強会，福岡県立大学.

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	青野　広子

１．教員紹介・主な研究分野

看護師として小児医療センター、小児歯科等において小児看護に携わったのちに看護学修士を取得し、2014 年度より本学に着任する。血友病をはじめとした、慢性疾患をもつ子どもの生活支援に関する研究に取り組んでいる。慢性疾患をもつ子どもとその家族が、体調をコントロールしながら日常生活を送り、社会参加に取り組むための支援について探究したいと考えている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・青野広子：血友病をもつ思春期の子どもの病気に伴う体験,九州大学大学院保健学専攻看護学分野,2014
・吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子：小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み.福岡県立大学看護学部紀要 12（1）.2014
・青野広子・吉川未桜・田中美樹・江上千代美・宮城由美子：小児看護技術支援における看護学部４年生の看護技術動作の傾向と感想の検討. 福岡県立大学看護学部紀要 13.2016
・吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子：赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護技術演習の効果. 福岡県立大学看護学部紀要 13.2016
・江上千代美・田中美智子・柏原やすみ・田中美樹・吉川未桜・青野広子・宮城由美子：新卒看護師に対する輸血の準備に関した看護技術教育前後の比較－眼球運動指標による評価－. 福岡県立大学看護学部紀要 13.2016

その他最近の業績

〈学会報告〉
・茂順子・長葵・請島美紀・小山直美・江頭うらら・宮下愛・青野広子・河口麻美・稲光まゆみ（医）・稲光毅（医）：乳幼児健診・安全指導を通して考える-小児外来看護師としての役割-.第 23 回日本外来小児科学会.福岡.2013
・青野広子・濵田裕子・藤田紋佳：血友病をもつ思春期の子どもの病気に伴う体験.第 24 回日本小児看護学会学術集会.東京.2014
・青野広子・田中美樹・吉川未桜・宮城由美子：小児看護学外来実習で“受け持ち親子制”を取り入れた学習効果の検討.日本看護研究学会.2014
・吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子：赤ちゃん先生プログラムを導入した小児看護技術演習における教育効果の検討.日本看護研究学会.2014
・田中美樹・宮城由美子・吉川未桜・青野広子・池隅好乃・山田智子・岡田久美子・柿木里香：外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプレパレーション用ポスター.第 24 回日本外来小児科学会.2014
・宮城由美子・柏原やすみ・田中美樹・吉川未桜・青野広子：「保育園におけるアレルギー対応の手引き」導入後の食物アレルギーの認知に関する研究.第 16 回日本子ども健康科学会.2014

〈学会セッション司会など〉
・第 23 回日本外来小児科学会・コメディカルミーティング司会.福岡.2013
・第 11 回日本小児がん看護学会ワークショップ・ファシリテーター.福岡.2013

３．外部研究資金

文部科学省科学研究費助成事業・研究分担者,「気になる子どもを含む発達障がい児の外来受診時における包括的支援プログラム開発」,2014～2016

５．所属学会

日本小児看護学会・日本小児がん看護学会・日本看護研究学会・小児保健協会・障害者歯科学会・日本保育保健学会・血友病看護研究会

６．担当授業科目

小児看護学・小児看護学演習ⅠⅡ・小児看護学実習ⅠⅡ・小児看護学ゼミ

７．社会貢献活動

・九州血友病患者サマーキャンプ医療スタッフ
・NPO 法人福岡子どもホスピスプロジェクト正会員

８．学外講義・講演

・九州血友病患者会サマーキャンプ「血友病―節目の課題―」「血友病をもつ人たちの生活～発達段階に焦点を当てて～」熊本
・保育看護学習会「子どもの”けいれん”への対処とは？」.北九州
・保育看護学習会「アレルギー」北九州市
・保育看護学習会「子どものけがへの対処」北九州市
・高等学校出前講義「子どもへの看護」田川市

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究委員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	江上　史子

１．教員紹介・主な研究分野

精神科看護の場における認知症高齢者の看護や、家族支援、リハビリテーション看護に関心があります。精神科における認知症ケアについては、これからも取り組んでいきたい課題の一つです。認知症高齢者と家族の支援に関する研究では、相談活動を通して、対象が築いてきた人生や価値観に寄り添う関わりの重要性を実感しています。

老いや病に向き合うことは、本人にも援助者にも哀しみや苦しみを伴うことがあります。しかし同時に、人生の先輩としての豊かな人間性に触れ、教えられることや励まされることも多く、多様なライフスタイルのある現代の高齢社会において、人生の最後の時期である老年期を、その人らしい生活、尊厳ある人生を送るための支援に携わりたいと思っています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・安酸史子，北川明，江上千代美，江上史子，奥祥子，小野美穂，金城やす子，小森直美，清水夏子，田中美延里，塚原ひとみ，坪井桂子，中嶋恵美子，中富利香，二井矢清香，原田奈穂子，伴佳子，松枝美智子，宮野香里，安永薫梨，山住康恵，吉田恭子，渡邉智子．経験型実習教育−看護師をはぐくむ理論と実践．東京：医学書院，2015年12月．

・江上史子，松枝美智子，村田節子，松井聡子，永嶋由理子．A県における高度実践看護師の雇用ニーズ調査−看護管理者が雇用しない理由とその障壁−．福岡県立大学看護学研究紀要，2016年3月．

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・江上史子，安酸史子，渡邉智子，楾直美，吉田恭子，浅井初，坂田志保路，松枝美智子，清水夏子，小森直美，小野美穂，中野榮子．経験型実習教育における学生の学びの内容（第2報）－3 年生を対象としたフォーカスグループインタビューから－．日本教師学学会第 15 回大会，2014 年 3 月．

・松枝美智子，村田節子，江上史子，松井聡子，永嶋由理子．A 県の医療施設等の看護管理者が高度実践看護師（Advanced Practice Nurse）に提供したいと考えている支援．一般社団法人日本看護研究学会第 41 回学術集会，2015 年 8 月．

・江上史子，松枝美智子，渡邉智子，村田節子，永嶋由理子．APN の雇用ニーズ調査：看護管理者が雇用しない理由．第 46 回日本看護学会-看護管理-学術集会，2015 年 9 月．

③過去の主要業績

・平林美保，江上史子，梅垣順子，松岡千代，水谷信子．高齢者看護が担う痴呆症相談活動の課題と方向性-「高齢者もの忘れ看護相談」を通して-，兵庫県立看護大学　附置研究所推進センター研究報告集 Vol.1、p39-45、2003 年 3 月．

・南裕子（主任研究者），水谷信子（分担研究者），松岡千代，平林美保，江上史子，梅垣順子（研究協力者）．「高齢者もの忘れ看護相談」の効果-継続的利用により介護家族に生じた変化について-平成17年3月厚生労働科学研究研究費補助金　医療技術評価総合研究事業、平成16年度総括・分担研究報告書 p31-51、2005 年 3 月．

・江上史子．精神病院に勤務する看護師の認知症高齢者の持つ力へのアプローチ-認知症高齢者の表現する力に焦点をあてて-，兵庫県立大学大学院　修士論文，2007 年 3 月．

５．所属学会

日本老年看護学会、日本災害看護学会、日本認知症ケア学会、日本教師学学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会

６．担当授業科目

老年看護学概論・1 単位・2 年・前期、老年看護学・2 単位・2 年・後期、老年看護学実習Ⅰ・1 単位・2 年・通年、老年看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、老年看護学演習Ⅱ・1 単位・3~4 年・後期~前期、老年看護学実習Ⅱ・3 単位・3~4 年・後期~前期、統合実習・2 単位・4 年・通年、専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期、卒業研究・2 単位・4 年・後期

７．社会貢献活動

・福岡県立大学看護実践教育センターの糖尿病看護認定看護師教育過程での講義（相談・1 単位・前期）
・筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」参加（通年・11 回）

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	小林　絵里子

１．教員紹介・主な研究分野

1997 年　市立名寄短期大学(現　名寄市立大学)看護学科卒業。
1999 年　神戸大学医学部保健学科看護学専攻卒業。
2008 年　北海道札幌医科大学大学院保健医療学研究科看護学専攻博士前期課程修了。
現在　神戸大学大学院保健学研究科保健学専攻看護学領域母性看護学分野博士課程後期課程在籍中。

大学病院で 11 年間看護師、助産師として臨床（外科領域（皮膚科・形成外科）、小児科、産科周産期科）を経験後、2010 年 4 月より本大学に着任。

臨床では医療的ケアを必要としながら在宅療養へ移行する児とその家族に関するケアや、先天性の疾患を持ち、出生直後から手術までのコントロール目的に入院する児とその家族に対するケア、口唇裂・口蓋裂などの児の術前術後のケアを通した母乳育児支援、小児科病棟や、外来での母乳育児支援を重点的に取り組んできた。NICU（新生児集中治療室）や GCU で母乳育児支援の啓蒙に携わり、母親・医療スタッフへの情報提供や知識の啓蒙に努めてきた。現在は母乳育児支援に関する研究に取り組んでおり、医療スタッフが正しい知識を持って、安心して楽しく母乳育児支援ができるよう、実践に生かせる研究をしたいと考えている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・佐藤繭子，小林絵里子.（2015）タイ・ムアンコンケーン郡における母乳育児支援の現状
・－コンケン大学の現地訪問を通して－．福岡県立大学看護学部紀要予定
・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子，邬继红，王琦．（2014）．中国北京における中国伝統医療の現状．福岡県立大学看護学部紀要
・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子，邬继红,王琦，侯小妮．（2014）．中国北京における妊婦の食生活と文化．福岡県立大学看護学部紀要
・小林絵里子,佐藤香代.（2014).本学助産学課程におけるホリスティックケア履修者の学びと実践．福岡県立大学看護学部紀要

②その他最近の業績

〈教材開発〉

佐藤香代，安河内静子，吉田静，　佐藤繭子，　鳥越郁代，小林絵里子，藤木久美子．身体活性化（世にも珍しい）マザークラスの哲学と実践,2012.

〈学会発表〉

・小林絵里子,佐藤香代,吉田静,石村美由紀,鳥越郁代.(2015).中国天津地域における大学生の食文化-中国の文化・教育と食の実態との関連-，第 30 回日本助産学会学術集会，京都
・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子．(2015)中国における中国伝統医療の現状ー北京中医薬大学を中心とした医療施設の視察を通してー，第 56 回日本母性衛生学会総会・学術集会，岩手
・石村美由紀,佐藤香代,小林絵里子,吉田静,鳥越郁代.(2015).身体感覚活性化マザークラスに参加した妊婦のバースプランおよび出産体験，第 30 回日本助産学会学術集会，京都
・小林絵里子,佐藤香代,吉田静,安河内静子,鳥越郁代.(2014)．中国における女子大学生の食文化－中国の文化・教育と食の実態との関連－，第 55 回日本母性衛生学会総会・学術集会,千葉
・石村美由紀,佐藤香代,小林絵里子.(2014)．看護学生のマザークラス企画による学び - 身体感覚活性化マザークラスのレッスン企画を通して - ,第 55 回日本母性衛生学会総会・学術集会,千葉.
・佐藤繭子，小林絵里子, 佐藤香代.(2014)．看護系大学における母乳育児支援教育の現状と課題,第 55 回日本母性衛生学会総会・学術集会,千葉.

・小林絵里子，佐藤繭子，佐藤香代．（2013）．母乳育児支援学習コースの受講者による評価，第 27 回日本助産学会学術集会，石川.
・小林絵里子，古田祐子，佐藤香代.（2013）．精油を用いたオイルマッサージの末梢血管拡張作用の持続性に関する研究，第 54 回日本母性衛生学術集会，埼玉.

③過去の主要業績

・小林絵里子．（2009）．コメディカルセッションシンポジスト　循環器領域におけるアロマセラピー．第 57 回日本心臓病学会．北海道
・瀬尾智子．小林絵里子．山岸映子．多田香苗（2007）「新イノチェンティ宣言」翻訳
・小林絵里子．（2005）．「アロマセラピーの及ぼすリラクゼーション効果(担当部分単独執筆)」．『Aromatopia　Vol.14　No.2』，フレグランス・ジャーナル社.

５．所属学会

日本助産学会／日本新生児看護学会/日本母性衛生学会/日本母性看護学会

６．担当授業科目

〈学部〉

女性看護学・2 単位・2 年・後期，女性看護学演習Ⅰ・2 単位・3 年・前期，女性看護学演習Ⅱ・1 単位・3 年後期~4 年前期，女性看護学実習・2 単位・3 年後期～4 年前期，専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期，卒業研究 2 単位・4 年・後期，専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年

〈大学院〉

基礎助産学演習・2 単位・1 年・通年，助産学特論・2 単位・1 年・前期，助産学演習・2 単位・1 年・通年，ホリスティック助産学特論・2 単位・1 年・前期，ホリスティック助産学演習・2 単位・1 年・後期，助産実践学Ⅱ（分娩期）・4 単位・1 年・通年，助産実践学Ⅲ（産褥・新生児期）・2 単位・1 年・後期，助産実践学Ⅳ（ハイリスクケア）・2 単位・1 年・後期，助産学実習Ⅰ（外来ケア実習）・1 単位・1 年・前期，助産学実習Ⅱ（周産期ケア実習）・8 単位・1 年・後期，助産学実習Ⅲ（助産所実習・継続ケア実習）・2 単位・2 年・前期，助産学実習Ⅳ（ハイリスクケア実習）・1 単位・2 年・前期，助産学実習Ⅴ（マザークラス実習）・2 単位・2 年・後期

７．社会貢献活動

・NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会理事・広報事業部員
・母乳育児支援を学ぶ北海道教室事務局
・母乳育児支援を学ぶ九州教室事務局
・九州母乳育児支援セミナー　代表

〈母乳育児支援に関するセミナー企画・運営〉

・平成 27 年度第 1 期 20 時間基礎セミナー（2015.5 月~7 月）
・平成 27 年度第 2 期 20 時間基礎セミナー（2015.9 月～11 月）
・第 38 回母乳育児学習会 in 神戸(2015.6.21-22)
・第 11 回医師のための母乳育児支援セミナーin 京都（2015.10.11-10.12）
・第 12 回母乳育児支援を学ぶ九州教室（2015.8.29）
・第 39 回母乳育児学習会 in 東京(2016.1.26)
・第 5 回母乳育児支援 20 時間基礎セミナーin 長崎市医師会看護専門学校助産学科（2015.6.27-29）
・第 13 回母乳育児支援を学ぶ九州教室（2016.2.7）
・第 13 回 IBCLC のための母乳育児カンファレンス in 名古屋（2016.2.27-28）

８．学外講義・講演

・小林絵里子他．（2015）．クリニカルスキル・ワークショップ　ファシリテーター．第 11 回医師のための母乳育児支援セミナーin 京都

・小林絵里子他.　(2015). 第 5 回母乳育児支援 20 時間基礎セミナーin 長崎市医師会看護専門学校助産学科　ファシリテーター
・小林絵里子.（2015）.新生児蘇生法講習会「専門」コースアップデート講習会　インストラクター(7 回)
・小林絵里子.（2015）.第 6 回~第 8 回福岡県立大学新生児蘇生法講習会「専門」コース　インストラクター
・小林絵里子.（2015）.第 1 回~第 3 回有松病院新生児蘇生法講習会「専門」コース　インストラクター
・小林絵里子.（2015）.福岡県看護協会助産師職能委員会　新人助産師合同研修(母乳育児支援)講師
・小林絵里子.（2015）.福岡県看護協会助産師職能委員会　院内助産スキルアップ研修(母乳育児支援)講師

９．附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
・第 6 回健康大使セミナー（2015.9.19）
・第 11 回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 田川（2015.5～6）
・第 11 回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー（2016.2.21）
・第 20 回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 福岡（2015.10）
・女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」主催
・新生児蘇生法アップデート講習会・母乳育児相談

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	佐藤　繭子

１．教員紹介・主な研究分野

看護師として5年間外科系病棟で勤務、助産師として8年勤務後、その経験を生かし、2009年より本大学看護学部臨床看護学系助手として着任。2011 年 3 月、福岡県立大学大学院看護学研究科修了（看護学修士）し、現在に至る。

臨床では母乳育児支援の推進に携わり、母親・医療スタッフへの情報提供や知識の啓蒙に努めてきた。現在は母乳育児支援に関する研究だけでなく、性教育（幼児・児童，子を持つ親，成人）にも積極的に取り組んでいる。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈学術論文〉

・佐藤繭子,小林絵里子．（2015）．タイ・ムアンコンケーン郡における母乳育児支援の現状．福岡県立大学看護学部紀要

・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子，邬继红，王琦．（2014）．中国北京における中国伝統医療の現状．福岡県立大学看護学部紀要，12，73-84.

・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子，邬继红，王琦，侯小妮．（2014）．中国北京における妊婦の食生活と文化．福岡県立大学看護学部紀要，12，25-35.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・佐藤繭子，古田祐子．（2016）．看護系女子学生の布製ナプキン使用感，第 30 回日本助産学会学術集会，京都.

・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子．(2015)．「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性たちの食生活．第 56 回日本母性衛生学会学術集会，岩手.

・佐藤繭子．（2015）．看護系大学における母乳育児支援教育の現状と課題，第 12 回 IBCLC のための母乳育児カンファレンス，京都.

・佐藤繭子，小林絵里子，佐藤香代．（2014）．看護系大学における母乳育児支援教育の現状と課題，第 55 回日本母性衛生学会学術集会，千葉.

・小林絵里子，佐藤繭子，佐藤香代．（2013）．母乳育児支援学習コースの受講者による評価，

・第 27 回日本助産学会学術集会，石川.

③過去の主要業績

〈学術論文〉

佐藤繭子．助産師の母乳育児支援の実践に影響する要因の検討．福岡県立大学大学院看護学研究科修士論文．2011 年 3 月.

〈教材開発〉

佐藤香代，安河内静子，吉田静，佐藤繭子，鳥越郁代，小林絵里子，藤木久美子．身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスの哲学と実践．2012 年

５．所属学会

日本助産学会、日本母乳哺育学会、日本助産師会、思春期学会、日本母性衛生学会、日本性科学会、日本ラクテーション・コンサルタント協会　IBCLC 会員　出版・販売事業部員

６．担当授業科目

〈学部〉

女性看護学・２単位・２年・後期，女性看護実践論・１単位・３年・通年，女性看護実習・２単位・３年・通年，女性看護学演習Ⅰ・１単位・３年・前期，女性看護学演習Ⅱ・１単

位・３～４年・後期～前期，女性看護学実習・２単位・３～４年・後期～前期，専門看護学ゼミ・２単位・３年・通年，卒業研究・２単位・４年・通年

〈大学院〉

ウイメンズヘルス演習・１単位・１年・後期，基礎助産学演習・２単位・１年・通年，助産学特論・２単位・１年・前期，助産学演習・２単位・１年・後期，助産実践学 1（妊娠期）・２単位・１年・前期，助産学実践Ⅱ（分娩期）・４単位・１年・通年，助産学実践Ⅲ（産褥・新生児期）・２単位・１年・後期，助産学実習Ⅰ（外来ケア実習）・１単位・１年・前期，助産学実習Ⅱ（周産期ケア実習）・８単位・１年・後期，助産学実習Ⅲ（助産所実習・継続ケア実習）・２単位・２年・前期，助産学実習Ⅳ（ハイリスクケア実習）・１単位・２年・前期，助産学実習Ⅴ（マザークラス実習）・２単位・２年・後期

７．社会貢献活動

・日本ラクテーション・コンサルタント協会　出版・販売事業部員
・母乳育児に関する学習会の開催「母乳育児支援を学ぶ九州教室」代表・運営
・子育てサークル主宰

＜母乳育児支援に関するセミナー企画・運営＞

・平成 27 年度第 1 期 20 時間基礎セミナー（2015.5 月～7 月）
・第 5 回母乳育児支援 20 時間基礎セミナーin 長崎市医師会看護専門学校助産学科（2015.6.27-29）
・第 12 回母乳育児支援を学ぶ九州教室，2015.8.29,福岡市
・平成 27 年度第 2 期 20 時間基礎セミナー（2015.9 月～11 月）
・第 13 回母乳育児支援を学ぶ九州教室，2016.2.7,福岡市

８．学外講義・講演

・「母乳育児は簡単♪楽しい♪知っておいてほしい母乳育児のコツ」講師.博多大丸,2015.4.12,福岡市
・平成 27 年度第 1 期 20 時間基礎セミナー（2015.5 月～7 月）ファシリテーター,福岡市
・「卒乳（職場復帰）どうする？&外出時の工夫」講師.博多大丸,2015.5.17,福岡市
・マタニティフェア 2015 イオン福岡モール(2015.6.7)
・第 5 回母乳育児支援 20 時間基礎セミナーin 長崎市医師会看護専門学校助産学科 ファシリテーター（2015.6.27-29）
・「補完食（離乳食）の進め方・らくちん離乳食」講師.博多大丸,2015.7.5,福岡市
・「母乳育児は簡単♪楽しい♪知っておいてほしい母乳育児のコツ」講師.博多大丸,2015.7.19,福岡市
・「職場復帰が近いけど・・・おっぱいはどうする？」講師.博多大丸,2015.8.2,福岡市
・平成 27 年度第 2 期 20 時間基礎セミナー（2015.9 月～11 月）ファシリテーター,福岡市
・「『性』ってなーに？オトナの座談会」講師．2015.9.2，福岡市
・福岡県看護協会助産師職能委員会 新人助産師合同研修(母乳育児支援)講師，2015.9.5
・「『からだの科学』『せい教育』について一緒に学びませんか？」講師．リトルアーティスト研究所，2015.9.14，福岡市
・「補完食（離乳食）の進め方・らくちん離乳食」講師.博多大丸,2015.9.20,福岡市
・「母乳育児相談会」講師．子育てサロン andFUN，2015.9.29，福岡市
・性の健康に関する事業「布ナプキンって？」講師.附属研究所,2015.9.30.田川市
・「断乳と卒乳：どうしたらいい？」講師.博多大丸,2015.10.4,福岡市
・「妊娠糖尿病女性への産後継続支援に関する研修会（ベーシックコース）」（コミュニケーションスキル）講師．聖マリア学院大学，2015.10.24，久留米市
・「『せい』ってなーに？乳幼児期から始める性教育」講師．子育てサロン andFUN，2015.10.29,福岡市

・「母乳育児は簡単♪楽しい♪知っておいてほしい母乳育児のコツ」講師.博多大丸,2015.11.1,福岡市
・「からだについていっしょにまなぼう！」講師．2015.11.23，福岡市
・「子どもに伝えるせいの話」講師．大野城市社会福祉協議会，2015.12.5，大野城市
・「職場復帰が近いけど・・・おっぱいはどうする？」講師.博多大丸,2015.12.13,福岡市
・福岡県看護協会助産師職能委員会 院内助産スキルアップ研修(母乳育児支援)講師，2015.12
・「補完食（離乳食）の進め方・らくちん離乳食」講師.博多大丸,2016.1.17,福岡市
・「断乳と卒乳：どうしたらいい？」講師.博多大丸,2016.2.14,福岡市
・これから働きたいあなたのために　今、はじめる 10 のレッスン「母乳育児と職場復帰」講師.
・福岡市男女共同参画推進センター アミカス，2016.2.16，福岡市
・「職場復帰が近いけど・・・おっぱいはどうする？」講師.博多大丸,2016.3.6,福岡市
・「『せいってなーに？』こどもに伝えるせいのお話」講師．福岡市南市民センター，2016.3.8,福岡市
・「からだについていっしょにまなぼう！」講師．さざんぴあ博多，2016.3.26，福岡市
・「からだについていっしょにまなぼう！」講師．2016.3.29，志免町
・「オトナの性教育ワークショップ」講師．2016.3.29，福岡市

９．附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
・第 7 回健康大使セミナー（2015.11.20）
・第 11 回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 田川（2015.6～7）
・第 20 回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 福岡（2015.10）
・第 11 回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー（2016.2.21）
・マタニティフェア 2015 イオン福岡モール(2015.6.7)
・女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」
・性の健康に関する事業

所属	看護学部／臨床看護看護学系	職名	助教	氏名	廣瀬　理絵

１．教員紹介・主な研究分野

2009 年 3 月，福岡県立大学大学院修士課程修了し，12 月にがん看護専門看護師を取得しました。その後、超高齢社会である筑豊地域にある医療機関で 5 年間、がん看護専門看護師として活動してきましたが、「がん」と共に生きる方だけでなく、「老い」を生きる人、高齢者を対象としたエンド・オブ・ライフ・ケアの必要性と困難さを痛感するとともに、ケアの喜びを実感してきました。高齢者が尊厳をもって生を全うするためには、家族や医療者の代理意思決定だけでなく、たとえ認知機能が低下していても、高齢者自身を尊重し、安心して意志を表現できるように過程を支えることが必要です。

今後も老いや病をもちながらも高齢者がその人らしく生活できるためにどのような支援が必要であるか、高齢者を対象としたエンド・オブ・ライフに関する研究に取り組んでいきたいと考えています。

２．研究業績

①最近の著書

〈著書〉

廣瀬 理絵．(2015)．「認知機能低下がある終末期高齢がん患者の意思決定支援」，Oncology　NURSE，8（6）p98-10.

②過去の主要業績

〈学会報告〉

廣瀬 理絵，伊福セツ子，渡邉智子．(2013)．がん看護専門看護師のコーディネーション～チーム医療の実践内容からの分析～，日本看護倫理学会第 6 回年次大会，鹿児島.

〈過去の業績〉

- 廣瀬 理絵．(2009)．乳癌術前後化学療法中の患者に対する心理・社会的グループ療法の有効性－前向きな療養態度を獲得していく契機とその要因－．福岡県立大学大学院 修士論文.
- 廣瀬 理絵，渡邊智子，小島リヨ子，浦田真澄美，藤本弘美．(2010)．一般病棟における緩和ケアに携わるリンクナースのサポートシステムづくり　リンクナースへの教育と啓発にむけての現状分析，第 40 回日本看護学会論文集:看護管理，p51-53.
- 廣瀬 理絵，渡邉 智子，藤本 弘美，安永 一美，伊福 セツ子，小島リヨ子．(2010)．リンクナースの教育と啓蒙に向けたサポートシステムの構築　，看護展望，Vol35（9），p0842-0847.
- 廣瀬 理絵．(2010)．がん看護専門看護師としての活動，福岡県病院協会，ほすぴたる（No. 630），p4-6.
- 廣瀬 理絵，渡邉 智子．(2012)．終末期がん患者の意思決定への支援　意思決定内容とプロセスからの考察，第 26 回日本がん看護学会学術集会，島根.
- 廣瀬 理絵，伊福 セツ子，藤本 弘美，渡邉 智子．(2012)．医療チームとしての課題～がん相談内容からの分析～，日本看護倫理学会　第 5 回年次大会，東京.

３．外部研究資金

研究奨励交付金：研究課題「高齢者の生活行動維持に向けた M-Test の活用によるセルフ・マネジメントに関する研究」，交付金額：30,000 円，研究期間：平成 26 年 4 月～平成 26 年 3 月.

５．所属学会

公益社団法人福岡県看護協会，公益社団法人日本看護協会，一般社団法人日本がん看護学会，特定非営利活動法人日本緩和医療学会，日本 CNS 看護学会，日本看護倫理学会，日本健康支援学会，日本老年看護学会

６．担当授業科目

〈学部〉

老年看護学概論・1 単位・2 年・前期、老年看護学・2 単位・2 年・後期、老年看護学実習Ⅰ・1 単位・2 年・通年、老年看護学演習Ⅰ・1 単位・2 年・前期、老年看護学演習Ⅱ・1 単位・3~4 年・後期~前期、老年看護学実習Ⅱ・3 単位・3~4 年・ 後期~前期

〈大学院〉

コンサルテーション論・2 単位・修士 1 年・前期，終末期高齢者看護論・2 単位・修士 1 年・後期，終末期老年看護実習Ⅰ・2 単位・修士 1 年・後期，終末期老年看護実習Ⅱ・3 単位・修士 1 年・後期

７．社会貢献活動

・「エンド・オブ・ライフ・ケアに関わる看護師のための研修会　ELNEC-J　IN 筑豊」
・筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」参加

８．学外講義・講演

・LNEC-J 看護師教育プログラム研修会，福岡大学病院　講師・ファシリテーター
・LNEC-J 看護師教育プログラム研修会，聖マリア病院　講師・ファシリテーター
・LNEC-J コアカリキュラム看護師プログラム研修会, 国家公務員共済組合連合会　浜ノ町病院　講師・ファシリテーター
・田川地区訪問看護ステーション連絡協議会　スキルアップ研修会　「高齢者の緩和ケアを学ぶ」
・講師

９．附属研究所の活動等

・筑豊市民大学　ヘルシー・エイジングゼミ
・福岡ヘルシー・エイジングケア研究会
・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	政時　和美

１．教員紹介・主な研究分野

成人看護学領域の教育に携わっている。主な研究分野は教育に関する研究で、特に災害や救急に関する研究を行っている。また、2012 年には、リンパ浮腫指導技能者の資格を得、リンパ浮腫に関する知識と技術を取得し、「リンパ浮腫」を通じて、弾性ストッキングや退院指導などの勉強会を開催している。今後は、リンパ浮腫に関する研究も行う予定である。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

・伊藤紗弥香,百瀬華子,宮下幸恵,越由香里,加藤祐美子,橋本みづほ,政時和美,北條佐智子：平成２２年度当院看護師のがん看護学習ニーズに関する調査, 信州大学医学部附属病院看護研究集録,2010

・松枝美智子,坂田志保路,安永薫梨,浅井初,梶原由紀子,北川明,中野榮子,安酸史子,安田妙子,政時和美,松井聡子：精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の検討：因子分析と信頼性の検証, 福岡県立大学紀要,2011

・政時和美,笹野莉奈,松井聡子,村田節子,中井裕子：A 地区における AED の配置に関する調査研究,福岡県立大学看護学部紀要,2015

・松井聡子,政時和美,杉野浩幸,村田節子,中井裕子：視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～e ラーニングシステムを使用して～, 福岡県立大学看護学部紀要,2015

②その他最近の業績

〈示説〉

・山崎章恵,橋本みづほ,政時和美,北條佐智子,青柳美恵子,篠原弘恵,高橋良恵,塩原真弓：学生のピア学習とユニフィケーションを生かした学生支援による卒業前技術研修の効果, 第 41 回日本看護学会,2010

・政時和美,笹野莉奈,松井聡子,村田節子,中井裕子：A 地区における AED 設置調査, 第 40 回日本看護研究学会,2014

・政時和美,笹野莉奈,村田節子,中井裕子：過疎地域における AED 設置の問題点, 第 34 回日本看護科学学会,2014

・宮園真美,村田節子,政時和美：地域でがんについて語り合う「キャンサー・ナーシング・カフェ」の取り組み～医療者側スタッフの意識調査～ ,第 17 回日本看護医療学会,2015

・村田節子,宮園真美,政時和美：地域で語り合うがんとの向き合い方～キャンサー・ナーシング・カフェの取り組み～第 17 回日本看護医療学会,2015

５．所属学会

日本看護科学学会、日本リンパ学会、日本看護研究学会

６．担当授業科目

〈学部〉

成人看護学概論・1 単位・2 年・前期、成人急性看護論・2 単位・2 年・後期、成人急性看護学実習・3 単位・3 年～4 年・前期～後期、成人看護学演習Ⅰ・ 1 単位・3 年・前期、成人看護学演習Ⅱ・3単位・3年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・3年～4 年・前期、卒業研究・2 単位・4 年・後期

７．社会貢献活動

・福岡県立大学がん看護勉強会（リンパ浮腫）
・西日本がんプロ合同市民公開シンポジウム分科会（乳がん担当）
・第１回キャンサー・ナーシング・カフェ企画、開催（2015.1.31）

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	宮﨑　初

１．教員紹介・主な研究分野

2007 年高知女子大学大学院看護学研究科修士課程看護学専攻修了。その後 4 年間、佐賀県内の病院にて外来、精神科病棟に勤務し、同時にプレ精神看護専門看護師、副看護師長の役割を担ってきました。2010 年 12 月日本看護協会認定の精神看護専門看護師を取得し、2011 年より本学に着任しました。同時に現在、月 4 回程度、非常勤精神看護専門看護師として、病院に出向き、精神科看護師の健康を保ちつつ、楽しみながら看護ができるように支援しています。関心のある分野としては、精神科看護師のメンタルヘルス、精神科外来における精神科看護師のケアです。

教育に関しては、将来看護職者として働く時に必要なコミュニケーション能力の向上と共に、問題志向に捉われず、患者の持っている力・ニーズを見出し、看護の意味を見出した上で患者や家族にアプローチできるように学生を育てていきたいと思っています。また、大学院の 38 単位精神看護専門看護師コースにおいては、精神看護専門看護師としての活動を通して蓄積した知識を、大学院での教育にも活かしていきたいと考えています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

・川野雅資編,宮﨑初, 松枝美智子,宮野香里,安永薫梨,坂田志保路.(2016). 看護実践Science Nursing　精神看護学（家族機能の評価）,110-117,東京, ピラールプレス

・川野雅資編,松枝美智子,宮﨑初, 宮野香里,安永薫梨,坂田志保路.(2016). 看護実践Science Nursing　精神看護学（対人関係論）,36-44,東京, ピラールプレス

・川野雅資編,松枝美智子, 宮野香里,宮﨑初,安永薫梨,坂田志保路.(2016). 看護実践Science Nursing　精神看護学（重篤で難治性の精神障害を持つ人の看護）,200-204,東京, ピラールプレス

・川野雅資編,松枝美智子, 安永薫梨, 宮﨑初,宮野香里,坂田志保路.(2016). 看護実践Science Nursing　精神看護学（不安障害と看護）,190-193,東京, ピラールプレス

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・ 松枝美智子,安永薫梨, 宮﨑初,坂田志保路.(2014）.経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う事と教授-学習活動との関連. 第 34 回日本看護科学学会学術集会. 名古屋,2014 年 11 月

・ 松枝美智子,安永薫梨, 宮﨑初,坂田志保路.(2014）.経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う事とに関連する要素. 第34回日本看護科学学会学術集会. 名古屋,2014年11月

・ 松枝美智子,安永薫梨, 宮﨑初,坂田志保路.(2014）.経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う程度とその理由. 第 34 回日本看護科学学会学術集会. 名古屋,2014 年 11 月

・ 浅井初, 江上史子, 坂田志保路, 安酸史子, 渡邉智子, 松枝美智子, 安永薫梨, 中野榮子, 樣直美, 吉田恭子, 清水夏子, 小森直美, 小野美穂. (2013).経験型実習教育におけるプロジェクト学習の有効性の検討－実習の中間にポートフォリオを活用した学習による体験から－.日本教師学学会第 14 回大会.秋田,2013 年 3 月

・ 江上史子, 浅井初, 坂田志保路, 安酸史子, 渡邉智子, 小森直美, 松枝美智子, 安永薫梨, 中野榮子, 樣直美, 吉田恭子, 清水夏子,小野美穂. (2013).経験型実習教育における学生の学びの内容－3 年生を対象としたフォーカスグループインタビューから－.日本教師学学会第 14 回大会. 秋田,2013 年 3 月

・ 松枝美智子, 安酸史子, 安永薫梨, 浅井初, 坂田志保路, 中野榮子, 渡邉智子, 樣直美, 吉田恭子,江上史子, 清水夏子,小森直美,小野美穂. (2013).経験型実習教育研修プログラムの効果：研修

参加の有無による精神科看護師の教師効力の比較.日本教師学学会第 14 回大会.秋田,2013 年 3 月

③過去の主要業績

・猪狩圭介, 天野昌太郎, 村田尚恵, 浅井初, 黒木俊秀.(2011).精神医療従事者における職業性ストレスの検討と対策. 財団法人メンタルヘルス岡本記念財団　研究助成報告集,Vol.23,23-30.
・浅井初, 野嶋佐由美, 畦地博子. (2009).統合失調症と診断されている発病後間もない当事者の病気とのつきあい方.高知女子大学看護学会,34 巻,1 号,29-35.
・浅井初, 村田尚恵.(2009).「ケースカンファレンスのロールプレイイング」を用いた院内教育の学び,第 40 回日本看護学会-精神看護-学術集会,島根.

５．所属学会

日本看護協会、日本精神科看護技術協会、高知女子大学看護学会、日本専門看護師協議会、日本看護科学学会、日本教師学学会

６．担当授業科目

〈学部〉

精神看護概論・1 単位・2 年・前期、精神看護学・2 単位・2 年・後期、精神看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期、精神看護学演習Ⅱ・1 単位・3 年・通年、精神看護学実習・2 単位・3～4 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・通年、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、卒業研究・2 単位・4 年・通年

〈大学院〉

精神障がい者地域移行・地域定着看護論・2 単位・修士 1 年・通年、精神看護専門看護師役割実習・2 単位・修士 1 年・通年、Advanced 精神看護専門看護師直接ケア実習・2 単位・修士 2 年・通年、Advanced 精神看護専門看護師役割実習・2 単位・修士 2 年・通年、

８．学外講義・講演

・「メンタルヘルスサポート研修」国立病院機構再春荘病院　現任 2 年目研修講師、2015 年 5 月
・「メンタルヘルスサポートができる環境づくり」国立病院機構再春荘病院　現任 4 年目研修講師、2015 年 9 月
・「メンタルヘルスサポートができる環境づくり」国立病院機構再春荘病院　看護管理者研修講師、2015 年 9 月
・「現在の若者の特徴を知る」医療法人和光会一本松すずかけ病院　平成 27 年度院内研修会講師、2016 年 3 月

９. 附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
・松枝美智子,安永薫梨,宮﨑初,坂田志保路,安藤愛.（2015.9）.福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻臨床看護学領域精神看護学分野夏季セミナー／第１回精神看護事例検討会.田川市
・松枝美智子,安永薫梨,宮﨑初,坂田志保路,安藤愛.（2016.3）.福岡県立大学大学院看 護学研究科看護学専攻臨床看護学領域第２回精神看護事例検討会
・松枝美智子,安永薫梨,宮﨑初,坂田志保路,安藤愛.（2016.3）.大学院公開授業(特別研究、課題研究)：グラウンデッド・セオリー・アプローチの理論と実際(講師：慶應義塾大学教授 戈木クレイグヒル滋子先生).

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	吉川　未桜

１．教員紹介・主な研究分野

主に小児看護学教育方法に関する研究と、看護職による子育て支援に関する研究を行っている。少子化により子どもと接したことが少ない学生が、子どもを具体的にイメージでき、子どもと家族への適切な看護が行えるような教育方法の探求・工夫を行っている。また、子どもと家族が心身共に健康に過ごし、健やかな成長発達へと結びつくための看護職によるよりよい子育て支援に向け、現代の子育てを取り巻く環境や現象・養育者の方々のニーズ、地域子育て支援の現場における看護職の役割や専門性、望ましい役割モデルを探究している。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子：赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護技術演習の効果．福岡県立大学看護学部紀要 13 巻 1 号．2016 年 3 月発行予定.

・江上千代美・田中美智子・柏原やすみ・田中美樹・吉川未桜・青野広子・宮城由美子：新卒看護師に対する輸血の準備に関した看護技術教育前後の変化－眼球運動指標による評価－．福岡県立大学看護学部紀要 13 巻 1 号．2016 年 3 月発行予定.

・青野広子・吉川未桜・田中美樹・江上千代美・宮城由美子：小児看護技術支援における看護学部４年生の看護技術動作の傾向と感想の検討．福岡県立大学看護学部紀要 13 巻 1 号．2016 年 3 月発行予定.

・吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子：小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み．福岡県立大学看護学部紀要 12 巻 1 号．2015 年 3 月.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・宮城由美子・吉川未桜・田中美樹・青野広子：食物アレルギー児の緊急対応に関する保育士の認知について．第 21 回日本保育保健学会．鹿児島．2015 年.

・田中美樹・宮城由美子・吉川未桜・柿木里香：外来で検査・処置を受ける子どもと家族の力を引き出すプリパレ―ションツールの開発．第25回日本外来小児科学会．仙台市．2015年.

・田中美樹・宮城由美子・吉川未桜・柿木里香：外来で検査・処置を受ける子どもと家族の力を引き出すプリパレ―ションツールの開発．第 19 回九州外来小児科学研究会．福岡市．2015 年.

・吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子：赤ちゃん先生プログラムを導入した小児看護技術演習における教育効果の検討．第 19 回日本看護研究学会　九州・沖縄地方学術集会．熊本．2014 年.

・青野広子・田中美樹・吉川未桜・宮城由美子：小児看護学外来実習で受け持ち親子制を取り入れた学習効果の検討．第 19 回日本看護研究学会　九州・沖縄地方学術集会．熊本．2014 年.

・吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子：小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み．第 15 回九州・沖縄小児看護教育研究会．熊本．2014 年.

・宮城由美子・柏原やすみ・吉川未桜・田中美樹・青野広子：「保育園におけるアレルギー対応の手引き」導入後の食物アレルギーの認知に関する研究．第 16 回日本子ども健康科学学会．京都．2014 年.

・田中美樹・青野広子・吉川未桜・宮城由美子：外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプレパレーション．第 24 回日本外来小児科学会．大阪．2014 年.

〈その他執筆〉

・吉川未桜．小児看護学執筆分担．第 103 回看護師国家試験（追加試験）の解説．メディカ出版．2014 年.

・吉川未桜．小児看護学執筆分担．2014 年度　必修問題トレーニングテスト　メディカコンクール解答・解説集．メディカ出版．2013 年.
・吉川未桜．小児看護学執筆分担．第 102 回　看護師国家試験問題解説．メディカ出版．2013 年.

３．外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金（若手研究 B）研究代表者，「看護職の専門性を効果的に発揮する子育て支援者コンピテンシーに関する研究」，156 万円，平成 24 年度～平成 27 年度.

５．所属学会

日本看護科学学会・日本小児看護学会・日本看護研究学会・日本小児保健協議会・日本保育園保健学会・九州小児看護教育研究会・子ども健康科学学会

６．担当授業科目

小児看護学・２単位・２年・後期、小児看護学演習Ⅰ・１単位・３年・前期、小児看護学演習Ⅱ・１単位・３～４年・後期～前期、小児看護学実習・２単位・３～４年・後期～前期、統合実習（小児）・２単位・４年・通年、専門看護学ゼミ・２単位・４年・前期、専門看護学ゼミ・２単位・３年・通年、卒業研究・２単位・４年・後期

８．学外講義・講演

・吉川未桜．平成 27 年度田川市ファミリーサポートセンター会員養成講習会「小児看護の基礎知識」講師、田川市．2015 年 7 月 7 日.
・吉川未桜・田中美樹・宮城由美子．ヘルスプロモーション実践研究センター事業：子どもの健康見守り隊：健康保育(年長クラス)．三萩野保育園年５回、北方保育所年５回．北九州.
・田中美樹・宮城由美子・青野広子・吉川未桜：田川郡保育士会学習会．「小児の CPR、不慮の事故への対応」2015 年 7 月 25 日．田川.
・吉川未桜．出前講義「小児科の看護師って？」講師．青豊高等学校．2015 年 9 月 11 日.
・吉川未桜．平成 27 年度田川市子育てボランティア養成講座「乳幼児の心と身体の発達」講師、田川市．2015 年 11 月 10 日.

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究委員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	吉田　静

１．教員紹介・主な研究分野

1998 年から 7 年間，助産師として九州労災病院に勤務．2005 年から 1 年間本学に臨時職員として勤務後，2007 年本学に着任．2009 年 3 月，福岡県立大学大学院修士課程修了．

現在，子供の喪失経験を持つ者の悲嘆過程と医療者の支援を主な研究分野としている．

特に，子供の喪失経験を持つ人々へのケアやサポートの中心は「母親」にあり，「父親」は母親を支える役割を期待され，支援も等閑されやすい．そのためニーズを把握した上で子どもの喪失経験を持つ父親へ提供できるケアモデルを開発し，医療者の役割，課題等を明らかにする．今後は対象を日本人を含むアジアなど視野を広げてグリーフケアを模索していきたい．

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈学術論文〉

・吉田静，佐藤香代，山下恵子，増田匡裕．（2016）．「子どもを喪失した両親に携わる看護者の語りの会」の評価と今後の課題．福岡県立大学看護学部紀要予定

・石村美由紀，佐藤香代，吉田静，林千絵，清田哲子．（2016）．母性衛生，56(4)，692-700.

・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子，邬继红，王琦，侯小妮．（2015）．中国北京における妊婦の食生活と文化．福岡県立大学看護学部紀要 12，25-35.

・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子，邬继红，王琦．（2015）．中国北京における中国伝統医療の現状．福岡県立大学看護学部紀要 12，73-84.

〈その他執筆〉

・仲道由紀，川口弥恵子,吉田静，松原まなみ．(2014)．助産師が認識した自己の現状と課題・未来像　ワールド・カフェ形式ワークショップ後の KPT 法を用いた振り返りから．助産雑誌,68(9),808-816.

・松原まなみ,菱川和江,西本サチ子，田中啓子，大牟田智子，澁谷貴子，仲道由紀，吉田静，阿部聖子，浜崎ヨシ子，平田伸子．(2014)．参加型ワールドショップ「ワールド・カフェ」から得られたもの．助産雑誌,68(8),700-706.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・吉田静，佐藤香代，山下恵子．(2015)．「子どもを喪失した家族に携わる看護者の会」に関する研究．第 56 回母性衛生学術集会，岩手.

・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，石村美由紀，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子(2015)．「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性たちの食生活．第 56 回母性衛生学術集会，岩手.

・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子．（2015）．中国における中国伝統医療の現状―北京中医薬大学を中心とした医療施設の視察を通して－．第 56 回母性衛生学術集会，岩手.

・吉田静，佐藤香代，山下恵子．「子どもを喪失した家族に携わる看護者の語り」に関する研究－企画プログラムの検討とその有用性の検証－．(2014)．第 55 回母性衛生学術集会，千葉.

・安河内静子,佐藤香代,吉田静．病産院における「身体感覚活性化マザークラス」展開時の課題－A 病院助産師へのアンケート調査より－．(2014)．第 55 回母性衛生学術集会，千葉.

・林千絵，石村美由紀,佐藤香代,吉田静,清田哲子．死産を体験した母親の次子妊娠の体験．(2014)．第 55 回母性衛生学術集会，千葉.

・林千絵,石村美由紀,佐藤香代,吉田静,清田哲子．死産を体験した母親の次子出産・育児の体験．(2014)．第 55 回母性衛生学術集会，千葉.

・小林絵里子，佐藤香代，吉田静，安河内静子，鳥越郁代．中国における女子大学生の食文化－中国の文化・教育と食の実態との関連－．(2014)．第 55 回母性衛生学術集会，千葉.

・Ikuyo Torigoe,Shizuka Yoshida, Allison Shorten .Birth choice after cesarean section in Japan: focusing on giving information abaut VBAC and repeat cesarean.ICM30th Triennial Congress, Prague.
・吉田静，佐藤香代．「子どもを喪失した家族に携わる看護者の会」の実践報告．(2014)．第 70 回日本助産師学会，福岡.
・吉田静，佐藤香代，山下恵子，増田匡裕．子どもを喪失した両親に携わる看護者の語りーアンケート調査結果よりー．（2013）．第 54 回母性衛生学術集会，埼玉.
・吉田静，佐藤香代，松岡百子，安河内静子，鳥越郁代，石村美由紀，小林絵里子．「身体感覚活性化マザークラス」に参加した妊婦の気功体験．（2013）．第 54 回母性衛生学術集会，埼玉.
・佐藤香代，吉田静，鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子．中国における妊婦の食生活(第1報)．（2013）．第 54 回母性衛生学術集会，埼玉.
・佐藤香代，吉田静，鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子．中国における妊婦の食生活（第 2 報）．（2013）．第 54 回母性衛生学術集会，埼玉.
・川口弥恵子，仲道由紀，吉田静，松原まなみ．助産師自身が認識した自己の現状と課題ーワールド・カフェ形式のワークショップ後の振り返りの分析ー．（2013）．第 54 回母性衛生学術集会，埼玉.
・鳥越郁代，吉田静．帝王切開分娩を経験した女性の出産選択における意思決定支援に関する調査ー産科を標榜する病院・診療所を対象としてー．（2013）．第 27 回日本助産学会学術集会，石川.
・田嶋比紗乃，吉田静，佐藤香代．日本におけるおむつの変遷．（2013）．第 27 回日本助産学会学術集会，石川.

③過去の主要業績

〈教材開発〉

佐藤香代，安河内静子，吉田静，佐藤繭子，鳥越郁代，小林絵里子，藤木久美子．身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスの哲学と実践．2012 年.
・吉田静，佐藤香代．わが国における「おむつ」の起源．（2012）．第 53 回母性衛生学術集会，福岡.
・吉田静，佐藤香代．子どもを喪失した夫婦に携わる看護者の学習ニーズ．（2011）．第 52 回母性衛生学術集会，京都.
・吉田静．（2009）．子どもを喪失した父親の体験．福岡県立大学大学院修士論文，A4 版　全 68 頁.

４．受賞

家族計画協会長賞，2015 年 11 月 12 日，吉田静.

５．所属学会

日本助産学会，日本母性衛生学会，日本死の臨床研究会

６．担当授業科目

〈学部〉

女性看護学・２単位・２年・後期，女性看護実践論・１単位・３年・通年，女性看護実習・２単位・３年・通年，女性看護学演習Ⅰ・１単位・３年・前期，女性看護学演習Ⅱ・１単位・３～４年・後期～前期，女性看護学実習・２単位・３～４年・後期～前期，専門看護学ゼミ・２単位・３年・通年，卒業研究・２単位・４年・通年

〈大学院〉

ウイメンズヘルス特論・１単位・１年・前期，ウイメンズヘルス演習・１単位・１年・後期，基礎助産学特論・２単位・１年・前期，基礎助産学演習・２単位・１年・通年，助産学特

論・２単位・１年・前期，助産学演習・２単位・１年・後期，助産実践学 1（妊娠期）・２単位・１年・前期，助産学実践Ⅱ（分娩期）・４単位・１年・通年，助産学実習Ⅰ（外来ケア実習）・１単位・１年・前期，助産学実習Ⅱ（周産期ケア実習）・８単位・１年・後期，助産学実習Ⅲ（助産所実習・継続ケア実習）・２単位・２年・前期，助産学実習Ⅳ（ハイリスクケア実習）・１単位・２年・前期，助産学実習Ⅴ（マザークラス実習）・２単位・２年・後期

７．社会貢献活動

・大切な人を亡くした方に寄り添う看護者さんのお茶会 わたしの大切な想いを語る（2016.2.27）
・第 11 回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー（2015.2.21）
・第 9 回東アジアグリーフケアセミナー（2015.12.5-6）
・第 7 回健康大使セミナー（2015.11.20）
・第 20 回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 福岡（2015.10）
・第 11 回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 福岡（2015.6-7）
・第 7 回ペリネイタル・ロス看護者研修プログラム（2015.7.4-5）
・マタニティフェア 2015 イオン福岡モール(2015.6.7)

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助手	氏名	柴北　早苗

１．教員紹介・主な研究分野

成人看護学(慢性期)を担当しています。これまで終末期看護や在宅看護の臨床で多くの患者様やご家族とかかわってきました。現在は、慢性疾患や終末期の患者様に対する退院支援に関心を持っています。慢性疾患を持つ対象とご家族が安心して生活できるためには、看護師は大きな役割が担えると考えています。

２．研究業績

③過去の主要業績

大島操、赤司千波、柴北早苗(2012)；介護付き有料老人ホームと認知症グループホームにおける終末期ケアおよび看取りの現状と看護職者の思い，日本看護研究学会雑誌 35(1)，175-181

５．所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本老年看護学会

６．担当授業科目（補助）

〈学部〉

成人看護学演習Ⅰ・１単位・３年・前期、成人看護学演習Ⅱ・１単位・３年・前期、成人慢性、看護学実習・３単位・3～4 年・後期から前期、統合実習・2 単位・4 年・通年

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助手	氏名	松井　聡子

１．教員紹介・主な研究分野

大学病院内科系病棟で 7 年間勤務する．2009 年から 2 年間本学にて臨時職員として勤務する．2013 年 3 月に福岡県立大学大学院修士課程修了後，同年 4 月より本学に着任し，成人看護学領域の教育に携わっている．

演習での看護技術習得に加え，臨地実習での実践スキル向上を目指し，ｅラーニングシステムを活用して自宅や実習場所で学習が行えるような環境づくりを進めています．

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

・江上史子，松枝美智子，村田節子，松井聡子，永嶋由里子．Ａ県における高度実践看護師の雇用ニーズ調査‐看護管理者が雇用しない理由とその障壁‐．福岡県立大学紀要，13，2016.

・松井聡子，政時和美，杉野浩幸，村田節子，中井裕子．視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～e ラーニングシステムを使用して～．福岡県立大学紀要，12，2015.

・政時和美，松井聡子，笹野莉奈，村田節子，中井裕子．Ａ地区におけるＡＥＤの配置に関する調査研究．福岡県立大学紀要，12，2015.

〈報告書〉

平成 21 年度採択「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想プロジェクト　平成 23 年度中間報告書，177-178 頁，2012．3.

〈その他執筆〉

放送大学看護師国家試験学習支援ツール，放送大学，2012 年.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・松枝美智子，松井聡子，江上史子，渡邊智子，村田節子，永嶋由里子．(2015)．Ａ県内医療機関等の看護管理者によるＡＰＮ教育のあり方に関する要望．日本看護科学学会学術集会．広島国際会議場．広島.

・政時和美，松井聡子，村田節子，中井裕子．(2014)．Ａ地区における ＡＥＤ 設置調査．日本看護研究学会第 40 回学術集会．奈良県民文化会館．奈良.

・清水夏子，石田智恵美，松井聡子，安酸史子．(2013)．看護大学生が抱く実習直前の不安要因についての検討．第 33 回日本看護科学学会学術集会．大阪国際会議場．東京.

〈その他〉

安酸史子監修，北川明編集，松井聡子．(2012)．看護師国試対策　合格パプリ 2013（iOS /Android 版）．メディカ出版株式会社

③過去の主要業績

〈著書〉

松枝美智子，安永薫梨，浅井初，坂田志保路，松井聡子：精神看護学．安酸史子，北川明編，佐藤香代監修：看護師国家試験過去問題「できる」「できない」カード式仕分け Book2012 年．メディカ出版，2011.

〈論文〉

松枝美智子，坂田志保路，安永薫梨，浅井初，梶原由紀子，北川明，中野榮子，安酸史子，安田妙子，政時和美，松井聡子：精神科超長期入院患者の復帰援助レディネス尺度の検討：因子分析と信頼性の検証．福岡県立大学紀要，9（1），2011.

〈学会発表〉

・北川明，山住康江，小野美穂，江上千代美，松浦江美，生駒千恵，石田智恵美，松井聡子，山崎喜比古，米倉佑貴，上野治香，安酸史子．(2012)．慢性疾患セルフマネジメントプログラム参加者のベースラインデータによる不安抑うつ状態に関する研究．第 32 回日本看護科学学会学術集会．東京国際フォーラム．東京．

・山住康江，北川明，小野美穂，江上千代美、松浦江美，生駒千恵，石田智恵美，松井聡子，山崎喜比古，米倉佑貴，上野治香，安酸史子．(2012)．慢性疾患セルフマネジメントプログラム参加者のベースラインデータによるストレス対処能力（ＳＯＣ）に関する研究．第 32 回日本看護科学学会学術集会．東京国際フォーラム．東京．

・安酸史子，北川明，山住康江，小野美穂，松浦江美，山崎喜比古，米倉佑貴，上野治香，石田智恵美，生駒千恵，松井聡子，武田飛呂城．(2012)．慢性疾患患者の自己管理支援について～慢性疾患セルフマネジメントプログラムの評価研究～（交流集会）．第 32 回日本看護科学学会学術集会．東京国際フォーラム．東京．

・・中嶋恵美子，塚原ひとみ，吉武美佐子，松岡緑，稲垣絹代，横川裕美子，石川幸代，坂井邦子，櫨本和代，生野繁子，嘉手苅栄子，宮里智子，砂川洋子，照屋典子，儀間継子，松井聡子，北川明，　松浦賢長，安酸史子．(2012)．臨地実習指導者研修会参加後の認識・行動の変化―九州沖縄看護系 14 大学によるケアリングＣＳＤ実践―．第 32 回日本看護科学学会学術集会．東京国際フォーラム．東京．

５．所属学会

日本看護科学学会，日本看護研究学会

６．担当授業科目（補助）

〈学部〉

成人看護学概論・1 単位・2 年前期，成人急性看護学・2 単位・2 年後期，成人看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年前期，成人看護学演習Ⅱ・1 単位・3 年前期，成人急性看護学実習・3 単位・3 年後期～4 年前期，専門看護学ゼミ・2 単位・4 年前期，専門看護学ゼミ・2 単位・3 年通年，卒業研究・2 単位・4 年後期

７．社会貢献活動

福岡県立大学がん看護勉強会（補助）

９．附属研究所の活動等

福岡県立大学ヘルスプロモーション実践センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	教授	氏名	尾形　由起子

１．教員紹介・主な研究分野

2004 年広島大学大学院保健学研究科博士課程修了。保健師として福岡県庁に勤務後，2004 年，本学看護学部地域看護学領域に着任。2009 年看護学部ヘルスプロモーション看護学教授に就任。

現在，超高齢社会の到来において，高齢者の地域での療養生活を支えるための公衆衛生看護活動の検証を主な研究分野としている。具体的には，①介護予防サービスの質の評価方法②保健師による介護予防のケアシステム構築の検証③医療依存度の高い人々が在宅療養継続のための地域づくりと多職種の連携を主な研究テーマとしている。

進展する高齢社会において，住み慣れた地域で独居でねたきりになっても，安心して暮らし続けることができるための社会システムを看護職や福祉職の方々と共に検討している。また，これまでの実践的な研究をふまえ，地域での健康課題の解決方法について明らかにしていきたいと考えている。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・楢橋明子，尾形由起子，山下清香，小野順子，神経難病患者のために保健師が行った関係機関調整技術，地域看護学会誌，18⑵，2015
・尾形由起子，要介護（支援）高齢者コホート研究―岐阜県郡上市・富山県中新川郡データ分析から―，三徳和子，成瀬優和，坂本由之，簑輪眞澄，編著，グオリティケア，2015
・尾形由起子，北林恭子，内山弘子，阿部久美子，香月進，他，保健所モデルから医師会主導へバトンタッチ－在宅医療推進から地域包括ケアシステム構築を目指して－，地域保健，45（２），2014
・楾直美，尾形由起子，田渕康子，横尾美智代，家族介護者の介護力構成要素と介護負担感との関連」福岡県立大学看護学紀要，第 11 巻 2 号,2014
・山下清香，尾形由起子，小野順子，手島聖子，楢橋明子，野見山美和，地域と共同で実施した地域担当制の地域看護学実習の評価，福岡県立大学看護学部紀要 11⑵, 2014
・山口のり子，尾形由起子，樋口善之，松浦賢長，「子育ての社会化」についての研究　ソーシャル・キャピタルの視点を用いて　日本公衆衛生学会誌　60(２),2013
・楢橋明子,尾形由起子，山下清香，小野順子，手島聖子，野見山美和，A 大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討－「保健師教育の記述項目と卒業時の到達度」に対する学生の自己評価から－，福岡県立大学看護学部紀要 10⑵，2013
・石飛マリ子　越田美穂子　尾形由起子，地域で親と同居している男性統合失調患者が「自立」に向かうプロセス，日本看護研究学会 38（5），2013
・尾形由起子，山下清香，楢橋明子，地域在宅医療推進における保健師の調整技術の検討　福岡県立大学看護学部紀要　10(２),2013
・楢橋明子，尾形由起子，山下清香，小野順子，手島聖子，野見山美和，A 大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討 10(２),2013

②その他最近の業績

〈報告書〉
・尾形由起子，山下清香，小野順子，手島聖子，楢橋明子，旧産炭地における高齢者の介護予防に対するコミュニティ再生に関する研究報告書，2015
・楾直美，尾形由起子（研究分担者），通所サービスにおける家族介護者の介護適応を促す　協同的ケアモデルに関する研究，文科省科学研究（基盤 C）2013
・尾形由起子，山下清香，小野順子，福智町日常生活圏域ニーズ調査報告書，201３

〈学会発表〉

・尾形 由起子，岡田 麻里，山下 清香，眞崎 直子，三徳 和子，楪 直美，在宅看取り実現のための配偶者のセルフマネージメントの検証，第74回日本公衆衛生学会，長崎，2015

・手島 聖子，尾形由起子，山下 清香，小野 順子，楢橋 明子，迫山 博美，中村 美穂子　高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ－世話役住民の役割機能－，第 74 回日本公衆衛生学会，長崎，2015

・楢橋 明子，尾形由起子，山下 清香，小野 順子，手島 聖子，迫山 博美，中村 美穂子　高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ－支援スタッフの役割機能－，第 74 回日本公衆衛生学会，長崎，2015

・山下 清香，尾形 由起子，小野 順子，手島 聖子，楢橋 明子，迫山 博美，中村 美穂子，高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ－世話役住民と支援スタッフの認識から－，第74回日本公衆衛生学会，長崎，2015

・岡本和士，三徳和子，　成瀬優知，　新鞍眞理子，寺西敬子，尾形由起子，真崎直子，　林真二，簑輪真澄，　要介護高齢者の経活要因と生命予後との関連－郡上と富山の 2 地域の比較－，第74回日本公衆衛生学会，長崎，2015

・山口 のり子，平緒 恵，尾形 由起子，田川市地域包括ケアシステム構築の課題抽出についてその１，第74回日本公衆衛生学会，長崎，2015

・平緒 恵，山口 のり子，尾形 由起子，田川市地域包括ケアシステム構築の課題抽出についてその２，第74回日本公衆衛生学会，長崎，2015

・三徳 和子，　岡本 和士，眞崎 直子，　尾形 由起子，　林 真二，石井 英子，山田 裕子，　西岡 洋子，荒金 英理子，簑輪眞澄，視力・聴力の低下と認知症予防の関連，第 74 回日本公衆衛生学会，長崎，2015 廣木 里香，杉本 由利子，津坂 咲江，尾形 由起子，行橋市における保健師の人材育成の試み～事業データ分析の作業を通じて～【第１報】，第74回日本公衆衛生学会，長崎，2015

・廣木 里香，杉本 由利子，津坂 咲江，尾形 由起子，行橋市における保健師の人材育成の試み～母子保健健康課題抽出作業を中心に～【第２報】，第74回日本公衆衛生学会，長崎，2015

・楢橋明子,尾形由起子，山下清香，小野順子，手島聖子，野見山美和，在宅療養神経難病患者の支援ネットワーク形成における保健師調整プロセスの検討，第2回日本公衆衛生看護学会，神奈川，2014

・小野順子　楢橋明子，尾形由起子，山下清香，小野順子，手島聖子，野見山美和，地域で生活する転倒経験のある高齢者の特性―身体的・心理的・社会的状況の分析―，第2回日本公衆衛生看護学会，神奈川，2014

・楪直美，尾形由起子，田渕康子，横尾美智代，家族介護者の介護負担感及び介護継続意思と認知症との関連」第18回日本在宅ケア学会，東京，2014.

・楪直美，尾形由起子，田渕康子・横尾美智代，家族介護者の介護力評価を測定する尺度の構成」第39回日本看護研究学会，秋田，2013

・石飛マリ子，越田美穂子，尾形由起子，地域で親と同居している男性統合失調症患者が「自立」に向かうプロセス，日本看護研究学会学術集会，秋田，2013

・楢橋明子,尾形由起子，山下清香，小野順子，手島聖子，野見山美和，保健師教育の技術項目と卒業時の到達度に対する自己評価と到達率，日本公衆看護学会．東京．2013

・尾形由起子，岡田麻里　山下清香　楪直美　林さやか，地域住民へのエンドオブライフ選択のための支援方法の検討，第７２回日本公衆衛生学会，三重，2013

・四元照美，筬島健一，尾形由起子，施設での看取り教育の取り組み‐地域在宅推進における保健所の役割機能‐，第７２回日本公衆衛生学会，三重，2013

・林真二，三徳和子，真崎直子，岡本和士，尾形由起子，軽度介護保険認定者の疾患と介護度悪化に関する研究，第７２回日本公衆衛生学会，三重，2013

・岡田麻里，尾形由起子，野口忍，在宅看取りを望む終末期がん患者と家族を 支援した訪問看護師のケア内容 -満足な看取りをした 2 事例の分析，第 33 回日本看護科学学会学術集会，大阪，2013
・楙直美，尾形由起子，田渕康子，横尾美智代，家族介護者の介護負担感及び介護継続意思と認知症との関連，第 33 回日本看護科学学会学術集会，大阪，2013.

３．外部研究資金

・尾形由起子（研究代表者），地域における住民の在宅医療セルフマネジメント教育プログラムの開発，文科省科学研究（基盤 C）2014－2016
・尾形由起子（研究分担者），通所サービスにおける家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究，文科省科学研究（基盤 C）2014－2016

５．所属学会

日本地域看護学会，日本公衆衛生学会，日本在宅ケア学会，日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本公衆衛生看護学会，日本学校保健学会

６．担当授業科目

公衆衛生看護学Ⅰ・２単位・２年・後期，家族看護論・１単位・２年・前期，公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・１単位・３年・後期，公衆衛生看護学Ⅱ・２単位・４年・前期，公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ・２単位・４年・前期，公衆衛生看護技術論Ⅰ・２単位・４年・前期，公衆衛生看護技術論Ⅱ・２単位・４年・前期，公衆衛生看護学Ⅲ・１単位・４年・後期，公衆衛生管理論・２単位・４年生・後期，組織協働活動論・２単位・４年・後期，公衆衛生看護学実習Ⅰ・４年・前期，公衆衛生看護学実習Ⅱ・４年・後期，

〈大学院〉

地域看護学特別研究・２単位・修士１年・前期，地域看護学特別演習・２単位・修士１年・後期，看護研究法・２単位・修士１年

７．社会貢献活動

・福岡県地域在宅推進協議会委員（H20 年度～現在に至る）
・地域在宅医療推進協議会員（３ヶ所：京築保健福祉環境事務所，嘉穂保健福祉環境事務所，筑紫保健福祉環境事務所）
・宗像医師会在宅医療連携拠点事業運営委員会（平成 25 年度～現在に至る）
・グループホーム外部評価審査員（～平成 27 年度）
・公益社団法人福岡県看護協会複合型サービス準備・運営委員会委員（平成 26 年度～平成 27 年度）
・田川市地域支え合い体制づくり検討委員会（平成 26 年度～現在に至る）
・築上町地域福祉計画策定委員（委員長）（平成 27 年度）
・みやこ町健康づくり推進委員会(平成 27 年度)
・苅田町教育委員会（平成 25 年～現在に至る）

８．学外講義・講演

・嘉穂地域在宅医療推進事業（看看護連携研修会）（2016.1.28）
・京築ブロック保健師研究会講義（行橋市 2016.1.17）
・筑紫ブロック保健師研究会講義（大野城市 2015.7.22）
・宗像医師会宅医療連携拠点事業シンポジウム（2013.11.9　福津市）
・豊前築上医師会地域医療推進多職種研修会（2016.2.13）
・豊前築上医師会地域住民フォーラム研修会（2016.2.27）
・福岡県公衆衛生看護指導者研修会（2015.3.7）

・福岡県看護実習指導者講習会（2015.6.30）

９．附属研究所の活動等

・地域在宅医療多職種研修会（３回）
・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	教授	氏名	松浦　賢長

１．教員紹介・主な研究分野

母子保健学者，思春期保健学者，性教育学者。

東京大学を卒業後，同大学院に進学し，東京大学医学系研究科博士課程を修了（保健学博士）。日本総合愛育研究所母子保健研究部に研究員として勤務後，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部母子保健学教室に研究助手として勤務。帰国後，京都教育大学教育学部にて衛生学（学部）および学校保健学（大学院）を担当する助教授として教員養成に 10 年間携わる。再度，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部人口・家族計画学教室に助手として勤務し，平成 15 年度から本学看護学部開設と同時に地域看護学講座教授として着任した。その後，学部改組によりヘルスプロモーション看護学系教授。また，本学の附属図書館長を平成 20 年度から 21 年度まで兼務。平成 22 年度～23 年度には，本学の４つのセンターを有する附属研究所長を兼務。平成 24 年度，不登校・ひきこもりサポートセンター長。平成 25 年度から，教員兼務理事を務める。

母子保健学：学会レベルでは，日本小児保健学会が 10 年に一度行う幼児健康度調査（平成 22 年）の委員を務めている。国レベルでは，わが国の母子保健（健やか親子 21）については，第１回中間評価時（2005 年），第２回中間評価時（2009 年），最終評価時（2014 年）に評価研究メンバーとして九州から只一人参画し、健やか親子 21（第２次）策定に係った。また，長年にわたり厚生労働科学研究（山縣然太朗班）のメンバーとして政策研究を遂行してきている。わが国の産後うつ病の頻度の把握をはじめとして，研究成果が厚生労働行政政策に反映されている。わが国の乳幼児健診の標準化にいてもグランドデザインから関わり（山崎嘉久班），わが国で初めての全国標準問診項目の開発を担当した。県レベルにおいても，福岡県の乳幼児健診マニュアルの開発委員長を務めた。現在は，福岡県青少年問題協議会委員長，福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会副委員長，福岡市こども子育て審議会副委員長，北九州市思春期保健連絡会会長などを拝命している。平成 25 年度（12 月 1 日）には，第 26 回日本保健福祉学会学術集会を主催した。本学を保健福祉学の拠点とするべく業績を発信中である。

思春期学：学会レベルでは，日本思春期学会の常務理事および性の健康医学財団の幹事を務める傍ら，九州思春期研究会の会長として，山積する思春期の課題に取り組んでいる。国レベルでは，健やか親子 21 の指標の見直しを担当し，厚生労働省と文部科学省の協力のもと，慎重な性行動を予測する指標の開発を行い，国の政策に反映させた。また，思春期やせ症予防のためのマニュアル（全国版）を開発・出版した。さらに，平成 20 年度からは文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP）」に不登校の子どもたちへの援助力を養成するためのプログラムが採択され，推進責任者としてプログラムを実行した（～平成 22 年度）。県レベルでは，福岡県エイズ・性感染症対策委員を拝命し，また，北九州市の性感染症対策のための大規模調査（2007 年）、久留米市の思春期問題調査（2014 年）を担当した。平成 23 年度（8 月 26 日～28 日）には，第 30 回日本思春期学会学術集会を主催した。

性教育学：学会レベルでは，いまだ学問として発展途上にあることから，性教育学を確立するべく，全国の若手研究者とともに性教育学構築フォーラムを主催し，わが国で初めてとなる性教育学の書籍を出版した。国レベルでは，カプラン・マイヤー法を初めて用いた日本人の性行動の分析をおこない，厚生労働省人口問題研究所等から評価を受けた。また，新しい学校性教育のスタイルである「カフェテリア方式」を開発し，全国に導入されている。現在は全国の若手研究者とともに「思いやり」と「共感」の違いに着目しつつ，脳科学・進化心理学の成果を利用し，性教育学モデルを組み立てている。県レベルでは，福岡県の性教育関連事業の委員等を務め，小集団学習福岡方式の開発に寄与した。

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

松浦賢長，小林康毅，苅田香苗（編著）．(2013.3)．コンパクト公衆衛生学（第 5 版）．東京：朝倉書店.

３．外部研究資金

・文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築：5,019 万円．取組担当者.
・日本学術振興会「科学研究費補助金基盤研究（A)」，卒後 1 年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究：980 万円．研究代表者.
・厚労省厚生労働科学研究費補助金，平成 27 年度成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業）「健やか親子 21」の最終評価・課題分析及び次期国民健康運動の推進に関する研究」班：80 万円，（主任研究者：山梨大学教授 山縣然太朗）．分担研究者.
・平成 27 年度日本医療研究開発機構（AMED）成育疾患克服等総合研究事業「乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究」：50 万円，（主任研究者：あいち小児保健医療総合センター 山崎嘉久）．分担研究者.

５．所属学会

日本思春期学会（常務理事），日本保健福祉学会（理事），日本看護科学学会（社員），日本公衆衛生学会，日本小児保健学会，日本母性衛生学会，日本健康教育学会，日本学校保健学会，日本民族衛生学会，日本性感染症学会，日本ヘルスプロモーション学会，日本性科学会

６．担当授業科目

〈学部〉

公衆衛生学（１年生)，保健統計学，疫学，学校保健学，性教育学，教育方法論，健康教育論，養護実習（教育実習)，養護実習事前事後指導，教職実践演習，専門看護ゼミ，卒業研究，不登校ひきこもり援助論，不登校ひきこもり援助演習，社会貢献論

〈大学院〉

看護研究法，ヘルスプロモーション科学，ヘルスプロモーション看護学特別研究，思春期ヘルスプロモーション特論／同演習

７．社会貢献活動

・日本思春期学会・常務理事
・財団法人性の健康医学財団・幹事
・九州思春期研究会・会長
・福岡県青少年問題協議会・委員長
・福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会・副委員長
・北九州市思春期保健連絡会・会長
・福岡市こども子育て審議会・副委員長
・ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアム・取組担当者

８．学外講義・講演

松浦賢長．(2015.10)．性に関する指導の現状と課題．平成 25 年度 福岡県教育委員会 教職経験 5 年経過 養護教諭研修 校外研修会，福岡市.

９．附属研究所の活動等

不登校・ひきこもりサポートセンター幹事教員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	准教授	氏名	山下　清香

１．教員紹介・主な研究分野

行政の保健師の活動を主な研究のテーマとし、住民参加やエンパワーメント、地域ケアシステム、保健師教育について研究している。障害児の療育、地域における生活習慣病予防対策等に関心をもっている。行政で働く保健師との関わりを大切にしながら、地域における住民の生活と、行政で働く保健師の視点や判断、援助内容などの実態を明らかにしたい。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・楢橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・野見山美和．（2013）．A 大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討―「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」に関する学生の自己評価から―．福岡県立大学看護学研究紀要，第 10 巻第 2 号）

・尾形由起子・山下清香・楢橋明子・伊藤順子．（2013）．地域在宅医療推進における保健所保健師の調整技術の検討－保健所での多職種連携会議に焦点をあてて－．福岡県立大学看護学研究紀要，第 10 巻第 2 号

・山下清香・尾形由起子・小野順子・手島聖子・楢橋明子・野見山美和．（2014）．地域と共同で実施した地域担当制の地域看護学実習の評価．福岡県立大学看護学研究紀要，第 11 巻第 2 号

・楢橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子．（2015）．神経難病患者の在宅療養のために保健師が行った関係機関調整技術．日本地域看護学会誌，第 18 巻第 2-3 号

・山下清香・尾形由起子・小野順子・手島聖子・楢橋明子・迫山博美．（2015）．地域の介護予防活動の推進における保健師の役割について－高齢者サロンの世話役および指導員の認識から－．福岡県立大学看護学研究紀要，第 13 巻第 1 号

・迫山博美・尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・楢橋明子・中村美穂子．（2015）．地域における高齢者に対する介護予備活動の現状と課題－A 町のふれあい交流活動の分析を通して－．福岡県立大学看護学研究紀要，第 13 巻第 1 号

②その他最近の業績

〈報告書〉

尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・楢橋明子・迫山博美（2015）．旧産炭地における高齢者の介護予防に対するコミュニティ再生に関する研究　平成 26 年度福岡県立大学研究奨励交付金　プロジェクト研究成果報告書

〈学会発表〉

・楢橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・野見山美和（2013）．A大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討―3 年次・4 年次の地域看護実習を通して―．第 1 回日本公衆衛生看護学会，東京

・楢橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子（2014）．在宅療養神経難病患者の支援ネットワーク形成における保健師の調整プロセスの検討．日本公衆衛生看護学会学術集会．小田原．

・小野順子・尾形由起子・山下清香・手島聖子・楢橋明子（2014）．地域で生活する転倒経験のある高齢者の特性―身体的・心理的・社会的状況の分析―．日本公衆衛生看護学会学術集会．小田原．

・楢橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・迫山博美（2015）．高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ－支援スタッフの役割機能－．日本公衆衛生学会学術集会．長崎

・手島聖子・尾形由起子・山下清香・小野順子・楢橋明子・迫山博美（2015）．高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ－世話役住民の役割機能－．日本公衆衛生学会学術集会．長崎

・山下清香・尾形由起子・小野順子・手島聖子・楢橋明子・迫山博美（2015）．高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ－世話役住民と支援スタッフの認識から－．日本公衆衛生学会学術集会．長崎

③過去の主要業績

・山下清香（2005）．経過観察児の母親のエンパワーメントに関する研究―乳幼児健診のフォロー事業の参加者を通して―．修士論文
・有原一江，安齋由貴子，伊井久美子，右京信治，尾崎米厚，山下清香他６名（2005）．「平成17年度地域保健総合推進事業：市町村保健活動体制強化に関する検討会」報告書.
・山下清香，尾形由起子，野見山美和，野口藍子（2008）．（平成18～19年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究報告書「生活習慣病対策における市町村支援活動モデルの開発－保健師エンパワーメントモデル－」

５．所属学会

日本地域看護学会，日本公衆衛生学会，日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本糖尿病教育・看護科学学会，日本公衆衛生看護学会

６．担当授業科目

教養演習（2単位，1年前期），専門職連携入門（1単位，1年後期），公衆衛生看護学Ⅰ（2単位，2年後期），専門看護学ゼミ（2単位，3年通年），家族看護学（1単位，3年前期），公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ（1単位，3年後期），統合実習（2単位，4年通年），,卒業研究（2単位，4年通年），公衆衛生看護学Ⅱ（2単位，4年前期），公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ（2単位，4年前期），公衆衛生看護技術論Ⅰ（2単位，4年前期），公衆衛生看護技術論Ⅱ（2単位，4年前期），公衆衛生看護学実習Ⅰ（1単位，4年前期），組織協働活動論（2単位，4年後期），公衆衛生看護学Ⅲ（1単位，4年後期），公衆衛生看護管理論（2単位，4年後期），公衆衛生看護学実習Ⅱ（4単位，4年後期），ヘルスプロモーション看護学特別研究（2単位，大学院）

７．社会貢献活動

・福岡県「福岡県感染症の診査に関する協議会」委員
・田川市「田川市民健康づくり推進協議会」委員
・田川市「田川市防災会議」委員
・福智町「福智町健康づくり推進協議会」委員

９．附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任教員
・オレンジリボン運動

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	講師	氏名	原田　直樹

１．教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科を卒業，同志社大学大学院文学研究科社会福祉学専攻を修了．社会福祉士，精神保健福祉士.

障害者福祉の現場を経験した後，2008 年より福岡県立大学附属研究所不登校・ひきこもりサポートセンターに専門研究員として勤務し，2010 年 8 月に看護学部ヘルスプロモーション看護学系学校保健領域の教員として着任しました.

主な研究分野は，①不登校・ひきこもり支援の理論と実践に関する研究，②不登校・ひきこもり支援における大学生ボランティアの有効性に関する研究，③学校を中心とした地域社会における子育て環境に関する介入的研究です.

とりわけ不登校・ひきこもり支援の理論と実践に関する研究では，個人因と環境因との関係性に焦点を当て，様々な角度から不登校・ひきこもりへの支援実践理論の構築に向けた研究に取り組んでいます．学校保健福祉の視点から，学校内において養護教諭が果たす支援者としての役割とその具体的な実践内容についての研究を進めたいと考えています.

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

原田直樹．(2015)．第 4 章 4 節．非行立ち直り支援の.取り組み，第 4 章 5 節．思春期における不登校児童生徒の支援，保健福祉学，日本保健福祉学会編著，北大路書房．65-73

〈論文〉

・三並めぐる，福山聡美，原田直樹，梶原由紀子，松浦賢長，岡多枝子．(2014)．不登校児童生徒のきょうだいの経験と支援に関する考察．福岡県立大学看護学部紀要，第 11 巻第 1 号，11-20

・原田直樹．(2013)．幼児健康度調査における発達に関する項目の通過率についての検討．保健の科学，第 55 巻第 8 号，杏林出版．535-542

・梶原由紀子，原田直樹，三並めぐる，増満誠，松浦賢長．(2013)．特別支援学校教員の特定行為実施における期待感・不安感に関する研究．日本保健福祉学会誌, 第 20 巻第 1 号，21-34

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・秦野環，日高艶子，原田直樹，松浦賢長他．(2015)．大学間連携における VOD 化による聴講システム構築の試み．第 35 回日本看護科学学会学術集会，広島.

・梶原由紀子，中山晃志，原田直樹，松浦賢長他．(2015)．看護学生を対象とした国際活動実施施設における短期研修プログラムの学生の学びと課題．　第 35 回日本看護科学学会学術集会看護学，広島.

・原田直樹，三並めぐる，梶原由紀子，松浦賢長．(2013)．特別支援学校におけるスポーツ振興の現状と課題－全国調査の結果から－．第 32 回日本思春期学会総会・学術集会，和歌山.

・三並めぐる，梶原由紀子，原田直樹，松浦賢長．(2013)．喫煙防止教育が喫煙行動に与える影響について－大学生の調査から－．第 32 回日本思春期学会総会・学術集会，和歌山.

③過去の主要業績

〈論文〉

・原田直樹，野見山晴佳，三並めぐる，梶原由紀子，松浦賢長．(2012)．中学校における発達障害が疑われる生徒に対する生徒指導に関する研究．福岡県立大学看護学部紀要，第 10 巻第 1 号，1-12

・原田直樹，梶原由紀子，吉川美桜，樋口善之，江上千代美，四戸智昭，杉野浩幸，松浦賢長.(2011)．不登校児童生徒の状況と対応に苦慮する点に関する調査研究－家庭支援へ向けての考察－．福岡県立大学看護学部紀要第８巻第１号，11-18
・原田直樹，梶原由紀子，吉川美桜，樋口善之，江上千代美，四戸智昭，杉野浩幸，松浦賢長.(2011)．学校の児童生徒への大学生ボランティアによる支援のニーズに関する研究．福岡県立大学看護学部紀要第８巻第１号，1-9
・原田 直樹，松浦 賢長．(2010)．学習面・行動面の困難を抱える不登校児童・生徒とその支援に関する研究．日本保健福祉学会誌，第 16 巻第 2 号, 13-22

３．外部研究資金
・文部科学省，科学研究費補助金(基盤研究 C)，不登校児童生徒への効果的な支援方法を検討する追跡調査－大学生の関わりを中心に－，208 万円，平成 26 年度～平成 28 年度

４．所属学会
日本保健福祉学会，日本思春期学会，日本学校ソーシャルワーク学会，日本地域福祉学会，日本学校保健学会，日本看護学会，福岡県立大学社会福祉学会

６．担当授業科目
情報処理演習Ⅰ・1 単位・1 年・前期，情報処理演習Ⅱ・1 単位・1 年・前期，不登校・ひきこもり援助論・2 単位・1 年・前期，社会貢献論・2 単位・1 年，統計学・2 単位・1 年・後期，公衆衛生学・2 単位・1 年・後期，保健統計学・2 単位・2 年・前期，養護概説・2 単位・2 年・後期，教育方法論・2 単位・2・3 年・後期，学校保健・1 単位・4 年・前期，養護実習・1 単位・4 年・前期，養護実習事前事後指導・1 単位・4 年・前期，公衆衛生学・1 単位・4 年・後期，教職実践演習(養護教諭)・2 単位・4 年・後期，不登校・ひきこもり援助応用演習・1 単位・4 年・後期，専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期，卒業研究・2 単位・4 年・後期，思春期ヘルスプロモーション特論・2 単位・大学院 1 年・前期，思春期ヘルスプロモーション演習・2 単位・大学院 1 年・後期

７．社会貢献活動
・日本保健福祉学会幹事長
・九州思春期研究会幹事
・赤村子ども・子育て会議会長
・特定非営利活動法人ひこうせん理事長
・田川市立鎮西小学校 学校評議員・学校関係者評価委員

８．学外講義・講演
・穂波東中学校．薬物乱用防止教室講師，2015 年
・方城中学校．薬物乱用防止教室講師，2015 年
・糸田小学校．薬物乱用防止教室講師，2015 年
・金田中学校．薬物乱用防止教室講師，2015 年
・嘉穂小学校．保護者と学ぶ児童生徒の規範意識育成事業講師，2015 年
・平成 27 年度糸田町青少年健全育成推進会議「いとだっ子の健全育成講演会」講師，2016 年

９．附属研究所の活動等
・不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ
・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	講師	氏名	吉田　恭子

１．教員紹介・主な研究分野

高齢社会を支える一つの方法としての介護保険法は，在宅療養者やその家族，その人々を取り巻く保健福祉医療職種の在り方を再考する機会となりました．要援護者の増加への対策を中心に介護保険法は改正を繰り返しており，介護予防への取り組みと同時に，多死時代を迎えるにあたり，死にゆく人と家族へのケアも重要になってきます．そのため，在宅療養中の高齢者とその家族のケアマネジメントをテーマとして，質の高い生活を維持できるような看護実践の検討について考えています．また，病歴が長い糖尿病を抱える高齢者への関わりを検討しています．

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

・吉田恭子，渡邉智子．(2014)．10 年後もその先も，住みたいところに住み続ける互助・共助―地域住民の支え合いを活用した支援プログラムの効果と課題―，認知症ケア事例ジャーナル，第 6 巻第 4 号，391-396

・吉田恭子，勝田和典，酒井出，井上俊孝，権藤美和子，堤素子．(2012)．韓国大田広域市における高齢者福祉の現状―大田広域市の現地調査を通して―，九州社会福祉研究，第 37 号，15-26

・楪直美，吉田恭子，江上史子，福田和美，安酸史子．(2011)．地域住民の主体的健康活動の質を高める支援に関する検討―参加・共同型看護ゼミでの体験を通して得られた効果の検証―，福岡県立大学看護学研究紀要，第 8 巻第 2 号，75-82

・清水夏子，吉田恭子，永嶋由理子，渡邉智子，江上千代美，小森直美，安永薫梨，尾形由紀子，中野榮子，石川フカヱ，鳥越郁代，宮城由美子，野口藍子．(2011)．助教・助手を対象とした経験型実習教育での直接的経験の教材化に関する研修会実践報告―ロールプレイを活用した学びの検討―，福岡県立大学看護学研究紀要，第 8 巻第 1 号，37-45

〈調査研究報告書〉

・吉田恭子，渡邉智子．(2012)．「認知症高齢者のためのご近所相談員育成プログラムの開発―高齢者どうしの共助による地域ケア再生を目指して―」平成 23 年度田川市と福岡県立大学との共同研究報告書(中間)

・吉田恭子，渡邉智子，江上史子．(2011)．「小規模多機能型居宅介護における看取りに向けた専門職チームへの教育プログラムの検討」平成 22 年度看護系学会等社会保険連合研究助成報告書

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・吉田恭子，岡崎美智子，中島洋子，山崎尚美，岡部由紀夫，小規模多機能型居宅介護での看取りにおける専門職の調整技術，第 28 回日本看護福祉学会学術集会，2016 年 7 月．

・勝田和典，吉田恭子，在宅医療推進時代における退院調整の困難の現状，第 27 回日本看護福祉学会学術大会，2014 年 7 月．

・吉田恭子，渡邉智子，地域住民の互助を活かした認知症高齢者の支援プログラム　第2報，第 14 回日本認知症ケア学会大会，2013 年 6 月．

・吉田恭子，岡崎美智子，平木尚美，岡部由紀夫，中島洋子，小規模多機能型居宅介護における看取りケア，第 26 回日本看護福祉学会学術集会，2013 年 7 月．

・吉田恭子，渡邉智子，地域住民の互助を活用した認知症高齢者の支援プログラム　第1報，第 13 回日本認知症ケア学会大会，2012 年 5 月．

・吉田恭子，渡邉智子，江上史子，小規模多機能型居宅介護における看取りに向けた専門職チームの教育プログラムの検討，第 25 回日本看護福祉学会学術集会，2012 年 7 月．

・梅木美恵，迎田直美，土谷祐子，樋口絹代，吉田恭子，独居や高齢者世帯が多い地域での在宅サービス調整を困難にしている現状―介護支援専門員が苦悩している事例から―，第 43 回日本看護学会　地域看護，2012 年 9 月.
・楙直美，吉田恭子，安酸史子，中野榮子，渡邉智子，松枝美智子，江上史子，安永薫梨，浅井初，坂田志保路，清水夏子，小森直美，小野美穂，経験型実習教育におけるプロジェクト学習の有効性の検討―ポートフォリオを活用した学習による臨地実習への不安の軽減―，第 32 回日本看護科学学会学術集会，2012 年 11 月.
・吉田恭子，渡邉智子，江上史子，小規模多機能型居宅介護における看護･介護への思い，第 12 回日本認知症ケア学会大会，2011 年 9 月.
・石本佐和子，吉田恭子，生きがいを見出せない維持透析患者の気持ちが前向きに変化した支援―家族エンパワーメントモデルを用いての看護の振り返り―，第 16 回日本糖尿病教育･看護学会学術集会，2011 年 9 月.
・桑原京子，吉田恭子，「看護の教育的関わりモデル Ver.6.1」に基づく看護過程の検討～高齢糖尿病患者への関わりを振り返っての考察～，第 16 回日本糖尿病教育･看護学会学術集会，2011 年 9 月.
・松崎ふみ，吉田恭子，緩徐進行 1 型糖尿病患者の学ぶ気持ちへの支援における視点～成人教育論を用いて～，第 16 回日本糖尿病教育･看護学会学術集会，2011 年 9 月.

〈商業誌掲載〉

吉田恭子（共著）．（2012）．患者さん・スタッフの質問にナースが答える糖尿病ケア Q&A200. 糖尿病ケア 2012 年春季増刊，209-213

③過去の業績

吉田恭子．（2010）．2 年課程通信制看護教育「在宅看護論」における新聞記事を用いた教育方法の検討―成人教育学モデルの観点から―，九州社会福祉研究，第 35 号，59-72

３．外部研究資金

文部科学省，科学研究費補助金（基盤研究 C），「小規模多機能型居宅介護における看取りケアに関する研究」，平成 26 年～平成 28 年度，4,030,000 円

５．所属学会

日本看護福祉学会，日本認知症ケア学会，日本老年看護学会，日本社会福祉学会，日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本看護研究学会

６．担当授業科目

在宅看護学概論・1 単位・2 年・前期，在宅看護学・2 単位・2 年，在宅看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期，在宅看護学演習Ⅱ・1 単位・3~4 年・通年，在宅看護学実習・2 単位・3~4 年・通年，専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年，統合実習・2 単位・4 年・前期，卒業研究・2 単位・4 年・後期

７．社会貢献活動

・福岡県立大学看護実践教育センターの糖尿病看護認定看護師教育過程で「ライフステージに応じた生活調整･療養支援」「患者及び家族･重要他者などの対象理解」を担当
・朝倉医師会在宅医療連携拠点事業運営委員会

８．学外講義・講演

終末期ケア研修，神戸市小規模多機能型居宅介護事業所連絡会，2015 年 8 月

９．附属研究所の活動等

福岡県立大学ヘルスプロモーション実践センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	梶原　由紀子

１．教員紹介・主な研究分野

看護師として，重心障害児者病棟，消化器内科・小児科で勤務。また，平成 24 年に本学看護学研究科を修了しました。研究については，養護教諭の危機管理力の研修の開発に関して取り組んでいます。医療技術の進歩や在宅医療の推進，ノーマライゼーション理念の普及に伴って重度の障害がありつつ地域で暮らす子どもが増加しています。今後，地域の学校に通学する子どもたちが増加することが予想され，地域の学校においては，緊急時には専門的な対応を必要とすることも考えられます。その際，保健管理の中核を担う養護教諭の役割も大きいと考えられます。養護教諭として資質の向上が求めらる中で，具体的な対策の現状や課題，また，研修においてどのようなプログラムが必要か等，プログラムの開発を行っていくとともに，児童生徒一人一人が安全に，そして安心したケアを受けるための研究を深めていきたいです。

２．研究業績

①最近の著書・論文

渡辺多恵子，渡辺裕一，安梅勅江編著；日本保健福祉学会編集．(2015)．保健福祉学　当事者主体のシステム科学の構築と実践，第 4 章 7 節　医療的ケアを必要とする子どもと親の支援，北大路書房．77-80.

〈論文・報告書〉

・梶原由紀子.(2015)，養護教諭の危機対応力の研修に関する研究調査，平成 26 年度福岡県立大学研究奨励交付金若手奨励研究報告.

・渡辺多恵子，樋口善之，原田直樹，三並めぐる，梶原由紀子，鈴木茜，仁木雪子，秋山有佳，篠原亮次，市川香織，玉腰浩司，松浦賢長，山縣然太朗．(2014)．7.EPDS による産後うつ頻度の把握に関する研究～健やか親子 21 最終評価に向けて～．平成 25 年度 厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業，「『健やか親子 21』の最終評価・課題分析及び次期国民健康運動の推進に関する研究」 分担研究報告書，470-475

・樋口善之，三並めぐる，原田直樹，梶原由紀子，阿部眞理子，森慶恵，豊田菜穂子，福島由美子，土井智子，香田由美，内田郁美，徳永久美子，楕松真紀子，渡辺多恵子，北村喜一郎，鈴木茜，仁木雪子，磯田宏子，三國和美，丸岡里香，笠井直美，中野貴博，秋山有佳，篠原亮次，松浦賢長，山縣然太朗．(2014)．8.思春期やせ症及び不健康やせの発生頻度に関する研究．平成 25 年度 厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業，「『健やか親子 21』の最終評価・課題分析及び次期国民健康運動の推進に関する研究」分担研究報告書，476-481.

・三並めぐる，福山聡美，原田直樹，梶原由紀子，松浦賢長，岡多枝子．不登校児童生徒のきょうだいの経験と支援に関する研究．福岡県立大学看護学研究紀要 11 (1)，11-20，2014.

・梶原由紀子，原田直樹，三並めぐる，増満誠，松浦賢長．特別支援学校教員の特定行為実施における期待感・不安感に関する研究.(2013)．日本保健福祉学会誌，2013.Vol.20，No. 1，査読有，21-34.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・梶原由紀子，中山晃光，秦野環，照屋典子，木村弘江，佐藤千春，原田直樹，松浦賢長．(2015．12) 看護学生を対象とした国際看護実施施設における短期研修プログラムの学生の学びと課題，第 35 回日本看護科学学会学術集会，広島.

・樋口善之，三並めぐる，原田直樹，梶原由紀子，松浦賢長，山縣然太郎．（2014，8）思春期やせ症及び不健康やせの発生頻度に関する研究，第 62 回九州学校保健学会，福岡.

・梶原由紀子，三並めぐる，原田直樹，松浦賢長（2013，9）学童期の子どもの空腹感の時間帯と生活習慣の関連について．第 32 回日本思春期学会総会・学術集会，和歌山.

・原田直樹，三並めぐる，梶原由紀子，松浦賢長（2013，9）特別支援学校におけるスポーツ振興の現状と課題-全国調査の結果から-.第 32 回日本思春期学会総会・学術集会，　和歌山.
・三並めぐる，梶原由紀子，　原田直樹，松浦賢長（2013，9）喫煙防止教育が喫煙行動に与える影響について-大学生の調査から-.第 32 回日本思春期学会総会・学術集会，　和歌山.
・梶原由紀子.（2013，9）特別支援学校養護教諭の特定行為実施におけるリスク認識に関する研究，第 26 回日本保健福祉学会学術集会，福岡.

③過去の主要業績

〈論文〉

・梶原由紀子，原田直樹，三並めぐる，宮路雅也，山崎喜久，松浦賢長，山縣然太郎．特別支援学校における特定行為に関する研究　～全国の特別支援学校へのアンケート調査の結果～厚生労働科学研究（育成疾患克服等次世代育成基盤研究事業）健やか親子２１を推進するための母子保健情報の利活用に関する研究（2012）．平成 23 年度総括・分担研究報告書，査読無，102－107.
・原田直樹，野見山晴香，三並めぐる，梶原由紀子，松浦賢長．中学校における発達障害が疑われる生徒に対する生徒指導に関する研究．福岡県立大学看護学部研究紀要 2012，査読あり，1-9.2012 年 12 月号.
・原田直樹，梶原由紀子，吉川美桜，樋口善之，江上千代美，四戸智昭，杉野浩幸，松浦賢長.(2011)．不登校児童生徒の状況と対応に苦慮する点に関する調査研究－家庭支援へ向けての考察－．福岡県立大学看護学部紀要第 8 巻第 1 号，11-18

３．外部研究資金

文部科学省，科学研究費補助金(若手研究Ｂ)，インクルーシブ教育における養護教諭の危機対応力向上に関する短期研修プログラム開発，182 万円，平成 27 年度～平成 29 年度

５．所属学会

日本看護研究学会，日本看護科学学会，日本思春期学会，日本学校保健学会，九州学校保健学会，日本精神保健看護学会，九州思春期研究会.

６．担当授業科目（補助）

公衆衛生学・2 単位・1 年・後期，養護概説・2 単位・2 年・後期，保健統計学・2 単位・2 年・後期，教育方法論・2 単位・看護 2 年編入 3 年／人社 3 年・後期，疫学・2 単位・2 年・後期，性教育学・2 単位・看護 4 年／人社 3 年・前期，養護実習事前事後指導・1 単位・4 年・前期，学校保健・ 1 単位・4 年・前期，養護実習・4 単位・4 年・前期，不登校・引きこもり援助応用演習・2 単位・4 年・後期，専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・前期，統合実習・2 単位・4 年・後期，卒業研究・2 単位・4 年・後期，教職実践演習（養護教諭）・2 単位・4 年・後期

７．社会貢献活動

・九州思春期研究会，幹事
・鎮西プロジェクト地域推進協議会，委員
・田川総合型地域スポーツクラブ EAST クラブ実行委員

８．学外講義・講演

筑紫地区小中学校養護教諭研究会「学校における養護教諭が行う危機管理への対応の在り方」講師

９．附属研究所の活動等

・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
・不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	手島　聖子

１．教員紹介・主な研究分野

2000 年から乳幼児健康診査を通した養育者の育児ストレスと育児支援システムについて研究を進めています．本研究は，乳幼児虐待問題という最も先鋭化されたかたちで現れている子育ての危機の内実とその援助のあり方を，乳幼児健康診査を手がかりにしながら理論面と実践面での両面からのアプローチを目指したものです．具体的には，養育者が安心して育児ができる環境を構築するために，子どもの発達過程に応じた養育者の育児ストレスや育児不安，育児ストレスに影響を与える個人的・社会的要因を短時間に把握できる質問紙を作成し，心理的・社会的に困難な状況におかれている養育者の育児不安や育児ストレスを早期に把握するための調査を実施しています．作成した尺度の有用性や育児不安の縦断的変化についての検討，養育者へのインタビューなどから，母子保健システムに虐待の視点を取り入れた多層的な育児支援システムのあり方について考察しています．

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

・楢橋明子，尾形由起子，山下清香，小野順子，手島聖子，野見山美和．（2013）．Ａ大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討－「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」に対する学生の自己評価から－．福岡県立大学看護学研究紀要，10（12），73－82.

・山下清香，尾形由起子，小野順子，手島聖子，楢橋明子，野見山美和．（2014）．地域と共同で実施した地域担当制の地域看護学実習の評価. 福岡県立大学看護学研究紀要, 11 (2), 53－61.

・迫山博美，尾形由起子，山下清香，小野順子，手島聖子，楢橋明子，中村美穂子．（2016）．地域における高齢者に対する介護予防活動の現状と課題－Ａ町のふれあい交流活動の分析を通して－．福岡県立大学看護学研究紀要，13，57－65.

・山下清香，尾形由起子，小野順子，手島聖子，楢橋明子，迫山博美．（2016）．地域の介護予防活動に推進における保健師の役割について－高齢者サロンの世話役及び指導員の認識から－．福岡県立大学看護学研究紀要，13，35－49.

〈報告書〉

尾形由起子，山下清香，小野順子，手島聖子，楢橋明子，本郷秀和，村山浩一郎．（2014）．旧産炭地における高齢者の介護予防に対するコミュニティ再生に関する研究報告書.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・楢橋明子，尾形由起子，山下清香，小野順子，手島聖子，野見山美和．Ａ大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討－３年次・４年次の地域看護実習を通して－，第１回日本公衆衛生看護学会．2013 年１月，東京.

・小野順子，尾形由起子，山下清香，手島聖子，楢橋明子．地域で生活する転倒経験のある高齢者の特性―身体的・心理的・社会的状況の分析―. 第２回日本公衆衛生看護学会. 2014 年１月，小田原.

・手島聖子，尾形由起子，山下清香，小野順子，楢橋明子．保健師のリカレント教育を考える―卒業生への新人保健師交流会を開催して（第一報）―. 第３回日本公衆衛生看護学会. 2015 年１月，神戸.

・手島聖子，尾形由起子，山下清香，小野順子，楢橋明子，迫山博美，中村美穂子．高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ 世話役住民の役割機能．第 72 回日本公衆衛生学会学術集会．2015 年 11 月，長崎.

・楢橋明子，尾形由起子，山下清香，小野順子，手島聖子，迫山博美，中村美穂子．高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ 支援スタッフの役割機能．第 72 回日本公衆衛生学会学術集会．2015 年 11 月，長崎．
・山下清香，尾形由起子，小野順子，手島聖子，楢橋明子，迫山博美，中村美穂子．高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ－世話役住民と支援スタッフの認識から－，第 72 回日本公衆衛生学会学術集会．2015 年 11 月，長崎．

③過去の主要業績

・手島聖子．(2002)．養育者の育児ストレスと育児支援システム：乳幼児健康診査を通した子育て支援と児童虐待の予防について．(財) 安田生命社会事業団 2001 年度研究助成論文集，37，30-38.
・手島聖子，原口雅浩．(2003)．乳幼児健康診査を通した育児支援：育児ストレス尺度の開発．福岡県立大学看護学部紀要，1 (1)，15-27.
・手島聖子，原口雅浩．(2004)．育児不安の構造．久留米大学心理学研究，3，83-88.

５．所属学会

日本公衆衛生学会，日本看護科学学会，日本地域看護学会，日本心理学会，日本発達心理学会，日本公衆衛生看護学会

６．担当授業科目

教養演習・１単位、１年・前期、公衆衛生看護学Ⅰ・２単位、２年・後期、専門看護学ゼミ・２単位、３年・通年、家族看護学・１単位、３年・前期、在宅看護学演習・１単位、３年・前期、公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・１単位、３年・後期、卒業研究・２単位、４年・通年、統合実習・２単位、４年・通年、公衆衛生看護学Ⅱ・２単位、４年・前期、公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ・２単位、４年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅰ・２単位、４年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅱ・２単位、４年・前期、公衆衛生看護学実習Ⅰ・１単位、４年・前期、組織協働活動論・２単位、４年・後期、公衆衛生看護学Ⅲ・１単位、４年・後期、公衆衛生看護管理論・２単位、４年・後期、公衆衛生看護学実習Ⅱ・４単位、４年・後期

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	楢橋　明子

１．教員紹介・主な研究分野

保健師として保健所に勤務し，主に難病対策，感染症対策に関わった後，2009 年に本学に着任した．2012 年，福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了，修士号(看護学)を取得した．

病気や障害を持っても自宅で生活できる地域づくりに興味を持っており，具体的に取り組んでいる研究内容は，難病患者の療養支援に関すること，災害における保健師活動に関すること，保健師教育に関することである．

２．研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

・尾形由起子，山下清香，楢橋明子，伊藤順子．地域在宅医療推進における保健所保健師の調整技術の検討－保健所での他職種連携会議に焦点をあてて－．福岡県立大学看護学研究紀要，第 10 巻 2 号，p53-63，2013

・楢橋明子，尾形由起子，山下清香，小野順子，手島聖子，野見山美和．A大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討-「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」に対する学生の自己評価から-．福岡県立大学看護学研究紀要，第 10 巻 2 号，p73-82，2013.

・山下清香，尾形由起子，小野順子，手島聖子，楢橋明子，野見山美和．地域と共同で実施した地域担当制の地域看護学実習の評価．福岡県立大学看護学部紀要，第 11 巻 2 号，2014.

・楢橋明子，尾形由起子，山下清香，小野順子．神経難病患者の在宅療養のために保健師が行った関係機関調整技術．日本地域看護学会誌，第 18 巻 2，3 号，33-40，2015.

〈報告書〉

尾形由起子，山下清香，小野順子，手島聖子，楢橋明子，本郷秀和，村山浩一郎．旧産炭地における高齢者の介護予防に対するコミュニティ再生に関する研究報告書．2014 年 3 月．

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・楢橋明子，尾形由起子，山下清香，小野順子，手島聖子，野見山美和．A 大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討―3 年次・4 年次の地域看護実習を通して―，第 1 回日本公衆衛生看護学会学術集会　2013 年 1 月，東京.

・津田智子，佐藤香代，安河内静子，田中美樹，楢橋明子，生野繁子，北川明，松浦賢長，安酸史子．大学が行う新人看護師を対象とした看護技術支援とその評価．第 39 回看護研究学会学術集会　2013 年 8 月，秋田.

・楢橋明子，尾形由起子，山下清香，小野順子．在宅療養神経難病患者支援ネットワーク形成における保健師の調整プロセスの検討．第 2 回日本公衆衛生看護学会学術集会　2014 年 1 月，小田原.

・小野順子，尾形由起子，山下清香，手島聖子，楢橋明子．地域で生活する転倒経験のある高齢者の特性．第 2 回日本公衆衛生看護学会学術集会　2014 年 1 月，小田原.

・手島聖子，尾形由起子，山下清香，小野順子，楢橋明子．保健師のリカレント教育を考える－卒業生への新人保健師交流会を開催して（第 1 報）－．第 3 回日本公衆衛生看護学会学術集会　2015 年 1 月，神戸.

・手島聖子，尾形由起子，山下清香，小野順子，楢橋明子，迫山博美，中村美穂子．高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ　世話役住民の役割機能．第 72 回日本公衆衛生学会学術集会．2015 年 11 月，長崎.

・楢橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 迫山博美, 中村美穂子. 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ　支援スタッフの役割機能. 第 72 回日本公衆衛生学会学術集会. 2015 年 11 月, 長崎.
・山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 楢橋明子, 迫山博美, 中村美穂子. 第 72 回日本公衆衛生学会学術集会. 2015 年 11 月, 長崎.

③過去の主要業績

〈学会発表〉

大塚純子, 楢橋明子. 特定疾患患者へのアンケート. 第63 回日本公衆衛生学会. 2004 年 10 月, 島根

〈論文〉

・楢橋明子. 在宅で療養する神経難病患者の支援ネットワーク形成に対する保健師の調整技術. 福岡県立大学看護学研究科　修士論文　2012
・楢橋明子, 西上あゆみ, 深谷真智子. 新燃岳噴火災害初動調査報告. 日本災害看護学会誌, 13 巻 3 号, p28-29, 2012

５．所属学会

日本公衆衛生学会・日本地域看護学会・日本災害看護学会・日本看護教育学会・日本看護科学学会・日本看護研究学会・日本看護歴史学会・日本公衆衛生看護学会・日本難病看護学会

６．担当授業科目（補助）

〈学部〉

公衆衛生看護学Ⅰ・2 単位・2 年・後期, 家族看護学・1 単位・3 年・前期, 在宅看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期, 公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・1 単位・3 年・後期, 専門看護学ゼミ・3 年・2 単位・通年, 公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ・2 単位・4 年・前期, 公衆衛生看護学Ⅱ・2 単位・4 年・前期, 公衆衛生看護技術論Ⅰ・2 単位・4 年・前期, 公衆衛生看護技術論Ⅱ・2 単位・4 年・前期, 公衆衛生看護学実習Ⅰ・1 単位・4 年・前期, 公衆衛生看護学実習Ⅱ・4 単位・4 年・後期, 公衆衛生看護学Ⅲ・1 単位・4 年・後期, 組織協働活動論・2 単位・4 年・後期, 公衆衛生看護管理論・2 単位・4 年・後期, 統合実習・4 年・2 単位・通年, 卒業研究・2 単位・4 年・通年.

７．社会貢献活動

・日本 ALS 協会　福岡県支部　運営委員
・田川市老人ホーム入所判定委員

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	吉村　美奈子

１．教員紹介・主な研究分野

温罨法が心地よさ感じられる看護技術として多くの医療現場や在宅で簡便に取り入れられるよう、その効果、手技について検証することに取り組みます。

２．研究業績

③過去の主要業績

・前腕部温罨法と密閉式足浴法が皮膚温、皮膚血流量、皮膚血流脈波形および主観的反応に及ぼす影響：日本生理人類学会誌 vol.14 No.2 p39-48

・嚥下障害患者に対する NOC5 段階尺度における基準化の取り組み：看護診断 Vol.11No.1 p40-47

６．担当授業科目（補助）

〈学部〉

在宅看護学概論・1 単位・2 年・前期、在宅看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、在宅看護学演習Ⅱ（補助）・1 単位・3 年・後期～4 年・前期、在宅看護学実習・2 単位・3 年・後期～4 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・通年

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助手	氏名	杉本　みぎわ

１．教員紹介・主な研究分野

介護保険導入以前より在宅看護にかかわり、介護保険制度の変遷の中で訪問看護の果たす役割について実践の中で常に考えてきました。また、超高齢化を迎える時代の中で、高齢者や、がんのターミナル期の方々が、安心して在宅で最期まで暮らせるための在宅医療・介護の連携のあり方について、厚生労働省のモデル事業として開設した東京、新宿区にある「暮らしの保健室」での活動を通して研究してきました。地域包括ケアシステムにおける要ともなる訪問看護の展望について、さらに研究を重ねるとともに、それぞれの地域に即した地域包括ケアシステムの実現に向けての研究を継続します。

２．研究業績

①最近の著書・論文

・杉本みぎわ、がん治療が点在する新宿区に「暮らしの保健室」が存在する意義”、看護管理、医学書院、2015 年 2 月

・杉本みぎわ、地域から発信する「暮らしの保健室」の地域包括ケア、他職種連携のハブ的役割、高齢者ケア実践事例集、第一法規、2014 年 9 月

６．担当授業科目（補助）

〈学部〉

在宅看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期、統合実習・2 単位・4 年・通年

９．附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員